

平成26年度

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

活動報告書

(資料編)

平成27年3月

目 次

5 平成26年度活動実績

(1) FD事業

- ① 新任教員プログラムの開発, 実施 2
- ② 教育業績記録 (ティーチング・ポートフォリオ) の開発 48

(2) SD事業

- ① SDプログラムの開発, 実施 78
- ② 職員業績記録 (スタッフ・ポートフォリオ) の開発 184

(3) SPODフォーラム 190

(4) SPOD共通事業 218

(5) SPOD運営

- ① 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会, FD/SD分科会 306
- ② ネットワークコア運営協議会 308
- ③ 各県内加盟校会議 332

5 平成26年度活動実績

(1) FD事業

①「新任教員プログラムの開発，実施」 資料

①新任教員プログラムの開発、実施

新任教員研修プログラムの基準枠組対応表

国立教育政策研究所が作成した 新任教員研修プログラムの基準枠組			徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
学習領域	学習目標	実施区分	研修名:授業設計ワークショップ	研修名:よりよい授業のためのFDワークショップ	研修名:授業デザインワークショップ	研修名:学生の学びを支援する授業の準備(新任教員FDワークショップ)
			日程:1泊2日	日程:1泊2日	日程:1泊2日又は3日間	日程:2日間
1. 大学コミュニティーについての理解	1-1 大学に関する基礎知識を得る。	各大学	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション
	1-2 同僚とのコミュニケーションをとる。	共通	「授業設計ワークショップ」研修全体を通して	「よりよい授業のためのFDワークショップ」研修全体を通して	「授業デザインワークショップ」研修全体を通して	「新任教員FDワークショップ」研修全体を通して
2. 授業のデザイン(目標設定、実施計画、成績評価)	2-1 授業デザインのための基礎知識を得る。	共通	WS「さまざまな授業方法」 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」	グループワークⅠ「学生の考える良い授業」 講義Ⅰ「シラバスの書き方」	講義Ⅰ「何が学生の学びを促進するか？」 講義Ⅱ「コース設計&クラス設計」 講義Ⅲ「シラバスの書き方」	グループワークⅠ「良い授業とは？」 ミニレクチャーⅠ「目標設定と授業計画、シラバスの書き方」
	2-2 授業デザインのためのスキルを修得する。	共通	講義・ワーク「よりよい授業実施のために」	グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」	グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」	グループワークⅠ「良い授業とは？」 グループワークⅡ「共通教育科目の開発①」
3. 教育の実践	3-1 教育実践に関する基礎知識を習得する。	共通	講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 模擬授業実施	講義Ⅱ「様々な授業方法」	講義Ⅰ「何が学生の学びを促進するか？」 講義Ⅳ「様々な授業方法」	ミニレクチャーⅡ「様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット」
	3-2 学習者中心の授業および学習支援を実現し、学生の学びを促進する。	共通	WS「さまざまな授業方法」 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 「中間発表」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」
	3-3 学生と適切なコミュニケーションをとる。	共通	WS「さまざまな授業方法」 グループワーク「模擬授業・授業検討会」 模擬授業準備、実施 模擬授業のまとめ	講義Ⅱ「様々な授業方法」 グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	講義Ⅰ「何が学生の学びを促進するか？」 講義Ⅳ「様々な授業方法」 グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 「中間発表」 「模擬授業」	ミニレクチャーⅢ「様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット」 ミニレクチャーⅣ「コース設計&クラス設計」 グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」
4. 成績の評価、フィードバック	4-1 教育の評価やフィードバックについての基礎知識を得る。	共通	講義・ワーク「よりよい授業実施のために」	講義Ⅲ「よりよい成績評価のために」	講義Ⅴ「学習評価の基本」	ミニレクチャーⅤ「様々な成績評価、その目的と方法」
	4-2 適切な成績評価およびフィードバックを行う。	共通	グループワーク「模擬授業・授業検討会」 模擬授業準備、実施 模擬授業のまとめ	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 「中間発表」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」
5. 教育活動の自己改善・キャリア開発、教育開発	5-1 授業改善・キャリア開発や教育開発に関する基礎知識を習得する。	共通	WS「さまざまな授業方法」 グループワーク「模擬授業・授業検討会」 模擬授業準備、実施 模擬授業のまとめ	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 「中間発表」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」
	5-2 自己改善・キャリア開発や教育開発のためのスキルを修得する。	共通	グループワーク「模擬授業・授業検討会」 模擬授業準備、実施 模擬授業のまとめ	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 「中間発表」 「模擬授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」

平成26年度徳島大学全学FD推進プログラム
「授業設計ワークショップ」実施要項

1 目 的

各大学における教育の質向上への課題が高まる中、実質的なFDの取り組みを進めるための全学FD推進プログラムの一つとして、本ワークショップを毎年実施しています。このワークショップでは、教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善を重視しています。また、授業について教員同士が学び合う場を提供する事で、教育の質向上のためのコミュニティ形成につながることを期待しています。

2 目 標

1. FD活動の理念、活動計画を理解する
2. 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する
3. 授業研究の仕方を理解し、実践する
4. FD参加者同士の仲間づくりができる

3 概 要

このワークショップでは、主に授業設計と教育技術に関する理論と実践を学んでいきます。主な活動内容は、シラバスと授業計画の作成、模擬授業です。体験を通して、授業の目的、到達目標の設定、授業実施の留意点、評価方法等について理解し、具体的な授業計画を立て、模擬授業を実施します。これらの活動を通してご自身の授業について考え、振り返ることで、実践的な教育力の向上を目指します。(ワークショップまでにシラバスと授業計画書を一度作成頂くこととなります。)

4 実施日 平成26年6月28日(土)・29日(日)

5 実施場所 共通教育棟6号館201(徳島大学大学開放実践センター2階)
*参加人数によっては教室を変更する場合があります

6 研修プログラム 別紙のとおり

7 対象者 (1) 徳島大学

- ・学外より、講師または准教授採用後1年以内の教員
- ・学内で、助教から講師または准教授昇任後1年以内の教員
(ただし、所属が研究部以外のセンター等、病院の場合、及びプロジェクト採用などの場合は除く。)
- ・学部等から推薦を受けた者(助教及び教授等)及び希望者
- ・平成25年度「教育力開発基礎プログラム」欠席者

【参加免除について】以下に該当する場合、参加が免除されます。

- ①学外で同様の研修を受けた場合(他大学等での研修修了者については、研修内容等がわかる資料を提出の上、個別に対応する。ただし、原則「授業コンサルテーション」、3年以内に「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」への参加をすることとする。)
- ②診療業務を主に担当している場合

【研修の代替について】

やむを得ない理由により本研修を欠席する者で、SPOD*の同様の研修に参加した場合は、授業設計ワークショップの代替を認める。(ただし、原則「授業コンサルテーション」、3年以内に「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」への参加をすることとする。)

(2) SPOD*加盟校

SPOD加盟校の大学・短期大学・高等専門学校の新任教員(若干名)

*SPOD=四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

8 参加費 無料

9 その他 「授業設計ワークショップ」対象者は、原則「授業コンサルテーション」、3年以内に「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」への参加をすることとする。
※「授業コンサルテーション」の詳細は、
<http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/article/0000268.html> をご覧ください。
※「ティーチング・ポートフォリオ」の詳細は、
<http://www.teaching-portfolio-net.jp/> をご覧ください。

10 主 催 徳島大学FD委員会/四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

授業設計ワークショップ日程

第1日 (2014年6月28日・土曜日)

集合場所：共通教育6号館201 (徳島大学大学開放実践センター2階)

時刻	内 容	講師・担当者	備 考
9:00-9:30	・受付 (共通教育6号館201) *9:20までにお集りください		7:00AM 徳島市に「大雨警報かつ暴風警報」または「洪水警報かつ暴風警報」が出ていたら中止
9:30-10:00	(1) オリエンテーション ・大学教育、FD、SDへの期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	川野卓二 (進行) 副学長 (教育担当) 高石喜久 FD委員会委員長 赤池雅史	教室：6-201
10:00-10:30	(2) アイスブレイク「忘れられない授業」 参加者自己紹介・交流	上岡麻衣子	教室：6-201
10:30-11:40	(3) 講義・ワーク「さまざまな授業方法」 ・学生の主体的な学習を促進する授業方法	吉田博	教室：6-201
11:40-12:40	休憩 各自で昼食		生協食堂・売店営業
12:40-14:45	(4) 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 ・授業設計と評価 ・シラバス、授業計画書の検討・修正 ・模擬授業説明	川野卓二 宮田政徳	教室：6-201
14:45-15:00	休憩		
15:00-17:45	(5) グループワーク「模擬授業・授業検討会」 (グループで実施) ・模擬授業の実施 (撮影) 一人15分以内 ・授業検討会 一人10分 →チェックリストを基によかった点、改善点等を検討する ・2日目の模擬授業代表者の選出と役割分担を決定	各班司会：FD委員 ワーク支援： スタッフ全員	教室：各班グループ 部屋へ移動 第1講義室 (1階) 第2講義室 (1階) 6-303 (3階) 6-306 (3階) インテリジェントラボ (3階)
18:00-20:00	交流会 (任意参加)	吉田博	生協食堂2階

第2日 (2014年6月29日・日曜日)

時刻	内容	講師・担当者	備考
9:00-9:30	・集合、模擬授業準備 (教材印刷が必要な場合は9:00集合)	スタッフ	教室：6-201
9:30-12:10	(6) 模擬授業実施 (グループ代表による模擬授業) A班 (9:30-10:00) B班 (10:00-10:30) C班 (10:30-11:00) 休憩 (10分) D班 (11:10-11:40) E班 (11:40-12:10)	司会：吉田博 コメンテーター： FD委員 支援：スタッフ全員	教室：6-201 〈模擬授業実施手順〉 ・模擬授業・授業検 討会報告(班メン バーより3分) ・模擬授業 (15分) ・質疑応答(7分) ・交代(5分)
12:10-13:10	休憩 昼食 (交流会) *全員参加		*生協休業
13:10-14:15	(7) プログラムのまとめ ・模擬授業のまとめ ・講評 ・授業コンサルティング、 ティーチング・ポートフォリオについて ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	川野卓二 FD委員会副委員長 羽地達次 FD委員会委員長 赤池雅史	教室：6-201

平成26年度「授業設計ワークショップ」アンケート集計結果(回答数: 29名) 6月28日～29日開催

問番号	回答項目	大学	短期大学	高等専門学校	その他	未解答	合計
1-(1)	所属先	28	0	1	0	0	29

問番号	回答項目	国(国立大学法人)	地方自治体(公立大学法人を含む)	学校法人	その他	未解答	合計
1-(2)	所属先の設置者	22	6	1	0	0	29

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。	※下記に記述
-----------	----------------------------------	--------

2.参加への経緯について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
2-1	授業設計ワークショップの目的や内容についてある程度知った上で参加した	4	14	7	4	0	29
2-2	自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した	3	10	13	3	0	29
2-3	授業設計ワークショップの内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した	4	6	13	6	0	29

3.プログラムの設計について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
3-1	授業設計ワークショップの目的は明確に設定されていた	20	7	1	1	0	29
3-2	授業設計ワークショップは自分の業務に生かせる内容だった	18	8	2	1	0	29
3-3	授業設計ワークショップはわかりやすい順序ですすすめられた	15	10	3	1	0	29
3-4	授業設計ワークショップの時間は目的を達成するために丁度よい長さだった	8	11	6	4	0	29
3-5	授業設計ワークショップの実施時期は適当だった	11	11	4	3	0	29
3-6	参加者の人数は適当だった	17	7	4	1	0	29

4.講師について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
4-1	講師の言動は学習意欲を高めた	17	9	2	1	0	29
4-2	講師は研修に必要な知識を十分に持っていた	19	8	1	1	0	29
4-3	講師の用意した教材はわかりやすかった	15	11	2	1	0	29

5.研修の会場・スタッフについて		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
5-1	授業設計ワークショップ会場は快適な環境だった	18	9	1	1	0	29
5-2	授業設計ワークショップ会場には十分な設備が整っていた	19	8	1	1	0	29
5-3	スタッフは手際よく研修を運営していた	21	6	1	1	0	29

6.授業設計ワークショップについて		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
6-1	自分に必要な知識やスキルを身につけることができた	9	16	3	1	0	29
6-2	受講したことによって教育への取り組み方が改善されると思う	14	13	1	1	0	29
6-3	新たに人的なつながりをつくることができた	10	16	2	1	0	29

7.授業設計ワークショップ全体について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
7-1	授業設計ワークショップは全体的に満足できるものだった	16	11	1	1	0	29
7-2	授業設計ワークショップは期待を上回る内容だった	16	11	1	1	0	29
7-3	今後も、授業設計ワークショップを継続していきべきだと思う	11	15	2	1	0	29

自由記述	「授業設計ワークショップ」に参加してよかったと思われる点を、具体的にお書き下さい。	※下記に記述					
	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。						
	その他、お気づきの点があればご記入ください。	※下記に記述					

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。
2	・講義法 ・シラバス作成法
3	・アクティブラーニングの導入 ・学生の視点や学習環境, 習慣を考慮した授業設計
6	授業の準備のための時間を作るスキル
7	授業設計全体
8	講座準備, くみため, 方法などについての方法論
9	学生の主体的参加を促すスキル
10	対面スキル
12	(学生の)心理学
14	授業設計スキル, 設計した授業内容/実際の授業の改善スキル(知識, 手法など)
15	学生の理解度を向上させるための授業方法
16	・他学科の先生とお話し, 情報交換できて良かった。 ・今後のFDも積極的に参加しようと思う。 今回, とても参加になる講義は多かった。
17	・講義スキルの向上 ・PBLのマネジメント
18	より高度な専門知識
19	授業設計, 授業開発
20	授業の展開法, 英語力
21	学生と積極的, 効果的にコミュニケーションをとりながら講義をするという事
22	雑用を断るスキル
24	・テンポよく活かすこと。 ・学生の参加を促す手法
26	話し方
27	スライドの作り方など
28	学生が眠らずに授業を聞く事ような授業の提示
29	授業におけるアクティブラーニングの導入

自由記述	「授業設計ワークショップ」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
1	頭の中が整理できた
2	色々な授業法を知ることができた。他の先生の授業を見る事ができた。
3	正直, 授業設計にさほど興味なく参加してしまった(義務的に)が, 想像以上の内容で, 授業に対する認識も教育に対する考えも改める所があった。
5	これまでに実施していた授業の内容, 実施方法等々見直す機会になりました。内省を続けていかなければいけないと思いました。
6	様々な授業方法を学ぶことができた点。
7	他の先生がどうやって授業に工夫しているかがわかり, 参考にしたいと思いました。
8	学生主体の学びに対しての具体的な方法を学ぶことができた。また, 他の方法の接近授業を見る事ができて良かった。

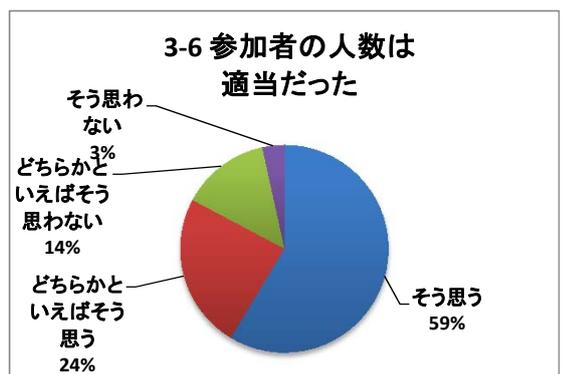
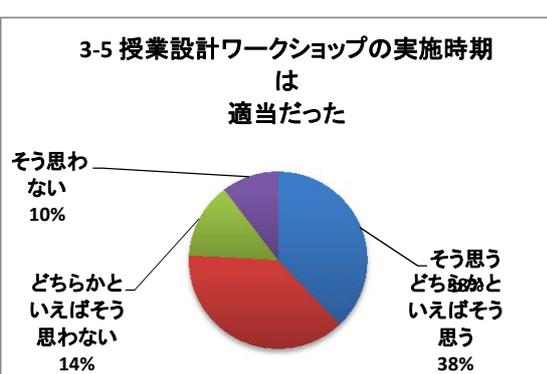
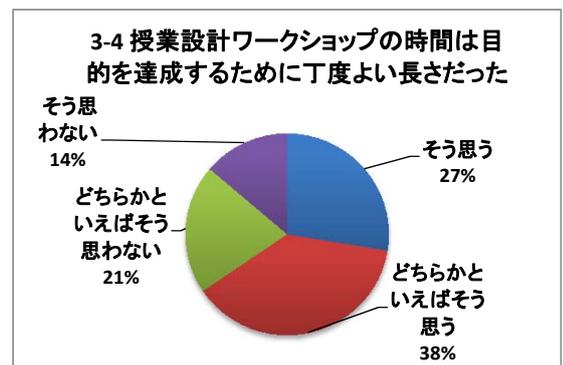
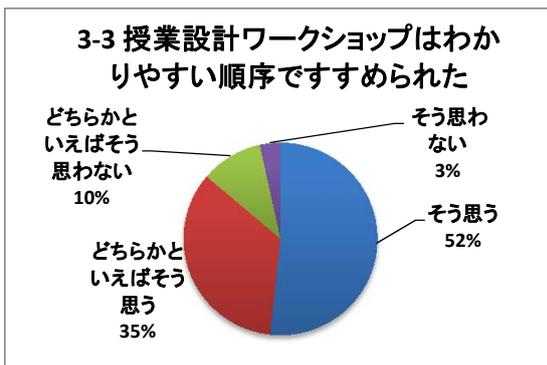
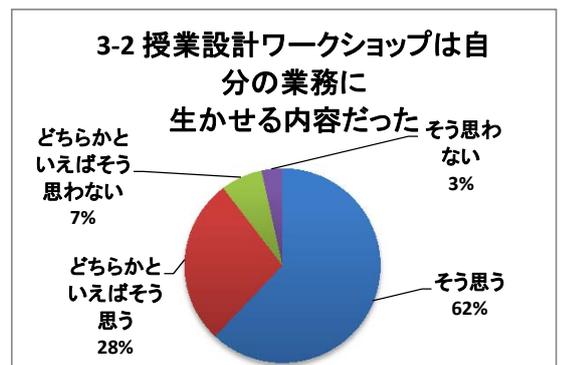
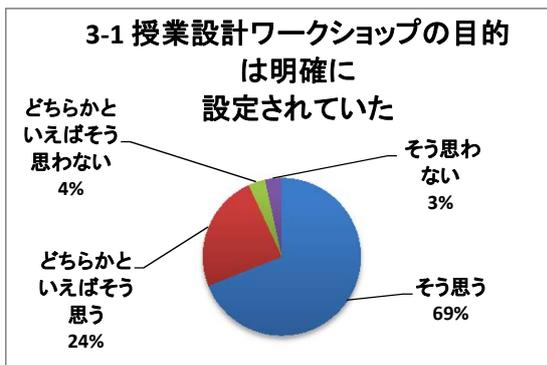
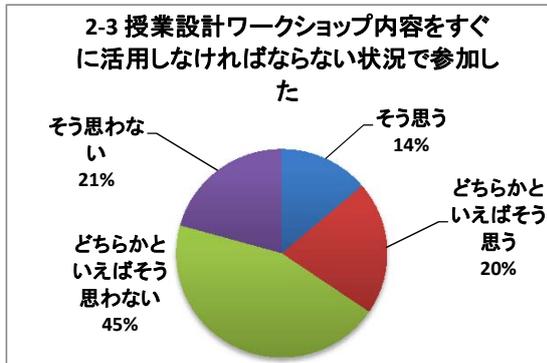
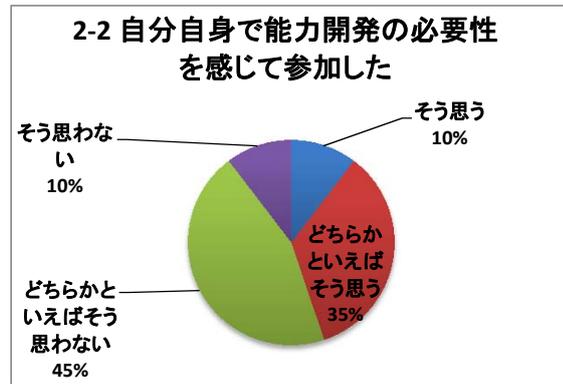
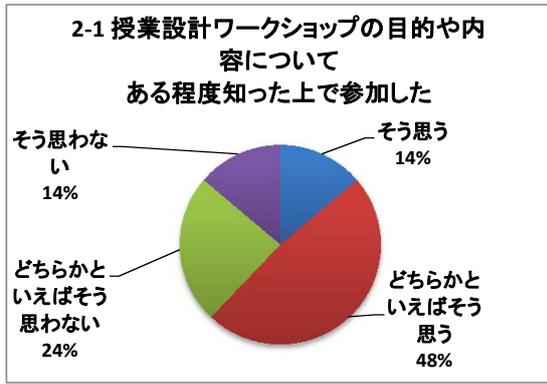
自由記述	「授業設計ワークショップ」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
9	他分野の先生の講義は良い刺激を与えてくれた。
10	他の先生に評価していただいたこと。
11	・充実した研修内容で授業設計の重要性を非常によく実感させられた。 ・模擬授業の際のチェックシート記入方法を、単にチェックを入れる方式ではなく、(できている/ふつう/改善の余地あり)といった形式で記入できるようにしてほしい。
12	異なる視点のアドバイスをしていただいた。
13	初日の理論—勉強になりました。 2日目の模擬授業—よい経験になりました。
14	自分の授業でも改善できる工夫をいくつか得ることができた。 また今後授業の内容、手法を改善していくための課題を得ることが出来、「大きな宿題」を頂いたと認識しています。
15	理系の講義にも利用できそうな具体的手法が見えてきた。 普段接点のない文系の先生の授業を見る事ができたのが面白かった。
17	学生に学ばせるためのスキルをいくつか習得できた。
18	考え方の違いを客観的に受け入れることの重要性を改めて認識できました。
19	KOLBの学習理論に関する説明、授業開発の方式は役に立てられそうな気がしている。
20	坂田先生の授業はとても参考になった。
21	・アクティブラーニングのための各種技術を知った事。 ・他分野の先生方からの見解を得られた事。
22	なし
23	他分野の授業を見る事ができた。
26	夏休みに行ってほしい。 1年目には特に余裕がないため
27	他分野の方の講義を聞いたこと
28	・全く知らなかった、反転授業、アクティブラーニングの概念を理解できた ・他の職種の先生との会話、授業は新鮮だった。
29	他分野の先生方の授業方法が刺激になった。

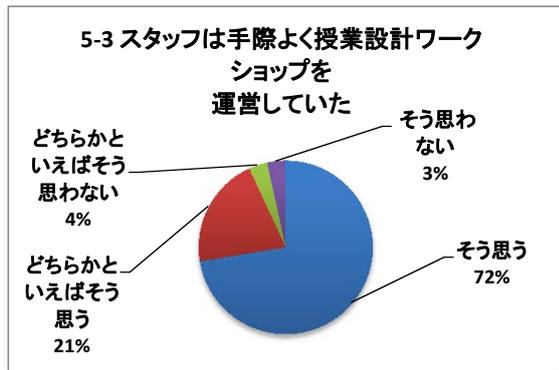
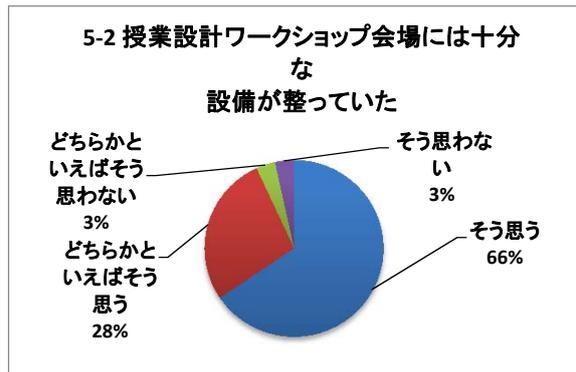
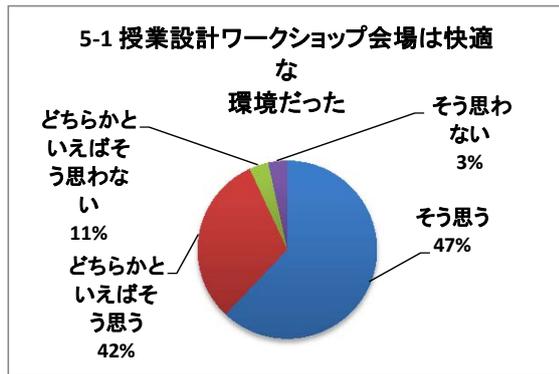
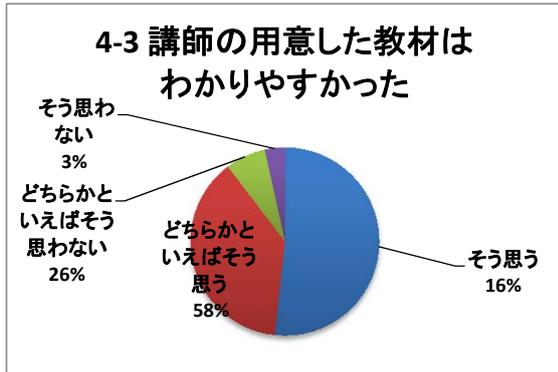
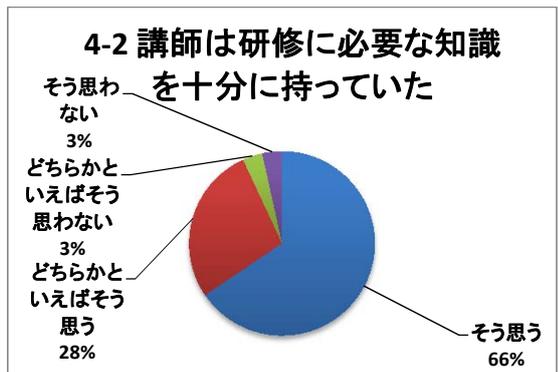
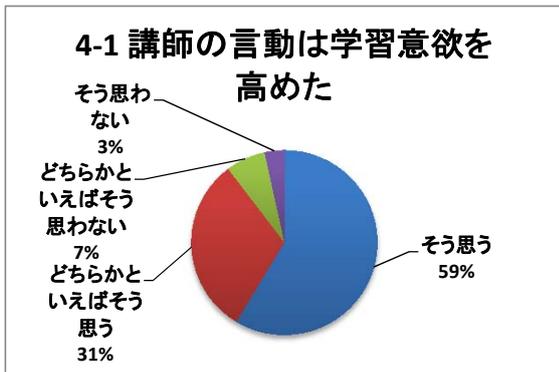
7自由記述	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
1	失敗を上手く活かせる教材づくりや授業展開など学びたい。
2	事前に提出した、シラバスや授業計画について、専門家のコメントや修正案を提示してほしい。
3	1日目の昼食後が(眠氣的に)ツライ時間だったので、そこで手や頭を使う内容だと耐えられた。
6	教育実績を適正に評価する系が構築できてから本プログラムを行うべきだと思う。
9	講師陣の話す内容の重複が多い。
10	少し時間がかかっても良いので模擬授業の時間をもっと伸ばしてほしい。短すぎて落ち着いて話せない。
12	参加者にcriteriaの吟味
13	アクティブラーニングや、その手法の実際例、具体例を見たり、体験したりしたかった。
14	主催は徳島大学ですが講義のひとつくらいは他大学から招待されると、より刺激されることが増えると思います。
15	シラバスのフォーマットとチェックシートの項目が一致していない点が気になった。 各セッションでのレクチャーの割合が多かったのでもう少しワークの割合を増やした方が良かった。

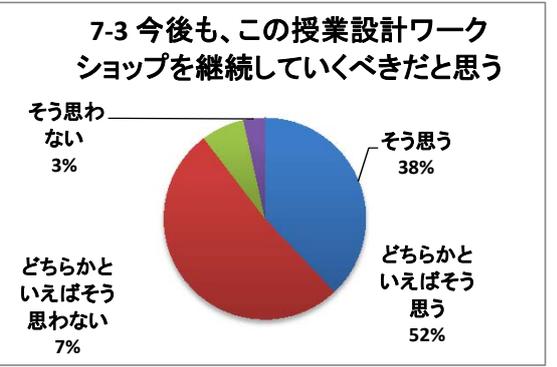
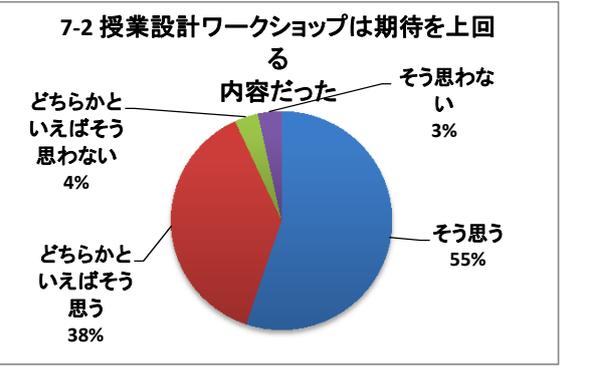
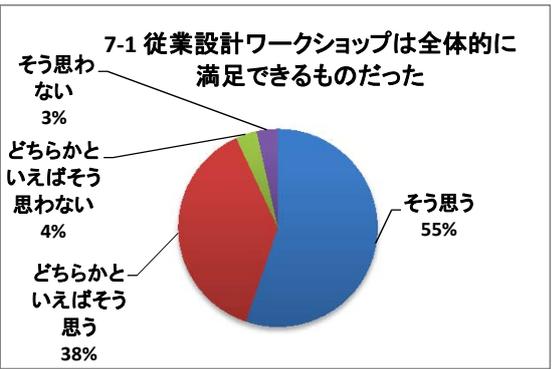
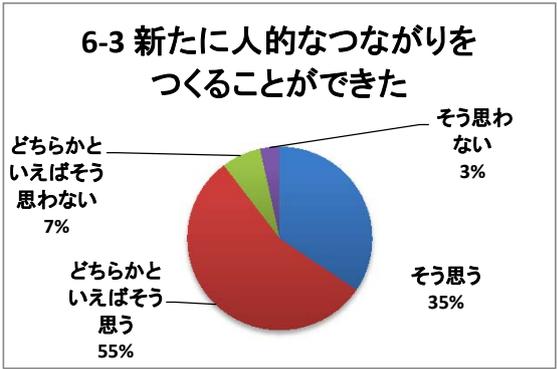
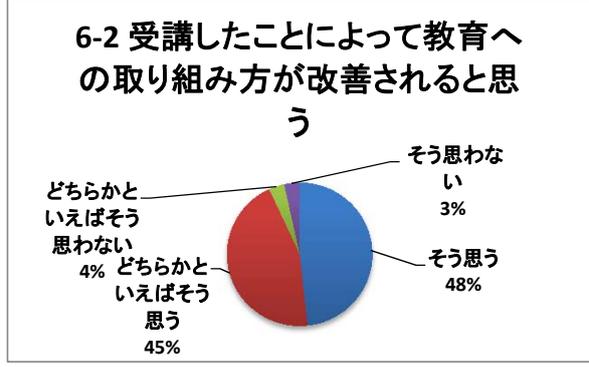
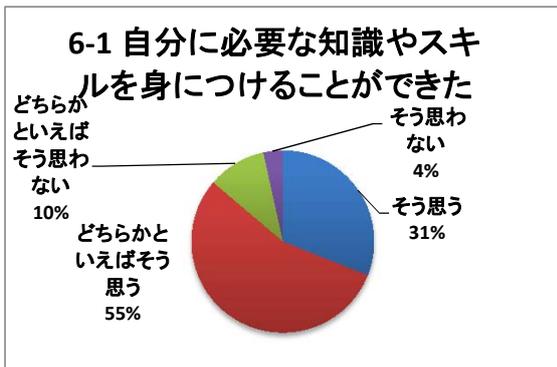
7自由記述	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的な学び」とは何か考える時間がなかった。 ・「深い学び」について「浅く学ぶ」ともいえるかもしれない。 ・スキル習得に特化して、複数実践できる機会になればと思います。
18	充分、満足しています。ありがとうございました。
19	レクチャーが多い。もっと具体例が、実践例がないと授業の改善に役に立たないと思う。アクティブラーニングについての必要性は理解できたがどうするのか、評価はどうするのかまったくわからなかった。
20	特になし
21	平日一日で！！
22	来年度から開催しない。
27	事前に、模擬授業など(2日目の用意)もう少し情報を頂けるとありがたいと思いました。
29	座学よりもワークの時間を増やした方が良い。 1日目があったいない。

7自由記述	その他、お気づきの点があればご記入下さい。
2	FD委員の皆さん頑張って下さい。
3	お世話になりました！
5	講師の先生のレクチャー内容が興味深く、分かりやすいものであった。
6	蔵本の教員のためのプログラムは蔵本キャンパスで行ってほしい。
10	全体集合の部屋はエアコンは少し寒かったと思う。
12	これだけの運営が大変だったと思います。 ありがとうございました。
14	スタッフの皆さんにはこの二日間お世話になりました。 ありがとうございました。
18	特にありません。
20	アイスブレイクの効果が大きい。特に徳島大外からの教員にとって。
21	教育がもっと効果される仕組みが必要(性善説に立たないこと)

※自由記述の番号は回答者が連動しています。







平成 26 年度香川大学新任教員研修会
『第 5 回よりよい授業のための F D ワークショップ』実施要項

1. 目的

授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループワーク形式で体験し、授業実践のために必要な能力を身につけることを目的とします。

2. 対象者

・香川大学

1) 一昨年度から今年度にかけて新規採用された、授業担当または担当予定の教員
(授業担当経験 3 年以上の教員、本ワークショップ受講修了者を除く)

2) その他参加を希望する教員

・ S P O D 加盟校

参加を希望する教員

3. 日程

平成 26 年 9 月 18 日(木)～19 日(金) (1 泊 2 日)

(詳細は別紙日程表のとおり。)

4. 場所

休暇村讃岐五色台

(〒762-0015 香川県坂出市大屋富町 3042 電話 0877-47-0231)

5. 費用

研修の費用は無料です。

ただし、宿泊・食費等の実費を徴収します。(1 泊 4 食 約 11,000 円)

*SPOD 加盟校の旅費については、各大学・短大・高専でご負担願います。

6. 修了証書

研修修了者には、修了証書を授与します。

7. 主催

香川大学 大学教育開発センター

8. その他

この研修会は、SPOD (四国地区大学教職員能力開発ネットワーク) の研修プログラムとして、SPOD 加盟校に開放し実施します。

研修会の事務については修学支援グループ及び給与福利グループが担当します。

日程表プログラム日程

1日目 9月18日(木)

8:20までに香川大学北キャンパス 東門付近に集合

(敬称略)

時刻	内容	講師・司会	場所
8:20-9:15	送迎バス移動, 到着後受付		
9:15-9:30	(1) オリエンテーション ・開会あいさつ ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い		五色台の間 (中会議室)
9:30-10:00	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク	葛城 浩一	五色台の間 (中会議室)
10:00-10:30	(3) グループワークⅠ 「学生の考える良い授業と悪い授業」	藤本 佳奈	五色台の間 (中会議室)
10:30-10:40	休憩		
10:40-11:30	(4) 講義Ⅰ「シラバスの書き方」 ・目標設定の立て方 ・授業計画の立て方	葛城 浩一	五色台の間 (中会議室)
11:30-12:20	(5) グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成	スタッフ全員	五色台の間 (中会議室)
12:20-13:20	昼食		
13:20-14:10	(6) 講義Ⅱ「様々な授業方法」 ①学生参加型授業 ・グループ活動の基本 ・学生同士の話し合いを活性化する方法 ② クリッカーの使い方	岩中 貴裕	五色台の間 (中会議室)
14:10-14:20	休憩		

14:20-15:00	(7) 講義Ⅲ「よりよい成績評価のために」 ・成績評価の目的 ・評価の方法と評価対象	佐藤 慶太	五色台の間 (中会議室)
15:00-16:30	(8) グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 ・授業計画と評価計画	スタッフ全員	五色台の間 (中会議室)
16:30-16:50	休憩		
16:50-18:20	(9) グループ発表Ⅰ「中間発表」 ・授業計画のプレゼン 5分×3 ・質疑応答 10分×3	藤本 佳奈	五色台の間 (中会議室)
18:20-19:20	夕食		
19:20-21:00	(10)グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 ・授業計画案作成	スタッフ全員	五色台の間 (中会議室)
21:00~	懇親会・入浴・自由時間		赤峰の間

2日目 9月18日(金)

時刻	内容	講師・司会	場所
7:30-8:00	朝食		
8:00-10:00	(11)グループワークV「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・役割決定 ・授業の練習	スタッフ全員	五色台の間 (中会議室)
10:00-12:00	(12)グループ発表Ⅱ「最終発表」 ・授業紹介 5分 ・ミニ授業 15分 ・討議・検討 10分	藤本 佳奈	五色台の間 (中会議室)
12:00-12:30	(13)閉会式 ・グループ作業の振り返り(学んだことは何か?どう実践に活かすか?) ・修了証書授与 ・閉会の言葉		五色台の間 (中会議室)
12:30-13:00	昼食(研修の振り返り)		

13:00 写真撮影・送迎バスにて香川大学まで・解散

SPOD研修アンケート集計結果

研修名: 第5回「よりよい授業のためのFDワークショップ」

実施日: 平成26年9月18日(木)から19日(金)

実施会場: 休暇村讃岐五色台

参加者数: 14名

アンケート回答者数: 9名

設問1 本ワークショップへの参加の経緯についてお答え下さい。

1-1 ワークショップへの参加動機は何ですか(複数回答)

①新任研修に参加して興味をもったため	2
②実施要項を見て内容に興味をもったため	3
③所属部署からの依頼があったため	5
④他部署の人と交流したため	1
⑤その他	1
合計	12

1-2 1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい。

授業をさらにより良くしたい

1-3 ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

①そうである	6
②どちらかといえばそうである	1
③どちらかといえばそうではない	2
④そうではない	
合計	9

設問2 本ワークショップの内容についてお答え下さい。

2-1 ワークショップの目的は、明確に設定されていた

①そう思う	7
②どちらかといえばそう思う	2
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

2-2 ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

①そう思う	8
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

2-3 ワークショップは、わかりやすい順序ですすすめられていた

①そう思う	6
②どちらかといえばそう思う	3
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

2-4 ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか<複数選択可>

①学生の考える良い授業・悪い授業について考える機会を得た	6
②シラバスの書き方について理解が深まった	8
③複数の授業方法について知ることができた	6
④成績評価について理解が深まった	3

⑤自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	3
⑥ワークショップの手法を知ることができた	3
⑦他学部等の教員と知り合いになれた	7
⑧その他	

設問3 本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい。

3-1 ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>

①適切な目的・目標が設定できるようになった	9
②わかりやすいシラバスを書けるようになった	9
③様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	7
④様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	4
⑤学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	4

設問4 本ワークショップの研修環境についてお答え下さい。

4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

①そう思う	6
②どちらかといえばそう思う	3
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

4-2 事務局は手際よくワークショップを運営していた

①そう思う	8
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

4-3 ワークショップ会場は快適な環境であった

①そう思う	8
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

設問5 本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

①そう思う	8
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	9

【自由記述欄】

3-2 ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書きください。

・シラバスの書き方について、ポイントをおさえた説明がなされていたので、大変分かりやすく、これから活用出来るものになりました。

また、アイスブレイキングについては、これまで自分の授業でも取り入れていたのですが、改めて学生の立場でやってみることで、やはり効果の大きいものだとは再認識出来ました。

クリッカー、コミュニケーションカードも良いツールなので、ぜひ取り入れたいと思います。

今回のワークショップは、講師の先生方の熱意と事務局の方々の素晴らしい企画・運営があつて、恵まれた環境の中研修できたので、やはり教員として授業の準備をしっかりと、学生に恵まれた環境で意欲的に学習に取り組ませたいと感じました。

・参考資料として配布された講師のレジュメが参考になったり、同じグループになった先生方の取り組みや工夫を知ることができ勉強になった。グループディスカッションやコミュニケーションカードを授業に導入してみたい。

・今年度まで授業経験がまったくなかったため、シラバスの作り方、授業形式、手法等のひな形を学ぶことができ、すべてを実践してみたいという気持であるが、とりわけ学生参加型の授業(グループワークのさせ方)は参考になり、語学の授業やゼミなどで実践してみたい。

- ①グループワークの授業中への導入
- ②コミュニケーション・カードやクリッカーの活用による受講生の状況把握
- ③分かりやすいシラバスを書くこと(特に、学生にきちんと授業内容や進め方を伝えるような記述ポイント)
- ④話し方やスピード、声の大きさ、アイコンタクトなど、学生に授業内容を印象付けるためのコツ

・主に学んだ点は、シラバスの書き方、学生参加の授業の進め方、クラス規模にあった授業の進め方です。

私が担当しているのは、主に60人程度の授業ですが、ディスカッションを行う授業形態のものがありますので、ここでより丁寧な議論の誘導の仕方を実践してみたいと思います。

・シラバスの書き方に対する演習は、丁寧で分かりやすく非常に参考になった。授業内容を魅力的に伝えることだけにとらわれず、何が学生にとって必要な情報か、を考える良いきっかけとなった。

例えば、フィールドワークの際の保険の加入や教科書の値段など、を書くべきとの御指摘をいただき、今後、留意してシラバス作成に臨みたいと思う。このワークショップでは、学生の生の声というのは、グループワークの「学生の考えるよい授業」のみで、取り上げ時間配分も少なかったが、このような趣旨のグループワークをより拡大して掘り下げていくというのも重要ではないか、と感じた。このグループワーク I における学生からの要望のグループ分けと問題の分析は、もっとも有意義なワークであると感じた。

「分からないことを前提に講義を展開してほしい、理解ができていないことを前提に質問に返答してほしい」というコメントは印象に残っており、実際に後期から担当している講義にも役立っている。

設問6 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい。

・コーヒーやお茶を自由に飲むことができたのがありがたかった。リラックスできた。
充実したプログラムだったが、反面時間に余裕がないようにも感じた。
せっかく壁に各先生の悩みや取り組みを掲示していただいたのに、ゆっくり見る時間がなかった。
休憩時間をさらに長くとってもよいのではないかと思う。
講義やワークショップそのものも大変勉強になったが、加えて各講師の体験談や実際の授業で工夫していること、悩みなどを聞いたこともまた勉強になった。
体験談や経験を話し合い、聞くような講義があってもよいかもしれない。

・まずは、運営者のご尽力に御礼申し上げます。ワークショップは非常に効率よく進み、内容もとても充実しておりました。また、香川大学の主催で、また参加者も香川大学の先生方が多い中で、他大学の私が居心地よく過ごすことが出来たことは、運営者の皆さまのご配慮の賜物と思います。
全体を通して非常に素晴らしいワークショップでした。あえて改善点を申し上げますと、1)進行のペースがやや早く、参加者からの質問を受け付ける時間がほとんどなかった、2)講師の方のパワーポイントのスライドのメリハリがやや弱く、ポイントをつかみづらい、という2点になります。
このような会を開催することは大変なことと思いますが、今後もこのような素晴らしい勉強会を継続して行っていただければ幸いです。今後共よろしく願いいたします。

平成 26 年度 第 22/23 回 愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項

1. 主催

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室（教職員能力開発拠点）

「愛媛大学授業デザインワークショップ」は『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）』事業の一環である。

2. 期 日

第 22 回 平成 26 年 7 月 5 日（土）～7 月 6 日（日）久万高原ふるさと旅行村（宿泊研修）

第 23 回 平成 26 年 9 月 1 日（月）～9 月 3 日（水）愛媛大学城北キャンパス（通い型）

（同じ内容ですのでどちらか一方の参加となります。）

<第 22 回>

集合・出発時刻 1 日目 8:00 愛媛大学城北キャンパス正門前集合
8:10 出発（マイクロバスで移動）

※現地までは、原則として、愛媛大学から出発するマイクロバスでの移動をお願いします。

解散時刻 2 日目 15:20 愛媛大学城北キャンパス正門前解散

※詳細については以下のスケジュールをご参照ください。

<第 23 回>

集合・開始，終了時刻 1 日目 9 時 50 分集合，10:00 開始，20:00 終了予定（交流会含む）

2 日目 9 時 50 分集合，10:00 開始，17:00 終了予定

3 日目 8 時 50 分集合，9:00 開始，12:30 終了予定

※詳細については以下のスケジュールをご参照ください。

※上記日程でご都合が合わない方は、徳島大学、香川大学、高知大学においても同様の研修を実施しておりますので、そちらの研修にご参加ください。（詳細は 13 に表示）

3. 場 所

<第 22 回>久万高原ふるさと旅行村

〒791-1212 愛媛県上浮穴郡久万高原町下畑野川乙 488 番地 電話 0892-41-0711

URL:<http://www.kumakogen.jp/modules/furusatomura/>

<第 23 回>愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ

〒790-8577 愛媛県松山市文京町 3 番

<http://www.ehime-u.ac.jp/access/johoku/index.html>

4. 参加対象者(一度参加した者は除く)

- 1) 一昨年度から今年度にかけて大学等に採用された，授業担当または担当予定の教員（授業担当経験 5 年以上を除く）
- 2) 参加を希望する教員
- 3) 愛媛大学テニユア・トラック教員

5. 定員

<第 22 回>20 名程度

<第 23 回>30 名程度

6. 実行委員(予定)

松本 長彦（実行委員長，教育・学生支援機構長）

山田 剛史（教育企画室准教授）

清水 栄子（教育企画室助教）

松本 章雄（能力開発室）

小林 直人（教育企画室長）

仲道 雅輝（教育企画室講師）

岸岡奈津子（愛媛大学非常勤講師）

秋山 裕佑（能力開発室）

7. 目的

授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には，授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し，参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけます。

8. 目標

- 1) 適切な目的・目標設定ができるようになる。
- 2) わかりやすいシラバスを書けるようになる。
- 3) 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 4) 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 5) 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができるようになる。

9. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる学部 of 教員が、普段着で肩書きなしの対等な意見交換をすることで、学習効果を高めます。
- 3) 研修自体がグループ学習形式であり、学生参加型授業を体験します。
- 4) 全員が 10 分間の模擬授業を行います。

10. その他

- 1) 『愛媛大学 FD ハンドブック もっと!!授業を良くするするために』第一巻（黄色い冊子）をテキストとして使用します。当日会場でお渡しします。
- 2) 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
- 3) 第 22 回（7 月実施）では宿泊いたしますので、洗面道具・タオル・寝間着（パジャマ）・虫さされなどの常備薬、懐中電灯等をご準備ください。
- 4) 参加費として、第 22 回（7 月実施）は、8,500 円程度（宿泊費、食費、交流会費など）、第 23 回（9 月実施）は、5,000 円程度（食費、交流会費など）を当日会場で徴収します。詳細は後日お知らせします。
なお、ご都合により参加できなくなる場合は、1 週間前までに必ずご連絡ください。ご連絡がない場合は、参加費をご負担いただくことがあります。
- 5) 第 22 回（7 月実施）に参加する愛媛大学の教員は、出張扱いとなりますので、各部署の総務担当にお問い合わせ願います。また、愛媛大学正門から会場までのマイクロバスを運行しますので、ご利用ください。
- 6) 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行いますので了承ください。
- 7) 修了証書は、全日程に参加された方のみ授与されますので、あらかじめご了承ください。
- 8) 事前にアンケートをお願いすることになりますのでご協力お願いいたします。

11. お申し込み・問い合わせ

参加申込書（様式 1）によりお申し込みください。

<申し込み・問い合わせ先>

E-mail : info@iec.ehime-u.ac.jp TEL : (089)927-8922 (担当 清水)

12. プログラム日程

○第 22 回（7 月実施）スケジュール

第 I 部 1 日目（朝・昼・夕）プログラム

時刻	内容
9:30-9:40	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い
9:40-10:10	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク
10:10-10:40	(3) ミニ講義 I 「何が学生の学びを促進するのか？」

10:40-11:10	(4) ミニ講義Ⅱ「コースデザイン&クラスデザイン」 ・授業計画の立て方
11:10-11:15	休憩
11:15-11:50	(5) ミニ講義Ⅲ「シラバスの書き方」 ・目標設定の立て方
11:50-12:00	(6) グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成
12:00-13:00	集合写真撮影・昼食・休憩
13:00-14:15	(7) グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成
14:15-14:25	休憩
14:25-15:00	(8) ミニ講義Ⅳ「様々な授業方法」 ・講義形式のメリット・デメリット ・双方向型授業のコツ ・体験型授業 ・参加型授業
15:00-16:00	(9) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅱ」 ・シラバス作成 ・授業計画と評価計画
16:00-16:10	休憩
16:10-16:45	(10) ミニ講義Ⅴ「よりよい成績評価の仕方」 ・成績評価の目的 ・評価の方法と評価対象
16:45-18:00	(11) 中間発表 ・発表 3分 ・コメント 15分

第Ⅱ部 1日目（夜）プログラム日程

時刻	内容
18:00-19:00	夕食
19:00-21:00	(12) グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・授業計画案作成
21:00-21:30	交流会
21:30-	自由時間・お風呂・就寝

第Ⅲ部 2日目（朝・昼）プログラム日程

時刻	内容
7:30-8:30	朝食
8:30-10:00	(13) グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 ・ミニ授業の練習
10:00-12:00	(14) ミニ授業（導入の10分） ・授業紹介 ・ミニ授業 10分 ・討議・検討 15分
12:00-12:30	(15) 閉会式 ・振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・修了証書授与 ・閉会の言葉
12:30-13:30	昼食

13:45 現地出発 15:20 解散予定

※内容等予定は変更になる場合がございます。

○第22回（9月実施）

第Ⅰ部 1日目（朝・昼・夕）プログラム

時刻	内容
10:00-10:10	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い
10:10-10:45	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク
10:45-11:20	(3) ミニ講義Ⅰ「何が学生の学びを促進するのか？」
11:20-11:25	休憩
11:25-12:00	(4) ミニ講義Ⅱ「コースデザイン&クラスデザイン」 ・授業計画の立て方
12:00-13:00	集合写真撮影・昼食・休憩
13:00-13:35	(5) ミニ講義Ⅲ「シラバスの書き方」 ・目標設定の立て方
13:35-14:50	(6) グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成
14:50-15:00	休憩

15:00-15:35	(7) ミニ講義Ⅳ「様々な授業方法」 ・講義形式のメリット・デメリット ・双方向型授業のコツ ・体験型授業 ・参加型授業
15:35-17:00	(8) グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 ・シラバス作成 ・授業計画と評価計画
17:30-19:30	交流会

第Ⅱ部 2日目プログラム日程

時刻	内容
10:00-10:35	(9) ミニ講義Ⅴ「よりよい成績評価の仕方」 ・成績評価の目的 ・評価の方法と評価対象
10:35-12:00	(10) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 ・評価計画
12:00-13:00	昼食
13:00-14:15	(11) 中間発表 ・発表 3分 ・コメント 10分
14:15-14:25	休憩
14:25-17:00	(12) グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・授業計画の立て方

第Ⅲ部 3日目プログラム日程

時刻	内容
9:00-10:00	(13) グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅵ」 ・授業の練習
10:00-12:00	(14) ミニ授業（導入の10分） ・授業紹介 ・ミニ授業 10分 ・討議・検討 15分
12:00-12:30	(15) 閉会式 ・振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・修了証書授与 ・閉会の言葉

※昼食はお弁当を準備いたします。

※一日目の交流会はできる限りご参加ください。

※内容等予定は変更になることがあります。

13. 他大学における新任教員プログラムのご案内

- 1) 愛媛大学「授業デザインワークショップ」及び以下の徳島大学、香川大学、高知大学で開催されている新任教員プログラムは、四国地区教職員能力開発ネットワーク(SPOD)内で標準化されており、どのプログラムを受講しても同様の効果を得ることができます。
- 2) 以下のプログラムの受講を希望される方は各大学申し込み先にご連絡ください。
- 3) 以下のプログラムは、愛媛大学テニユア・トラック制度におけるPD認定プログラムとして認定されています。受講する際は、別途、旅費等が必要になります。また、修了後は既受講認定申請が必要です。

◆徳島大学「授業設計ワークショップ」

【日程】6月28日(土)～6月29日(日)

【会場】徳島大学大学開放実践センター2階(6号館 201)

【申し込み先・問い合わせ先】

徳島大学総合教育センター(担当/吉田)

TEL: 088-656-9865

E-mail: t-spod@cue.tokushima-u.ac.jp

◆香川大学「よりよい授業のためのFDワークショップ」

【日程】9月18日(木)～19日(金)

【会場】休暇村讃岐五色台(香川県坂出市)

【申し込み先・問い合わせ先】

香川大学教育・学生支援室修学支援グループ

TEL: 087-832-1153

E-mail: gakusenm4@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

◆高知大学「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ」

【日程】9月1日(月)～9月2日(火)

【会場】高知大学共通教育棟3号館1階310教室

【申し込み先・問い合わせ先】

高知大学学務部学務課

TEL: 088-844-8652

E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

第22回授業デザインワークショップ事後アンケート結果

参加者数：14名（国立・4年制大学14名）

回答者数：13名

開催日時／場所：平成26年7月5日（土）～6日（日）／久万高原ふるさと村

【設問1】本ワークショップの参加の経緯についてお答え下さい

【1-1】ワークショップへの参加動機は何ですか複数選択可

1. 実施要項を見て内容に興味をもったため	6	46.2%
2. 所属部署からの依頼があったため	1	7.7%
3. 他大学・他部署の人と交流したため	1	7.7%
4. 新任研修に参加して興味をもったため	3	23.1%
5. テニユア・トラック必須EDプログラムだから	6	46.2%
6. その他	0	0.0%
合計		

【1-2】1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

【1-3】ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

1. そうである	6	46.2%
2. どちらかといえばそうである	4	30.8%
3. どちらかといえばそうではない	3	23.1%
4. そうではない	0	0.0%
合計	13	100.0%

【設問2】本ワークショップの内容についてお答え下さい

【2-1】ワークショップの目的は、明確に設定されていた

1. そう思う	10	76.9%
2. どちらかといえばそう思う	3	23.1%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%

【2-2】ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

1. そう思う	12	92.3%
2. どちらかといえばそう思う	1	7.7%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%

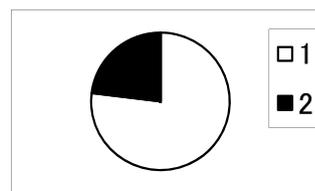
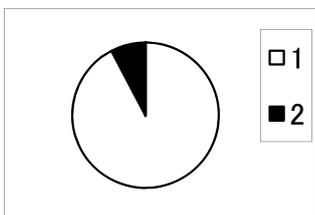
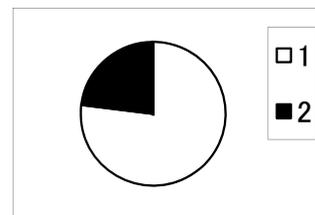
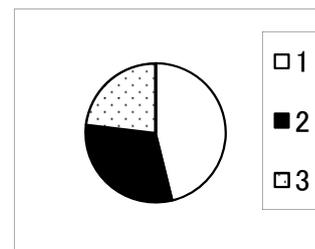
【2-3】ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた

1. そう思う	10	76.9%
2. どちらかといえばそう思う	3	23.1%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%

【2-4】ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか複数選択可

1. シラバスの書き方についての理解が深まった	11	84.6%
2. 「何が学生の学びを促進するのか？」(浅い学習と深い学習)について考える機会を得た	6	46.2%
3. 複数の授業方法について知ることができた	9	69.2%
4. 成績評価についての理解が深まった	10	76.9%
5. クラスデザイン(授業計画書の書き方)について理解が深まった	9	69.2%
6. 自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	5	38.5%
7. ワークショップの手法を知ることができた	3	23.1%
8. 他学部等の教員と知り合いになれた	9	69.2%
9. その他	0	0.0%
合計		

【2-5】2-4で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい
・伝えること、伝わっているか確認することの重要性が分かった



【設問3】本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい

【3-1】ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>

1. 適切な目的・目標設定ができるようになるようになった	9	69.2%
2. わかりやすいシラバスを書けるようになるようになった	4	30.8%
3. 深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	3	23.1%
4. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	10	76.9%
5. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	9	69.2%
6. 学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	3	23.1%
合計		

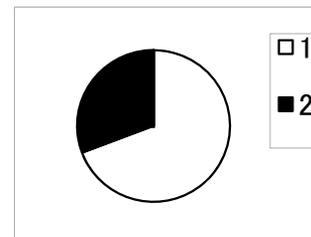
【3-2】ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみた点などをお書き下さい(200字~400字程度)

→別添資料参照

【設問4】本ワークショップの研修環境についてお答え下さい

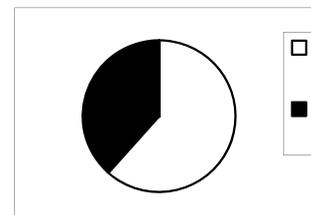
【4-1】講師の言動は学習意欲を高めた

1. そう思う	9	69.2%
2. どちらかといえばそう思う	4	30.8%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%



【4-2】事務局は手際よくワークショップを運営していた

1. そう思う	8	61.5%
2. どちらかといえばそう思う	5	38.5%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%

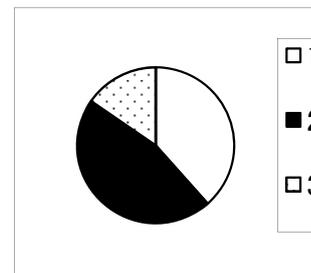


【4-3】ワークショップ会場は快適な環境であった

1. そう思う	5	38.5%
2. どちらかといえばそう思う	6	46.2%
3. どちらかといえばそう思わない	2	15.4%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%

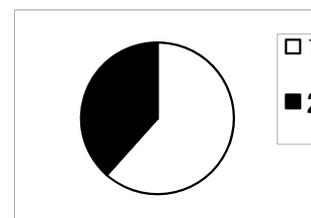
<理由>

3. どちらかといえばそう思わない → 寒かった



【設問5】本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

1. そう思う	8	61.5%
2. どちらかといえばそう思う	5	38.5%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	13	100.0%



【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

→別添資料参照

【3-2】 今回のワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

ワークショップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
<p>・シラバスの目的、シラバスで求められている表現方法。 ・複数の授業方法・授業は学生の様子を見ながら進めないといけない。当初準備したように授業が進むとは限らず、その都度微修正する必要がある。学会での発表とは大きく違う点である。 ・小テスト、テストは学生を評価し、評点をつけるためだけでなく、学生に到達目標を示すことになるため、到達目標に見合ったテストを実施する。 ・プレゼンテーションなど、数字で客観的に評価することが難しい場合に、ルーブリック評価法を導入し、客観性をたもつ。それと同時に学生に評価ポイントを知らせることで、到達目標を理解してもらう。</p>	<p>・板書やパワーポイントを使用する場合、学生がノートを取るのにより多くの労力を使う必要がある。講師の話聴くことに集中しにくいいため、レジュメを配布したい。 ・自分でクリッカーを使用してみたい感想として、授業への参加感が高まったため、各学生が授業に参加しているという感覚が得られると思うので、実際に授業でも使ってみたい。 ・ルーブリック評価・やってみようということではなく、気をつけたいこととして、話をするときの姿勢、手の位置を気をつける。</p>
<p>・シラバスの効果的な目的、目標の立て方。例えば、フィールドワークなどどの位置に置くかによって効果が変わってくる。 ・評価は学生の学びを促進するために実施すると言ふこと。ルーブリックの評価方法・学生が学びを深くするためのしかけ。</p>	<p>・ルーブリックを実際に作って活用したい</p>
<p>実際の授業の中での学生への配慮として、授業開始時に目標を提示し、当日の予定などを示すことで、学生の中で流れを掴むことができ、授業に取り組みやすい。また、授業の合間で授業の内容を理解できているか確認を行うことで、学生の理解を知ることができる。次回の授業でミニテストなどを行うことで、復習となり、知識の定着につながる。学生の反応を見ながら、理解できているか確認をしていくことで、表情や動きなどから、理解が不足しているようであれば、説明に事例などを組み込み補っていく。また、一方的なレクチャーにならないように、教室を広く使いながら、学生との意見交換(思考の確認)を行っていく。その中で出てきた内容を組み込みながら、授業をすすめて行く。授業のコース設定を行う上で、到達目標を明確に提示することで、学生が学ぶべき内容が明らかになる。そうすることで、課題やテストの内容なども明らかになり、双方に共通理解の下にコースがデザインできる。</p>	<p>3回生の授業を担当したときには、知識の伝達のみ集中してしまい学生の反応や全体を見ることができなかつた。次回の機会では、一方的な知識の伝達のみではなく、問いかけながら、参加を促し、学生の反応をみて、理解が不十分であれば、実際の臨床の場面など、学生が想像しやすい場面を提供する。また、授業開始時に目標を提示し、授業の中盤などでも、いまからどの目標に対しての内容を話すのかを、スライドなどで提示しながら、学生が流れを掴めるように配慮していく。終盤にはその日の授業の内容を集約したスライドを準備し(学生には配布せずに)、重要な内容が理解できるようにしていく。90分の授業の中で、緩急をつけることができるように、グループワークなども取り入れながら、学生の理解や考えなどを受け取り、その内容を踏まえたと上で授業を構成できるように、授業の中で伝えておくべき内容、自己学習でも習得可能な内容を分けて整理しておく。</p>
<p>学生に何を学んで欲しいかを明らかにしてうえで目標の設定を考慮することや正しい書き方でかけるようになりたい。ゴールに到達できるようにするには、どうしたら達成できるのか順序立てて考えることの重要性を学んだ。また、学生をあきさせない、引き込むような授業ができるように計画し実践できるように頑張りたい。</p>	<p>ミニ授業で、自分が自身をもって話せるようになるためには練習や自分のくせを知ること、視線の持っていき方など勉強になった。今後は以下の2点を行っていききたい。①学生の集中力の保たせるための授業デザインを心がける②学生の意見を聞いた後に時間を気にして焦ってしまうので、ゆっくり振り返り整理する時間を学生に持たせるようにする</p>
<p>ワークショップに参加して、常に聴く側(学生側)に立ち、いかに学生の学習を促進させるかを考えることの大切さを学んだ。実際の授業では学生の立場に配慮しているが、とかく時間内に学習内容を伝えようと思うと、教員側の都合で授業をすすめてしまいがちなので、それはいけないことを改めて実感することができた。また、学生の学びの過程をイメージし、どうしたら積極的に学んでもらえるかを模索する点では、学生の立場にたった「やさしさ」が根底にあるように思った。最後の模擬授業では、「学生の発言に対しては常に肯定的な姿勢で受け止めることが大事」という小林先生のお言葉がとても心に沁みました。自分の授業を採点される経験というのは、これまでなかったもので非常に有意義でした。自分のよさや改善点を知ることができ、大変勉強になりました。</p>	<p>バズ・セッション、Think,Pair & Share</p>

ワークショップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
<p>医学部の授業は伝えなければいけない知識が多く、どうしても講義で一方的に話すだけになると思っていたし、自分もそういう授業しかほとんど受けていなかったが、今回ワークショップに参加して、さまざまな授業方法があり、1コマの中でもメリハリのある構成を心掛けることで、学生の学びを促進できるということを学びました。</p>	<p>アイスブレークの方法や、効果的な質問をすることで空気を和やかにしたり、学生の注意をひきつけるなどをしてみたいです。</p>
<p>学生に受け入れられる授業を大学で行うに当たっての、ベーシックなノウハウを短時間で理解できる非常に有意義な研修でした。構成メンバーにも恵まれ、シラバスを作成していくにつれ、とても活発な議論が行える雰囲気が出てきました。シラバスを作成する場面では、目的や目標の設定が非常に重要で、15回で学生の皆さんが「学び」を実感できる授業の構築のフレームワークを少し実感できたのは大きかったです。また、実際のミニ授業を行った時には、計画を実際に行うむずかしさを実感しました。良い計画があっても、それを実際に行えるスキルが無いと、十分に学生さんには伝えきれないだろうと実感できました。しっかりととしたPDCAサイクルの構築が必要だと再確認でした。</p>	<p>講師にご指摘いただいた、質問の工夫は私にとって早急に対応すべき点だと思えます。質問に対する、目的・対象・伝え方、のプランを持って学生に対応することが重要であり、すぐにやってみようと思います。</p>
<p>今学期私が担当している授業は80人ないし200人程度の大規模な講義である。授業の最初に先週の復習やコメントシートで受けた質問に対する回答を行い、授業の最後に授業のまとめやコメントシートへの書き込みなどの時間をとっているが、その間の60分以上の間は講義を続けており、その間、受身に情報を摂取する学生の集中力の低下を懸念していた。そのため、今回のワークショップでは、クリッカーなどの小道具を用いた学生の参加の手法に特に関心を持った。これらの小道具を活用し、学生により授業に積極的に参加させることができると考えている。</p>	<p>1) クリッカーなどの小道具を用いた学生の参加の手法 2) (既に授業最後に利用している)コメントシートを用いて、理解度を確認・促進するためのミニテスト</p>
<p>一言で講義と言っても、様々な授業方法があることを学ぶことができました。自分自身は比較的少人数で講義を受けることが多かったのですが、規模に応じて授業方法にも違いをもたせざるを得ないことを理解することができました。また、自分自身が積極的に意見をすることが苦手であり、これまであまり指名をして発言してもらったことがなかったのですが、そのような学生にも積極的に発言を促せる方法 (think, pair, share) があることを知ったので、学生の講義への積極的参加を促す意味でも実践してみたいと思いました。また、普段講義内容でなく授業自体に注目することはなかったもので、その視点から自分も興味をひかれる先生方の視線の運び方や動作を体感することでき、是非自分でもやってみようと思えました。</p>	<p>これまであまり十分には学生の反応に注意を払ってきいていなかったが、学生の反応を見ながら、それにあわせて授業を進めていくことを意識してみようと思った。 ・授業で話す際には、疑問を提示するなどして、まず学生の興味・関心を引き起こした上で、丁寧な話し方で、適切な間をとりながら、話をしようと思った。</p>
<p>・授業を行う際の立ち居振る舞い、話し方、間の取り方など、教員の存在のすべてが授業を演出する上でのツールになりうるということを学んだ。 ・これまで自分が無意識に行っていたことで、授業を行う際に有益であると思われることについて、きちんと理論化することができた。</p>	<p>・これまであまり十分には学生の反応に注意を払ってきいていなかったが、学生の反応を見ながら、それにあわせて授業を進めていくことを意識してみようと思った。 ・授業で話す際には、疑問を提示するなどして、まず学生の興味・関心を引き起こした上で、丁寧な話し方で、適切な間をとりながら、話をしようと思った。</p>
<p>授業には、講義だけでなくグループワークやビデオ視聴などいくつかの形態があり、これらを組み合わせることで学生の学習効果が高まることを学んだ。今回のワークショップでは、学生の意思表示ツールであるクリッカーや、Think, Pair&Shareやジグソー法などこれまで知らなかったツールや授業の形態を学ぶことができた。評価方法では、ルーブリック評価法を学び、評価法に対する疑問の解決になった。</p>	<p>教育実践の場では以下の点を実施してみたい。 ・グループワークやビデオ視聴などを組み合わせた授業デザイン ・クリッカーを用いた授業 ・ルーブリック手法による評価 ・学生による授業評価</p>
<p>伝えることだけでなく、伝わっているか確認することの重要性、難しさがよく分かりました。特にミニ授業を実体験したことで、「伝わっているか確認する」意識が自分にまだ足りないことが客観的に認識できました。また、伝えたい内容(授業)の、意図・目的や構成・利用手法・手順を整理することの難しさもよく分かりました。</p>	<p>教える側と教えられる側が双方向でコミュニケーションし、双方の気づきが新たな次の展開を生み出すような、ダイナミックな「伝える」場の創出。</p>

【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

チームのワークのみであったので、他のチームの先生方も、または全体で取り組むワークショップがあれば良かったかと思えます。
久万高原で今回のワークショップを行う意味が最後まで掴めませんでした。講師の先生方、職員の方々、参加者、それぞれの負担を考えても、あまり移動時間がかかからない場所のほうがいいように思います。参加者の方々の模擬授業を聞けたことは大変勉強になりました。欲を言えば、講師の先生方に、同じテーマの講義をしていただき、どのような講義がより自分にフィットするのかを実感できればさらに面白くなるように思います。
少人数だったので講師の方をはじめ、疑問を質問したり意見を言いやすかった。
<ul style="list-style-type: none">・昨年12/24のアクティブ・ラーニング入門セミナーに参加したが、その内容と重なる内容があったので、もう少し工夫があるといい。・宿泊施設にドライヤーがなかったが、実施要綱にはそのことが記載されていないかった。事前に教えていただけると助かります。・大学では、パワーポイントを用いた授業運営がほとんどです。教育学部なので、黒板で板書する方がいいのかもしれないのですが、パワーポイントをうまく使う方法を教えていただけると参考になります(色使い、アニメーションの用途、文字の量など)。
お世話になりました。自分を向上させられる環境をいただけるとてもよかったです。ありがとうございました。
ありがとうございました。
事前に思っていたよりも多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。
2日間みっちり、授業を行う上での有益な知識や技術を学ぶことができ、大変勉強になりました。どうもありがとうございました。
ワークショップでは大変お世話になりました。 以下に改善点等の意見を記します。 <ul style="list-style-type: none">・学内の駐車場のご案内を早く送る。(今回は前日の夕方に受け取りました)・持参用具にドライヤーを付け加える。・宿泊施設でガスの開栓方法を連絡する。(お風呂場でお湯が出ず寒い思いをされた方がいました)
細かいところですが導入部分で2点ほど。教材(貸与)を賞品(贈与)と称するのは違和感があります。そこまで言わなくても、皆受け入れると思います。あと、得点がスピードだけで与えられていましたが、出来の相手の拍手の度合いも加味するとか、もう少し幅が合っても良かったかも。それ以外は、良かったです。

第23回授業デザインワークショップ事後アンケート結果

参加者数:19名

回答者数:19名

開催日時/場所:平成26年9月1日(月)~3日(水)/愛媛大学城北キャンパス

所属先

:4年制大学18名, 短期大学1名

設置形態別

:国立13名, 私立6名

【設問1】本ワークショップの参加の経緯についてお答え下さい

【1-1】ワークショップへの参加動機は何ですか(複数選択可)

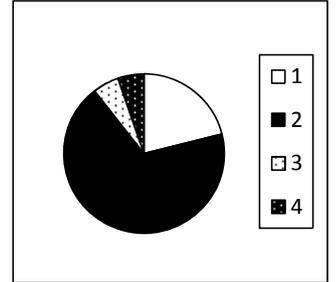
1. 実施要項を見て内容に興味をもったため	3	15.8%
2. 所属部署からの依頼があったため	6	31.6%
3. 他大学・他部署の人と交流したため	1	5.3%
4. 新任研修に参加して興味をもったため	4	21.1%
5. テニユア・トラック必須EDプログラムだから	6	31.6%
6. その他	1	5.3%
合計		

【1-2】1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

FD委員会より、新任は参加するようにとのことであった。

【1-3】ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

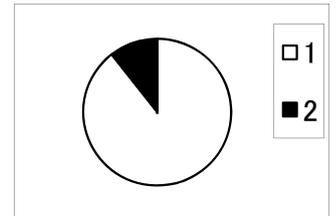
1. そうである	4	21.1%
2. どちらかといえばそうである	13	68.4%
3. どちらかといえばそうではない	1	5.3%
4. そうではない	1	5.3%
合計	19	100.0%



【設問2】本ワークショップの内容についてお答え下さい

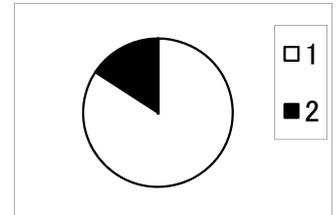
【2-1】ワークショップの目的は、明確に設定されていた

1. そう思う	17	89.5%
2. どちらかといえばそう思う	2	10.5%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



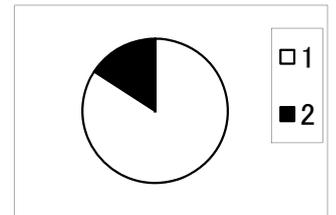
【2-2】ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

1. そう思う	16	84.2%
2. どちらかといえばそう思う	3	15.8%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



【2-3】ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた

1. そう思う	16	84.2%
2. どちらかといえばそう思う	3	15.8%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



【2-4】ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか(複数選択可)

1. シラバスの書き方についての理解が深まった	16	84.2%
2. 「何が学生の学びを促進するのか？」(浅い学習と深い学習)について考える機会を得た	7	36.8%
3. 複数の授業方法について知ることができた	16	84.2%
4. 成績評価についての理解が深まった	12	63.2%
5. クラスデザイン(授業計画書の書き方)について理解が深まった	11	57.9%
6. 自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	5	26.3%
7. ワークショップの手法を知ることができた	8	42.1%
8. 他学部等の教員と知り合いになれた	14	73.7%
9. その他	0	0.0%
合計		

【2-5】2-4で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

【設問3】本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい

【3-1】ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか<複数選択可>

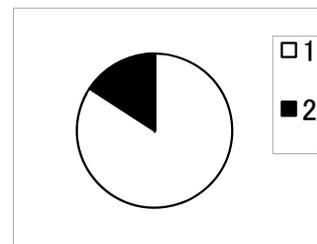
1. 適切な目的・目標設定ができるようになるようになった	16	84.2%
2. わかりやすいシラバスを書けるようになるようになった	13	68.4%
3. 深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	4	21.1%
4. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	15	78.9%
5. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	11	57.9%
6. 学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	5	26.3%
合計		

【3-2】ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)
→別添資料参照

【設問4】本ワークショップの研修環境についてお答え下さい

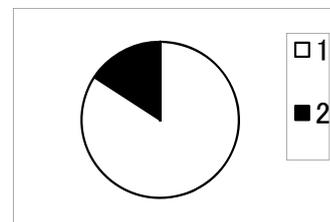
【4-1】講師の言動は学習意欲を高めた

1. そう思う	16	84.2%
2. どちらかといえばそう思う	3	15.8%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



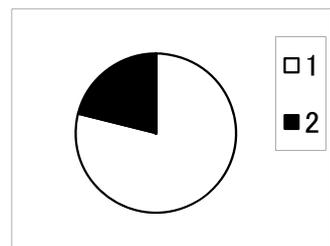
【4-2】事務局は手際よくワークショップを運営していた

1. そう思う	16	84.2%
2. どちらかといえばそう思う	3	15.8%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



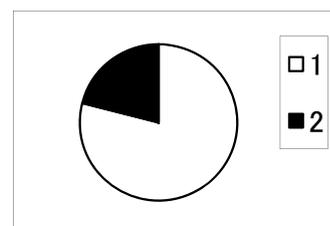
【4-3】ワークショップ会場は快適な環境であった

1. そう思う	15	78.9%
2. どちらかといえばそう思う	4	21.1%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



【設問5】本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

1. そう思う	15	78.9%
2. どちらかといえばそう思う	4	21.1%
3. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
4. そう思わない	0	0.0%
合計	19	100.0%



【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい
→別添資料参照

【3-2】 今回のワーキングショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみてみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

ワーキングショップで学んだ点	教育実践の場でやってみてみたい点
<p>授業デザインのかなかで目新しいと感じるものはあまりなかったが、改めて考えて考える機会があり、他者と話したことにより深く理解できた。</p>	<p>これまで行ってきた授業について、目的・目標とそれに対する評価を見直し、これまでの授業計画を変更しようと思った。</p>
<p>様々な授業方法があり、それぞれがどのような場面で有効か知ることができた。シラバスの、目的、目標の書き方とそれらに対応した評価方法の設定の仕方を学んだ。</p>	<p>ミニッツペーパーはぜひ導入したい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 授業中の教員と学生とのコミュニケーションのさまざまな取り方(クリッカー、ペアワークなど) シラバスの書き方(目的と目標の書き方、多様な評価の仕方、積み上げ方、自分のその授業に対するポリシーの書き方) 多様な評価方法 	<ul style="list-style-type: none"> クリッカーを使ったコミュニケーションや確認・授業の目的 目標について関係性を含めて具体的に解説する。この解説を15回終わったときにも繰り返して、最初の目標が達成されているかどうか学生自身に判断してもらう機会を持つ 授業のキーとなる言葉や概念は、2-6-2の下の2にあわせて丁寧に説明する。
<p>明確な目的/目標を設定し、それに応じた成績評価を設定することがコースデザイン、授業計画を策定する際に非常に重要であること。</p>	<p>大人数教室のクラスで、Think, Pair & Shareを実践しようと思います。</p>
<p>これまで自分がしてきた授業は「講義」という、一つの手法にすぎませんでした。他にもいろいろな学生との双方向型の授業方法を知り、すぐに応用したくなりました。また、シラバス、目的と目標、評価の重要性など、これまで意識したことのない内容が多く新鮮でした。ワーキングショップ形式だったので身をもって体験できました。合宿のような日程で少々疲れましたが、身につくことも身をもって知りました。</p>	<p>学生のリアルタイムの反応を確認する手法です。クリッカーや反応カードは試してみたいです。また、評価をまじめに(?)行いたいです。最終テストだけでなく、到達目標を一つ一つクリアできているかを意識した評価を実践したいと考えます。</p>
<p>共通教育で求められる授業について意識を変える必要があると思った。大学は、学生が主体的に勉強する場であり、教育する側は自らの知識を必要に応じて提供する、という程度の認識であったが、より普遍的に学生に学んでもらうために、様々な配慮を行い、授業計画を立てていくことが今後大学教員に求められていることを強く認識することができた。また、積極的に様々な授業形式を用いて、行くことが学生の興味を引く上で大切であり、その手法を学ぶこともできた。</p>	<p>REASは早速、授業前の事前知識評価や、授業後の振り返りに使えるようにしたいと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 形成的評価の具体的な進め方 複数名の教員で1つの授業を作り上げることの難しさ 	<p>様々なグループワークの技法を学んだが、未だ実践したことのないものも多くあったため、今後実際に用いてみたいと思います。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業を設計する流れ：授業の企画から実行まで、授業を無事に遂行できるようフローがよくわかりました。 2. シラバスの書き方：授業の内容を学生に分かりやすく伝え、学生に対して円滑に指導を進められるため、授業の内容、目的、目標及び成績評価などを明確に書ければならない。また、授業の目的、到達目標に適用する動詞の使い方が分かりました。 3. 様々な授業方法を知る学生のディープラーニングを促すため、クリッカー、ペア、リーディング、ワーキングショップなど様々な授業方法があることを知りました。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリッカーを使ってみたい。 2. ポスターセッションを設けて、学生がグループに課題を課し、成果はグループメンバーの全員で発表する。

ワークシヨップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
<p>1) シラバスの重要性を学んだ。 2) 様々な講義形式があることを知った。 3) クリッカーなどの講義のつかみの重要性を知った。 4) 授業計画をすることで講義で何を伝えるべきなのかをはっきりさせることができる が明らかになった。</p>	<p>1) グループワーク 2) シラバスの評価方法の明瞭化 3) 授業計画の作成</p>
<p>能動的な学習方法の多様性を学ぶことができた。特にグループワークを通じて行った授業デザインやその議論は、相反する意見が出て平行線になるなど、一進一退があったが、結果的には授業デザインのコンセプトを明確にし、それを実践するための過程をワークシヨップ内での短い時間の中で凝縮して経験することができた。またこの経験がシラバスの効果的な作成に通じることも確信した。ただ、私自身は研究発表や専門講座などの講演は前職場で慣れていたもの、共通教育など、多様な学生を想定した講義はまだ未経験。ワークシヨップで学んだことを活かし、経験を積み、良い授業ワークができるようにしたい。</p>	<p>ワークシヨップを受ける前から関心があったのは質問法である。それは前職場(県の教育行政での生涯学習)で愛媛県美術館の学芸員が講演で行ったVTS(Visual Thinking Strategy)に感銘を受けたからである。質問法には、緻密な授業デザインと高度な知識と熟練した話術などが必要であることを痛感した。それでも質問法を取り入れていきたい。またTHink, Pair&Shareやクリッカーなどが有効であると感じた。専門が考古学であることからフィールドワークも実践していきたい。</p>
<p>授業における様々なアクティブラーニング手法について、有効なケースについて学ぶことができた。</p>	<p>これらの手法を、実際の教育現場で効果的な運用を行いたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの記載方法(特に目的、目標、評価)について理解することができた ・90分間の授業構成の方法について理解が深まった ・ワークシヨップの手法に関する理解が深まった 	
<p>コース設計やクラス設計では、どんなステップで科目全体を考え、1回の授業をデザインするのかをイメージすることができた。また、シラバス作成上何を記載すべきか、目的や到達目標の表記の仕方或使用語句などの留意点を確認することができた。授業の流れの中で学生の理解度を測りながら、授業を進めていく評価方法や手法を学んだ。</p>	<p>共通教育科目の開発には、教員自身のスキルアップが必須で、それが効果的な授業デザインに通じると実感したので、ぜひ今回の改善点を意識し、スキルアップをしたい。</p>
<p>授業の目的、目標、及び評価とのつながりから、シラバスの立て方、書き方が理解できました。そして改めて、当たり前のことですが、授業の中身についての質の高さを保つためには、自分自身の更なる勉強と探究が不可欠だと感じました。</p>	<p>これからやってみたいことは、授業初回の学生とのコントラクトをきちんととることです。また、文献を学生にどう読ませるかや、講義をいかに聞かせるかにも苦労してあります。15分の集中と確認テストやアクティビティ、そしてまた15分の集中を試してみたいと思います。また、授業外時間の学習への導き方をもっと工夫してみたいと思います。</p>
<p>シラバスを詳しく書くようになったことは知っていたし、5年以上教えているし、一番知っていたルーブリックやアクティブラーニングのことは、別の研修で受けたし、と思って参加したが、いろいろな学びがあって、何よりもグループの方たちに恵まれて、非常に有意義な時間を過ごすことが出来た。皆さんと作ったシラバスは、ずっと大切にしようと思う。</p>	<p>文章がなかなか続かない学生が多いと、レポートの課題を出しても採点することが出来ず困ってしまうため、ほとんどレポート課題を課してこなかったが、教わった技法を用いながら、レポート課題を課してみようと思った。また、クリッカーはゲーム感覚で参加できるの、あると授業に参加しやすいと思った。「隣と意見交換」は、ただの雑談になつたり、寝てしまっている学生をどうしようかなど、なかなか実践までに心配事が多いが、チャレンジしてみようと思った。</p>

ワークシヨップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
<p>授業計画について、これまで演習に関する授業以外は毎回の受講生の様子をみて、その度に進度を調整していました。今回は毎回の目標をしっかり立てて進めていく楽しさを学んだので、一回ごとの授業を更に作りこんでいきたいと思いました。</p>	<p>特に講義で用いる手法と、成績評価方法についての学びが多くありました。成績評価方法では出席、レポート提出、定期試験の単純な構成で行っていたため、多様な角度での評価について考えさせられました。</p>
<p>「シラバス作成段階から授業が始まっている」ことを痛感しました。学生が授業に取り組む為の「目的」と、教員が求める「到達目標」さらには「学習評価」をわかりやすい言葉で明確に伝えることが学習への動機づけにつながり、意欲として現れることを知りました。シラバスを作った経験がないので、その辺りを配慮できればと考えています。</p>	<p>学生目線になって授業デザインをしなければ、いつまでも学ぶ意欲が上がらないので、前学期を振り返って新鮮な気持ちで取り組み努力をしていきます。</p>
<p>これまでは漠然と自身の経験に基づくオリジナル方式で授業をデザインしたり、シラバスを作成したりしていた。今回の研修に参加し、様々な手法や授業をデザインしていろいろで有益なポイントや視点を数多く学ぶことができた。</p>	<p>3日間と限られた時間ではあったものの、これまでの自己の授業を改めて見つめ直す良い機会になったと同時に、学んだ手法や視点を充分に活かし、より良い授業が展開できるようにしたいと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・授業デザインをすすめる際に、カリキュラム上の位置づけに十分に留意して、その科目の目的・役割が明確になるようにする。 ・シラバスはできるだけだけ明確に。とくに到達目標は、学生にとつて具体的に実現可能なものとし、かつ教員にとつて評価可能な指標をもつたものとする。 ・ただしアクティブラーニングの手法は教育手段の一であることを常に念頭に置き、それが目的化してしまわないように、各科目で最適な教育手法を実践できることが重要なのだと思われた。今日において「教学マネジメント」が強く要請される理由も、カリキュラムの組織的デザインが重要であり、それにもとづいて各科目の教育手法を検討すべきであるということと深く関連するためだと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリッカ一等の最新の教材を積極的に導入・活用するように努める。 ・ルーブリック等の学生のパフォーマンス評価を容易とする教育法の開発・導入を試みる。

【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

話し方講座のようなものがあればまた参加したいです。3日間ありがとうございました。

教育法とシラバスの書き方を一緒に学ぶ方法としてグループワークでシラバス、授業計画案を作成するというのは効果的。ただ、「いいワークショップだったな」と思っている人は多いが、それを自分の授業に反映するためには、もう一ステップ必要かなとも思います(時間との兼ね合いで、最後に実践したい点としてコミットメントさせることになっているとは思いますが)。もう少し時間があれば、自分が今受け持っているシラバスを書き直して、それを添削してもらえたらワークショップで習ったことが即、実際のシラバス、講義、評価へと反映できそう。(これを書いている続きで書き直せばいいのは分かっているのだが。。)

シラバスの中間発表時におけるコメント/意見交換が不十分に感じました。特に、テーマに依存するコース設計の問題点と、目的、目標の設定に応じた計画の問題点を区別して議論する必要があると感じました。また、模擬授業においては、どのようなテーマであれアクティブラーニングの手法を適宜取り入れることで学習者の理解度を向上させることができるという感覚を養うためには、テーマ設定が難しいと思いました。共通教育の枠組みのなかで、テーマや対象とする学習者に配慮したアクティブラーニング導入の利点/欠点のまとめが必要と思いました。

最後に、限られた時間でアクティブディープに繋がる学習(集中力の継続)がうまく挿入されており、学習者にとっては実は負担の大きい手法が多いのではと感じました。しかし、こうした講義法により学習者のパッシングディープな学びを継続的に促すことができれば、より効果は大きいと思います。

スタッフの皆様、準備を含めてありがとうございました。楽しく、学びながら3日間を過ごせました。

最初に設定されたグループのメンバー以外とも共同で作業するシーンがあれば、より教員同士のコミュニケーションが促進され、最後の模擬授業の際に効果的なフィードバックが行われるのではないかと思います。最後に、多大な労力を割って運営にあたってくださった先生方、職員の皆様から御礼申し上げます。

私のような初心者にとって、大変助かると思います。教育法についてもっと知りたいので、今度ぜひ参加させていただきたいと思います。

機会があればまた参加したい。

・ワークショップの最後に模擬授業が位置付けられ、少人数ではあったが、教員が相互に授業の一端を見せ合うことは、意義深いものがあった。

・模擬授業は、「共通教育科目」の授業を設計することであったが、「共通教育科目」に関する認識が十分でなかったため、与えられたテーマを意識しすぎたせいもあり、授業設計がやや形式的になり、自分たちのグループでは、模擬授業で実施できる場面で限定されてしまう傾向にあった。テーマ自体も自由に設定できれば、グループのメンバーがもう少し得意な部分で模擬授業を行うことができたのではないかと感じた。

・非常に意義深いワークショップでした。どうもありがとうございました。

他大学の方や愛媛大学の他学部や他の所属の方と知り合う機会となり、大変感謝しています。グループワークで自然とお互いを知り合うことができるので、他の方の授業に対する考え方や進め方などを知ることができ、とても参考になりました。

また、模擬授業で具体的に改善点を示していただいたことは、今後の教育実践の中で活かしていきたいと思えます。3日間ありがとうございました。

三日間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

秋から、愛媛大学が中心でやられているアーバンデザインセンターのデザインスクールにて、ワークショップファシリテーターの養成のような事業に関わらせていただくことになっております。誠に勝手ながら、そのためのプログラムデザインを試させていただいておりました。講師の先生方はじめ、いろいろな分野の若い先生方のご意見を伺うことができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。どうぞ今後とも、宜しく願っています。

お世話になりました。改善点は見当たりませんが、準備をこれでもかというくらいしなければ、不安が多すぎて講義の授業ができないのですが、30分程度の準備で専門ではない分野の模擬授業をするという恐怖の体験をさせていただき、感謝しています。人前で話すときに、最も気をつけていることを、模擬授業の感想として皆さんから言って頂いて、少し安心しました。同じ条件で、果たして他の方はどのような授業をされるのか興味深く見せて頂きましたが、非常に勉強になりました。

学生の個別相談をする際に「わかりにくい授業とかってある？」ということを知ることができ、「ずっと話ばかりしている」「黒板にメモだけ書く」などの声を聞くことが多く、自分が大学の頃に受けていた授業では伝わらないことを痛感していました。実際にアクティブラーニングの授業を体験して、ちょっとしたアトラクションが入ると、確かに自分で授業内容を組み立てて理解しなくても、一塊のプロックのようにまとまる感覚がしました。まずはアクティブラーニングを自分のものに出るようになりたいと思います。

気がかりだったのは、昔ながらの授業をされている先生で、研修に参加されない非常勤の先生などは、知る機会がないのではないかと。私も今回の研修を受けていなかったらと思うと、少々ぞっとします。素晴らしい研修をありがとうございます。

今回は「学生のため」の授業づくりを学ばせていただいたと感じています。ありがとうございます。

私の勉強不足や先生方の説明をしっかりと聞いていなかったことが原因ですが、模擬授業で指摘をいただくまで、授業名も教員が決められることを理解していませんでした。今回の反省点として挙げられます。

今後の希望としては、今回は愛媛大学の学生を対象に模擬シラバス・授業計画を作成してきましたが、昨今の私立大学の学生の学力を反映した授業手法等も学んでみたいと思います。

3日間ではありましたが、多くの学びを得たワークショップでした。また、様々な業務等と日程が重なった中での参加だったので、特に初日はウトウトしてしまいうこともあり失礼しました。今後も愛媛・四国で教員として踏ん張っていきたいと考えていますので、引き続きご指導をいただければ幸いです。

ワークショップへの準備性の高さ、フレンドリーな雰囲気に酔いしれ、豊かな時間の流れを堪能しました。自分自身が一学生に戻り、「こんな授業を受けたい！」と切実に感じました。「授業デザイン」と口にするのは簡単ですが、すぐに実践することは難しいかもしれません。1つでもできることから始めていきます。3日間本当にお世話になりました。感謝の気持ちで一杯です。どうもありがとうございます。

3日間、ありがとうございます。また参加したいと思えます。

高知大学 学生の学びを支援する授業準備ワークショップ2014 実施要領

研修の目的

大学教育の変化に対応して、授業の準備から運営に関する基礎的な事柄を学びます。

授業のデザインとそれをシラバスに落とし込んでいく過程、授業方法や成績評価に関する考え方などを、グループワークを通じて体験的に身につけていくことができます。

* このワークショップはSPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）の事業の一環として、SPODの標準プログラムに準拠して実施されます。

研修の目標

- 1) 適切な授業の目的・目標が設定できるようになる。
- 2) わかりやすいシラバスを書けるようになる。
- 3) さまざまな授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 4) さまざまな成績評価の方法を知り、目的・目標あった方法を選択できるようになる。
- 5) 学生参加型のグループワークを体験し、授業に取り入れることができるようになる。

研修の形態

- 1) ミニ講義とグループワークを繰り返しながら進めてきます。
- 2) 所属組織や専門領域を超えて意見交換することで、自らの授業を客観的にとらえられます。
- 3) ワorkshop形式の研修となりますので、学生参加型授業の一端を体験しつつ学べます。

期日

平成26年9月1日（月）9：00～17：00（終了後 交流会 20：00頃まで）

平成26年9月2日（火）9：00～12：00

* 9月1日には、夕食をともにしながらの交流会があります。それぞれの部署を越えた新任教員間の関係づくりをめざしています。

会場

高知大学 共通教育棟3号館1階 310教室（朝倉キャンパス）

参加対象者

- 1) 一昨年度から本年度にかけて大学等に採用された教員（授業担当経験5年以上の方を除く）
- 2) 上記以外で参加を希望する教員

運営スタッフ

塩崎俊彦（高知大学総合教育センター大学教育創造部門 教授）

立川 明（高知大学総合教育センター大学教育創造部門 准教授）

俣野秀典（高知大学総合教育センター大学教育創造部門 講師）

武内智之（高知大学学務課総合教育センター事務係）

石川 愛（高知大学学務課総合教育センター事務係）

学生の学びを支援する 授業準備ワークショップ

開催日
2014年
9/1(月)・2(火)

会場：高知大学朝倉キャンパス共通教育棟3号館1階310教室
対象者：新任教員（大学での授業担当経験5年未満）および新たに大学の授業を担当する教員
交流会：1日目終了後

～お申込み～
平成26年8月20日（水）まで
宛先：裏面に記載

高知大学
朝倉キャンパス
共通教育棟
3号館1階
310 番教室

1日目 2014年9月1日(月)9:00～17:00

1. オリエンテーション/アイスブレイク
 2. グループワーク「良い授業とは？」
 3. ミニレクチャー「目標設定と授業計画、シラバスの書き方」
 4. グループワーク「共通教育科目の開発①（目標設定と授業計画）」
 5. ミニレクチャー「様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット」
 6. ミニレクチャー「様々な成績評価、その目的と方法」
 7. グループワーク「共通教育科目の開発②（授業計画と評価の方法・スケジュール）」
 8. グループ発表「グループワーク中間報告」
 9. グループワーク「共通教育科目の開発③（授業の計画・指導案）」
- ※終了後 交流会（～20:00頃まで）

2日目 2014年9月2日(火)9:00～12:00

10. グループワーク「共通教育科目の開発④（最終発表準備）」
11. グループ発表「新科目の紹介とミニ授業」
12. ふりかえり

学生の学びを支援する授業準備ワークショップ

1日目終了後の交流会について

1日目のスケジュール終了後、夕食をとりながら参加者の意見交換や懇親のための交流会を設定しております。

よって、1日目終了時刻は20:00ごろを予定しておりますので、ご了解下さい。

また、夕食代および研修中の飲料等の実費として、当日1,500円を徴収させていただきますので、ご用意くださいますようお願い致します。

総合教育センター大学教育創造部門では、授業改善や新たな授業に取り組まれる教員のために、さまざまな支援を行っています。

御相談、申込については、下段のメールアドレス宛にお願い致します。

授業相談／授業コンサルティングのご案内

授業をやっていく上での疑問やお悩みなどのご相談に対応しています。お気軽にお問い合わせください。

授業相談（シラバス・授業方法などについてご相談に対応します）

日時：4月7日（月）13:00～15:00

会場：総合研究棟2階会議室3

また、授業改善のための**授業コンサルティング**も実施しております。こちらは授業中間期に実施するのが効果的です。下記を目途にお申し込みください。

1学期 5月16日（金）まで

2学期 10月17日（金）まで

グループワーク授業OJTのご案内

本学が取り組んでいるグループワーク型授業について、実際に体験していただきながら、今後の指導のための理解を深めていただくために、当部門ではOn the Job Trainingを実施しております。下記の授業にOJT教員として参加していただき、グループワーク型授業の考え方や進め方などを経験することができます。

OJT対象授業（1学期開講分）

サイエンスリテラシーの化学：月曜4時限

環境を考える：木曜4時限

課題探求実践セミナー（自由探求学習Ⅰ）：木曜4・5時限（隔週開講）

課題探求実践セミナー（学びを創る）：金曜4時限

課題探求実践セミナー（自律協働入門）：金曜5時限

*お申込み・お問い合わせ先

高知大学 総合教育センター事務係

〒780-8520

高知県高知市曙町2丁目5-1

Tel：088-844-8652

E-mail：y-spod@kochi-u.ac.jp

平成26年度高知大学セミナー表

日時		場所	研修	担当教員
9月1日(月) ～9月2日(火)	9:00 ～17:00	310	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (総合教育センター)
9月3日(水)	13:30 ～15:30	310	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ～考え方と進め方～	俣野秀典(総合教育センター)
9月4日(木)	13:30 ～16:30	310	コミュニケーションで知識を蓄えるTBLチーム基盤型学習法	立川明(総合教育センター)
9月30日(火)	13:30 ～17:30	農学部 (未定)	TA講習	立川明(総合教育センター)
1月21日(水)	13:30 ～16:00	未定	学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (総合教育センター)
2月10日(火)～ 2月11日(水・祝)	10:00 ～17:00	310 (予定)	ファシリテーション力養成道場	俣野秀典・塩崎俊彦 (総合教育センター)
3月24日(火)	13:30 ～15:30	310	授業効果を高めるために授業の最初にすべきこと	立川明(総合教育センター)
3月25日(水)	13:30 ～17:00	310	初年次科目のためのグループワークの技法	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (総合教育センター)
3月26日(木)	10:00 ～18:00	310	能動的学習支援者必須！ グループワークのためのファシリテーション入門	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 (総合教育センター)
3月30日(月)	13:30 ～17:30	310 (予定)	TA講習	立川明(総合教育センター)

開催場所<310：(朝倉) 共通教育棟 3号館 1階310教室>

SPOD研修アンケート集計結果

研修名 : 学生の学びを支援するための授業準備ワークショップ(新任教員FDワークショップ)

実施日 : 平成26年9月1日(月)~2日(火)

実施会場 : 高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟3号館1階310教室

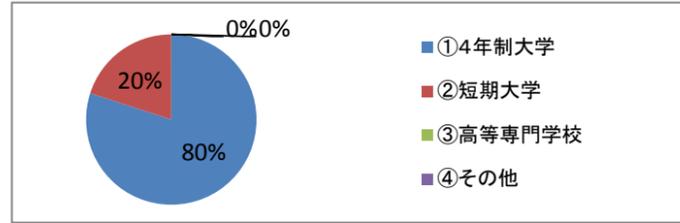
参加者数 : 5名

アンケート回答者数 : 5名

1. 参加者ご自身について

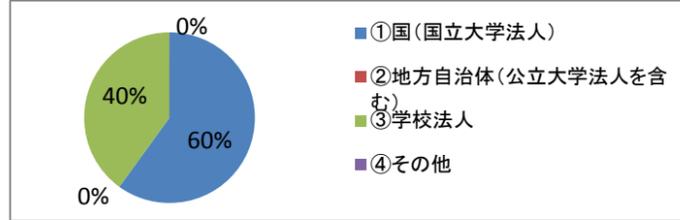
1-(1) 所属先

	度数	割合
①4年制大学	4	80.0
②短期大学	1	20.0
③高等専門学校	0	0.0
④その他	0	0.0
	5	100.0



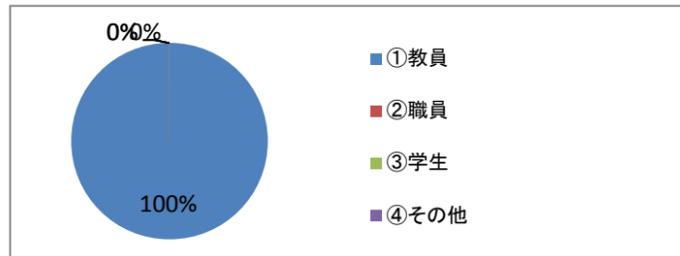
1-(2) 所属先の設置者

	度数	割合
①国(国立大学法人)	3	60.0
②地方自治体(公立大学法人を含む)	0	0.0
③学校法人	2	40.0
④その他	0	0.0
	5	100.0



1-(3) 職種

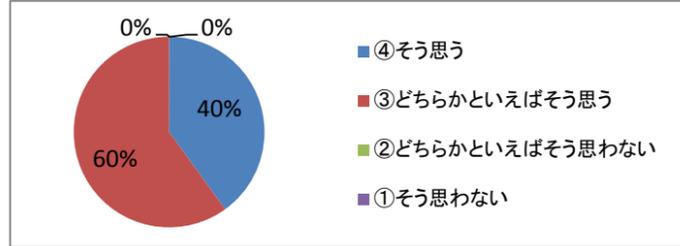
	度数	割合
①教員	5	100.0
②職員	0	0.0
③学生	0	0.0
④その他	0	0.0
	5	100.0



2. 研修参加への経緯について

2-1 研修目的や内容についてある程度知ったうえで参加した

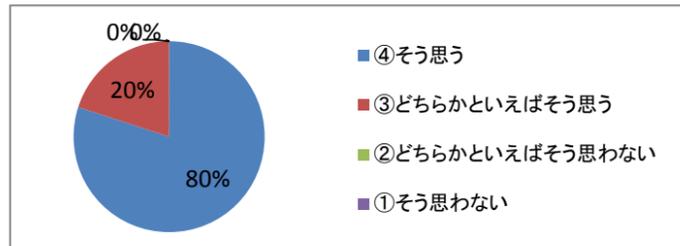
	度数	割合
④そう思う	2	40.0
③どちらかといえばそう思う	3	60.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100.0



3. 研修プログラムの設計について

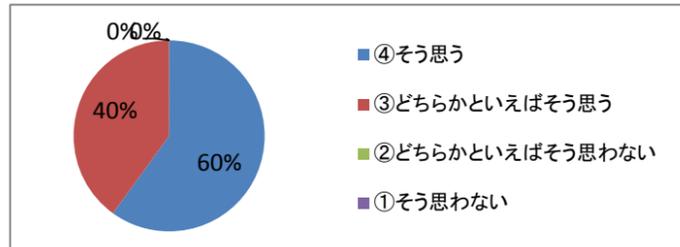
3-1 研修の目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100.0



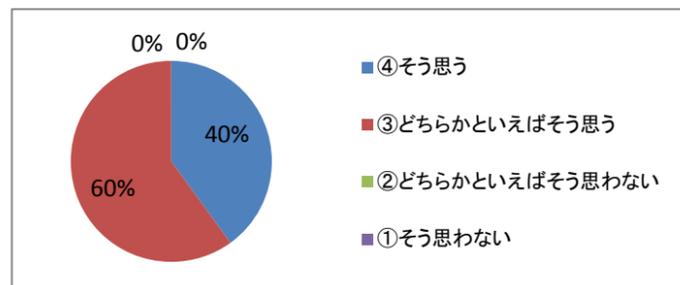
3-2 研修は自分の業務(教育改善)に生かせる内容だった

	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100.0



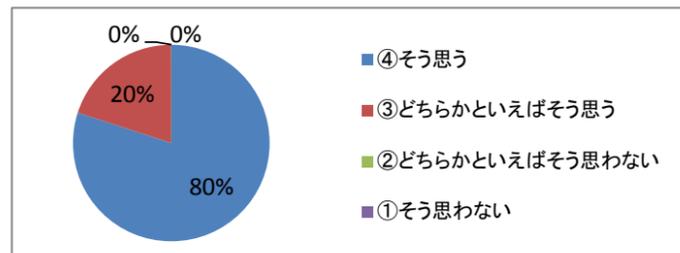
3-3 研修は分かりやすい順序で進められた

	度数	割合
④そう思う	2	40.0
③どちらかといえばそう思う	3	60.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100.0



3-4 研修会場は快適な環境だった

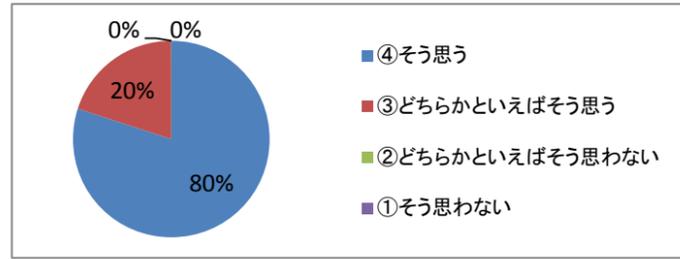
	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100.0



4. 研修スタッフについて

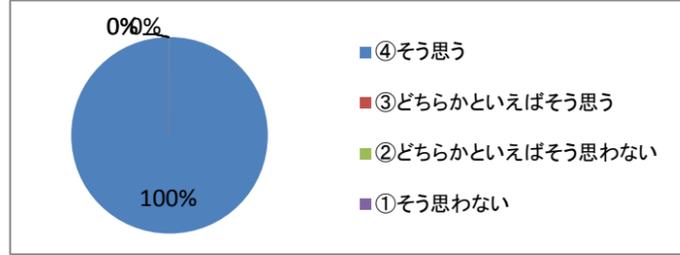
4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



4-2 事務局は手際よく運営していた

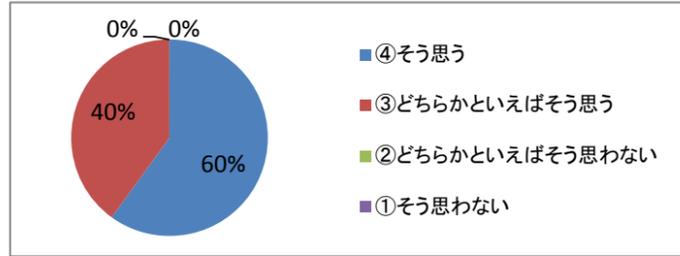
	度数	割合
④そう思う	5	100.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



5. 研修成果について

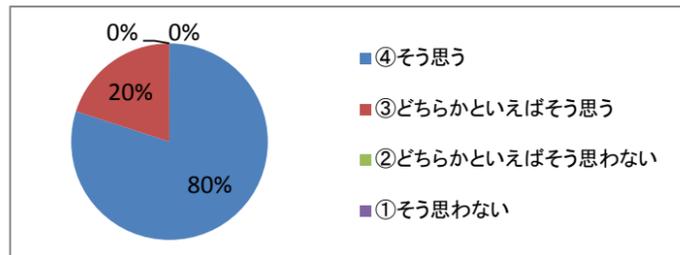
5-1 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



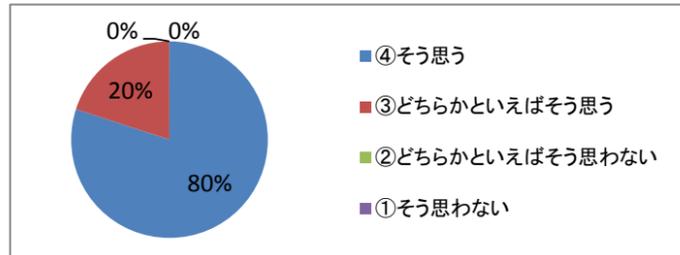
5-2 受講したことによって業務の取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



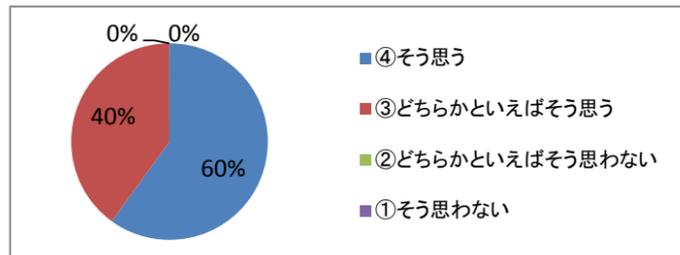
5-3 研修の内容は十分に理解できた

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



5-4 新たに人的なつながりをつくることができた

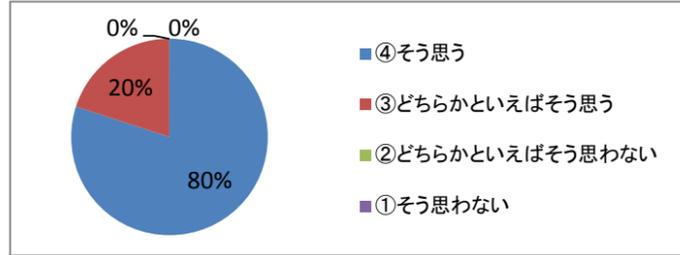
	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



6. 研修全体について

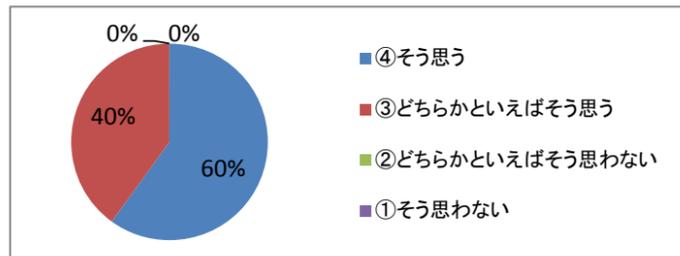
6-1 研修は全体的に満足できるものだった。

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



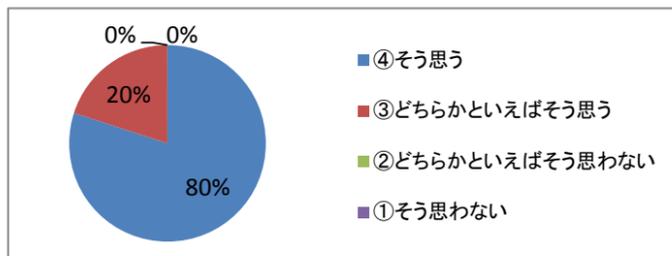
6-2 研修は期待を上回る内容だった

	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



6-3 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

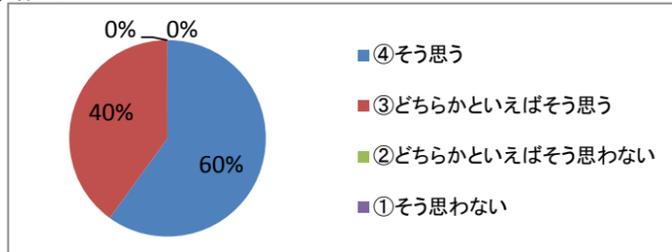
	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



7. 本研修の目標である下記4項目について、到達できていると思いますか？

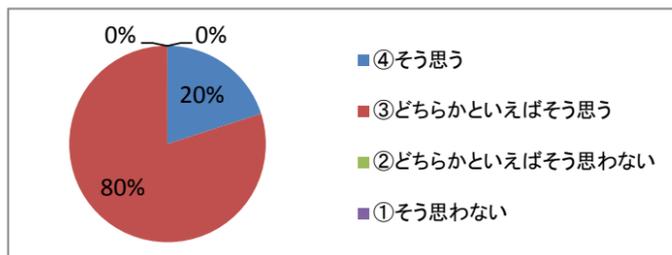
7-1 適切な授業の目的・目標設定ができるようになる

	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



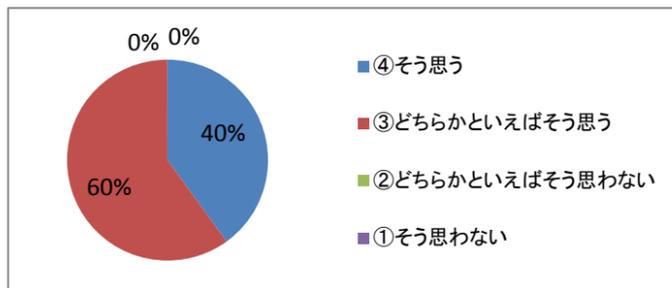
7-2 わかりやすいシラバスを書けるようになる

	度数	割合
④そう思う	1	20.0
③どちらかといえばそう思う	4	80.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



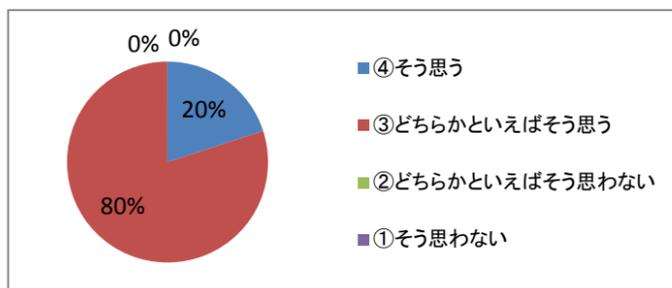
7-3 学習成果（ラーニング・アウトカムズ）を意識して授業デザインができるようになる

	度数	割合
④そう思う	2	40.0
③どちらかといえばそう思う	3	60.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



7-4 学生参加型のグループ作業を自らの授業で導入することができるようになる

	度数	割合
④そう思う	1	20.0
③どちらかといえばそう思う	4	80.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	5	100



1-(4)本研修を知ったきっかけ・参加のきっかけは何ですか？
所属大学のFD委員からの案内(転送メール)
教職員ライブラリをみて
メールでの案内？
メール(学内)
所属大学のFD委員長よりの紹介
1-(5)現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか？(具体的に)
学生が意欲的に授業に臨めるような動機づけ
知識と態度、思考力が高まるコースデザインスキル
対面授業を行うなら、そのやり方だけど…大人向けの研修のやり方っていうか、上手になる方法？
学生の状況の捉え方など
グループワーク(教員自身が慣れていないので)
8.研修ですぐに使ってみたいと感じたこと(アクションプラン)を、具体的にお書きください。
後期からの授業ではグループワークを積極的に取り入れたいです。 授業内容についても改善していきたいと思います。
次年度に向けて、シラバスを見直しをしてみたいと思いました。秋に修士課題のシラバスを考えることがあるので、学生さんの2年間を想像して創造していきたいです。学科の目標を自分の担当する授業の中でも展開していきたいです。
グループワーク、グループ作業をもっとたくさん恐れずにやってみたいと思ったシラバスを書きなおせると思った。
これまでは多人数講義が主ということもあり一方的な講義スタイルで行ってきた。今回の研修で多人数でもGW等適応できることが分かったのでぜひ導入した。
9.本研修を受講して良かったと思われる点や改善点、意見などを自由にお書きください。
今までこれで良いのかな?と思いながら授業を進めていましたが、今回色々なことを確認・ご相談できたことが良かったです。2日間本当にありがとうございました。
ありがとうございました。準備等大変だったろうと思います。ありがとうございます。
少々時間がタイトだった。もう少し余裕があっても良かった。
具体的なシラバス作成上のヒントがたくさん得られた。講師の先生が優しく感謝しています。

5 平成26年度活動実績

(1) FD事業

②「教育業績記録（ティーチング・ポートフォリオ）の開発」資料

ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップの開催について

日 時：平成26年7月7日（月）10時～16時30分

別添「スケジュール表」参照

場 所：愛媛大学城北キャンパス

愛大ミューズ アクティブ・ラーニングスペース2

主 催：愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

共 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

目 的：すでに作成したティーチング・ポートフォリオを更新する。また、メンターに必要なメンタリングスキルについて学ぶ。

参加対象者：ティーチング・ポートフォリオ作成後、1年を経過しているSPOD
加盟校の教員

講 師：秦 敬治（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長、教授）

清水 栄子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室、助教）

ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ スケジュール表

平成26年7月7日(月)	
8:00	
9:00	
10:00	(A)オリエンテーション(全体説明・TPについてのおさらい)
11:00	(B)メンタリングセッション(2人1組) ① 互いのTPを読む ② 相互メンタリング
12:00	
13:00	(C)ランチタイム+更新予定発表(全体)
14:00	(D)更新タイム(個人)
15:00	(E)メンタリングについてのディスカッション(全体)
16:00	(F)更新タイム(個人)
17:00	(G)TP更新の感想と振り返り(全体)

SPOD研修プログラム2014アンケート集計結果

セミナー名: ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ
 講師名: 秦敬治, 清水栄子(愛媛大学教育企画室)
 実施日: 平成26年7月7日(月)
 実施会場: 愛大ミュージアム

事前申込者数: 2名
 当日参加者数: 2名
 アンケート回答者数: 2名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合	その他の記述内容
① 大学	1	77.8	
② 短期大学	1	22.2	
③ 高等専門学校	0	0.0	
④ その他()	0	0.0	
計	2	100.0	

(2) 所属先の設置者

	度数	割合	その他の記述内容
① 国(国立大学法人)	1	50.0	
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	0	0.0	
③ 学校法人	1	50.0	
④ その他()	0	0.0	
計	2	100.0	

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	2	100.0
② 北海道	0	0.0
③ 東北	0	0.0
④ 関東	0	0.0
⑤ 中部	0	0.0
⑥ 近畿	0	0.0
⑦ 中国	0	0.0
⑧ 九州・沖縄	0	0.0
計	2	100.0

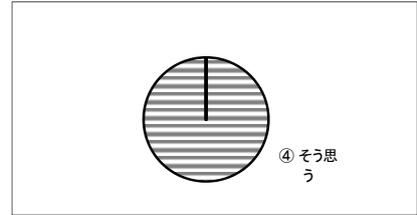
(4) 職種

	度数	割合	その他の記述内容
① 教員	2	100.0	
② 職員	0	0.0	
③ 学生	0	0.0	
④ その他()	0	0.0	
計	2	100.0	

2. このセミナーについて

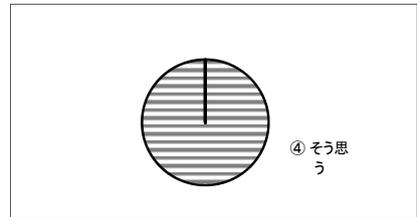
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	2	0.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	100.0
計	2	100.0



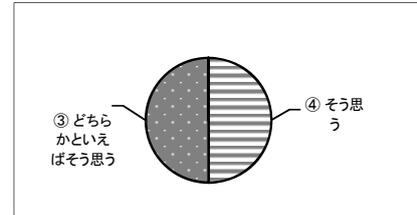
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	2	0.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	100.0
計	2	100.0



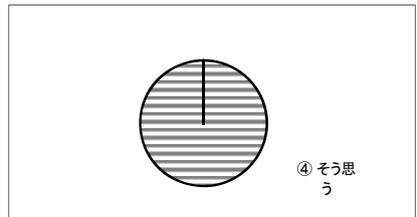
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	1	0.0
③ どちらかといえばそう思う	1	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	50.0
① そう思わない	0	50.0
計	2	100.0



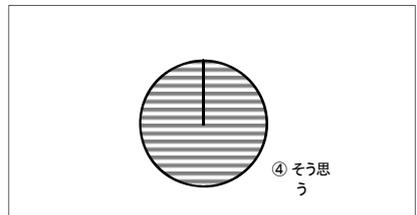
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	2	0.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	100.0
計	2	100.0



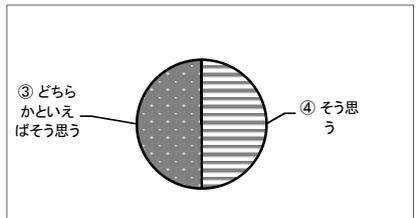
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	2	0.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	100.0
計	2	100.0



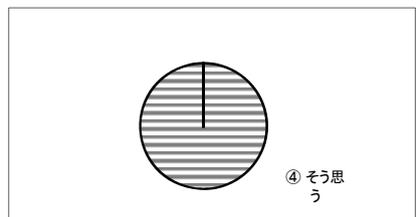
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	1	0.0
③ どちらかといえばそう思う	1	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	50.0
① そう思わない	0	50.0
計	2	100.0



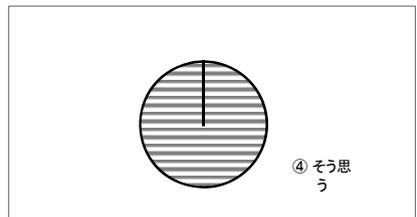
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	2	0.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	100.0
計	2	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	2	0.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	100.0
計	2	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ 自分の取り組みへの承認につながった。課題が改めて確認できた。

あらためて自己管理能力が大切だと感じた。

- ・ 自分がたどってきた道をふりかえったり、めぐる作業はたいへんだが、自分を大切にするためにやるべきことだと思う。

次はアカデミックポートフォリオを目指したいです。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ 特にありません。

- ・ 満足していますが、お手本みたいなものがあれば参考にしたかったです。たとえば、ポートフォリオとエビデンスの対比とか…。

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（西四国対象）実施要項

- 1 日 時：平成26年9月17日（水）～18日（木）
※詳細は別添スケジュール表のとおり
- 2 場 所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージズ
【オリエンテーション・TP作成作業等】
アクティブラーニングスペース2（1階）等
【個人ミーティング】
アクティブラーニングスペース1, 3（1階）等
- 3 主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）
- 4 後 援：JACET アカデミック&ティーチング・ポートフォリオ研究会
- 5 目 的：ティーチング・ポートフォリオを実際に作成します。また、ティーチング・ポートフォリオを多くの教員に作成してもらうために、メンター養成を行います。
- 6 参加対象者：SPOD西四国（愛媛県，高知県）加盟校の教員
- 7 メンター：小林 直人（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室長 教授）
中山 晃（愛媛大学教育・学生支援機構英語教育センター 准教授）
清水 栄子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 助教） 他
- 8 定 員：20名程度
- 9 その他：本ワークショップは、同時並行でアカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップを実施します。

TP作成WSスケジュール表

	1日目(9月17日(水))	2日目(9月18日(木))	ワークショップ終了後
8:00			
8:30		TP作成作業	
9:00		TP作成作業	
9:30	オリエンテーション+ 全体コメント及び作業指	第2回個人ミーティング	第3校原稿提出締切 月 日() 時*
10:00	TP作成作業	TP作成作業	↓
11:00	第1回個人ミーティング	意見交換+昼食	
12:00	意見交換+昼食	第3回個人ミーティング	メンターよりメールにて コメント 月 日() *
13:00	TP作成作業	TP作成作業	↓
14:00		第2校原稿確認	
15:00		TP披露 閉会式	第4校原稿提出締切 月 日() 時
16:00		情報交換会	
17:00			
17:30			
18:00			
19:00			
20:00			
21:00			※提出日時はワークショッ プの中でお知らせします。 提出ファイル名 「名前●稿No_日付」 例 shimizu3_0919 (第3稿9/19提出の場合)
22:00	原稿提出締切 22:00		
23:00			
0:00			

平成26年度 ティーチング・ポートフォリオワークショップ(西四国対象)アンケート集計結果

実施日:平成26年9月17日(水)～18日(木)
 会場:愛媛大学
 参加者数:19名
 回答者:16名

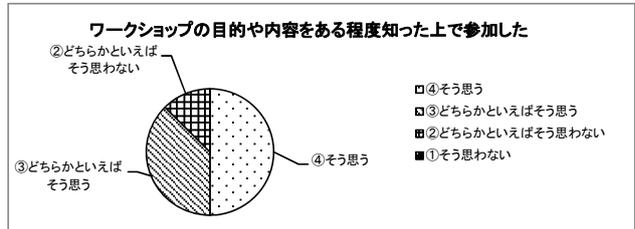
1. 参加者ご自身について

省略

2. 研修参加の経緯について

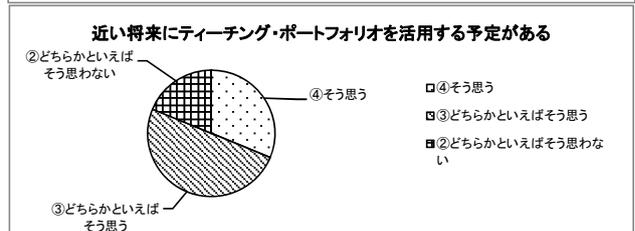
1. ワークショップの目的や内容がある程度知った上で参加した

	度数	割合
④そう思う	8	50.0
③どちらかといえばそう思う	6	37.5
②どちらかといえばそう思わない	2	12.5
①そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



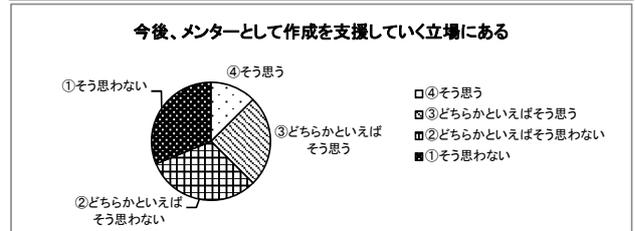
2. 近い将来にティーチング・ポートフォリオを活用する予定がある

	度数	割合
④そう思う	5	31.3
③どちらかといえばそう思う	8	50.0
②どちらかといえばそう思わない	3	18.8
①そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



3. 今後、メンターとして作成を支援していく立場にある

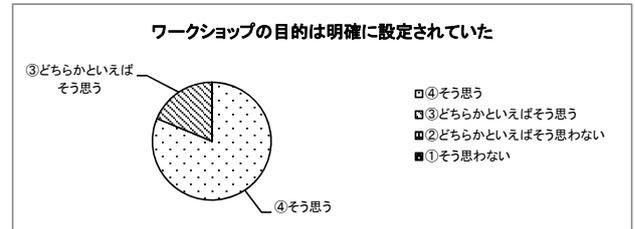
	度数	割合
④そう思う	2	12.5
③どちらかといえばそう思う	4	25.0
②どちらかといえばそう思わない	5	31.3
①そう思わない	5	31.3
計	16	100.0



3. 研修プログラムの設計について

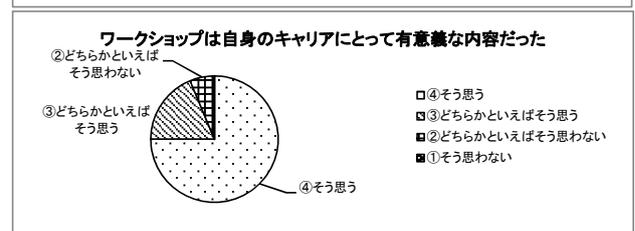
1. ワークショップの目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	13	81.3
③どちらかといえばそう思う	3	18.8
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



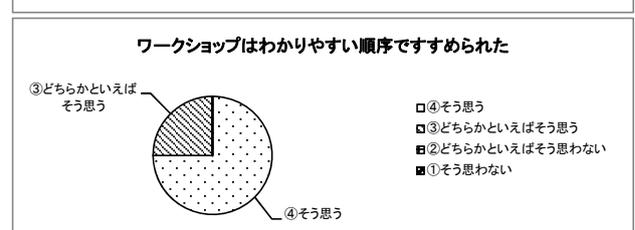
2. ワークショップは自身のキャリアにとって有意義な内容だった

	度数	割合
④そう思う	12	75.0
③どちらかといえばそう思う	3	18.8
②どちらかといえばそう思わない	1	6.3
①そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



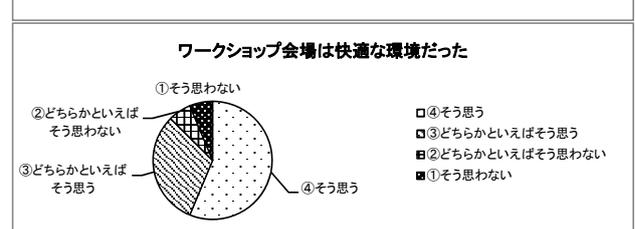
3. ワークショップはわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④そう思う	12	75.0
③どちらかといえばそう思う	4	25.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



4. ワークショップ会場は快適な環境だった

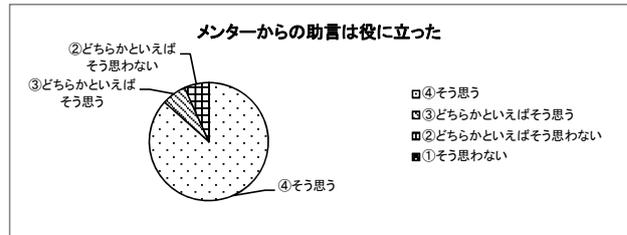
	度数	割合
④そう思う	9	56.3
③どちらかといえばそう思う	5	31.3
②どちらかといえばそう思わない	1	6.3
①そう思わない	1	6.3
計	16	100.0



4. 研修スタッフについて

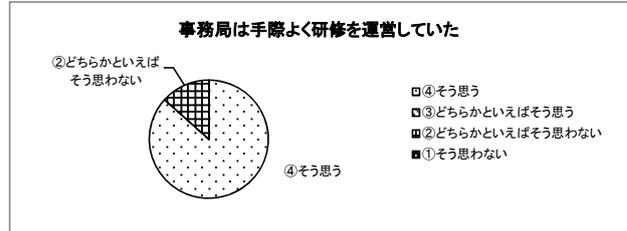
1. メンターからの助言は役に立った

	度数	割合
④そう思う	13	86.7
③どちらかといえばそう思う	1	6.7
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



2. 事務局は手際よく研修を運営していた

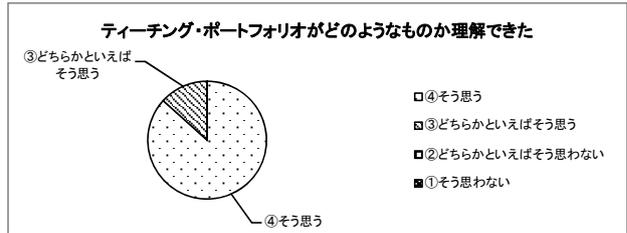
	度数	割合
④そう思う	13	86.7
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	2	13.3
①そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



5. 研修成果について

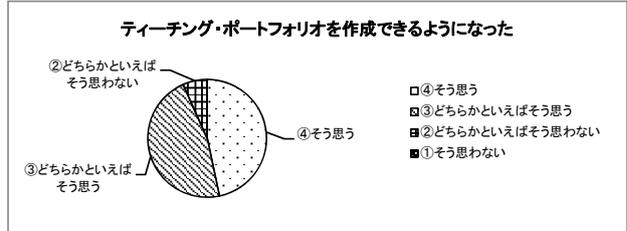
1. ティーチング・ポートフォリオがどのようなものか理解できた

	度数	割合
④そう思う	13	86.7
③どちらかといえばそう思う	2	13.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



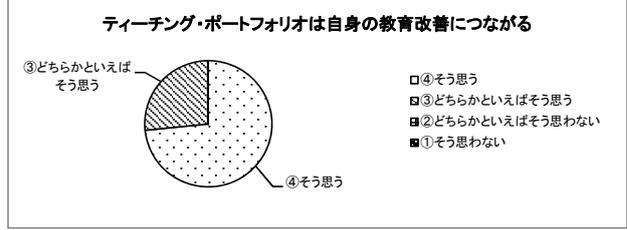
2. ティーチング・ポートフォリオを作成できるようになった

	度数	割合
④そう思う	7	46.7
③どちらかといえばそう思う	7	46.7
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



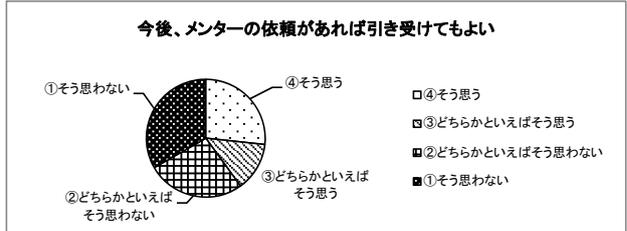
3. ティーチング・ポートフォリオは自身の教育改善につながる

	度数	割合
④そう思う	11	73.3
③どちらかといえばそう思う	4	26.7
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



4. 今後、メンターの依頼があれば引き受けてもよい

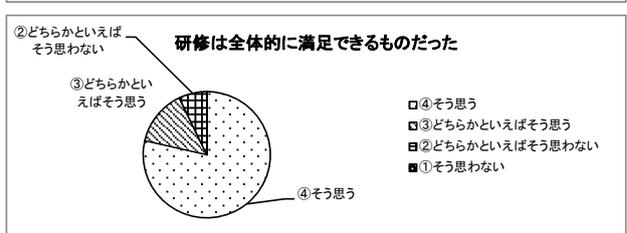
	度数	割合
④そう思う	4	26.7
③どちらかといえばそう思う	2	13.3
②どちらかといえばそう思わない	4	26.7
①そう思わない	5	33.3
計	15	100.0



6. 研修全体について

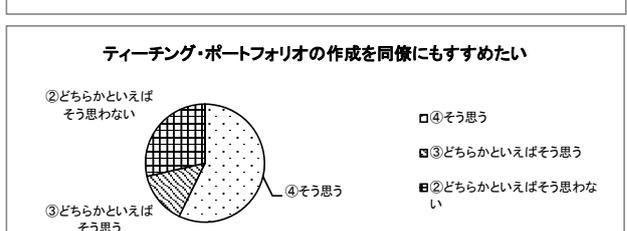
1. 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④そう思う	11	78.6
③どちらかといえばそう思う	2	14.3
②どちらかといえばそう思わない	1	7.1
①そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



2. ティーチング・ポートフォリオの作成を同僚にもすすめたい

	度数	割合
④そう思う	8	57.1
③どちらかといえばそう思う	2	14.3
②どちらかといえばそう思わない	4	28.6
①そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



【自由記述】

○ワークショップの場所、開催時期、日程等についてのご感想をお聞かせ下さい。

- ・開催時期は、高専にとっては良い時期だった。日程も2日間でしたのでありがたかった。
- ・開催場所、時期、日程ともに満足で特に意見はございません。
- ・会場は終始寒かったし、狭かった。
- ・日程について、2日目は8時半に集合としていながら特に何をするでもなく放置されたのはいかななものかと思った。前日の第1稿の提出時間を早めに設定しておけば、メンターがチェックを行う時間が確保され、翌日朝は打合せからスタートできるのではないか。
- ・適切であったと思います。
- ・特に問題はありません。
- ・場所については、全く問題ありませんでした。
- ・時期については、私自身が希望してこの時期に受講しましたので、よかったです。
- ・日程については、私としてはこのスケジュールでよかったです。時間が限られていた分、作業に集中出来た気がします。ただ最初は、作業内容の把握に時間が掛かったため、最初の方の効率はあまり高くありませんでした。
- ・どの項目も問題ないと思います。
- ・場所、開催時期、日程については、個人的には適切だと思った。
- ・開催時期は良いと思う。ただし狭い会場に2日間缶詰となるので、体調を崩してしまいがちである。
- ・夏季休業中の授業がない期間だったため、参加しやすかったです。2日間で作成するのは厳しいですが、休業期間のため、その後時間を費やすことができました。
- ・個人的には都合の良い場所で助かりました。
- ・私は農学部所属なので、追加の資料が必要となった場合等に不便を感じた。
- ・かなりの時間を必要とするので夏休み期間中の開催は適当だと思う。ただし、個人的に収穫と学会が重なる時期のため、8月中だとなおよかった。
- ・いずれも適切だった。2日半でもよかったと思う。
- ・場所、開催時期、日程等は最適であった。
- ・2日連続のワークショップはハードでしたが、日程はこれでいいと思います。
- ・とても良い環境の中で作成作業を行うことができました。ありがとうございました。
- ・良い日程、環境だったと思います。充実した時間を過ごしました。

○事前課題（スタートアップ・シート）について、ご感想をお聞かせ下さい。

- ・これがなければ2日間では困難だと感じた。ただ、内容が少しわかりにくい箇所もあった（自分の事前学習不足）ので、そこは改善があればと感じた。
- ・スタートアップシートがその後の議論にさほど活用されていない印象を持った。
- ・非常に参考になりました。
- ・予め事前課題を行うことで、ワークショップでTPを作成するうえで役に立ちました。
- ・作業の初めは内容が把握出来ておらず、ティーチング・ポートフォリオのたたき台としての役目を果たせたのかが疑問です。
- ・事前課題があったおかげで、TP作成がどのようなものになるか感覚がつかめたのでよかったですと思います。
- ・ティーチング・ポートフォリオをはじめて作るうえで、また、その構想を練るためにとっても参考になった。
- ・ポートフォリオ作成の上では役に立つと思った。
- ・記入には時間がかかりますが、事前にあったほうが絶対良いと思います。お蔭でスムーズにワークショップに入ることができました。
- ・ワークショップに参加する前にあまりティーチング・ポートフォリオを作成する意義を理解できていなかったため、十分な記述はできていなかったと思う。
- ・適切な内容だったと思う。それなりに時間はかかったが、これを作成する段階であるていど自分自身のこれまでの教育活動についてふりかえることができ、ワークショップ当日の準備などが十分にできた。
- ・全体的に適当である。もう少し、ポートフォリオの内容に近づけても良い。資料は、インターネットから閲覧出来ればよいことを記してほしい。
- ・妥当だと思います。
- ・回答するときは手間ですが、これがTP作成の役に立つと思いました。
- ・求められていることがよく分からず、苦勞しました。

○ティーチング・ポートフォリオを作成してみたご感想をお聞かせ下さい。

- ・教育に関する自分の理念というのが何となくですが認識することができた。また、これからチャレンジしていきたいことも確認できた。
- ・実際に作成をしてみてすぐに自身の教育改善につながるとは思えないが、普段なかなか考えることのない教育のことを一日中考える機会となり、結果的に有意義な時間であった。
- ・事前に受けていた授業参観関係のプログラムが大いに役に立った。
- ・ティーチング・ポートフォリオの作成を体感できたのが良かったです。

- ・教育活動を行った根拠を、これまでは意識していなかった。その重要性を知ることができた。
- ・現在は、助教で講義担当も少ない状況ではありましたが、研究室での研究指導も教育であり、それを客観的に自身で振り返る良い機会であったと思います。
- ・フォーマットが自由なようで制限があり、内容的に戸惑う部分もあったが、作成過程で自分の教育理念を振り返ることができたので、今後を活かしたいと思います。
- ・教育経験が浅いと、教育活動以外でこれまでに自分が生きてきたなかで経験してきたことが、教育理念の基盤となるということを実感できて、今後の教育活動だけでなく、研究や大学の運営にもよい刺激になると思った。
- ・頭の整理にはなったのではないかと思う。
- ・日頃の教育活動をじっくりと振り返り、総括することができてよかったです。普段やっていることでも、改めてその意味を考えることができ、改善点も明らかになりました。教育理念も整理することができました。
- ・自分のこれまでの教育に対してじっくりと考える時間を得ることができ、また文章化することで漠然としていた教育の狙い、成果、課題を再確認することができて、全体的に良かった。ただ、かなりの時間が必要で、正直この時期は厳しかった。
- ・スタートアップシートを作成している段階で自分の過去の教育活動についてふりかえることができ、2番目の勤務校時代の学生たちには申し訳なかったなあと、あらためて感じたりしていた。そのときはそのときで自分なりにはいろいろな努力して工夫もしていたつもりだが、それ以前の建築専門教育(建物・住宅の作り手の養成)から専門外の学生にたいする教育(住宅の住み手として必要な認識・知識の伝授)を模索していた時期で、いまだあればもっとよい教育ができたとのにと、思ったりした。しかし、ワークショップ時のTP作成過程で、メンターの助言でより体系的にふりかえりができたなかで、自分の教育の発展段階として、やむをえないし必要な段階でもあったのだろうと考えることができるようになった。
- ・2日間PCに向かいっぱなしでしたので、頭、目、腰が疲れました。しかし、充実した時間でした。他の人との交流も楽しかったです。
- ・まだ十分に仕上がってはいませんが、作成に取り掛かり、良かったと思います。まずは、後期の授業に生かせそうです。次は、シラバスの作成に役に立ちそうです。自分を振り返ることは、次への実践への弾みになると思います。
- ・自分がやってきたことを整理していく作業は楽しかったです。前向きな気持ちになりました。

○ワークショップに参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ 教員生活の振り返りをする事で、初心を思い出したり、授業や課外活動とのつながりを認識することができた。20年間を超える教員生活でまあまあ自分も頑張っているな、と感じた。
- ・ 二日間にわたって一緒の部屋で作業し、作成後は懇親会を用意してくださったおかげで、普段の講義以上に多くの方々とお知り合いになれたことがよかったです。
- ・ 他の先生の発表で、参考になると思える部分があった。
- ・ 作製手順が学べたので良かったです。
- ・ TPとはどのようなものか、専門家から話をきけたこと
- ・ ワorkshopに参加している教員との交流ができ、教育活動のアドバイスを受けることができること
- ・ 研究については、日々学生や同僚の教員とたえず振り返っており、また外部に対しても積極的に発表を行っているが、教育業務に対して振り返る機会は、これまでにほとんどなかったのが実情でした。またその教育業務についてメンターから意見をもらうことが出来たのも、とても良かったです。今後のよりよい教育活動につながると思います。
- ・ 教育理念の再考、熟考ができた点
- ・ TPを作成する過程を学ぶことができた点
- ・ メンターや他の参加者との交流や意見交換、ディスカッションをすることができた点。また、ポートフォリオの作成過程で、相談したり、他の人の考え方などにも触れることができ、自身の作業にフィードバックできたこと。
- ・ 頭の整理になった点は良かったと思う。
- ・ 日頃の教育活動を振り返ることができただけでなく、今後どう改善していくか、短期・長期目標が設定できた点が良かったと思います。また、「ただ良いと思うからこの指導方法を取る」というレベルから、常にその成果を検証しながら調整、改善していく必要性を感じました。
- ・ 自分のこれまでの教育活動をふりかえり、体系的に整理し、その意味を読み解くことができた。
- ・ 2013年度のSPODフォーラムでティーチング・ポートフォリオ関係のシンポジウム・講演・研修会等にはすべて参加し、「大学教育を変える教育業績記録」もすべて読了し、スタートアップシートを作成した段階で、自力でも作成できるのではないかと考えていたが、メンターの適切な助言によって、自力で作成するとしたらどんなものになるか想定していたものとは違うものになり、やはりワークショップやメンターの意味は大きいと感じた。
- ・ 自分の授業改善等に役立つと思う。

- ・勤務校へのティーチング・ポートフォリオ導入の必要性を確認できた。
- ・これまでの教育と、これからの教育について整理できました。してきたことの意味付けもできて、改めて色々と苦心してやってきたことに気付き自信に繋がったと思います。
- ・しっかりと時間を確保しての作成には意味があると思います。日ごろはなかなかそうした作業に取りかかることがいろいろな意味で難しいので。また、メンターがいてくださるので、やらなければ、という気持ちになれます。
- ・今まで考えたことのなかったことを振り返り、考えることができたこと。

○ワークショップをよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・日程がタイトだったので、3日に分けて開催するなどすればいいとおもいます。
- ・教育理念を作成する過程で一時期自叙伝っぽいものに走ってしまったので、理念を作成する上で後々の項目でエビデンスを添付する必要性があり、整合性をとる必要があることを強調されるのもよいかと思います。
- ・グループ内で、お互いTPの概要や教育理念、その背景などを紹介しあう時間があってもよいと思った。
- ・作業内容として、2日もの間、同じ場所に缶詰状態になって作業を行う必要性があまり感じられなかった。
- ・スタートアップシートのなかに根拠資料として用意できるものの一覧があったので、ワークショップ時に必要だと思い、かなりたくさんで重かったが主なものは持参した。しかし、その場ではとくになくてもよかったようなので、根拠資料の持参の要不要について事前に通知してもらえるとよいと思う。
- ・最後のTP紹介は時間が短かすぎたので、もう少し詳しく聞きたかったです。

アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ実施要項

1 日 時：平成26年9月17日（水）～18日（木）

※詳細は別添スケジュール表のとおり

2 場 所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージズ

【オリエンテーション・TP作成作業等】

アクティブラーニングスペース2（1階）等

【個人ミーティング】

アクティブラーニングスペース1, 3（1階）等

3 主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

4 後 援：JACET アカデミック&ティーチング・ポートフォリオ研究会

5 目 的：アカデミック・ポートフォリオを実際に作成します。また、アカデミック・ポートフォリオの作成を通して、アカデミック・ポートフォリオについての理解を深め、自身や大学・高専における教育改善に役立てることを目的とします。

6 参加対象者：SPOD加盟校の教員で、既にティーチング・ポートフォリオを作成している者

7 メンター：小林 直人（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室長 教授）
清水 栄子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 助教） 他

8 定 員：5名程度

9 その他：本ワークショップは、同時並行でティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップを実施します。

AP作成WSスケジュール表

	1日目(9月17日(水))	2日目(9月18日(木))	ワークショップ終了後
8:00			
8:30			
9:00		AP作成作業	
9:30	オリエンテーション+ 全体コメント及び作業指		第3校原稿提出締切
10:00		第2回個人ミーティング	
11:00	AP作成作業	AP作成作業	↓
12:00	第1回個人ミーティング		
13:00	意見交換+昼食	意見交換+昼食	メンターよりメールにてコメント 月 日() ※
14:00		第3回個人ミーティング	↓
15:00	AP作成作業	AP作成作業	
16:00		第2校原稿確認	第4校原稿提出締切 月 日() 時※
17:00		AP披露 閉会式	
17:30			
18:00			
19:00		情報交換会	
20:00			
21:00			※提出日時はワークショップの中でお知らせします。 提出ファイル名 「名前●稿No_日付」 例 shimizu3_0919 (第3稿9/19提出の場合)
22:00	原稿提出締切 22:00		
23:00			
0:00			

平成26年度 アカデミック・ポートフォリオワークショップ(西四国対象)アンケート集計結果

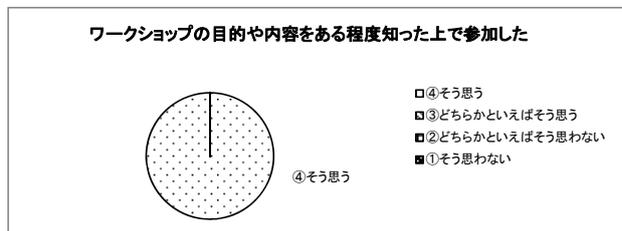
実施日:平成26年9月17日(水)～18日(木)
 会場:愛媛大学
 参加者数:2名
 回答者:2名

1. 参加者ご自身について
 省略

2. 研修参加の経緯について

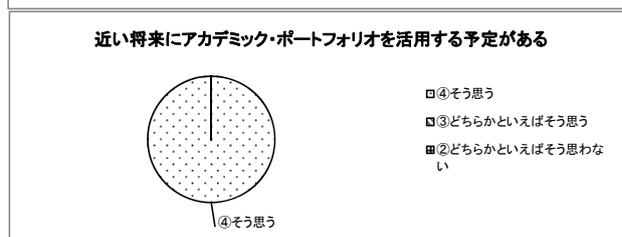
1. ワークショップの目的や内容がある程度知った上で参加した

	度数	割合
④そう思う	2	100.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0



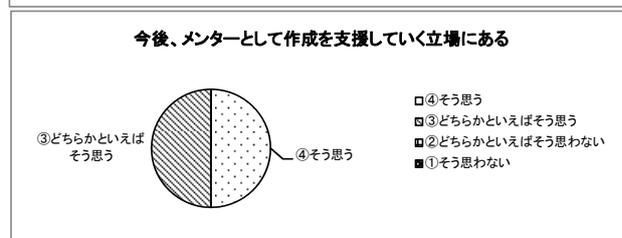
2. 近い将来にアカデミック・ポートフォリオを活用する予定がある

	度数	割合
④そう思う	2	100.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0



3. 今後、メンターとして作成を支援していく立場にある

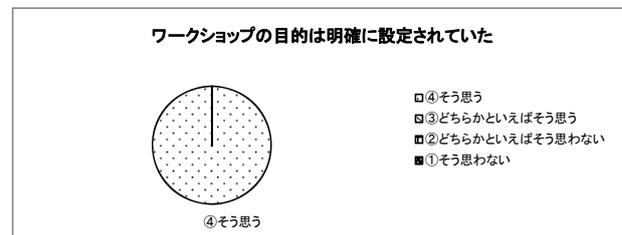
	度数	割合
④そう思う	1	50.0
③どちらかといえばそう思う	1	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0



3. 研修プログラムの設計について

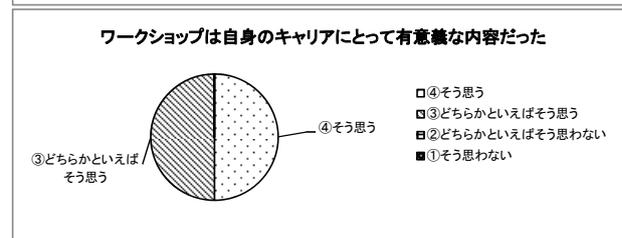
1. ワークショップの目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	2	100.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0



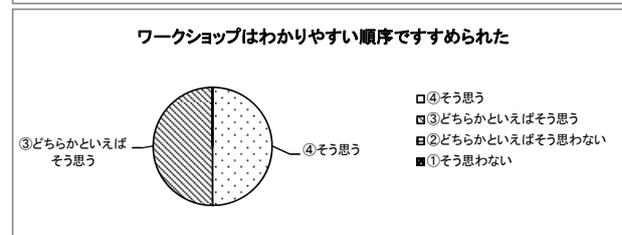
2. ワークショップは自身のキャリアにとって有意義な内容だった

	度数	割合
④そう思う	1	50.0
③どちらかといえばそう思う	1	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0



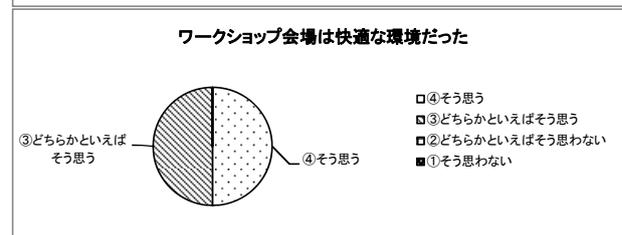
3. ワークショップはわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④そう思う	1	50.0
③どちらかといえばそう思う	1	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0



4. ワークショップ会場は快適な環境だった

	度数	割合
④そう思う	1	50.0
③どちらかといえばそう思う	1	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0



4. 研修スタッフについて

1. メンターからの助言は役に立った

	度数	割合
④そう思う	1	50.0
③どちらかといえばそう思う	1	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0

2. 事務局は手際よく研修を運営していた

	度数	割合
④そう思う	2	100.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0

5. 研修成果について

1. アカデミック・ポートフォリオがどのようなものか理解できた

	度数	割合
④そう思う	2	100.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0

2. アカデミック・ポートフォリオを作成できるようになった

	度数	割合
④そう思う	1	50.0
③どちらかといえばそう思う	1	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0

3. アカデミック・ポートフォリオは自身の教育改善につながる

	度数	割合
④そう思う	2	100.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0

4. 今後、メンターの依頼があれば引き受けてもよい

	度数	割合
④そう思う	1	50.0
③どちらかといえばそう思う	1	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0

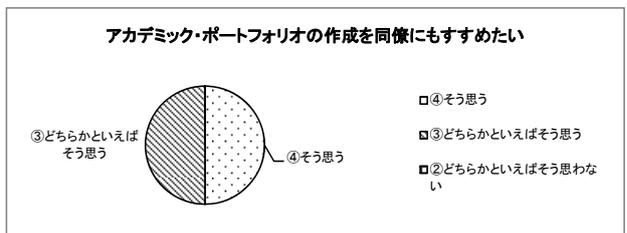
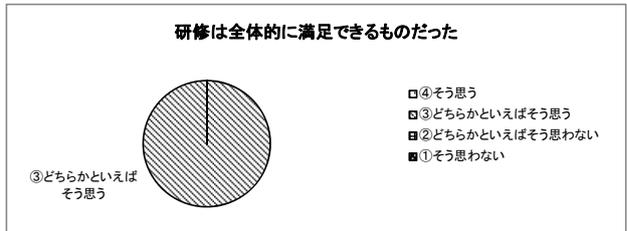
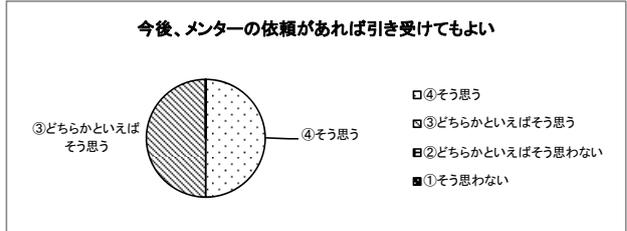
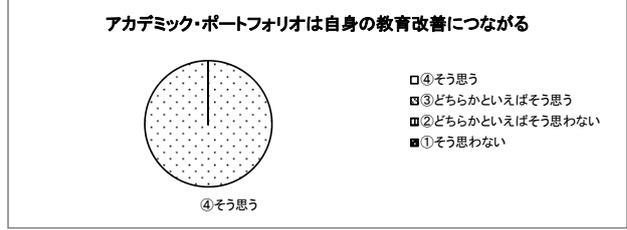
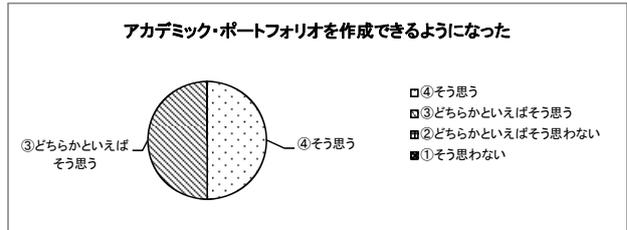
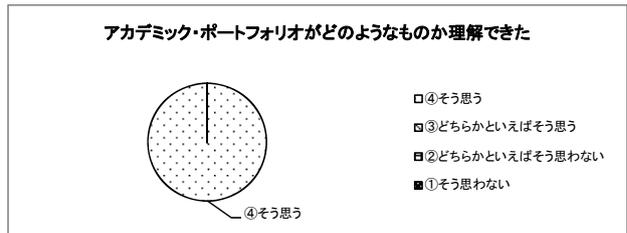
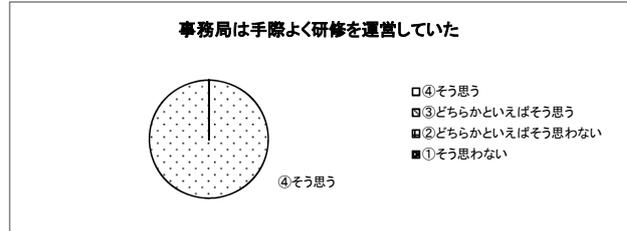
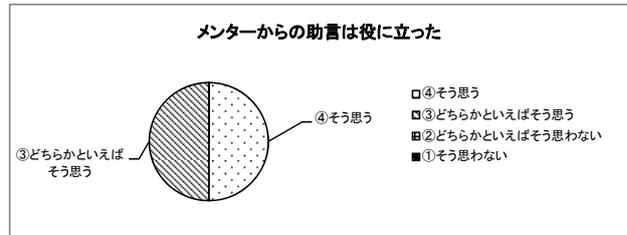
6. 研修全体について

1. 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④そう思う	0	0.0
③どちらかといえばそう思う	2	100.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0

2. アカデミック・ポートフォリオの作成を同僚にもすすめたい

	度数	割合
④そう思う	1	50.0
③どちらかといえばそう思う	1	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	2	100.0



【自由記述】

○ワークショップの場所、開催時期、日程等についてのご感想をお聞かせ下さい。

- ・夏休み中で参加しやすかった。
- ・やはり2日半の方が良いですね。ただしSPODで主催するならば、2日の日程が限界かもしれません。今後、本学内で開催する時はできる限り2日半で予定したいと思いました。

○事前課題（スタートアップ・シート）について、ご感想をお聞かせ下さい。

- ・事前に考えをまとめることができた。
- ・始めての方にはわかりにくい。スタートアップシートを記入するためのレクチャーが必要である。

○アカデミック・ポートフォリオを作成してみたご感想をお聞かせ下さい。

- ・統合のところが難しかった
- ・時間が足りないものの頭の整理がついてきた。
- ・優秀で、なおかつ真剣に研究に打ち込んでいる周囲の若手教員の姿を見ていると、将来が頼もしくもあり、彼らが務めている大学がうらやましくもあり、彼らと一緒に働きたくなってしまいます。困ったものです。

○ワークショップに参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・業務の振り返りと今後が見えてきたこと。
- ・日頃から重要と思いつつも、日常の雑務に紛れて後回しにしていたところを考える時間を持てたのが何よりも良かった。

○ワークショップをよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・もう少しメンターからの助言があればと思った。（TPと比べると）
- ・参加後の感想としては、やはり、無理してでも、もう半日伸ばせると良いですね。しかし、参加前には、この日程じゃなければ、参加しなかったと思います。
- ・もう少し、広い部屋を使えると良かったです。スペースや時間に余裕があるほうがより深く考えることができますが、密着していたせいか、周囲の若手教員の集中力に刺激を受けました。

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（高専対象）実施要項

- 1 日 時：平成26年10月31日（金）～11月2日（日）
別添「スケジュール表」参照
- 2 場 所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージズ
【オリエンテーション・TP作成作業等会場】
愛大ミュージズ1階アクティブ・ラーニングスペース2
【個人ミーティング会場】
愛大ミュージズ3階教育・学生支援機構ミーティングルーム ほか
- 3 主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）
- 4 目 的：ティーチング・ポートフォリオを実際に作成してもらう。
また、ティーチング・ポートフォリオを多くの教員に作成してもらうために、
メンター養成を行う。
- 5 参加者対象者：四国地区の高等専門学校教員等
- 6 受講定員：15名
- 7 メンター：松本 高志（阿南工業高等専門学校電気電子工学科 教授）
小林 直人（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室長 教授）
清水 栄子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 助教） 他

TP作成WSスケジュール表（メンティー用）

	10月31日(金)	11月1日(土)	11月2日(日)	ワークショップ終了後
8:00				
9:00		TP作成作業	TP作成作業	第3稿提出締切 月 日() 時※
10:00		第2回個人ミーティング	第3回個人ミーティング	
11:00		TP作成作業	TP作成作業	
12:00	オリエンテーション	意見交換+昼食	意見交換+昼食	
13:00	意見交換+昼食	TP作成作業	意見交換+昼食	メンターよりメールにてコメント 月 日() ※
14:00	第1回個人ミーティング		TP作成作業	
15:00	TP作成作業		プレゼンテーション準備	
16:00			TP披露 修了式	
17:00				
18:00				最終稿提出締切 月 日() 時※
19:00	情報交換会(任意)			
20:00				
21:00				
22:00	初稿提出締切 22:00	第2稿提出締切 22:00		※日時はワークショップの中でお知らせします。
23:00				※提出日時はワークショップの中でお知らせします。 提出ファイル名 「名前●稿No_日付」 例 shimizu3_1102 (第3稿11月2日提出の場合)
0:00				

平成26年度 ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(高専対象)アンケート集計結果

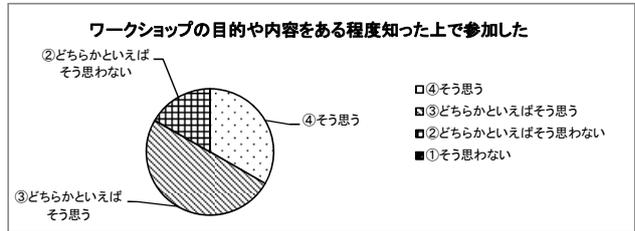
実施日:平成26年10月31日(金)～11月2日(日)
 会場:愛媛大学
 参加者数:7名
 回答者:6名

1. 参加者ご自身について
 省略

2. 研修参加の経緯について

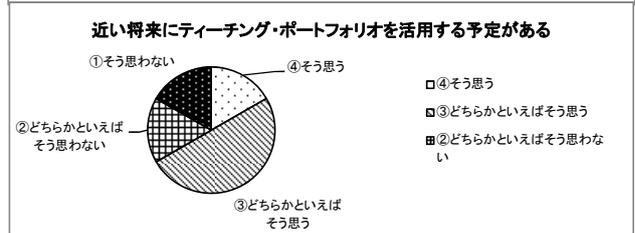
1. ワークショップの目的や内容がある程度知った上で参加した

	度数	割合
④そう思う	2	33.3
③どちらかといえばそう思う	3	50.0
②どちらかといえばそう思わない	1	16.7
①そう思わない	0	0.0
計	6	100.0



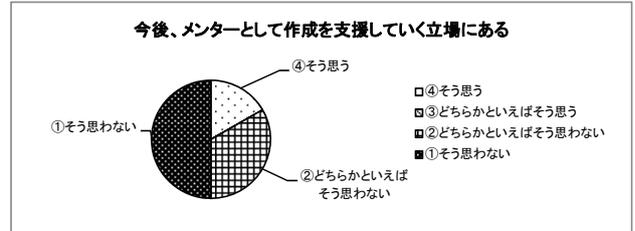
2. 近い将来にティーチング・ポートフォリオを活用する予定がある

	度数	割合
④そう思う	1	16.7
③どちらかといえばそう思う	3	50.0
②どちらかといえばそう思わない	1	16.7
①そう思わない	1	16.7
計	6	100.0



3. 今後、メンターとして作成を支援していく立場にある

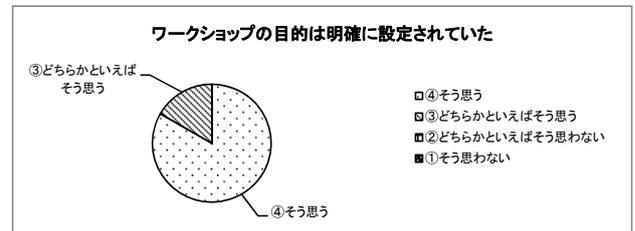
	度数	割合
④そう思う	1	16.7
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	2	33.3
①そう思わない	3	50.0
計	6	100.0



3. 研修プログラムの設計について

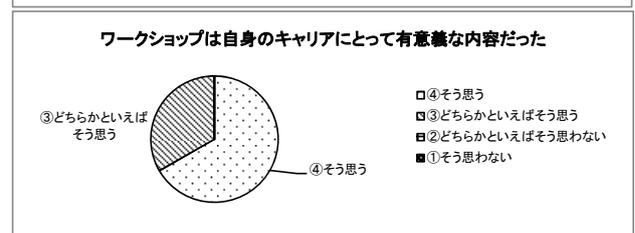
1. ワークショップの目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	5	83.3
③どちらかといえばそう思う	1	16.7
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	6	100.0



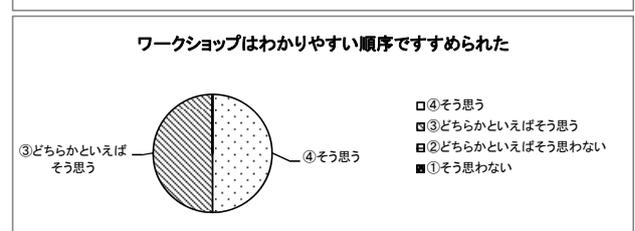
2. ワークショップは自身のキャリアにとって有意義な内容だった

	度数	割合
④そう思う	4	66.7
③どちらかといえばそう思う	2	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	6	100.0



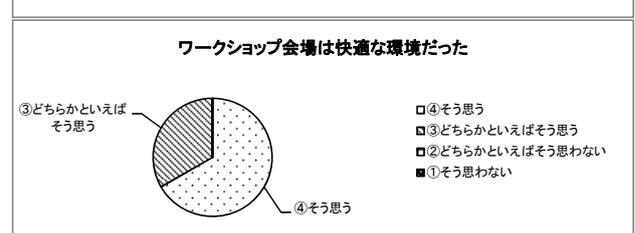
3. ワークショップはわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④そう思う	3	50.0
③どちらかといえばそう思う	3	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	6	100.0



4. ワークショップ会場は快適な環境だった

	度数	割合
④そう思う	4	66.7
③どちらかといえばそう思う	2	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	6	100.0



4. 研修スタッフについて

1. メンターからの助言は役に立った

	度数	割合
④そう思う	3	50.0
③どちらかといえばそう思う	3	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	6	100.0

2. 事務局は手際よく研修を運営していた

	度数	割合
④そう思う	4	66.7
③どちらかといえばそう思う	2	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	6	100.0

5. 研修成果について

1. ティーチング・ポートフォリオがどのようなものか理解できた

	度数	割合
④そう思う	4	66.7
③どちらかといえばそう思う	2	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	6	100.0

2. ティーチング・ポートフォリオを作成できるようになった

	度数	割合
④そう思う	2	33.3
③どちらかといえばそう思う	4	66.7
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	6	100.0

3. ティーチング・ポートフォリオは自身の教育改善につながる

	度数	割合
④そう思う	3	50.0
③どちらかといえばそう思う	3	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	6	100.0

4. 今後、メンターの依頼があれば引き受けてもよい

	度数	割合
④そう思う	1	16.7
③どちらかといえばそう思う	2	33.3
②どちらかといえばそう思わない	1	16.7
①そう思わない	2	33.3
計	6	100.0

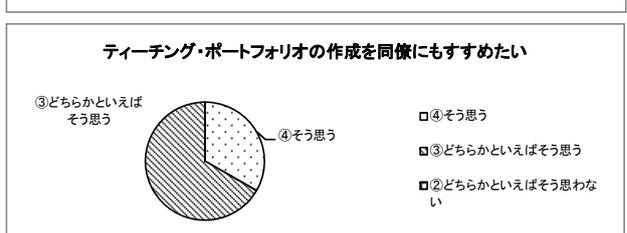
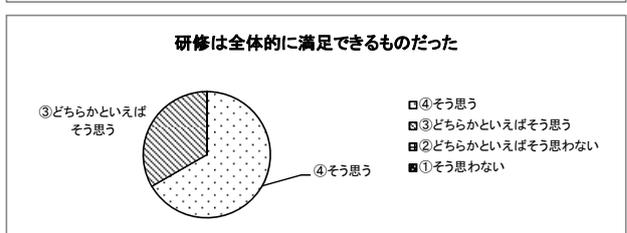
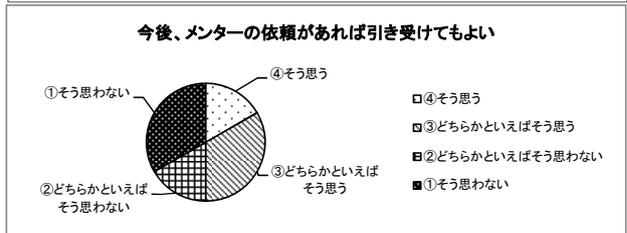
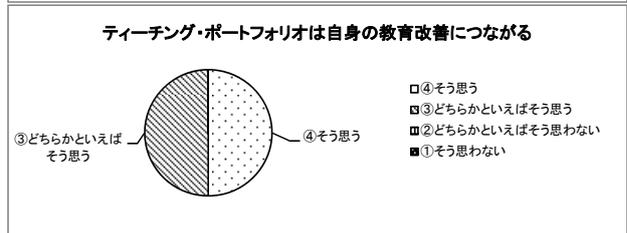
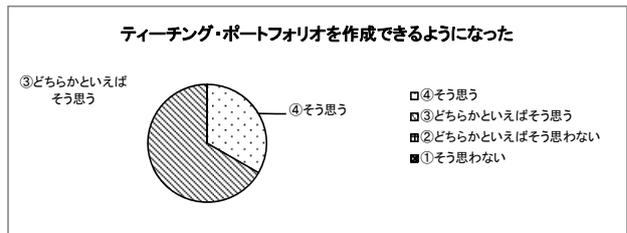
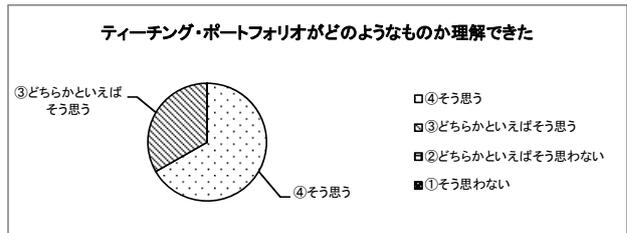
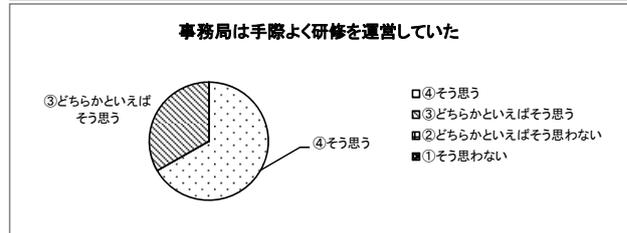
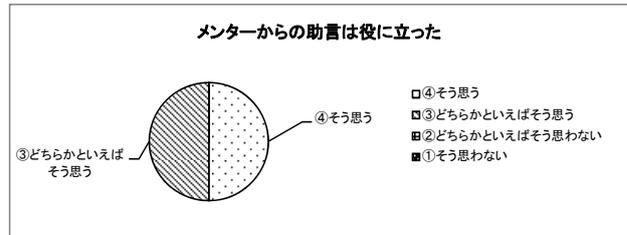
6. 研修全体について

1. 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④そう思う	4	66.7
③どちらかといえばそう思う	2	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	6	100.0

2. ティーチング・ポートフォリオの作成を同僚にもすすめたい

	度数	割合
④そう思う	2	33.3
③どちらかといえばそう思う	4	66.7
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	6	100.0



【自由記述】

○ワークショップの場所、開催時期、日程等についてのご感想をお聞かせ下さい。

- ・基本的に個人作業がメインであった為、集中しやすい場所と時期で有り難かったです。また、普段四国中央市にいる為、今回のように宿泊し、休日のまとまった時間にでき、四国中央市と松山市の往復を最小限に出来たのも助かりました。
- ・3日間ということで、気持ちの余裕があったと思う。
- ・場所：愛大ミュージアムは開放的で明るくなかなか良い環境でした。ただ、緑色の折りたたみ式椅子が長時間作業向けではなく、長時間の書類作成で腰が痛くなりました。
- ・時期：11月初旬の連休をつぶしての実施だったため、あまり良いとはいえませんが、他に予定が合わないのでは仕方ないと思います。
- ・日程：2日半という日程は、忙しい時期には長すぎるとは思いますが、まともなTPの作成には必要不可欠とも思います。
- ・上で回答した通り、快適な環境でTPの作成に取り組めたと思います。これだけの時間をまとめてTPの作成に当てることで、これまでの自分の取り組みをじっくり振り返って整理することができたように思います。
- ・場所：交通の便が良く、適切であった。教室等環境に関しても快適であった。
- ・開催時期：勤務校の大学祭と重なっており、休講せずに参加することができて良かった。
- ・日程：1日目が正午から始まったが、午前中から開始するなどして、オリエンテーションにおいてTPについてのまとまった講義の時間があれば、作成までにイメージをよりふくらませることができたと感じる。作成WSなので、TPについての知識が前提として進められているので、これは私個人の勉強不足からといえる。3日間という設定は適切であったと思う。大変よくオーガナイズされたワークショップであった。

○事前課題（スタートアップ・シート）について、ご感想をお聞かせ下さい。

- ・スタートアップ・シートの御陰で、ティーチング・ポートフォリオ作成作業の短縮に繋がったと考えています。
- ・スタートアップシートをまとめていたお陰で、スムーズにTP作成に進む事ができたと思う。
- ・私の場合、海外出張先でシラバス等の資料が手元にない中で作成したため、細かな内容については書きにくいところがありました。また、作成には2-3時間もかかり、忙しい研究主体の研究者が適切な内容で作成するには時間的に厳しいと思います。ただ、ここでちゃんと書いておくと、ワークショップでの作業が楽になるため、単純に悪いものとも言い切れません。
- ・事前に準備しておいたことが、当日の作業のスムーズ化をもたらした。
- ・注釈に説明が記載されていたおかげで、記入に手間取ることなく作成できました。

過去に TP を作成したことがある人は、スタートアップシートに記入せずとも、すぐに本体の作成に取り掛ったほうが効率的かな・・・とも感じました。

- ・スタートアップ・シート作成作業があまり役に立たなかった。実際の TP 作成との関連性をより深めると良いと感じる。

○ティーチング・ポートフォリオを作成してみたご感想をお聞かせ下さい。

- ・経験は浅いものの、これまでの教育活動を振り返り、俯瞰できた上、今後の方向性を決める上で大変役に立ちました。貴重な機会と時間を有り難うございました。
- ・自分は長い間大学教員になることを目指していたため、色々と学生教育への「思い」があり、そしてまだ学生教育について「飽きていない」ため、理念や手法などは書き進めやすかった。しかし、ポートフォリオとして文章にまとめてみると、論理性が乏しい点が色々あることに気付かされた。
- ・ワークショップ前には、TPには懐疑的でしたが、それほど悪いものではないと思いました。しかし、これが適切に教員評価につながらない場合には、ただの自己啓発に過ぎないとも思います。もし正式に導入するのであれば、研究主体の教員評価（現状では、論文数、研究費獲得額が主であり、教育については、講義数と卒論生数のみを考慮）にも適切に加えていただくと幸いです。
- ・エビデンスがないとストーリーを作りづらかった。エビデンスが重要視されているのは理解するが、「私はこのように高評価されている」というエビデンスを作ることが目的化した授業になりそうだという懸念をもった。
- ・上述したことの繰り返しになりますが、教育に関するこれまでの実践等について改めて振り返ることで、自分の長所・短所が浮き彫りになり、今後の課題を明瞭にすることができたと思います。
- ・作成の過程で、これまでの授業や他の教育活動等を振り返り、内省のよい機会となり、自分の理念が明確になった。今後は、アカデミック・ポートフォリオ等、他のポートフォリオ作成やメンタリングにも挑戦していきたい。

○ワークショップに参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ティーチング・ポートフォリオの意義と、作成方法について学べた事は良かったと思います。また、知っていたとしても、今回のワークショップのような合宿形式で無ければ、最初の段階で作成する時間とモチベーションが続かなかったと思います。参加し、ティーチング・ポートフォリオを作成でき、今後の活動の糧になりました。また、他の先生方の概要も伺う機会があり、大変勉強になりました。有り難うございました。
- ・教育理念や手法などをポートフォリオとして文章にまとめてみると、論理性が乏しいことに気付かされたこと。

- ・他の参加者の教育理念・手法を聞く事ができたこと。
- ・自分の教育に対する「理念」や「何のために」「どのような方法」で教育を行い、そして「どのような学生からの反応」があったのかを再確認することができました。例年通りのマンネリになりがちな講義を、常に改善し磨き上げてゆこうという気概が出てきました。
- ・自分とは異なる分野・授業の授業スタイルや工夫を知ることができた。雑務にとらわれず、自らの授業について考えを巡らすごとに集中できた。
- ・メンターの先生の手厚いサポートに感謝しております。
- ・内省のよい機会となったこと。
- ・TPを自分の研究領域へ応用する可能性が大となったこと。

○ワークショップをよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・プレゼンテーションおよびその準備時間に関して、もう少し時間があると有り難いです。全体のスケジュールを考えると、これ以上時間を割くのは難しいかもしれませんが。
- ・参考となる教科書を送っていただきましたが、残念ながら全てに目を通す余裕がありません。配布された「しおり」と「教科書」の中間的な内容で、しおりよりも具体的な書き方が記された資料があると助かります。
- ・せっかくグループに分かれていたので、グループ内のメンティー間で何かしたほうが、何らかの効果があったのかもしれない。
- ・ワークショップ開始時に作成したシートをあまり活用しなかった。
- ・プリンター（可能ならばレーザー）が複数台あると良かったと思います。

平成26年度徳島大学FD推進プログラム「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」実施要項

1 目 的

平成20年度よりFDが義務化され、学士課程教育の構築へ向けて各大学における教育の質向上に対する課題が高まっています。徳島大学では、実質的なFDの取り組みを進めるため、「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を開催いたします。本ワークショップは、教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修の一つとして実施します。

2 目 標

1. 個人の教育活動を振り返り、教育理念と教育目的を整理することができる。
2. 個人の教育活動を振り返り、教育戦略・方法を整理することができる。
3. 個人の教育活動を振り返り、成果と具体的な課題を整理することができる。
4. 参加者同士の関係性をつくることことができる。

3 概 要

ワークショップでは、個人の教育活動を振り返り、自身の教育理念、教育目的、戦略、方法、成果、課題などを中心に整理を行っていきます。メンターが寄り添い、話し合いを重ねながら自身のティーチング・ポートフォリオを作成していきます。SPOD加盟校より集まった参加者同士で対話を行いながら、自身の教育活動について2日間集中して振り返る作業を行っていきます。

4 実 施 日 平成27年3月5日（木）～6日（金）

5 実 施 場 所 共通教育棟6号館201（徳島大学 大学開放実践センター2階）

6 プログラム 別紙「スケジュール表」参照

7 対 象 者 SPOD加盟校教員

*SPOD=四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

8 スーパーバイザー

追手門学院大学 副学長・教育開発センター長 秦 敬治 氏

9 メンター 徳島大学総合教育センター 川野卓二、宮田政徳、吉田 博

10 参 加 費 無料（SPOD加盟校の場合）

11 主 催 徳島大学 FD委員会
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

**平成26年度徳島大学FD推進プログラム
「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」**

第1日（2015年3月5日・木曜日）

集合場所：共通教育6号館201（徳島大学 大学開放実践センター2階）

時刻	内 容	講師・担当者	備 考
	受付（共通教育6号館201） *8:25までにお集りください		7:00AM 徳島市に「大雨警報かつ暴風警報」または「洪水警報かつ暴風警報」が出ていたら中止
8:30-9:00	オリエンテーション ・はじめに（副学長よりあいさつ） ・スケジュール確認 ・自己紹介（スタッフ・参加者）	吉田博（進行） 高石喜久 秦 敬治	教室：6-201
9:00-9:30	ミニワーク ・ティーチング・ポートフォリオとは ・第1稿をまとめるにあたって	秦 敬治	教室：6-201
9:30-10:30	第1回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 9:30-10:00 二人目 10:00-10:30	スタッフ全員	個人ミーティングの部屋へ移動
10:30-12:00	TP作成作業		教室：6-201
12:00-13:00	意見交換 昼食 ・共通するコメントと情報共有	秦 敬治	授業研究インテリジェントラボ
13:00-14:00	第2回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 13:00-13:30 二人目 13:30-14:00	スタッフ全員	個人ミーティングの部屋へ移動
14:00-17:15	TP作成作業		教室：6-201

* 22:00 初稿提出締切

ファイル名 yoshida1_0305(名前+稿番号+日付)

第2日（2015年3月6日・金曜日）

時刻	内 容	講師・担当者	備 考
8:30-9:30	TP作成作業		教室：6-201
9:30-10:30	第3回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 9:30-10:00 二人目 10:00-10:30	スタッフ全員	個人ミーティングの部屋へ移動

10:30-12:00	TP作成作業		教室:6-201
12:00-13:00	意見交換 昼食 ・第1稿に共通するコメントと情報共有 ・第2稿をまとめるにあたって	秦 敬治	教室:6-201
13:00-14:00	第4回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 13:00-13:30 二人目 13:30-14:00	スタッフ全員	個人ミーティングの部屋へ移動
14:00-16:30	TP作成作業 ・第2稿の提出 16:00 締切 ・TP 披露の形式説明 ・A4用紙1枚程度でレジユメを作成	吉田博 (説明)	教室:6-201
16:30-17:15	TP披露・修了式 ・メンティーによるプレゼンテーション ・FD委員会委員長挨拶 ・修了証授与 ・記念写真 ・ワークショップを振り返って	吉田博 (進行) 赤池雅史 秦 敬治	教室:6-201
18:00-20:00	修了を祝う会		生協食堂

【ワークショップ終了後の流れ】

● 第3稿提出締切

3月7日 (土) 22:00 まで

ファイル名 yoshida3_0307(名前+稿番号+日付)

月 日()までにメンターよりコメント

● 第4稿提出締切

3月20日(金) 22:00 まで

エビデンスは各自が完成させて報告

ファイル名 yoshida4_0320(名前+稿番号+日付)

5 平成26年度活動実績

(2) SD事業

①「SDプログラムの開発, 実施」資料

平成26年度大学人・社会人としての
基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）【新任職員研修】
実施要項

1. 目的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）のうち、3つの研修科目を実施する。

- ・コミュニケーション入門
- ・ビジネスマナー入門
- ・職員キャリア形成入門

3. 対象者

新任職員（H25年4月2日～H26年4月1日採用の職員）

4. 期間

平成26年5月14日（水）～5月16日（金）

5. 場所

徳島大学 工業会館2階メモリアルホール（徳島大学常三島キャンパス工学部内）
（徳島市南常三島町2丁目1番地）

6. 日程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

徳島大学	学務部入試課入学試験係	主任	根ヶ山 須美子
四国大学	総務・企画部総務課	係長	平野 法子
徳島文理大学	総務部庶務・渉外グループ	主任	藤巻 晃
愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	教授	秦 敬治
愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	講師	阿部 光伸
愛媛大学	教育学生支援部	部長	吉田 一恵
愛媛大学	総務部広報課	副課長	上甲 功治
愛媛大学	総務部人事課人事・人材育成チーム	チームリーダー	大塚 陽介

8. 受講定員

80名

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

11. 協力校

徳島大学

平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)【新任職員研修】 日程表
 【徳島大学工業会館2階 メモリアルホール】

		12:30	13:30	14:00	15:10	15:20	17:00	18:30
1日目 5月14日 (水)			開講式・オリエンテーション	受付	【大学(高専)職員の心得】 1 高等教育機関の現状 2 大学(高専)職員とは 3 これからの大学(高専)職員に求められるものとは 【講師:愛媛大学 秦 敬治, 吉田 一恵】			懇親会
2日目 5月15日 (木)	【コミュニケーション入門】 1 コミュニケーションの基本 2 「きく」の意味 3 「聴く」スキル＝「傾聴力」のポイント 4 「訊く」スキル＝「質問力」のポイント 【講師:徳島文理大学 藤巻 晃】	休 憩	【ビジネスマナー入門 (マナー編) 1】 1 ビジネスマナーの基本 【講師:徳島大学 根ヶ山 須美子 四国大学 平野 法子】	休 憩	【ビジネスマナー入門 (マナー編) 2】 2 来客対応マナー 3 電話対応のマナー 【講師:徳島大学 根ヶ山 須美子 四国大学 平野 法子】			
3日目 5月16日 (金)	【ビジネスマナー入門 (文書編)】 1 ビジネス文書とは ～基礎知識～ 2 ビジネス文書作成時のポイント 【講師:愛媛大学 大塚 陽介】	休 憩	【職員キャリア形成入門】 4. これからのを考える 5. 明日から働こう 【講師:愛媛大学 阿部 光伸, 上甲 功治】	休 憩	【職員キャリア形成入門】 1. 今までを振り返って多面的に考える自分の仕事 2. 自己を理解する 3. スタッフ・ポートフォリオ 【講師:愛媛大学 阿部 光伸, 上甲 功治】	休 憩	研修の振り返り	修了式
		9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:40	14:50
		16:00	16:30	17:00				

※研修スケジュールは、受講者数・進行によって変更する場合があります。

実施日：平成26年5月14日（水）～16日（金）
 実施会場：徳島大学工業会館2階 メモリアルホール

当日参加者数：74名
 アンケート回答者数：70名

1. 参加者ご自身について
 (1) 所属先

	度数	割合
① 4年制大学	64	91.4
② 短期大学	1	1.4
③ 高等専門学校	1	1.4
④ その他 ()	4	5.7
計	70	100.0

その他の記述内容
 大学病院（3）
 医学部（6年制）

(2) 所属先の設置者

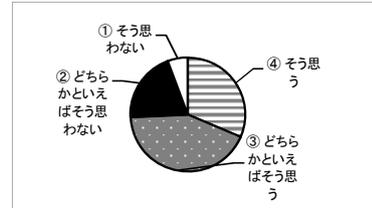
	度数	割合
① 国（国立大学法人）	57	81.4
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	2	2.9
③ 学校法人	11	15.7
④ その他 ()	0	0.0
計	70	100.0

その他の記述内容

2. 研修参加への経緯について

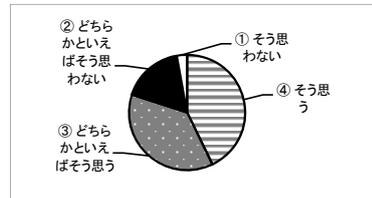
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	22	31.4
③ どちらかといえばそう思う	30	42.9
② どちらかといえばそう思わない	14	20.0
① そう思わない	4	5.7
計	70	100.0



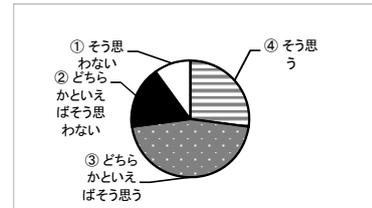
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	度数	割合
④ そう思う	30	42.9
③ どちらかといえばそう思う	26	37.1
② どちらかといえばそう思わない	12	17.1
① そう思わない	2	2.9
計	70	100.0



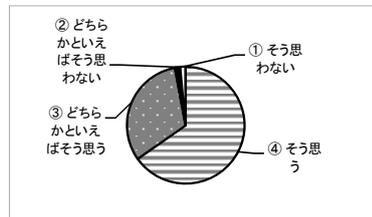
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	度数	割合
④ そう思う	19	27.1
③ どちらかといえばそう思う	32	45.7
② どちらかといえばそう思わない	12	17.1
① そう思わない	7	10.0
計	70	100.0



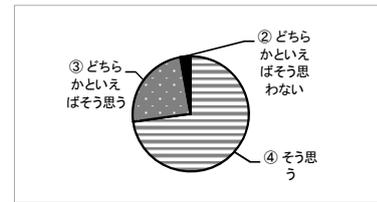
(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

	度数	割合
④ そう思う	45	65.2
③ どちらかといえばそう思う	22	31.9
② どちらかといえばそう思わない	1	1.4
① そう思わない	1	1.4
計	69	100.0



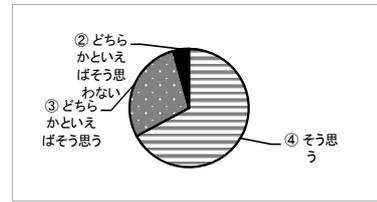
3. 研修プログラムの設計について
 (1) 研修の目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④ そう思う	51	72.9
③ どちらかといえばそう思う	17	24.3
② どちらかといえばそう思わない	2	2.9
① そう思わない	0	0.0
計	70	100.0



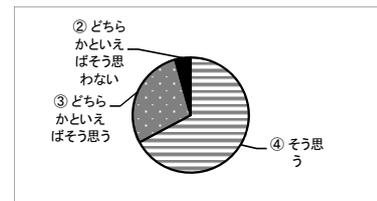
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	47	67.1
③ どちらかといえばそう思う	20	28.6
② どちらかといえばそう思わない	3	4.3
① そう思わない	0	0.0
計	70	100.0



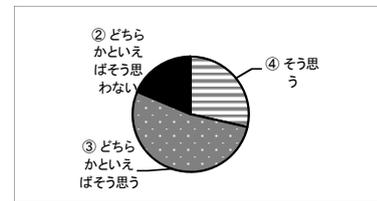
(3) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	47	67.1
③ どちらかといえばそう思う	20	28.6
② どちらかといえばそう思わない	3	4.3
① そう思わない	0	0.0
計	70	100.0



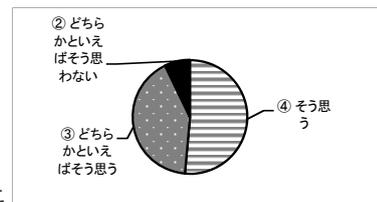
(4) 研修会場は快適な環境だった

	度数	割合
④ そう思う	20	28.6
③ どちらかといえばそう思う	37	52.9
② どちらかといえばそう思わない	13	18.6
① そう思わない	0	0.0
計	70	100.0



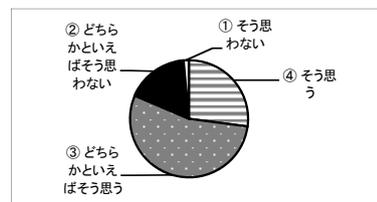
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	度数	割合
④ そう思う	36	51.4
③ どちらかといえばそう思う	29	41.4
② どちらかといえばそう思わない	5	7.1
① そう思わない	0	0.0
計	70	100.0



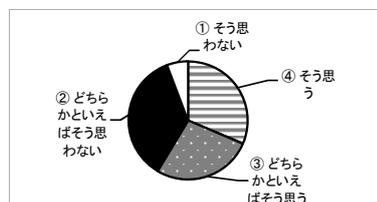
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度よい長さだった

	度数	割合
④ そう思う	19	27.1
③ どちらかといえばそう思う	38	54.3
② どちらかといえばそう思わない	12	17.1
① そう思わない	1	1.4
計	70	100.0



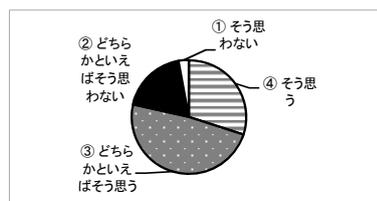
(7) 研修の実施時期は適当だった

	度数	割合
④ そう思う	22	31.4
③ どちらかといえばそう思う	19	27.1
② どちらかといえばそう思わない	25	35.7
① そう思わない	4	5.7
計	70	100.0



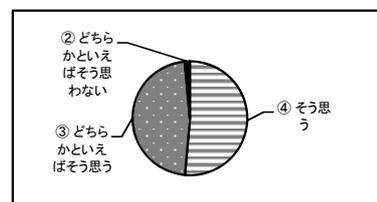
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	度数	割合
④ そう思う	21	30.0
③ どちらかといえばそう思う	34	48.6
② どちらかといえばそう思わない	13	18.6
① そう思わない	2	2.9
計	70	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

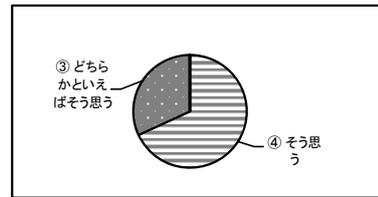
	度数	割合
④ そう思う	36	51.4
③ どちらかといえばそう思う	33	47.1
② どちらかといえばそう思わない	1	1.4
① そう思わない	0	0.0
計	70	100.0



4. 研修スタッフについて

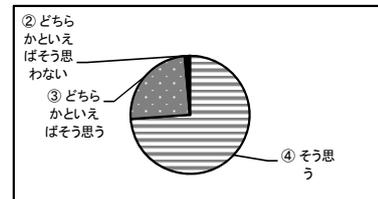
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	47	68.1
③ どちらかといえばそう思う	22	31.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	69	100.0



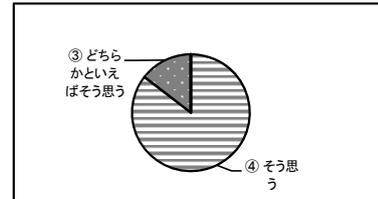
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	度数	割合
④ そう思う	51	73.9
③ どちらかといえばそう思う	17	24.6
② どちらかといえばそう思わない	1	1.4
① そう思わない	0	0.0
計	69	100.0



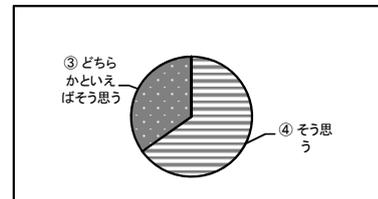
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	度数	割合
④ そう思う	59	85.5
③ どちらかといえばそう思う	10	14.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	69	100.0



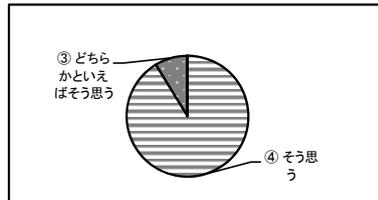
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	度数	割合
④ そう思う	45	65.2
③ どちらかといえばそう思う	24	34.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	69	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

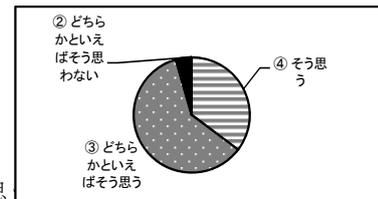
	度数	割合
④ そう思う	63	91.3
③ どちらかといえばそう思う	6	8.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	69	100.0



5. 研修成果について

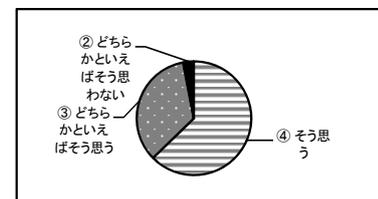
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	24	35.3
③ どちらかといえばそう思う	41	60.3
② どちらかといえばそう思わない	3	4.4
① そう思わない	0	0.0
計	68	100.0



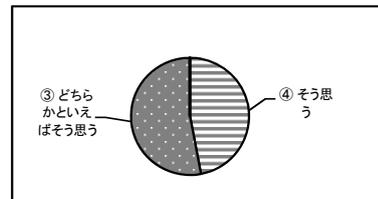
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思

	度数	割合
④ そう思う	42	62.7
③ どちらかといえばそう思う	23	34.3
② どちらかといえばそう思わない	2	3.0
① そう思わない	0	0.0
計	67	100.0



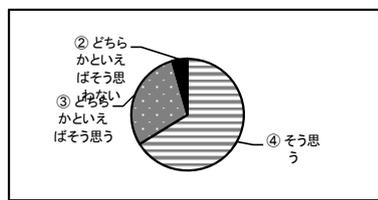
(3) 研修の内容は十分に理解できた

	度数	割合
④ そう思う	32	47.1
③ どちらかといえばそう思う	36	52.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	68	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

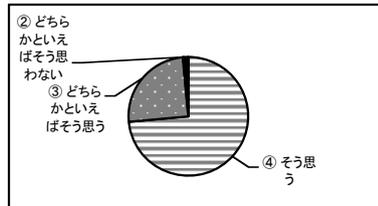
	度数	割合
④ そう思う	45	66.2
③ どちらかといえばそう思う	20	29.4
② どちらかといえばそう思わない	3	4.4
① そう思わない	0	0.0
計	68	100.0



6. 研修全体について

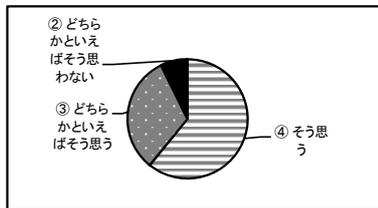
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	50	73.5
③ どちらかといえばそう思う	17	25.0
② どちらかといえばそう思わない	1	1.5
① そう思わない	0	0.0
計	68	100.0



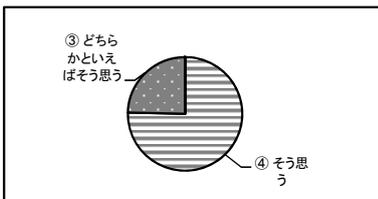
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	度数	割合
④ そう思う	42	60.9
③ どちらかといえばそう思う	22	31.9
② どちらかといえばそう思わない	5	7.2
① そう思わない	0	0.0
計	69	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	度数	割合
④ そう思う	52	75.4
③ どちらかといえばそう思う	17	24.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	69	100.0



7. SPODにおけるSDプログラム開発について

	度数	割合
総務系	31	44.3
財務系	31	44.3
施設系	18	25.7
図書系	8	11.4
情報処理系	24	34.3
医事系	19	27.1
その他	8	11.4

※設問7の“割合”は、回答者70名を分母として算出した。

その他の記述内容

- ・ 国際系
- ・ 入試広報
- ・ 学務系（2）
- ・ 法律
- ・ 産学連携，知財関係
- ・ 教務
- ・ よく分からない

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ 文書作成能力 (25)
- ・ ビジネスマナー (20)
- ・ コミュニケーション能力 (12)
- ・ 電話のマナー (9)
- ・ パソコンスキル (7) (Excel, Access含む)
- ・ 会計系 (6)
- ・ プレゼンテーション (5)
- ・ 接遇 (5)
- ・ 敬語 (5)
- ・ 専門知識 (3) (施設系知識含む)
- ・ 積極性 (3)
- ・ 語学力 (3)
- ・ 傾聴力 (2)
- ・ 発言能力 (2)
- ・ 自分の考えを上手くまとめること (2)
- ・ 財務 (2)
- ・ 簡潔・明瞭なコミュニケーション
- ・ 大学の各部署がどのような仕事を行っているか
- ・ 敬語や話すスピード, 表情等に慣れる
- ・ 文書やメール作成のマニュアルの確認
- ・ 財務システムの流れを知ること
- ・ 技術的な知識
- ・ 技術力の成長
- ・ 人前で話すスキル
- ・ 目上のお客様とのコミュニケーションの仕方
- ・ 法知識
- ・ 企画・立案
- ・ 司会力
- ・ 自己分析
- ・ リーダーシップ
- ・ 病院経営
- ・ 患者クレーム対応
- ・ 経験
- ・ 内部・外部資金について
- ・ 自大学の規程(サービス)について
- ・ 簿記知識
- ・ 文科省の考え
- ・ 大学職員という意識
- ・ 教務関係の知識
- ・ 目標

5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

【全体】

※他大学職員との交流

- ・ 他大学の方々と交流できた、つながりができた（36）
- ・ 他大学の様子等を知ることができた（4）
- ・ 同じような業務内容の話ができ勉強になった
- ・ 人とのつながりの大切さを知った
- ・ 他大学の新任の方々と、これだけ多くの人数で集まったということが大きかった
- ・ 同じ悩みを持っている方との共有
- ・ 他大学の方々と交流を通して自分の大学に足りないものを感じた

※仕事に対する意欲の向上

- ・ 同期と会えて仕事へのやる気につながりました（2）
- ・ 自分の仕事の改善点や取組への意識が変わった
- ・ 新たな気持ちで仕事に取り組みます
- ・ 改めて自分の業務にやり甲斐を感じる事ができた
- ・ 責任感をもって職務に励める気がするので良かった
- ・ 意識して仕事をしていくことの大切さを学べた
- ・ 意識を変えて頑張っていこうという気持ちになりました
- ・ 意識が高まった

※今後について

- ・ 自己啓発のきっかけになった（2）
- ・ 他大学の人と接することで、大学職員としての意識や将来の目標をもつことができた

※知識・スキルの習得

- ・ 新任の大学職員として大切な基本的なことを学ぶことが出来て良かった（4）
- ・ 業務を行うにあたってすぐに必要となる内容を学べたので職場に戻って実行していきたい（2）
- ・ 人の経験等たくさんを知ることができた
- ・ 新卒採用の身分として、社会人、大学人に求められていることを知ることができて良かった
- ・ 自分の知らなかったことが多かった
- ・ 日頃の業務での疑問が解決できた
- ・ 基礎固めができた

【大学職員の心得】

- ・ これから大学が目指しているスタイルを知ることができた
- ・ 自分が今までもっていなかった職員であると同時に教員であるということ、一人一人が大学の顔であるといった色々な考えを持てて良かった
- ・ 求められている大学人像について整理することができて良かったです
- ・ 色々な能力を総合的に求められていることが改めて理解できました
- ・ 危機管理についても知ることができた

【コミュニケーション入門】

- ・ コミュニケーションの大切さ
- ・ コミュニケーションについて学べた

【ビジネスマナー入門（マナー）】

- ・ 基本的なビジネスマナーを学ぶことができた（4）

- ・ ビジネスマナー等すぐに自分の仕事に活かせることが多かった（２）
- ・ 電話や接客などのマナーを具体的に知ることができた
- ・ ビジネスマナーは理解しているつもりで間違えている部分が多く、今後仕事に積極的に活かしていこうと思いました
- ・ ビジネスマナーを改めて学ぶことができた
- ・ 敬語の使い方
- ・ 表情の作り方を学べて良かった

【ビジネスマナー入門（文書）】

- ・ 文書作成のルール（３）
- ・ 文書作成方法（２）
- ・ メール書き方（２）

【キャリア形成入門】

- ・ 自分の志望動機を再確認し、将来のビジョンを描くことができた
- ・ 何となくではなく、明確にビジョンをもつことの重要性を学ぶことが出来ました
- ・ 夢や目標を設定することで、前向きな気持ちになれた
- ・ 自分の行く先について考えられた
- ・ 仕事に対するビジョンが明確になった

【グループワーク】

- ・ グループワークが多くて良かった
- ・ ワークショップがたくさん予定されていて、楽しく学ぶことができたこと

【講師】

- ・ 大学職員の方が講師をしてくださったこと（２）
- ・ 大学の教職員の方々の経験に基づいた講義内容で説得力があった
- ・ 講師の方々と交流ができ、とても良かった
- ・ 講師の方の話は面白かった
- ・ 著名人の話が聞けた

【その他】

- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 大規模な研修であり、とても刺激になった
- ・ 他の職員の方達が非常に積極的だったので自分ももっと積極的にならなければと思った
- ・ まずは基礎と目標をしっかりとかためようと感じました
- ・ 色々な気付きがあった
- ・ 自分のコミュニケーション能力の低さを痛感したので良かった
- ・ 自分自身の取組としては至らない点もあったかもしれないが、グループワークとしてはどこもすばらしかった
- ・ 1日の研修の長さが丁度良かった
- ・ このような形の研修は初めてで、想像以上に楽しく勉強できたので、SPODの研修は続けていただけたら嬉しいです

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

【実施時期】

- ・ もっと早い時期にできたら良かったのではないかと思った（4）
- ・ 14～16日は支払い締切時期なので、出来ればもう1週間遅らせていただきたかった

【日程】

- ・ もっとゆっくり時間があればと思う点もあった（2）

【内容】

- ・ グループワークは多かったが、もっと多くしてほしい（2）
- ・ 講義ごとに30分に1回くらい質問の時間があれば聞きやすい
- ・ 一定の社会人経験がある人には、物足りない部分やすでに修得している者も会ったと思う。
- ・ 省略内容が気になりました
- ・ もっと高度な内容のものでも良かったと思います
- ・ 先輩と一緒にワークをする
- ・ 会場が大学なので、その大学の先輩職員にも参加してほしかった（生の声を聞きたかった）
- ・ 発表、発言するスキルについてもレクチャーいただきたかったです
- ・ サプライズが多かったので増やしても良いと思いました

【その他】

- ・ 同じような業務を行う人同士で集まる機会がほしいと感じた（3）
- ・ 意見が重複した場合の自分の発言のまとめ方や良い発表の仕方について学びたいと思います
- ・ 研修人数がとても多いので、全ての人と話をすることができなかった
- ・ 全員が発表できる機会があれば良いかもしれない
- ・ 1日の中で、講座・テーマごとに班変えがあっても良いのではないか
- ・ 一番後ろの班は講師の顔も見えづらく、受ける環境が変わり、班のメンバーが変わっていった方が良かったと思う
- ・ 多くの人と名刺交換をしたが、これで終わるのは残念なので、できることなら定期的に研修を行えばよいと思う
- ・ なぜなぜワークを詳しく説明してから行うべきだと感じました
- ・ 会場が暑かった
- ・ 人数と机の配置の関係で前が見えなかったりメモをとりにくかったりする状況がありました
- ・ 休憩時間の配分
- ・ トイレの個数
- ・ 設備の整った会場で行ってほしい
- ・ 懇親会場までの距離が少し長かった
- ・ 新人のひとくくりでは登用試験を受けて採用になったので気後れしてしまった。ワークシートのグラフ作成の時、困りました。
- ・ 現状で素晴らしいものになっていると思うので特にありません

平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）
実施要項

1. 目的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）のうち、3つの研修科目を実施する。

- ・リーダーシップ入門
- ・タイムマネジメント論
- ・プレゼンテーション入門

3. 対象者

係員相当級の職員

4. 期間

平成26年10月23日（木）～10月24日（金）

5. 場所

愛媛大学 本部5階 第1会議室

6. 日程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 特任助教（拠点-SDC）	丸山 智子
愛媛大学 総務部 人事課 副課長（SPOD-SDC）	久保 秀二
高知工科大学 学生支援部 学生支援課	井村 公一

8. 受講定員

30名

※受講定員は30名でしたが、大幅に超える受講希望者がありましたので、定員を57名に増やしております。

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、愛媛大学

平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（レベルⅠ）日程表

【愛媛大学本部5階 第1会議室】

	9:00	12:00	13:00	13:30	16:30	17:00	18:00
第1日目 10月23日 (木)			受付	開講式・オリエンテーション	【リーダーシップ入門】 1. 求められるリーダーとは 2. 立場を変えて考えるリーダーの仕事 3. 仕事とPDCA 4. フォロワーシップとコミュニケーションスキル 【講師：愛媛大学(拠点-SDC) 丸山 智子】		懇親会
第2日目 10月24日 (金)		【タイムマネジメント論】 1. タイムマネジメントの原則 2. 自分のワークスタイルを知る 3. 自分の仕事を検証し改善する 4. 仕事の優先順位を明確にする 5. 仕事のやり方を工夫する 【講師：愛媛大学 (SPOD-SDC) 久保 秀二】	休憩		【プレゼンテーション入門】 1. プレゼンテーションの前に 2. プレゼンテーションの基礎 3. 話す内容を検討する 4. 「話すスキル」 5. 総合演習 【講師：高知工科大学 井村 公一】	閉講式	

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）
 実施日：平成26年10月23日（木）～10月24日（金）
 実施会場：愛媛大学本部第1会議室
 当日参加者数：54名
 アンケート回答者数：54名

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	49	90.7
② 短期大学	1	1.9
③ 高等専門学校	4	7.4
④ その他（ ）	0	0.0
計	54	100.0

(2) 所属先の設置者

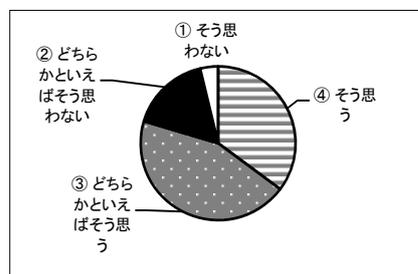
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	50	92.6
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	3	5.6
③ 学校法人	1	1.9
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	54	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に） 別紙記載

2. この研修について

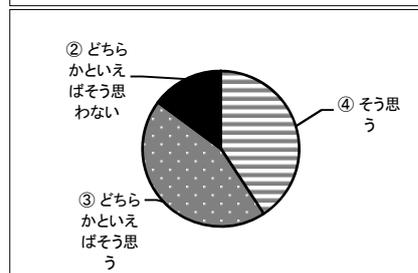
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	19	35.2
③ どちらかといえばそう思う	24	44.4
② どちらかといえばそう思わない	9	16.7
① そう思わない	2	3.7
計	54	100.0



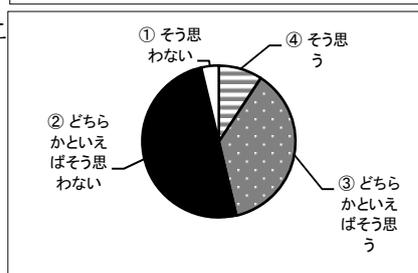
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	22	40.7
③ どちらかといえばそう思う	24	44.4
② どちらかといえばそう思わない	8	14.8
① そう思わない	0	0.0
計	54	100.0



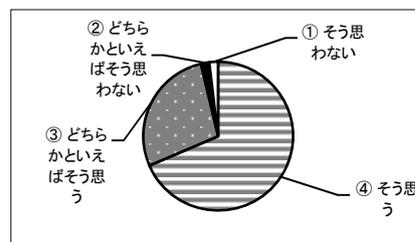
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならぬ状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	5	9.3
③ どちらかといえばそう思う	20	37.0
② どちらかといえばそう思わない	27	50.0
① そう思わない	2	3.7
計	54	100.0



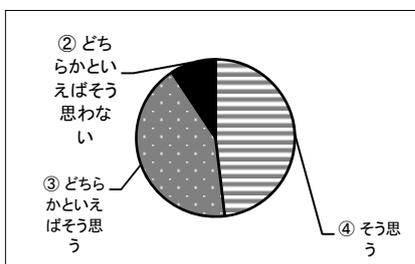
(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

	回答数	割合
④ そう思う	37	68.5
③ どちらかといえばそう思う	15	27.8
② どちらかといえばそう思わない	1	1.9
① そう思わない	1	1.9
計	54	100.0



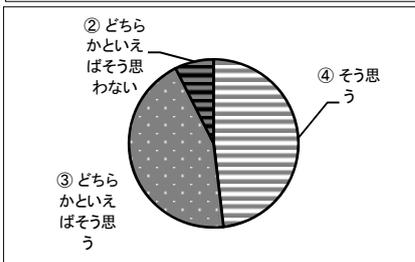
(5) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	26	48.1
③ どちらかといえばそう思う	23	42.6
② どちらかといえばそう思わない	5	9.3
① そう思わない	0	0.0
計	54	100.0



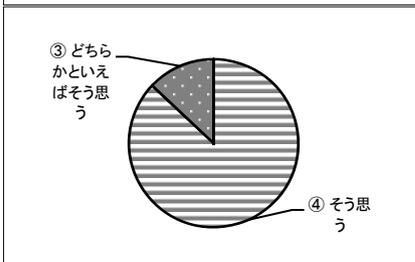
(6) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	40	74.1
③ どちらかといえばそう思う	10	18.5
② どちらかといえばそう思わない	4	7.4
① そう思わない	0	0.0
計	54	100.0



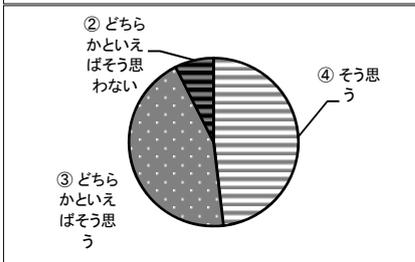
(7) 研修会場には十分な施設が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	47	87.0
③ どちらかといえばそう思う	7	13.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	54	100.0



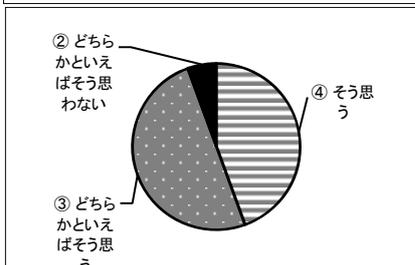
(8) 参加者の人数は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	26	48.1
③ どちらかといえばそう思う	24	44.4
② どちらかといえばそう思わない	4	7.4
① そう思わない	0	0.0
計	54	100.0



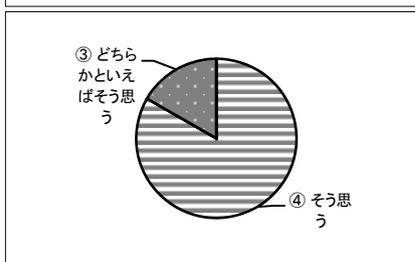
(9) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	24	44.4
③ どちらかといえばそう思う	27	50.0
② どちらかといえばそう思わない	3	5.6
① そう思わない	0	0.0
計	54	100.0



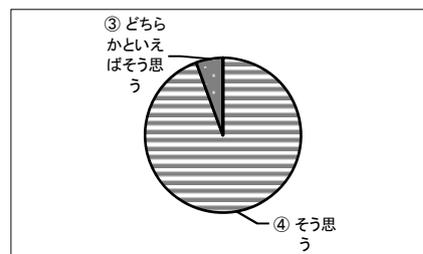
(10) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	45	83.3
③ どちらかといえばそう思う	9	16.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	54	100.0



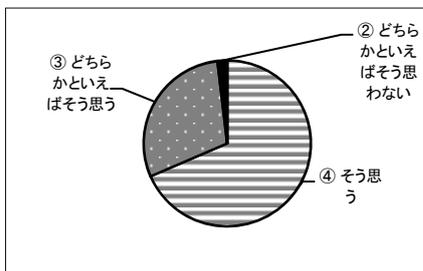
(11) 事務局の対応は丁寧だった

	回答数	割合
④ そう思う	51	94.4
③ どちらかといえばそう思う	3	5.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	54	100.0



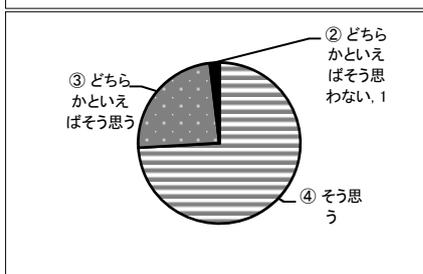
(12) 新たに人的つながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	37	68.5
③ どちらかといえばそう思う	16	29.6
② どちらかといえばそう思わない	1	1.9
① そう思わない	0	0.0
計	54	100.0



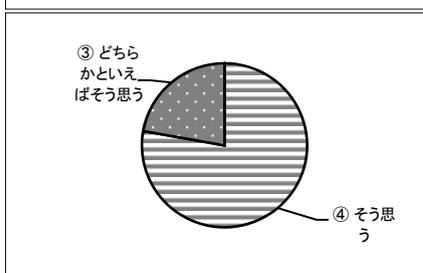
(13) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	40	74.1
③ どちらかといえばそう思う	13	24.1
② どちらかといえばそう思わない	1	1.9
① そう思わない	0	0.0
計	54	100.0



(14) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

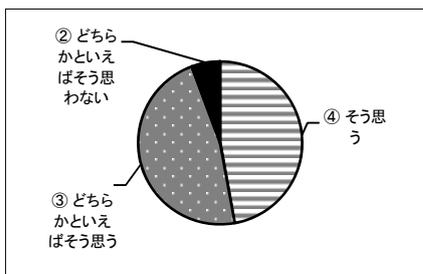
	回答数	割合
④ そう思う	42	77.8
③ どちらかといえばそう思う	12	22.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	54	100.0



3. 「リーダーシップ入門」研修について

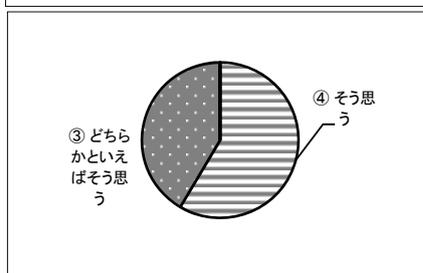
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	25	47.2
③ どちらかといえばそう思う	25	47.2
② どちらかといえばそう思わない	3	5.7
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



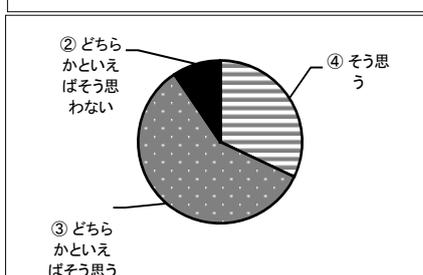
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	31	58.5
③ どちらかといえばそう思う	22	41.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



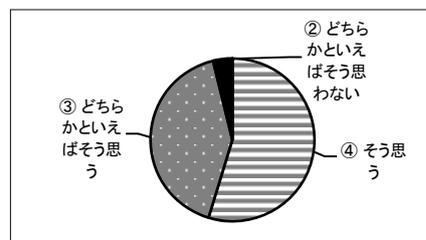
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	17	32.1
③ どちらかといえばそう思う	31	58.5
② どちらかといえばそう思わない	5	9.4
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



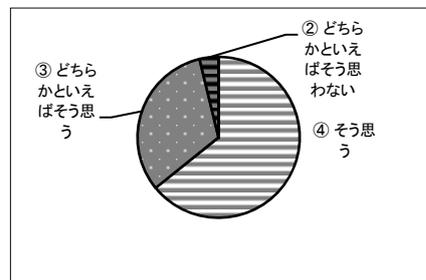
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	29	54.7
③ どちらかといえばそう思う	22	41.5
② どちらかといえばそう思わない	2	3.8
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

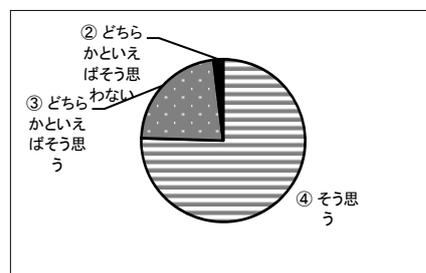
	回答数	割合
④ そう思う	34	64.2
③ どちらかといえばそう思う	17	32.1
② どちらかといえばそう思わない	2	3.8
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



4. 「タイムマネジメント論」研修について

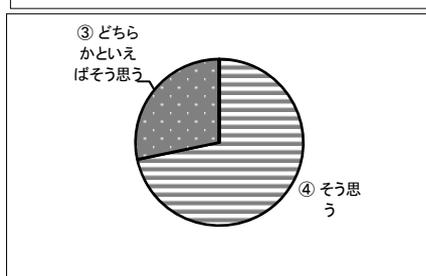
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	40	75.5
③ どちらかといえばそう思う	12	22.6
② どちらかといえばそう思わない	1	1.9
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



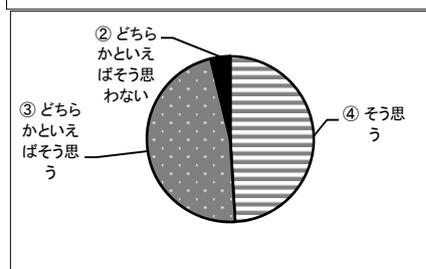
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	38	71.7
③ どちらかといえばそう思う	15	28.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



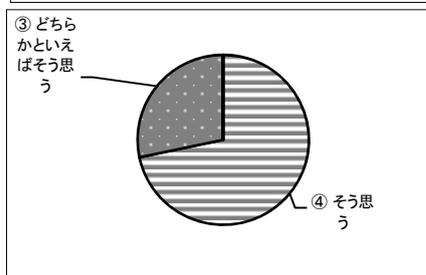
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	26	49.1
③ どちらかといえばそう思う	25	47.2
② どちらかといえばそう思わない	2	3.8
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



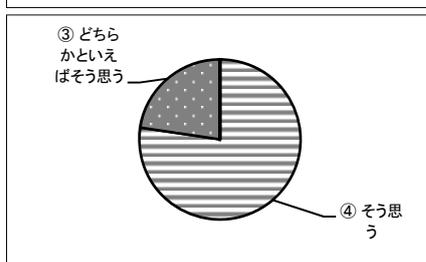
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	38	71.7
③ どちらかといえばそう思う	15	28.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

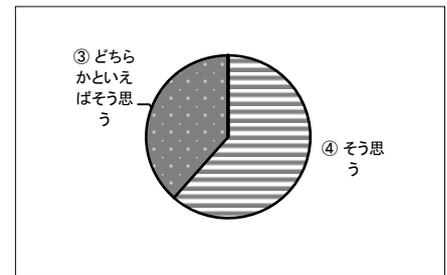
	回答数	割合
④ そう思う	41	77.4
③ どちらかといえばそう思う	12	22.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	53	100.0



5. 「プレゼンテーション入門」研修について

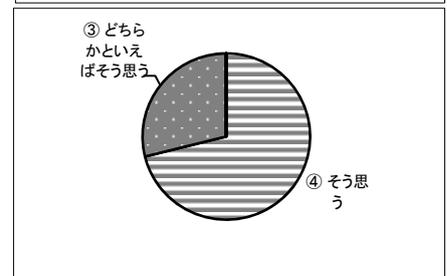
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	32	61.5
③ どちらかといえばそう思う	20	38.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	52	100.0



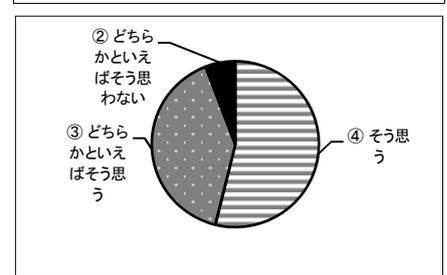
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	37	71.2
③ どちらかといえばそう思う	15	28.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	52	100.0



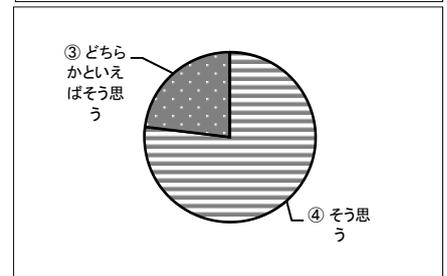
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	28	53.8
③ どちらかといえばそう思う	21	40.4
② どちらかといえばそう思わない	3	5.8
① そう思わない	0	0.0
計	52	100.0



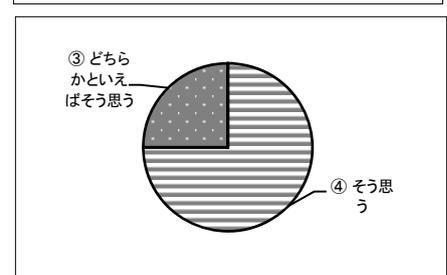
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	40	76.9
③ どちらかといえばそう思う	12	23.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	52	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

	回答数	割合
④ そう思う	39	75.0
③ どちらかといえばそう思う	13	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	52	100.0



6. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

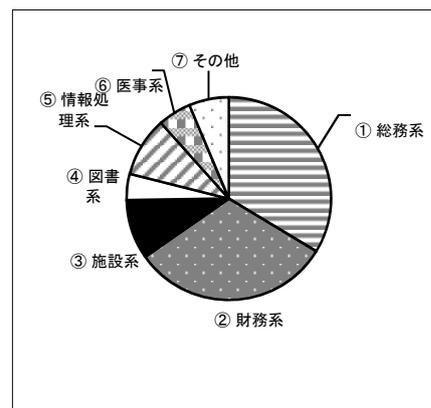
7. 研修をよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

8. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	32	59.3
② 財務系	30	55.6
③ 施設系	9	16.7
④ 図書系	4	7.4
⑤ 情報処理系	9	16.7
⑥ 医事系	5	9.3
⑦ その他	6	11.1



その他の記述内容

- ・教務系（3）
- ・学務系（3）
- ・学生支援

【自由記述欄】

- 1（3）現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。（具体的に）
- ・プレゼンテーション能力（16）
 - ・タイムマネジメント（12）（優先順位、段取りのつけ方等、効率よく業務を進めるために工夫する必要性があったので、自己管理を行う、時間の効果的な使い方、時間管理）
 - ・コミュニケーション能力（5）
 - ・リーダーシップ（4）
 - ・分かりやすく説明する力（4）（上司に説明したりメンバーに説明したりする時もたつくから）
 - ・フォロワーシップ（2）
 - ・専門知識（2）（会計の事務に関すること）
 - ・会話の説得力
 - ・自分の意見を簡潔に相手に伝える能力
 - ・プレゼンテーションの資料作成（パソコンでの作成のスキルも含めて）
 - ・アピール力（伝える力）
 - ・人前で人に話をする度胸とそれに伴う知識
 - ・仕事の能力UP
 - ・会計、大学の運営方法、教授の仕事の理解
 - ・財務系の知識
 - ・高等教育についての基礎知識・関係法令等
 - ・担当業務の会計の知識、皆生の事務処理の流れの理解
 - ・学務系の知識、学生支援に関する知識
 - ・英会話、要約力、国の施策の理解
 - ・担当業務に関する基本的な知識
 - ・社会保障関係の知識
 - ・計画性
 - ・より深い業務の知識
 - ・紛争解決能力
 - ・段取りの組み立て方
 - ・文章の書き方
 - ・交渉力（働きかけ、調整）
 - ・Excelなどの技術
 - ・PCスキル
 - ・お金の流れ

6. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
- ・他大学の職員の方々と交流できたこと。(10)
 - ・普段考える事のないテーマについてじっくり取り組むことができたので、良かったと思います。今後一つでも多く実務に反映できるよう努めます。
 - ・自分の仕事を振り返るきっかけになった。
 - ・明日から実践してみようというアイデアをもらえた。
 - ・タイムマネジメント等すぐに実践出来るものを学ぶことが出来た。
 - ・仕事に生かしたいと思った。考え方が変わった。
 - ・帰ってすぐに仕事に生かせることを学んだ。
 - ・どの内容も勉強になった。
 - ・業務に対する意識向上
 - ・将来的に必要なスキルについて、実践を通して習得することができた。
 - ・日常では味わうことのできない知識の習得に繋がった。この研修をいかして、さらなる自己啓発に励みたい。
 - ・各研修、何かしら感銘を受ける点があった。
 - ・研修を受けて生かせる点が見つかった。
 - ・どれも自分の成長に必要なものがあったが、とりわけタイムマネジメントは大きな課題であったので非常に有意義だった。
 - ・いずれの研修も具体的な例を挙げてお話いただき、その手法について理解が深まりました。
 - ・すぐに実践したい・意識を変えたいと思わせられる研修を受けられたこと。
 - ・すべての研修が役立つものでした。自分を見つめ直すよい機会になりました。
 - ・仕事に対するモチベーションが上がった。
 - ・業務の中ですぐに実践、意識ができる内容だった。
 - ・来週の仕事から使える内容だった点。実践したいと思う。
 - ・時間の長さが適当だったと思います。
 - ・講師の方のお話に引き込まれ、グループワークも楽しく取り組むことができました。
 - ・講師陣が素晴らしい人ばかりだった。
- 【グループワーク】
- ・グループワークが楽しかった。
 - ・ワークする時間があるのが良かったです。頭ではわかっているにもかかわらず実際にはやるとなかなか出来ないものなので、非常に勉強になりました。
 - ・実際にグループ内でプレゼンの実践ができたことで、不足部分や難しい部分がわかった。
 - ・グループワークが多く、非常に良い経験になりました。
 - ・ワークが多く、飽きがこなかった点。
 - ・違う大学の方と話をしながらグループワークを進めていくのは、刺激になるし新鮮で良かったです。
 - ・他大学の方と一緒に受講することで、自大学の良い点等気付きがあった。
 - ・自分の業務に落とし込んで具体的に考えるワークが多数あって、振り返れて良かった。
- 【リーダーシップ入門】
- ・新人ながら、将来必要なリーダーシップ像を学べて良かった。
 - ・リーダーシップについてより深く考える機会になった。
 - ・リーダーシップでは、今の自分に足りていないことへの気づきと、改善方法を知ることができた。
 - ・リーダーシップ等普段考えることのない事について考えることができた。
- 【タイムマネジメント論】
- ・タイムマネジメントのアイデアをいろいろ学べたこと。(2)
 - ・タイムマネジメントでは、今の自分に足りていないことへの気づきと、改善方法を知ることができた。
 - ・タイムマネジメントについて、自分の取り組みと照らし合わせて、確認できたことは良かったと思う。
 - ・タイムマネジメントの内容は、まさに現時点の自分の悩みを解決する糸口になりました。帰ったらすぐ実践したいと思います。
 - ・タイムマネジメントの15分間ルールは早速やってみようと思います。
 - ・タイムマネジメント論は、自分が常に改善すべきだと感じていたので、受講してとても勉強になりました。
 - ・手帳について予定を書くイメージだったが、自己を見直すという道具にもなると感じれた。
 - ・時間の使い方、話し方等とても参考になりました。手帳をちゃんと活用したいと思います。
 - ・時間管理の点など自らが課題だと考えていることについて、改善策を考える事ができた。

【プレゼンテーション入門】

- ・プレゼンの基礎は今後も使えると思った
- ・「プレゼンテーション入門」研修が段階的にワーキングを進めていたので、自分の欠点を的確に把握でき、また少しでも改善していけることを実感できた。
- ・プレゼンテーション入門研修については、特にこれからの自分の業務につなげていけると思う。
- ・プレゼン入門では、実際にプレゼンし、評価してもらえたことがとても良かったです。
- ・苦手意識のあったプレゼンを実践練習できたことで、抵抗感がなくなりました。もっとプレゼンを導入してみようと思いました。
- ・プレゼン等、日常業務では機会がなかったが、できて良かった。分かりやすい説明をする点では、日常業務でも生かせる、有意義な研修だと思いました。
- ・プレゼンテーションは現在業務にあまり関係ないが、やってみるのは面白いかもと思えました。
- ・プレゼンテーションでは2回の発表で大きく成長することができました。ありがとうございました。
- ・苦手意識の高いプレゼンテーションに挑戦することができたこと。
- ・他大学の方のプレゼント間近にきくことができ、勉強になった。近距離できけたので、意見もいやすかった。
- ・プレゼンを実践できたこと。プレゼンテーションチェックシートをもらえたこと。
- ・プレゼンテーションはあまり行ったことがなかったため受講して良かった。

7. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

【内容】

- ・項目を一つ減らしてでも、ワークの時間をもう少し取るべきだと思いました。
- ・ワークの時間をもう少し長くして欲しいと感じました。自分の意見を発表することに終始してしまい、対話を深められなかった。プレゼンの授業ぐらいのワーク、座学配分がいいと思う。
- ・1日目はアイスブレイクを取り入れるべきだった。全体の空気が少し重かった。
- ・研修の内容を業務へ生かす点を最後のまとめではなく、1つの項目として欲しい。
- ・もう少し講義の時間が長くてよいと思う。（その場合は少し休憩を増やすなどする）
- ・グループワークの作業時間（5分等）がもう少し長ければ、より深く学ぶことができた気がします。

【その他】

- ・班が変わるのは良いと思いますが、相手との距離が縮まる前に変わってしまって残念です。
- ・お昼の時間にももう少し余裕があれば良かったです。
- ・全体的に満足のいくものだった。
- ・人数は多いかなと感じました。
- ・短いものでいいので、休憩を増やしてほしい。トイレにちょっと行く時間が欲しい。
- ・日差しが痛かった。
- ・参加人数が定員を超えたことありますが、後ろの席のときにはスライド、講師の姿が見えなかった。

平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）
実施要項

1. 目的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）のうち、コミュニケーション実践、プレゼンテーション実践を実施する。

3. 対象者

係長，主任相当級の職員

4. 期間

平成26年10月 9日（木）～10月10日（金）

5. 場所

愛媛大学本部5階 第2会議室

6. 日程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

聖カタリナ大学学生支援課	課長	宮田 和美
愛媛大学教育学生支援部教育企画課	副課長	織田 隆司
愛媛大学教育学生支援部アドミッションセンター事務室	チームリーダー	三浦 さゆり
松山大学財務部管理課	係長	大政 一郎

8. 受講定員

30名

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD），愛媛大学

平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ) 日程表

研修会場：愛媛大学本部5階 第2会議室

		9:00	12:00	12:30	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
第1日目 10月9日 (木)					開 講 式 ・ オ リ エン テー シ ョ ン					
				受 付						情 報 交 換 会
第2日目 10月10日 (金)										
									閉 講 式	

9:00 10:30 12:00 13:00 16:30 17:00

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）
 実施日：平成26年10月9日（木）～10月10日（金）
 実施会場：愛媛大学本部第2会議室
 当日参加者数：23名
 アンケート回答者数：23名

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	23	100.0
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	23	100.0

(2) 所属先の設置者

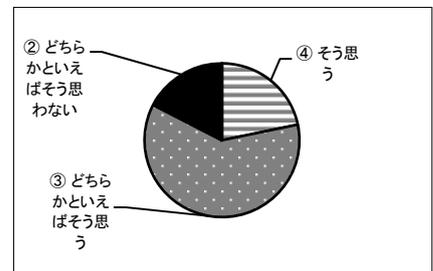
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	19	82.6
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	3	13.0
③ 学校法人	1	4.3
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	23	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）
 別紙記載

2. この研修について

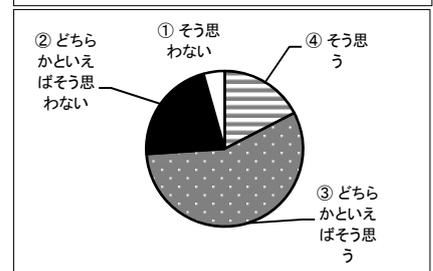
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	5	21.7
③ どちらかといえばそう思う	14	60.9
② どちらかといえばそう思わない	4	17.4
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



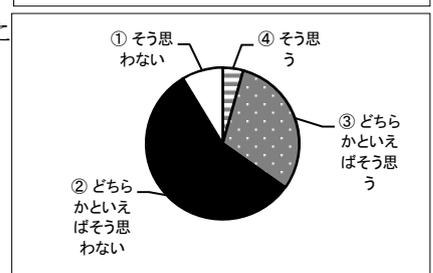
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	4	17.4
③ どちらかといえばそう思う	13	56.5
② どちらかといえばそう思わない	5	21.7
① そう思わない	1	4.3
計	23	100.0



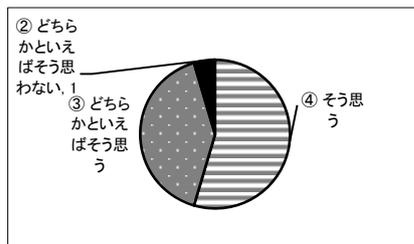
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	1	4.3
③ どちらかといえばそう思う	7	30.4
② どちらかといえばそう思わない	13	56.5
① そう思わない	2	8.7
計	23	100.0



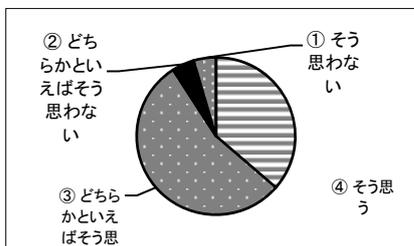
(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

	回答数	割合
④ そう思う	12	54.5
③ どちらかといえばそう思う	9	40.9
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



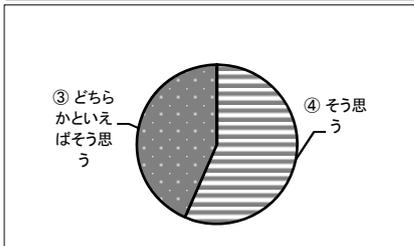
(5) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	8	36.4
③ どちらかといえばそう思う	12	54.5
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



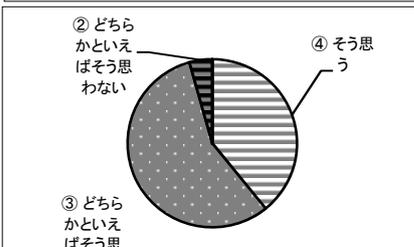
(6) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	13	56.5
③ どちらかといえばそう思う	10	43.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



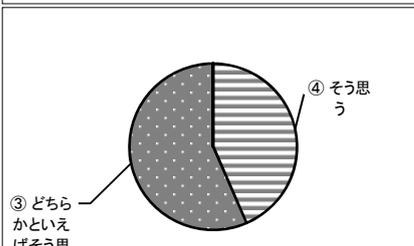
(7) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	9	39.1
③ どちらかといえばそう思う	13	56.5
② どちらかといえばそう思わない	1	4.3
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



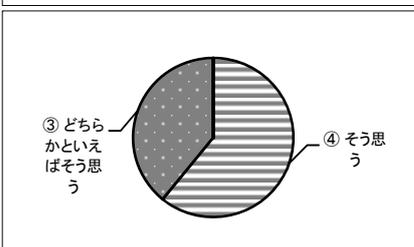
(8) 参加者の人数は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	10	43.5
③ どちらかといえばそう思う	13	56.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



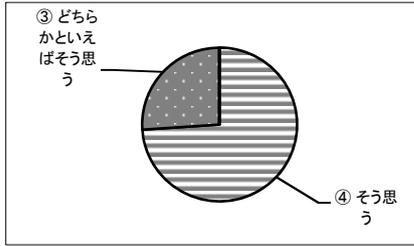
(9) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	14	60.9
③ どちらかといえばそう思う	9	39.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



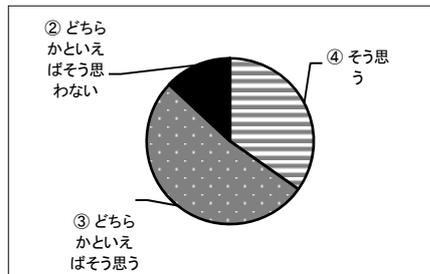
(10) 事務局の対応は丁寧だった

	回答数	割合
④ そう思う	17	73.9
③ どちらかといえばそう思う	6	26.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



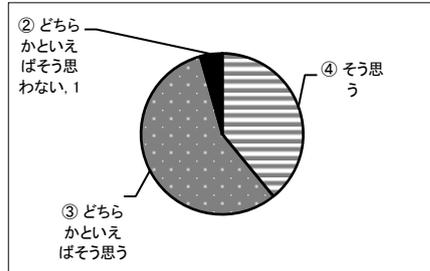
(11) 新たに人的つながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	8	34.8
③ どちらかといえばそう思う	12	52.2
② どちらかといえばそう思わない	3	13.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



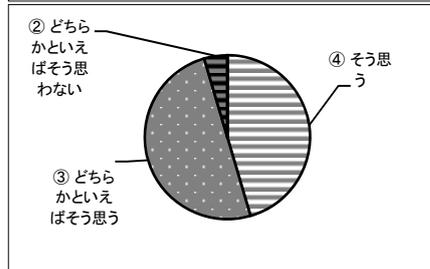
(12) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	9	39.1
③ どちらかといえばそう思う	13	56.5
② どちらかといえばそう思わない	1	4.3
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



(13) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

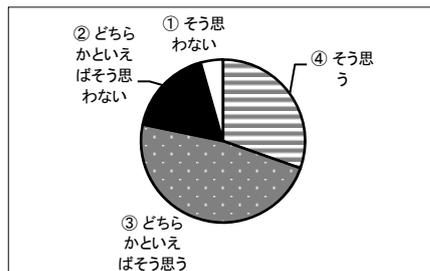
	回答数	割合
④ そう思う	10	45.5
③ どちらかといえばそう思う	11	50.0
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



3. 「コミュニケーション実践」研修について

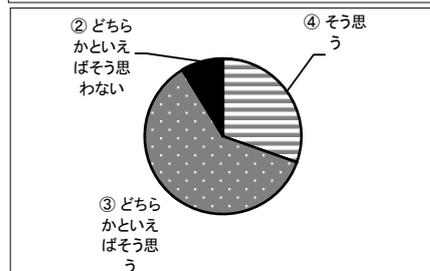
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	7	30.4
③ どちらかといえばそう思う	11	47.8
② どちらかといえばそう思わない	4	17.4
① そう思わない	1	4.3
計	23	100.0



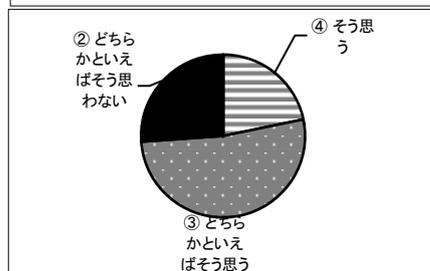
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	7	30.4
③ どちらかといえばそう思う	14	60.9
② どちらかといえばそう思わない	2	8.7
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



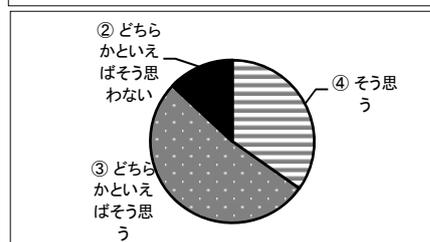
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	5	21.7
③ どちらかといえばそう思う	12	52.2
② どちらかといえばそう思わない	6	26.1
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



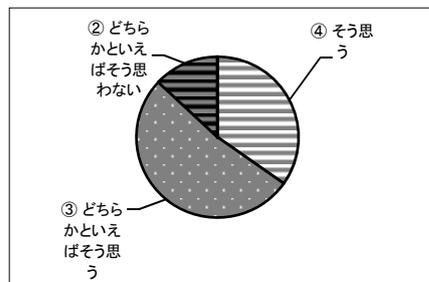
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	8	34.8
③ どちらかといえばそう思う	12	52.2
② どちらかといえばそう思わない	3	13.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

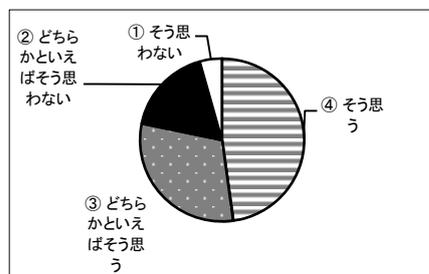
	回答数	割合
④ そう思う	8	34.8
③ どちらかといえばそう思う	12	52.2
② どちらかといえばそう思わない	3	13.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



4. 「プレゼンテーション実践」研修について

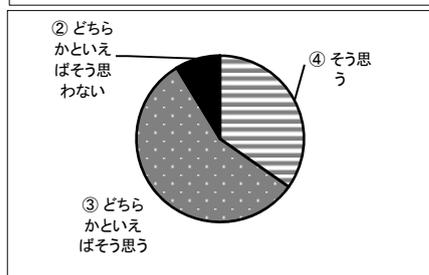
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	11	47.8
③ どちらかといえばそう思う	7	30.4
② どちらかといえばそう思わない	4	17.4
① そう思わない	1	4.3
計	23	100.0



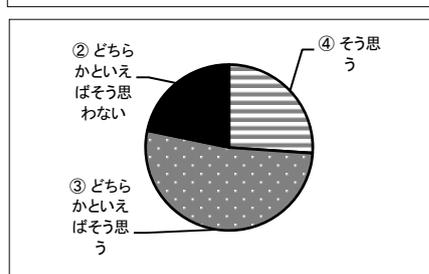
(2) 研修の内容は十分に理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	8	34.8
③ どちらかといえばそう思う	13	56.5
② どちらかといえばそう思わない	2	8.7
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



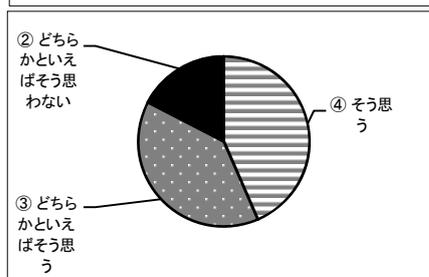
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	6	26.1
③ どちらかといえばそう思う	12	52.2
② どちらかといえばそう思わない	5	21.7
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



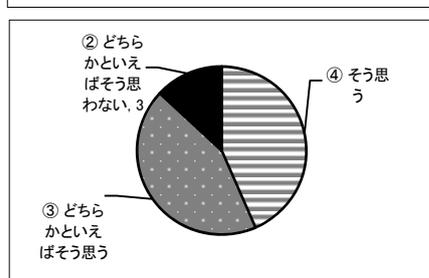
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	10	43.5
③ どちらかといえばそう思う	9	39.1
② どちらかといえばそう思わない	4	17.4
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



(5) 研修は満足出来るものだった

	回答数	割合
④ そう思う	10	43.5
③ どちらかといえばそう思う	10	43.5
② どちらかといえばそう思わない	3	13.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

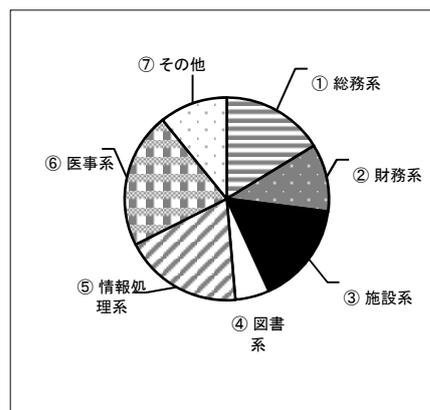
6. 研修をよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	6	26.1
② 財務系	4	17.4
③ 施設系	6	26.1
④ 図書系	2	8.7
⑤ 情報処理系	7	30.4
⑥ 医事系	8	34.8
⑦ その他	4	17.4



その他の記述内容

- ・研究系
- ・アドミニストレーター養成支援
- ・契約書作成
- ・俸給決定研究
- ・効果的な資料作成研究
- ・具体事例研究
- ・国際連携

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ プレゼンテーション能力 (9) (物事を分かりやすく伝える力, 伝える力, 単調に説明してしまいがちですが, 今日は実体験やユーモアを交えてプレゼンする職員の方もいらっしゃいました。とても為になりました。)
- ・ コミュニケーション力 (3)
- ・ クレーム対応 (2) (恐喝的なクレームに対する対応等こちらが悪くなくてもビビってしまうので・・・。教員は困る。)
- ・ 交渉能力 (2)
- ・ ケースバイケースの判断力
- ・ 自分の考えを相手に伝えるスキル
- ・ 自分の主張を効果的に分かりやすく相手に伝える力
- ・ 人の話を聞いて, 要点を抽出してすばやく理解する能力と, それを分かりやすく人に伝える能力
- ・ 人前で話す能力
- ・ 専門資格 (知識向上)
- ・ 画力 (新たな試み)
- ・ 論理的思考
- ・ アサーション
- ・ 説得力
- ・ 問題解決力
- ・ データ分析
- ・ 大学に関する知識 (研究分野)
- ・ 規則の作成スキル
- ・ 文章作成スキル
- ・ パワーポイントによる資料作成
- ・ 心の悩みを持つ学生や, 保護者への対応 (クレームまではいかない相談)

5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書き下さい。

- ・ 今回初めて主任レベルの研修に参加しました。皆さんたくさんの経験があり, 内容の濃いお話も聞けました。医学部は大学にはないのですが, 入試や調達のお話は興味深く, 問題の共有もできました。
- ・ プレゼンテーションの機会を得たこと。また, プレゼンテーションにおいて必要なスキルについて知ることができたこと。
- ・ プレゼンの技法 (効果的なシートの作り方など) について学べたこと。
- ・ クレーム対応 (他大学の事例を含め) について学べたこと。
- ・ クレーム対応に興味があったので, 基本的なもの且つ大事なものを勉強することが出来て良かったかなと思います。
- ・ ロジカルシンキングについて勉強ができて良かったです。ありがとうございました。

- ・内容的にテーマが多くて少し疲れたが、勉強になる点が多々あった。また、他大学の方と知り合うこともでき良かった。
- ・意識の向上にはなった。
- ・現在の部署では、プレゼンする機会がないので、受講して良かったと思う。頭で描いている自分と、実際やってみての感想に大きな乖離があったのが衝撃であり、それに気づけたことが収穫だった。
- ・クレーム対応にて「組織の代表として」対応することが印象に残った。
- ・プレゼンの難しさを知った。
- ・人前で話すことが苦手なので、少しでも練習になって良かった。
- ・講師の方が非常に親切に、丁寧に教えてくださったので、分かりやすかった。
- ・日常教務に追われて考える時間がない。無理してでも来て良かった。久しぶりに自分のことだけを考える時間が持てた。スタッフの方々の一生懸命さに触れて、頑張ろうという気が持てた。いろんな人の話が聞けて良かった。
- ・クレーム処理について、苦情は主に担当者が最後まで、ということを知ってとても参考になった。プレゼンテーションについては、全くの初めてからのスタートだったので、とても大変でしたが学ぶものが多かったです。また、他大学の方々とお話しすることができ、有意義な時間でした。
- ・同じ職員の立場の講師が努力している姿勢には感動しました。私自身も日々努力を怠らず、頑張っていきたいです。
- ・プレゼンテーション等の具体的手法について教えていただくことができ、大変勉強になりました。実際に実践してみることで、難しい部分やどうしていったらいいのかという点を考えることができました。クレーム対応も具体的な手法を学べたことで、今後活かせるのではないかと思います。
- ・日常業務に共通して活かせる部分が多く参加して有益だった。
- ・人脈ができた。
- ・プレゼンテーション資料作成のポイントがよくわかった。
- ・PREP法などの論理的に説明する話し方や、実際のスライド作成の注意点が参考になった。また自分で教えていただいた事を意識しながらプレゼンをして何がダメなのかわかった。
- ・業務に必要なスキルであり、実践も多く分かりやすい内容であった。
- ・他大学の職員と交流を持つことができた。研修を受けることで知識を深めることができました。
- ・他大学の同士が作れた。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

【コミュニケーション実践】

- ・もう少しクレームに対する対処方法についてお伺いしたかった。（ケースバイケースで片付けられてしまうと参加した意味がなくなってしまう。）
- ・ワーク事例についての講師のコメントをもう少し詳しく分かりやすくしていただけたらと思います。ワーク事例をDVD等の映像にいただいた方がより分かりやすくなるので、ワーク内での話し合いがもっと適切に深くできるのではないかと思います。
- ・クレーム対応については、外部の専門講師に依頼した方がいいのではないかと思います。（難しい分野なので）

- ・ クレーム事例を1つではなく、2、3個できれば業務の参考になったと思います。
- ・ クレーム対応は、もう少し事例研究があった方がよい。（凶悪なクレームなど）
- ・ テーマを、ごく狭い範囲の実務に限ってみては？
- ・ 問題点や解決策は皆同じになるので、多くの人に発表させる意義はあまりない。

【プレゼンテーション実践】

- ・ 資料を早めに欲しかったです。
- ・ プレゼン資料事前に配付して欲しかった。はじめ、説明がわかりにくかった。
- ・ プレゼンテーション実践の午前の部の資料は、午前にもらえたら良かったなと思いました。（メモできるから）「カレーパーティ」があるから、事前に配ったらまずいのも分かります。勝手な意見ですが、すみません。
- ・ プレゼンテーション実践の資料が後で配付されることを知らなかったため、必死でメモをとっていたのですが、後でいただけることが分かっているとより良かったかと思います。
- ・ プレゼン作成の時、使用できるツール（マジック・バインダー（発表時に紙を支えるもの））がもう少したくさんあれば便利で良かった。
- ・ プレゼンテーション実践については、スキルが十分でない状態でのパフォーマンスだったので、非常に難しかった。
- ・ プレゼンテーション実践はパソコンを使ったものにできれば、より実践に近いものになるのではないかと感じた。
- ・ 各自の都合もあったかとは思いますが、四国内でもっと幅広い大学の職員の参加があれば良かったと思う。

【全体】

- ・ 専門毎の研修をすべき。
- ・ もう少し休憩の時間が欲しかったかな？と個人的には思いました。
- ・ 研修の時期は、夏休み期間中に変更できないでしょうか。
- ・ 時々講師からの指示が漠然としていて、戸惑ってしまった。
- ・ 大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 反転学習のように、事前にある程度予習をして、始まってすぐに実践に取りかかるなどすれば、より効果的な研修になるのではないかと感じました。

平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅢ）
実施要項

1. 目的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅢ）のうち、「人材育成論・実践論」（育成）区分3（実践）区分1・2，及び「大学政策論」のうち，区分4を実施する。

3. 対象者

課長，課長補佐相当級の職員

4. 期間

平成26年7月3日（木）～7月4日（金）

5. 場所

愛媛大学本部5階 第2会議室

6. 日程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	講師	仲道	雅輝
愛媛大学	教育学生支援部	部長	吉田	一恵

8. 受講定員

30名

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD），愛媛大学

平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅢ)研修 日程表

【愛媛大学本部5階 第2会議室】

	9:00	12:45	13:00	16:30	17:00	18:00
第1日目 7月3日 (木)		オリエンテーション	受付	【人材育成論・実践論】【大学政策論】 1. アイスブレイク 2. 業務改善に関わる問題抽出とプロジェクト立ち上げ 3. プロジェクト目標と進捗管理 ※到達目標 ・職場や仕事の改善を行うことができる ・業務目標の進行管理(進捗状況を把握)を行うことができる 【講師:愛媛大学 教育企画室 講師 仲道 雅輝 教育学生支援部長 吉田 一恵】		懇親会
第2日目 7月4日 (金)	9:00	休憩	休憩	【人材育成論・実践論】【大学政策論】 5. マニュアルは成果を上げるためのツール (「Know-How」+「Do-How」の見える化) 6. プロジェクト内容の発表 (課題認識から取組内容、リスク対応・マニュアル対応など) ※到達目標 ・業務マニュアルの作成指導を行うことができる ・課題抽出から業務目標設定と達成までの一連の進行管理について説明することができる 【講師:愛媛大学 教育企画室 講師 仲道 雅輝 教育学生支援部長 吉田 一恵】	閉講式	16:30 16:45
	9:00	12:00	13:00			

※研修スケジュールは、受講者数・進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅢ）
 実施日：平成26年7月3日（木）～7月4日（金）
 実施会場：愛媛大学本部第2会議室
 アンケート回答者数：24名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	24	100.0
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	24	100.0

(2) 所属先の設置者

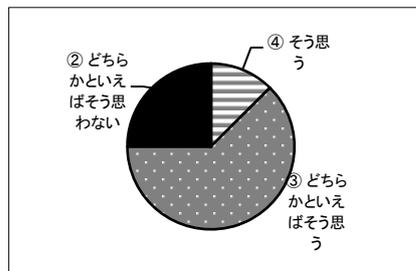
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	21	87.5
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	1	4.2
③ 学校法人	2	8.3
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	24	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に） 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

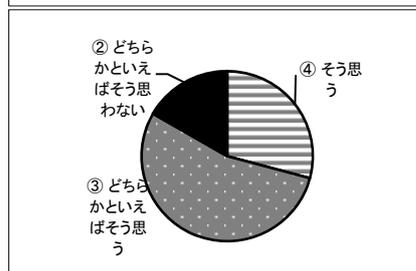
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	3	12.5
③ どちらかといえばそう思う	15	62.5
② どちらかといえばそう思わない	6	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



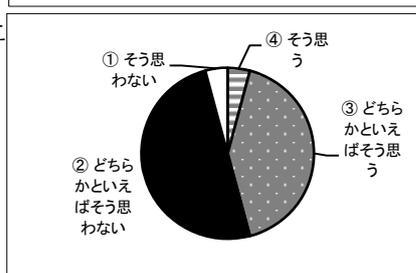
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	7	29.2
③ どちらかといえばそう思う	13	54.2
② どちらかといえばそう思わない	4	16.7
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



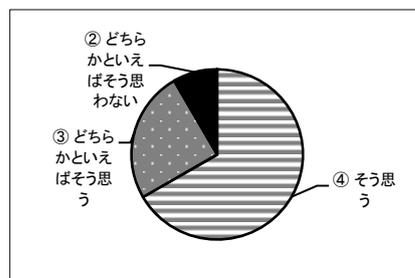
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	1	4.2
③ どちらかといえばそう思う	10	41.7
② どちらかといえばそう思わない	12	50.0
① そう思わない	1	4.2
計	24	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

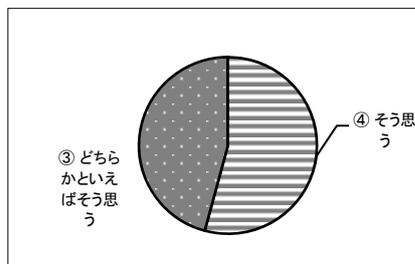
	回答数	割合
④ そう思う	16	66.7
③ どちらかといえばそう思う	6	25.0
② どちらかといえばそう思わない	2	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



3. 研修プログラムの設計について

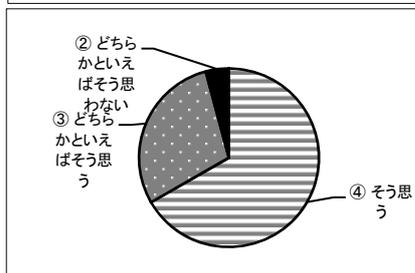
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	13	54.2
③ どちらかといえばそう思う	11	45.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



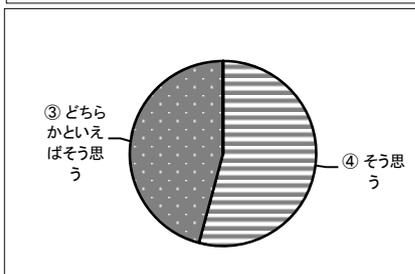
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	16	66.7
③ どちらかといえばそう思う	7	29.2
② どちらかといえばそう思わない	1	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



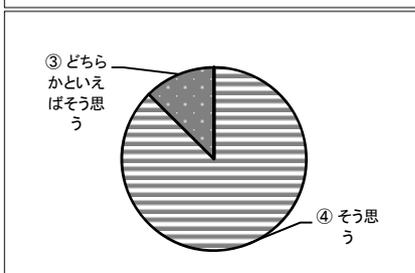
(3) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	13	54.2
③ どちらかといえばそう思う	11	45.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



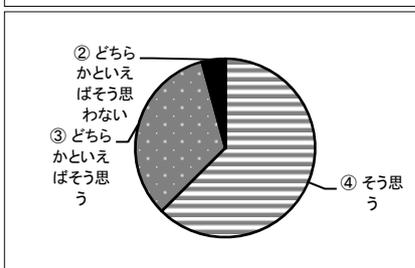
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	21	87.5
③ どちらかといえばそう思う	3	12.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



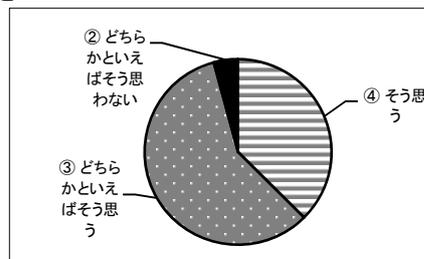
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	15	62.5
③ どちらかといえばそう思う	8	33.3
② どちらかといえばそう思わない	1	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



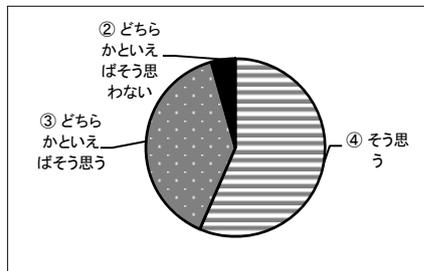
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	9	37.5
③ どちらかといえばそう思う	14	58.3
② どちらかといえばそう思わない	1	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



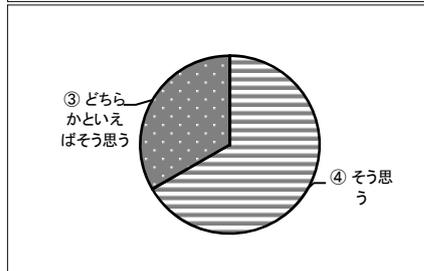
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	13	56.5
③ どちらかといえばそう思う	9	39.1
② どちらかといえばそう思わない	1	4.3
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



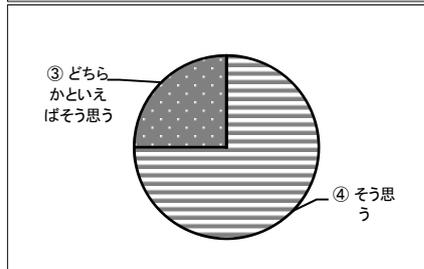
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	16	66.7
③ どちらかといえばそう思う	8	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

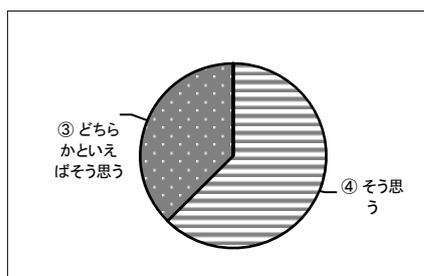
	回答数	割合
④ そう思う	18	75.0
③ どちらかといえばそう思う	6	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



4. 研修スタッフについて

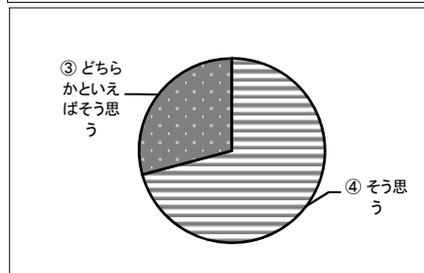
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	15	62.5
③ どちらかといえばそう思う	9	37.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



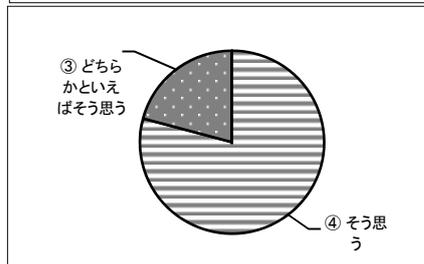
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	17	70.8
③ どちらかといえばそう思う	7	29.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



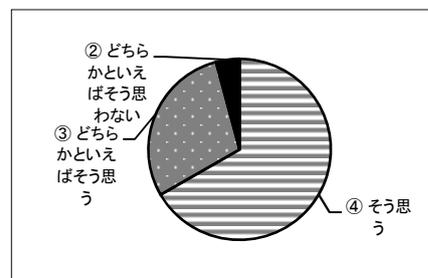
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	19	79.2
③ どちらかといえばそう思う	5	20.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



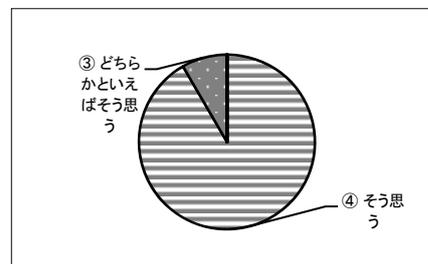
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	16	66.7
③ どちらかといえばそう思う	7	29.2
② どちらかといえばそう思わない	1	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

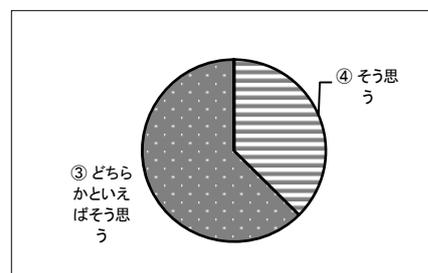
	回答数	割合
④ そう思う	22	91.7
③ どちらかといえばそう思う	2	8.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



5. 研修成果について

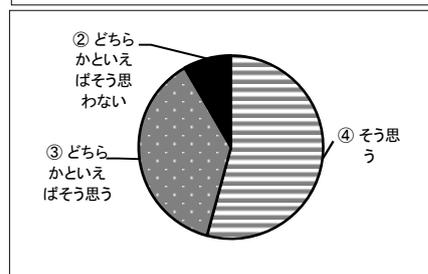
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	9	37.5
③ どちらかといえばそう思う	15	62.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



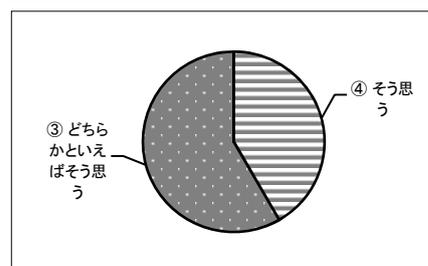
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	13	54.2
③ どちらかといえばそう思う	9	37.5
② どちらかといえばそう思わない	2	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



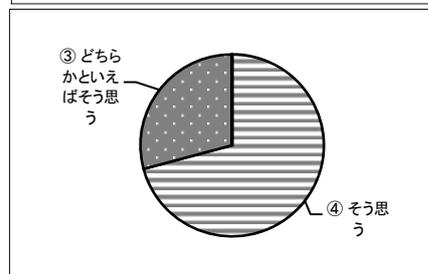
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	10	41.7
③ どちらかといえばそう思う	14	58.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	17	70.8
③ どちらかといえばそう思う	7	29.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



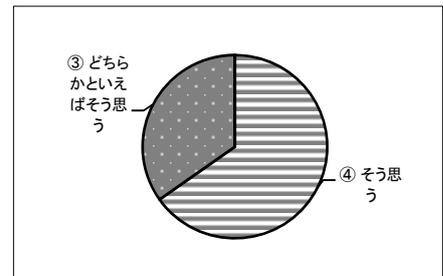
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

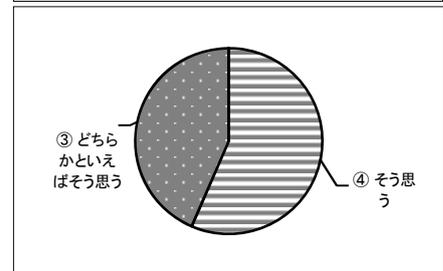
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	15	65.2
③ どちらかといえばそう思う	8	34.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



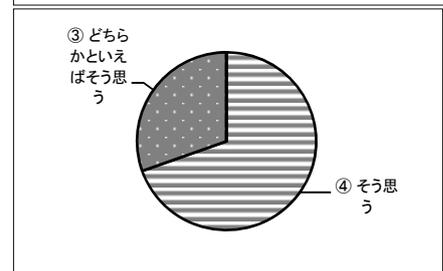
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	13	56.5
③ どちらかといえばそう思う	10	43.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	16	69.6
③ どちらかといえばそう思う	7	30.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



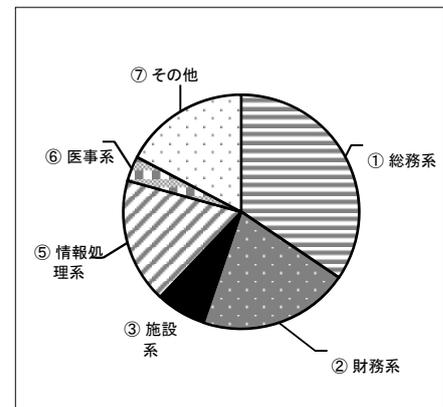
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	10	41.7
② 財務系	6	25.0
③ 施設系	2	8.3
④ 図書系	0	0.0
⑤ 情報処理系	5	20.8
⑥ 医事系	1	4.2
⑦ その他	5	20.8



その他の記述内容

- ・リスクマネジメント
- ・産学連携
- ・人材育成する立場
- ・行動規範の研修（全職員必須なので）をしてほしい
- ・学務系

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ 人材育成(4) ※管理職として部下や若手職員の育成等
- ・ 交渉力(3) ※問題解決のための交渉, 調整等
- ・ プレゼンテーション力(3) ※わかりやすい説明能力等
- ・ 仲道先生の講話力に少しでも近付けるようにしたい
- ・ コーチング
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 時間管理
- ・ マネジメント
- ・ リーダーシップ
- ・ 自信
- ・ 資金運用の運用益増収の方策
- ・ 医療情報の知識
- ・ 言語力
- ・ 学務目標の進捗管理
- ・ 学務マニュアルの作成
- ・ 学生のモチベーションを上げる方法
- ・ 労務管理
- ・ リスク管理が必要であり, そのために必要なスキル・知識を身に付けたい

5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書き下さい。

- ・ 他大学との人的ネットワーク作り(5)
- ・ 他大学の実情が伺えて参考になった。(3)
- ・ 4月より部署が変わり, 業務の整理に役立てたいと考えています。
- ・ 同様の悩みを抱えておられ, 自分だけではないと気が楽になった。
- ・ グループでの研修で大変楽しく, 研修に取り組むことができました。
- ・ 自分の部署の仕事について再確認しようと思う。
- ・ 大学はチームで仕事をしていると思います。今回の研修は個人ワーク中心ではなく, チームでのワーク中心だったので, とても満足しました。
- ・ 日常, 意識していなかったプロジェクトの遂行方法を学ぶことで, 今後に活かせることができると思う。
- ・ 他大学の現状, 課題を共有し, 参考になる話が聴くことができた。
- ・ 手順
- ・ すぐに活用できるスキルが身についた。マニュアルのブラッシュアップに取りかかりたい。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば, 具体的にお書き下さい。

- ・ 事前に研修資料を送付すれば, 研修内容の準備ができスムーズに進むと思う。
- ・ 講師とのコミュニケーション(が今回なかったから)
- ・ パソコンのマウスがあれば良かった。

平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）
実施要項

1. 目的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）のうち、1つの研修科目を実施する。

・情報科学応用編「Access」応用

（Microsoft Office Access 2013の活用方法を、パソコンを用いた演習を交えて習得します。）

3. 対象者

情報科学応用編「Access」基礎を受講済みの職員又はAccessの基礎操作（テーブルの作成、選択クエリの作成、テンプレートによるフォーム及びレポートの作成）ができる職員

4. 期間

平成26年9月11日（木）～9月12日（金）

5. 場所

愛媛大学総合情報メディアセンター4階（第4演習室）

6. 日程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

弓削商船高等専門学校 企画広報室情報・広報係長 瀧本 笑子

8. 受講定員

40名

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、愛媛大学

平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目) 日程表

研修会場: 愛媛大学総合情報メディアセンター4階 第4演習室

	8:45 9:00	<p>【情報科学応用編:Access応用】</p> <p>1. 会員管理データベースの概要</p> <p>2. テーブルの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成するテーブルを確認する ・フィールドプロパティを設定する <p>3. リレーションシップと参照整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リレーションシップと参照整合性の概要 ・リレーションシップを作成する ・参照整合性を確認する <p>4. クエリの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成するクエリを確認する ・関数を利用する ・フィールドプロパティを設定する <p>講師: 弓削商船高等専門学校 瀧本笑子</p>	12:00 13:00	<p>【情報科学応用編:Access応用】</p> <p>5. アクショクエリと不一致クエリの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクショクエリの概要 ・テーブル作成クエリを作成する ・削除クエリを作成する ・追加クエリを作成する ・更新クエリを作成する ・不一致クエリを作成する <p>6. 販売管理データベースの概要</p> <p>7. フォームの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成するフォームを確認する ・フォームのコントロールを確認する ・コントロールを作成する ・タブオーダーを設定する <p>講師: 弓削商船高等専門学校 瀧本笑子</p>	17:00 18:00	懇親会
9月11日 (木)	9:00	<p>【情報科学応用編:Access応用】</p> <p>8. メイン・サブフォームの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成するフォームを確認する ・メイン・サブフォームを作成する ・演算テキストボックスを作成する <p>9. メイン・サブレポートの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成するレポートを確認する ・レポートのコントロールを確認する ・メイン・サブレポートを作成する ・コントロールの書式を設定する <p>10. レポートの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成するレポートを確認する ・集計行のあるレポートを作成する ・編集するレポートを確認する ・累計を設定する/改ページを設定する/パラメーターを設定する <p>講師: 弓削商船高等専門学校 瀧本笑子</p>	12:00 13:00	<p>【情報科学応用編:Access応用】</p> <p>11. 便利な機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品管理データベースの概要 ・ハイパーリンクを設定する ・条件付き書式を設定する ・Excel/Wordへエクスポートする ・データベースを最適化/修復する ・データベースを保護する <p>12. 総合問題</p> <p>講師: 弓削商船高等専門学校 瀧本笑子</p>	17:00	閉講式

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）
 実施日：平成26年9月11日（木）～9月12日（金）
 実施会場：愛媛大学総合情報メディアセンター4階 第4演習室
 当日参加者数：28名
 アンケート回答者数：27名

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	27	100.0
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	27	100.0

(2) 所属先の設置者

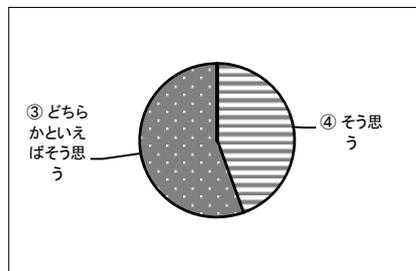
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	22	81.5
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	5	18.5
③ 学校法人	0	0.0
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	27	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に） 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

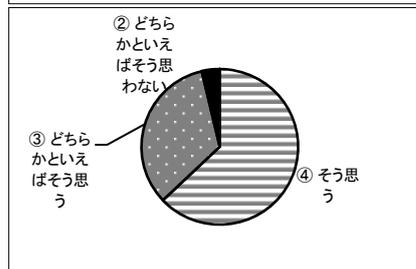
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	12	44.4
③ どちらかといえばそう思う	15	55.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



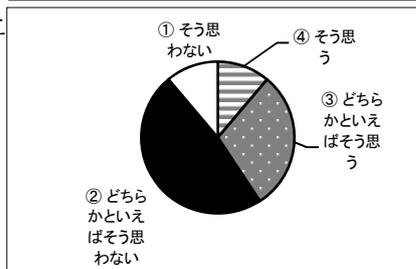
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	17	63.0
③ どちらかといえばそう思う	9	33.3
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



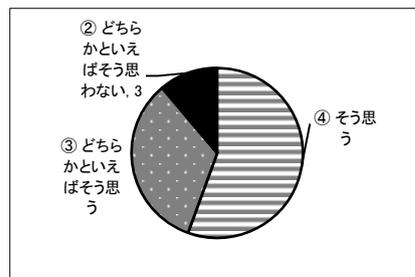
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	3	11.1
③ どちらかといえばそう思う	8	29.6
② どちらかといえばそう思わない	13	48.1
① そう思わない	3	11.1
計	27	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

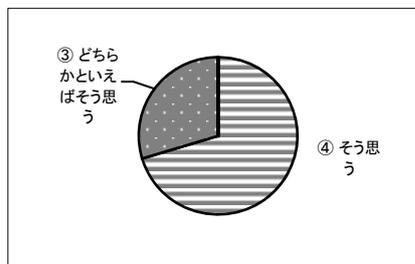
	回答数	割合
④ そう思う	15	55.6
③ どちらかといえばそう思う	9	33.3
② どちらかといえばそう思わない	3	11.1
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



3. 研修プログラムの設計について

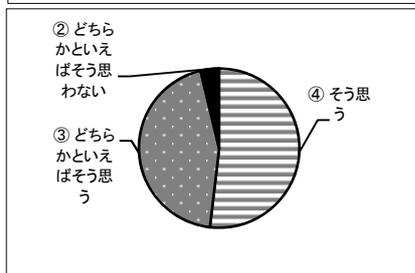
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	19	70.4
③ どちらかといえばそう思う	8	29.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



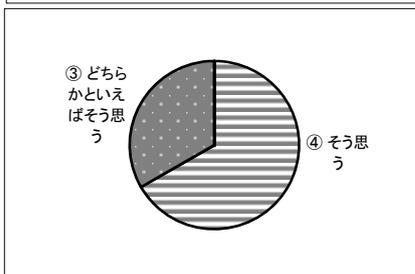
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	14	51.9
③ どちらかといえばそう思う	12	44.4
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



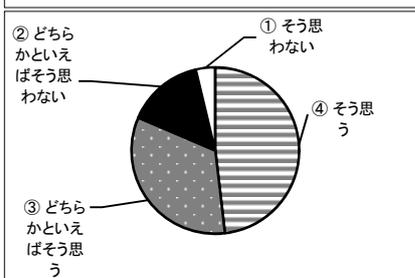
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	18	66.7
③ どちらかといえばそう思う	9	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



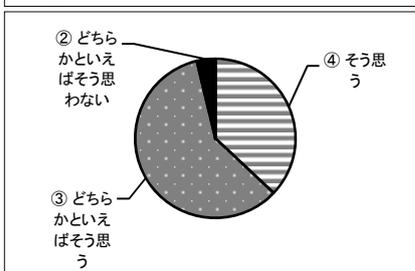
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	13	48.1
③ どちらかといえばそう思う	9	33.3
② どちらかといえばそう思わない	4	14.8
① そう思わない	1	3.7
計	27	100.0



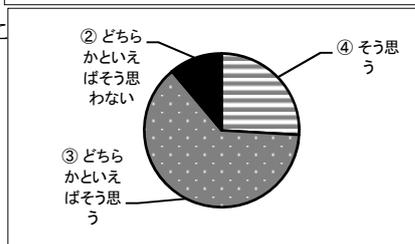
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	10	37.0
③ どちらかといえばそう思う	16	59.3
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



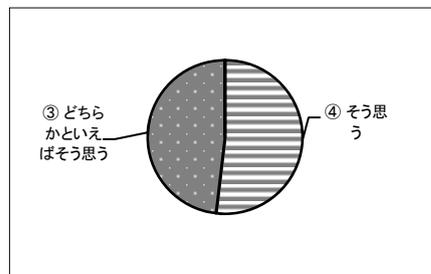
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	7	25.9
③ どちらかといえばそう思う	17	63.0
② どちらかといえばそう思わない	3	11.1
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



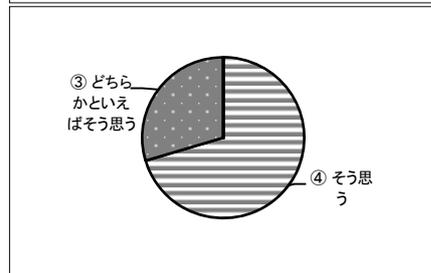
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	14	51.9
③ どちらかといえばそう思う	13	48.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



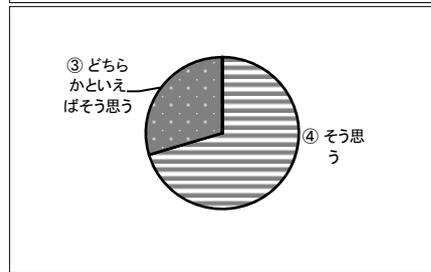
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	19	70.4
③ どちらかといえばそう思う	8	29.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

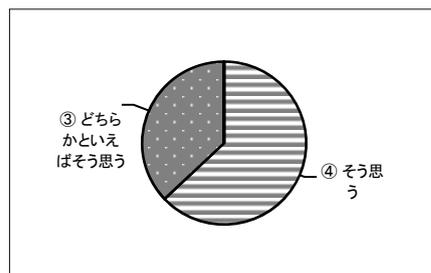
	回答数	割合
④ そう思う	19	70.4
③ どちらかといえばそう思う	8	29.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



4. 研修スタッフについて

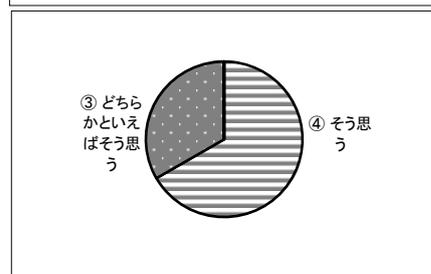
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	17	63.0
③ どちらかといえばそう思う	10	37.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



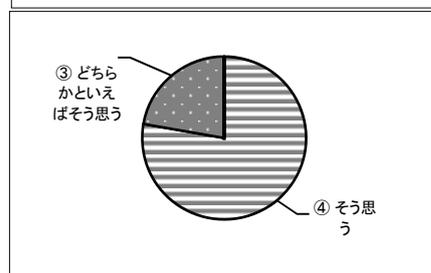
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	18	66.7
③ どちらかといえばそう思う	9	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



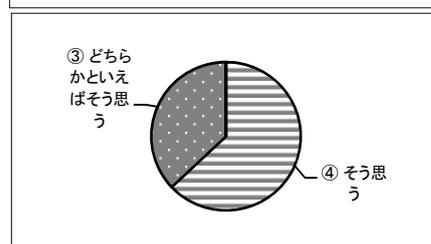
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	21	77.8
③ どちらかといえばそう思う	6	22.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



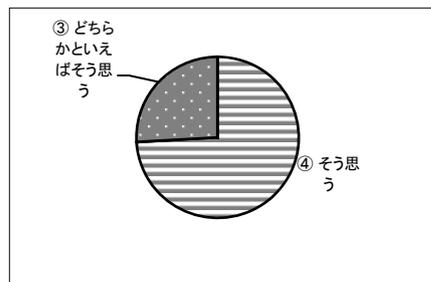
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	17	63.0
③ どちらかといえばそう思う	10	37.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

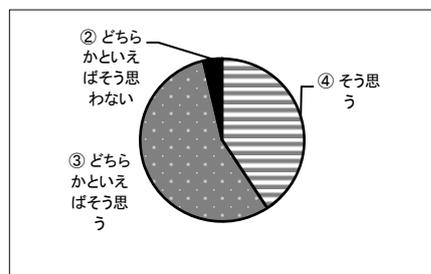
	回答数	割合
④ そう思う	20	74.1
③ どちらかといえばそう思う	7	25.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



5. 研修成果について

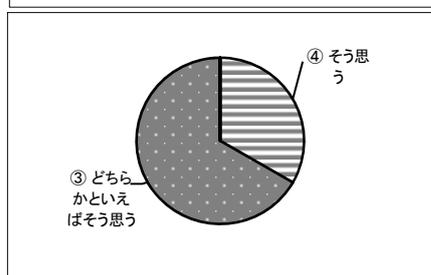
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	11	40.7
③ どちらかといえばそう思う	15	55.6
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



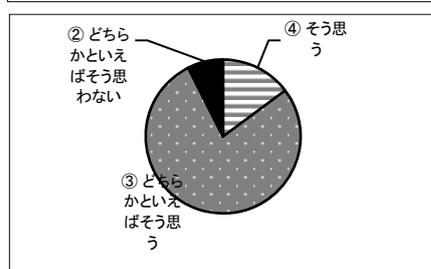
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	9	33.3
③ どちらかといえばそう思う	18	66.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



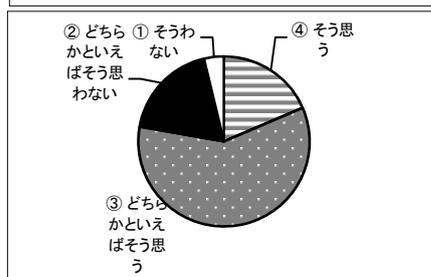
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	4	14.8
③ どちらかといえばそう思う	21	77.8
② どちらかといえばそう思わない	2	7.4
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	5	18.5
③ どちらかといえばそう思う	16	59.3
② どちらかといえばそう思わない	5	18.5
① そう思わない	1	3.7
計	27	100.0



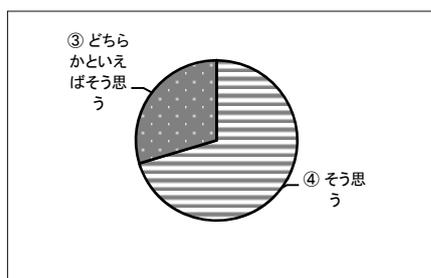
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

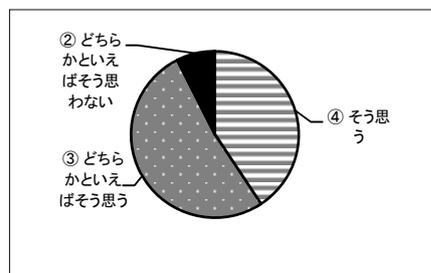
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	19	70.4
③ どちらかといえばそう思う	8	29.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



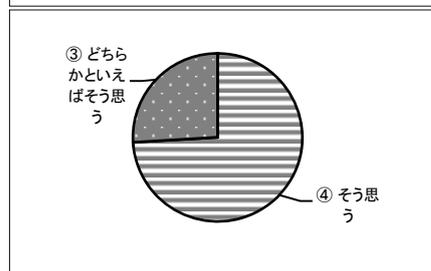
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	11	40.7
③ どちらかといえばそう思う	14	51.9
② どちらかといえばそう思わない	2	7.4
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	20	74.1
③ どちらかといえばそう思う	7	25.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



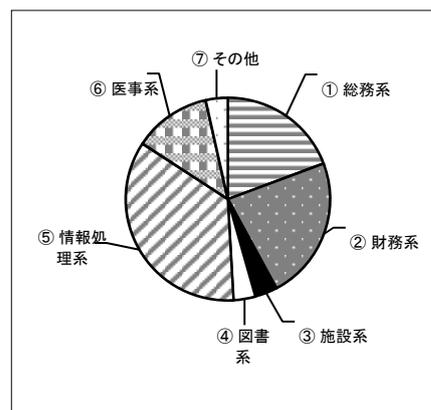
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	11	40.7
② 財務系	13	48.1
③ 施設系	2	7.4
④ 図書系	2	7.4
⑤ 情報処理系	20	74.1
⑥ 医事系	7	25.9
⑦ その他	2	7.4



その他の記述内容

- ・ 既にあるが学務系の充実
- ・ 英語

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ パソコンスキル (Word, Excel, Access, PowerPoint) (13)
- ・ ネットワーク (2)
- ・ 文書作成 (2)
- ・ 予算管理, 情報処理 (データ管理)
- ・ ICT, 財務関係
- ・ 情報セキュリティ, IT 全般
- ・ 膨大なデータを効率よく処理すること
- ・ 手作業にて行っているチェックシステムの構築
- ・ Access 等を利用したデータ集計及び管理の効率化
- ・ プレゼンテーション能力
- ・ 他人に上手に説明する能力
- ・ 英語, 英会話
- ・ 企画・立案
- ・ データ操作, 決算業務, 自身の大学の長・短所をもっとよく知って, 他大学に人に説明できる
- ・ まだ採用されたばかりなので大学の業務も含め, 必要な知識が何かを見極めることが第一だと考える
- ・ 学務業務の知識
- ・ 映像, 音響等機器のトラブル対応のスキル

5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書き下さい。

- ・ Access で出来る機能を学ぶことができた。(2)
- ・ 今までなんとなく使っていた機能について, 体系的に分かった。(2)
- ・ 教材がとてもわかりやすかったです。
- ・ 既存のシステムへの理解が深まった。
- ・ Access に関する知識を身につけることができた。
- ・ Access の知識が深められた。講師の方の話し方が聞きやすかった。
- ・ Access に対して苦手意識が少なくなった。必要であれば, 業務で利用したいと思った。
- ・ データ操作の苦手意識を克服できた。
- ・ 受講前と比べ Access はそれほど難しいものではないと気づけた。
- ・ Access の知識が格段に向上したように思える。
- ・ 人が作った Access を使用しているが, 何故この文字がでるのか不明だった点が理解できた。
- ・ レクチャーと実践が交互に進められたため, 理解しやすい構成だったと思う。
- ・ OS Win8.1 の PC を使うのは初めてだったので, 体験できて良かった。Access も最新の「2013」に触れることができ, 便利な機能が探しやすいで良かった。自分の知りたかったことや疑問の解決に繋げることができて良かった。
- ・ ついていけてなかったが, とても楽しかった。また, 自分でも勉強したい。講師・スタッフの方, お疲れ様でした。

- とても聞きやすくて良かったです。ありがとうございます。休憩をこまめにはさんでくれたのも、とてもいいリフレッシュになりました。
- 研修プログラムが比較的余裕のある時間配分で組まれていたので、落ち着いて研修に取り組むことができ、Access のスキルアップが図れた。
- 業務において、分からないことがでてきたら、その操作方法のみ調べるということをしていたので、2日間じっくり活用方法を学べて良かったです。
- DB に対して、Access で出来ること及び使い方が分かったこと。テーブル、クエリ、フォーム、レポートという段階的な利用方法の把握ができたこと。
- 2年前の基礎・応用を2日間で実施したものよりも丁寧に進行したので、クエリの部分がよく分かりました。
- ちょうど業務で Access を使い始めた時期だったので一連の操作や仕組み、流れが分かり大変勉強になった。また懇親会も含め人的なつながりが出来、とても有意義な研修となった。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 研修会場が寒かったです。
- 初日を朝から実施するのは、移動が大変だと感じた。
- 初日、開始時間を 9:30 か 10 時にしていただけましたら県外参加者としてはありがたいです。
(前泊が必要となる為)
- 受講のレベルがまちまちだったと思います。
- 人数が多すぎるとレベルや進行にバラつきがあり、滞ることがあったが(2年前)今回は適度な人数だったと思います。出来るだけ少人数で開催できると、マンツーマンでできて、修得すると思います。
- 応用編を開催する際は、基礎編の内容を事前にメール等で配付するのはどうでしょう。
- 事前に、前回の復習資料があるとよい(応用編の場合)。懇親会の場所は、車椅子利用者も参加できる店がいいと思う(少しそういうことを伺ったので)。
- 可能であれば、冊子復習問題の事前配付をお願いしたい。(自信がない人は、先に勉強しておくので。)
- 内容のボリュームが、時間(研修の)に対して、少し多いかなと感じた
- フォームを活用したアクションクエリについて、もう少し知りたかった。「基礎編」と「応用編」以外に、「基礎活用編」のようなものが、あいだにあると、受講申込の際、自分のレベルをより診断しやすいのかなと思いました。

学務系職員養成プログラム（レベルⅠ）研修実施要項

1. 目的

SPOD加盟校の職員が高等教育機関の学務系業務担当職員として求められる専門的な素養を習得することを目的とする。

2. 到達目標

■キャリア支援入門

- ・キャリア教育の目的・必要性を説明することができる。
- ・どのようなキャリア教育が必要なのかを説明することができる。

■学生相談入門

- ・学生の気質や傾向に関する現状を説明することができる。
- ・適切な学校カウンセリング体制について説明することができる。
- ・学生からの簡単な相談に適切な対応をすることができる。

■学生危機管理対応入門

- ・学生生活における危険性（ハラスメント、携帯電話・PC等のサイト、カルト、薬物等）を説明することができる。
- ・事件、事故、災害、ハラスメント発生時にマニュアルに沿った対応をすることができる。

■FD概論

- ・大学教育にFDが必要な理由を説明できる。
- ・職員がFDに関わる必要性を説明できる。

■教務担当職員のためのSD入門

- ・プロジェクト方式で学内SDの研修案を作成することができる。

3. 対象者

現在、学務系業務を担当している係員相当級の職員

今後、学務系業務に携わる意欲のある係員相当級の職員

4. 期 間

平成26年7月24日（木）～25日（金）

5. 場 所

四国大学交流プラザ4階第2セミナー室

<http://www.shikoku-u.ac.jp/institution/attached-plaza/>

6. 日 程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

徳島大学総合教育センター	講師	吉田 博
愛媛大学教育学生支援部	部長	吉田 一恵
四国大学教育・学生支援部教育支援課	課長	赤松 茂樹
松山大学学生課	課長補佐	松井 千代美
聖カタリナ大学・短期大学部入試課	課長補佐	新名 敏弘 他

8. 受講定員

30名

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

四国大学

学務系職員養成プログラム(レベルⅠ)研修日程表

研修会場：四国大学交流プラザ4階第2セミナー室

		12:00	12:30	12:4	13:10	13:25	15:25	15:35	17:35	18:30	
第1日目 7月24日 (木)			受付	開講式	四国大学事務局長講話	アイスブレイク	「学生相談入門」 松山大学 学生課課長補佐 松井 千代美	休憩	「学生危機管理対応入門」 愛媛大学 教育支援部長 吉田 一恵	移動	懇親会
		8:50	10:50	11:00			13:30	15:30	15:50	16:00	
第2日目 7月25日 (金)				「教務担当職員のためのSD入門」 四国大学教育・学生支援部 教育支援課長 赤松 茂樹	昼食		「FD概論」 徳島大学 総合教育センター 吉田 博	研修の振り返り	閉講式		
			休憩								

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成26年度学務系職員養成プログラム（レベルI）研修

実施日：平成26年7月24日（木）～7月25日（金）

実施会場：四国大学交流プラザ

アンケート回答者数：39名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	36	92.3
② 短期大学	1	2.6
③ 高等専門学校	2	5.1
④ その他（ ）	0	0.0
計	39	100.0

(2) 所属先の設置者

	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	27	69.2
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	0	0.0
③ 学校法人	12	30.8
計	39	100.0

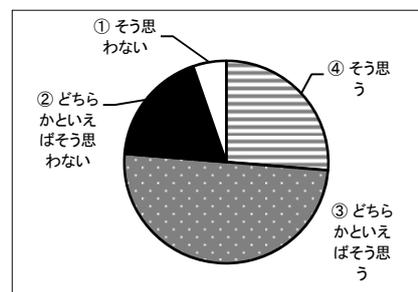
(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）

別紙記載

2. この研修について

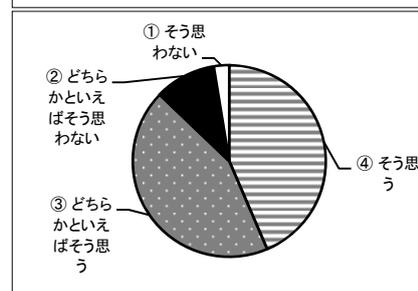
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	10	26.3
③ どちらかといえばそう思う	19	50.0
② どちらかといえばそう思わない	7	18.4
① そう思わない	2	5.3
計	38	100.0



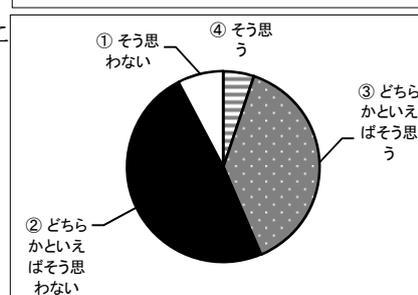
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	17	43.6
③ どちらかといえばそう思う	17	43.6
② どちらかといえばそう思わない	4	10.3
① そう思わない	1	2.6
計	39	100.0



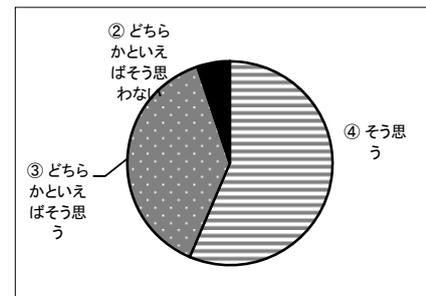
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	2	5.1
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	19	48.7
① そう思わない	3	7.7
計	39	100.0



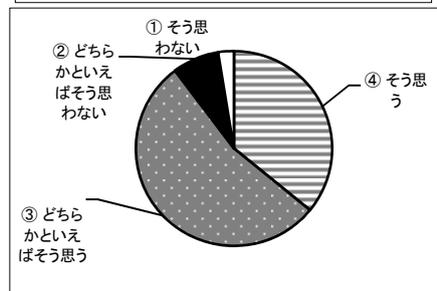
(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

	回答数	割合
④ そう思う	22	56.4
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	2	5.1
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



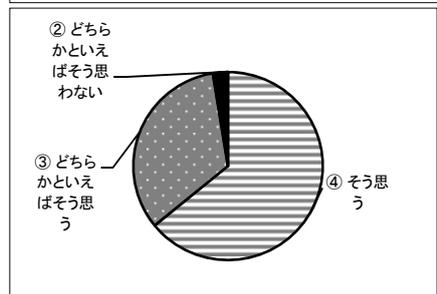
(5) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	14	35.9
③ どちらかといえばそう思う	21	53.8
② どちらかといえばそう思わない	3	7.7
① そう思わない	1	2.6
計	39	100.0



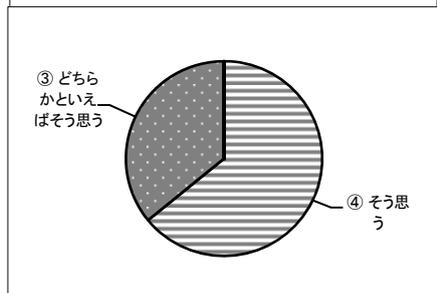
(6) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	25	64.1
③ どちらかといえばそう思う	13	33.3
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



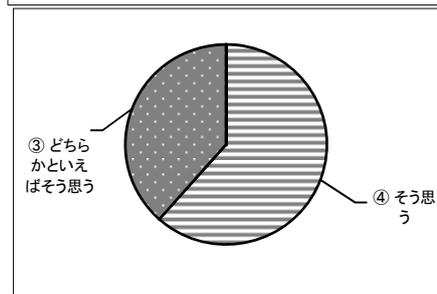
(7) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	25	64.1
③ どちらかといえばそう思う	14	35.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



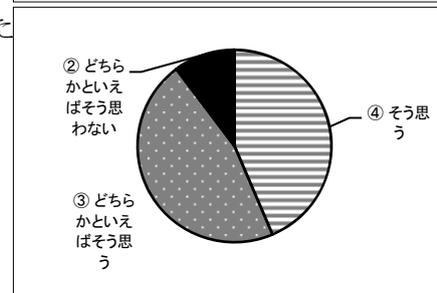
(8) 参加者の人数は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	24	61.5
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



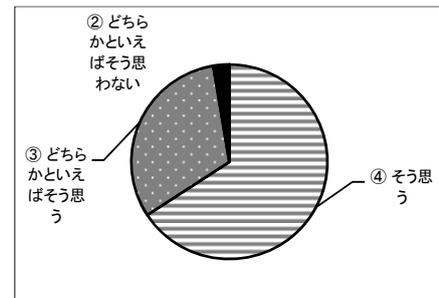
(9) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	17	43.6
③ どちらかといえばそう思う	18	46.2
② どちらかといえばそう思わない	4	10.3
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



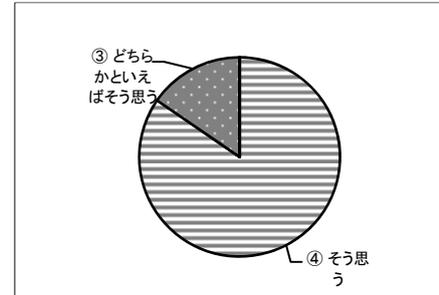
(10) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	25	65.8
③ どちらかといえばそう思う	12	31.6
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



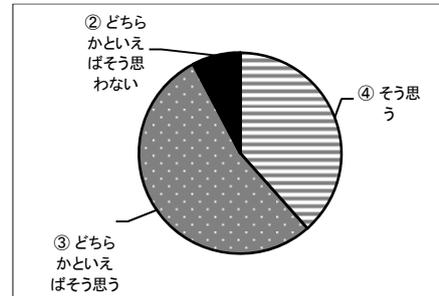
(11) 事務局の対応は丁寧だった

	回答数	割合
④ そう思う	33	84.6
③ どちらかといえばそう思う	6	15.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



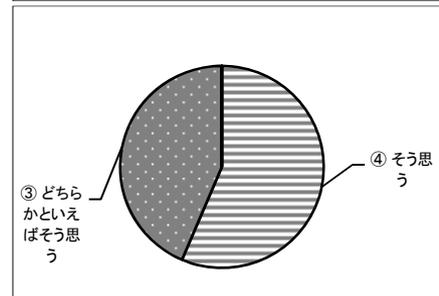
(12) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	15	38.5
③ どちらかといえばそう思う	21	53.8
② どちらかといえばそう思わない	3	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



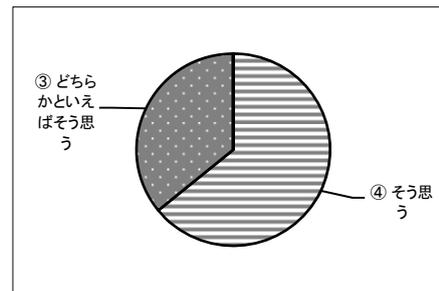
(13) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	22	56.4
③ どちらかといえばそう思う	17	43.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



(14) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

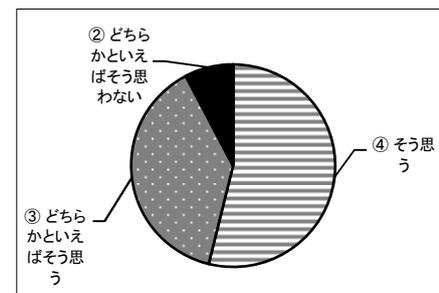
	回答数	割合
④ そう思う	25	64.1
③ どちらかといえばそう思う	14	35.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



3. 「学生相談入門」研修について

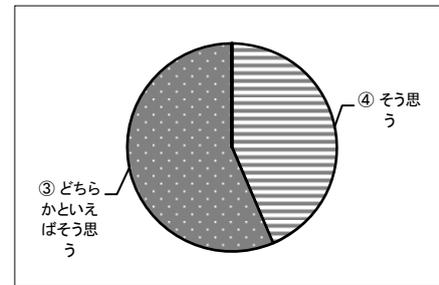
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	21	53.8
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	3	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



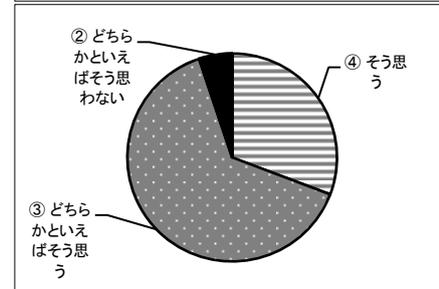
(2) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	17	43.6
③ どちらかといえばそう思う	22	56.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



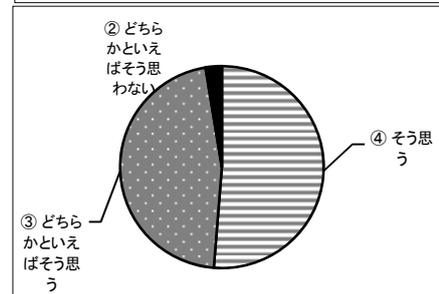
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	12	30.8
③ どちらかといえばそう思う	25	64.1
② どちらかといえばそう思わない	2	5.1
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



(4) 研修は満足できるものだった

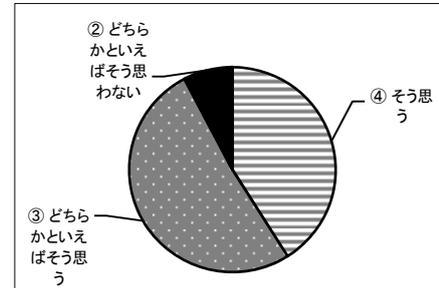
	回答数	割合
④ そう思う	20	51.3
③ どちらかといえばそう思う	18	46.2
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



4. 「学生危機管理対応入門」研修について

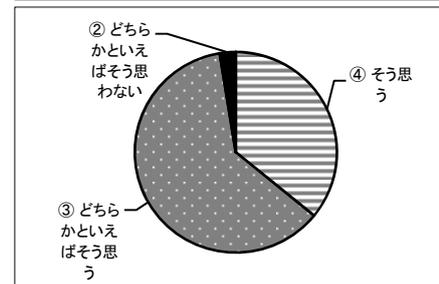
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	16	41.0
③ どちらかといえばそう思う	20	51.3
② どちらかといえばそう思わない	3	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



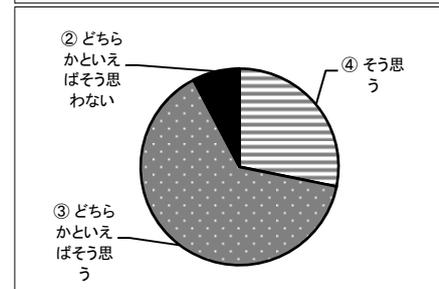
(2) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	14	35.9
③ どちらかといえばそう思う	24	61.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



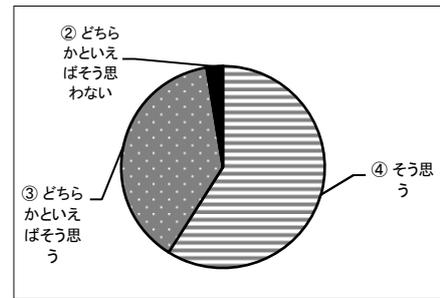
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	11	28.2
③ どちらかといえばそう思う	25	64.1
② どちらかといえばそう思わない	3	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



(4) 研修は満足できるものだった

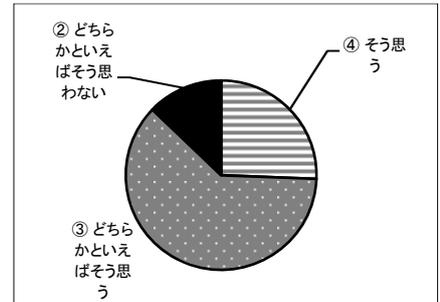
	回答数	割合
④ そう思う	23	59.0
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



5. 「キャリア支援入門」研修について

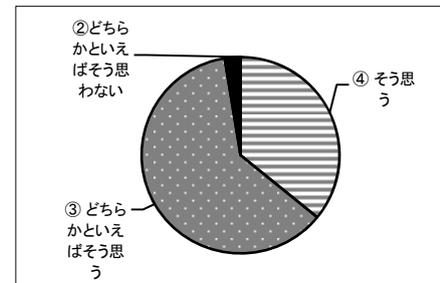
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	10	25.6
③ どちらかといえばそう思う	24	61.5
② どちらかといえばそう思わない	5	12.8
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



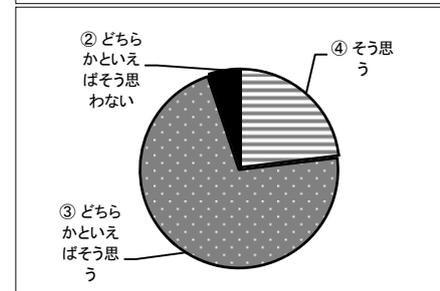
(2) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	14	35.9
③ どちらかといえばそう思う	24	61.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



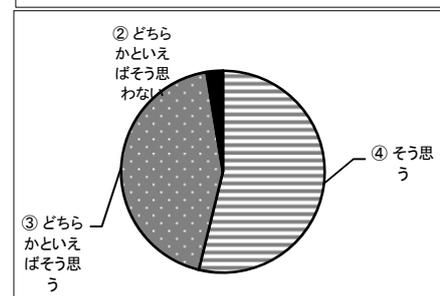
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	9	23.1
③ どちらかといえばそう思う	28	71.8
② どちらかといえばそう思わない	2	5.1
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



(4) 研修は満足できるものだった

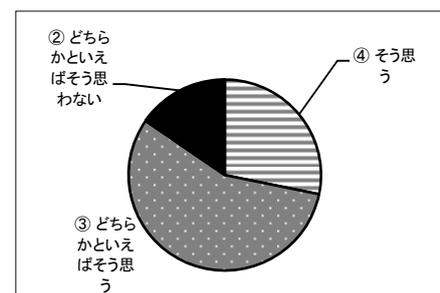
	回答数	割合
④ そう思う	21	53.8
③ どちらかといえばそう思う	17	43.6
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



6. 「業務担当職員のためのSD入門」研修について

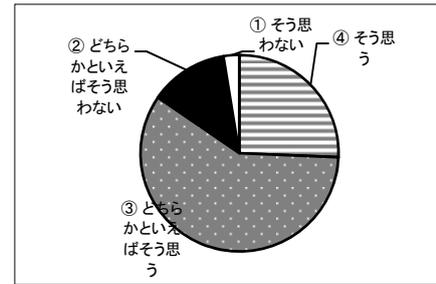
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	11	28.2
③ どちらかといえばそう思う	22	56.4
② どちらかといえばそう思わない	6	15.4
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



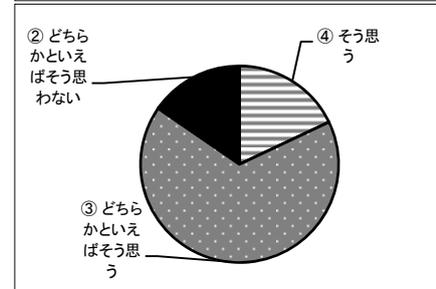
(2) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	10	25.6
③ どちらかといえばそう思う	23	59.0
② どちらかといえばそう思わない	5	12.8
① そう思わない	1	2.6
計	39	100.0



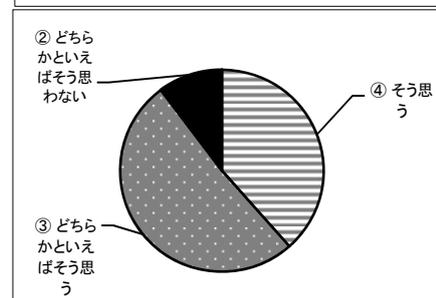
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	7	17.9
③ どちらかといえばそう思う	26	66.7
② どちらかといえばそう思わない	6	15.4
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



(4) 研修は満足できるものだった

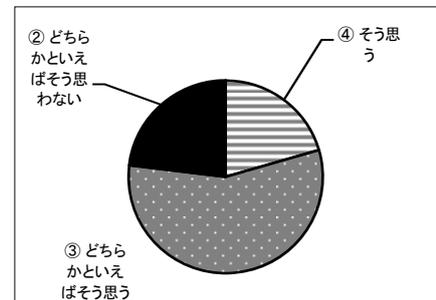
	回答数	割合
④ そう思う	15	38.5
③ どちらかといえばそう思う	20	51.3
② どちらかといえばそう思わない	4	10.3
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



7. 「FD概論」研修について

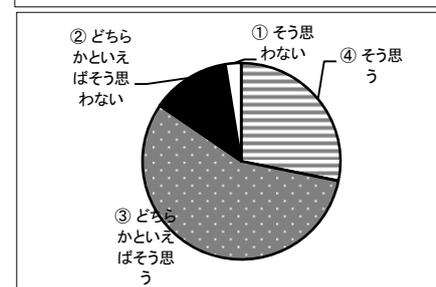
(1) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	8	20.5
③ どちらかといえばそう思う	22	56.4
② どちらかといえばそう思わない	9	23.1
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



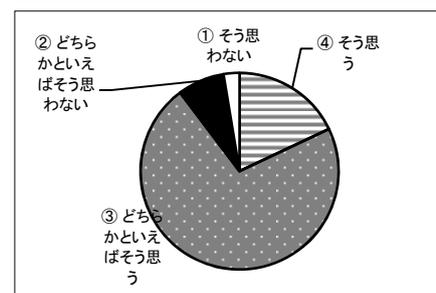
(2) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	11	28.2
③ どちらかといえばそう思う	22	56.4
② どちらかといえばそう思わない	5	12.8
① そう思わない	1	2.6
計	39	100.0



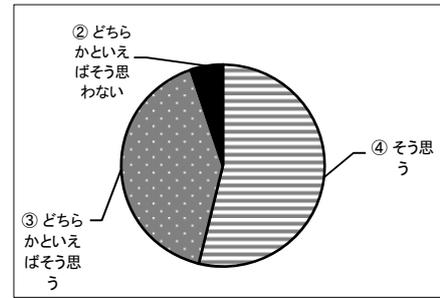
(3) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	7	17.9
③ どちらかといえばそう思う	28	71.8
② どちらかといえばそう思わない	3	7.7
① そう思わない	1	2.6
計	39	100.0



(4) 研修は満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	21	53.8
③ どちらかといえばそう思う	16	41.0
② どちらかといえばそう思わない	2	5.1
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



8. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

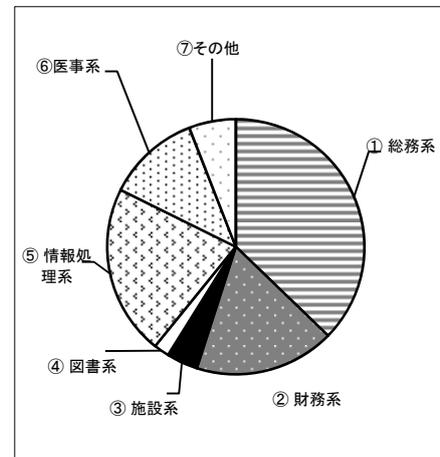
9. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

10. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。(複数回答可)

	回答数	割合
① 総務系	19	48.7
② 財務系	9	23.1
③ 施設系	2	5.1
④ 図書系	1	2.6
⑤ 情報処理系	11	28.2
⑥ 医事系	6	15.4
⑦ その他	3	7.7



⑦その他

- ・個人情報保護問題
- ・プレゼン能力
- ・就職・キャリア教育

【自由記述欄】

- 1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)
- ・ プレゼン能力 (5)
 - ・ 意見をまとめる力 (4)
 - ・ 学生対応 (どのように学生に関わるのか, どうすればいいのか) (3)
 - ・ 教務に関する知識 (3)
 - ・ F Dの知識 (2)
 - ・ 電話対応 (2)
 - ・ 大学を取り巻く環境・社会の流れ
 - ・ 教学マネジメント
 - ・ 自分の大学の取組 (F D・S D・危機管理等) について細かく知る必要がある
 - ・ 積極性
 - ・ キャリア教育
 - ・ キャリア支援
 - ・ 就職指導に関するスキルや知識
 - ・ 学生対応に関するさらに踏み込んだ知識
 - ・ 全体的に必要なであるが, 特に危機管理, S D, F Dの内容をもう一度確認して, 自分のものにできるようにする
 - ・ 学生, 親等, 対人におけるスキル
 - ・ 実践につながる学務系の基礎知識
 - ・ 学生, 保護者のクレーム対応
 - ・ 関係法令等の知識・社交性
 - ・ 危機管理の知識
 - ・ 労務管理
 - ・ 窓口の経験, 知識
 - ・ 規則等の確認
 - ・ 教務システムの使い方
 - ・ 学校業務について
 - ・ 入試についての知識 (4月に異動したところなので)
 - ・ 危機管理のマニュアルに目を通しておくこと。
 - ・ 学生相談 (メンタルヘルス)
 - ・ カリキュラムについて・個人的な希望ですが, 部活動の指導, 運営についての研修が受けたいです

5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
- ・ 新たな人的つながりができた。(5)
 - ・ 新しい知識を得ることが出来た。(4)
 - ・ 学生相談, 危機管理(2)
 - ・ 他人の意見をきく機会になったこと。(2)
 - ・ 内容が非常に充実していた点, 先生方のプレゼンの組み立て方, 話し方なども非常に参考になりました。
 - ・ 自分の業務に直結する内容が多かった。
 - ・ 学生相談や学生に接するための内容を勉強できて良かった。
 - ・ コミュニケーションカード, パネルディスカッション等の手法は今後の会合でも利用できると思う。
 - ・ 素敵な講師の先生方, 他大学の方と交流できてよかった。
 - ・ 学生相談の部分, 自分の足りないものを得ることができた。
 - ・ 学務系の様々な業務が幅広くわかった。
 - ・ 参加者の方たちのプレゼン能力の高さなどがわかって自分も頑張らなくちゃと思いました。
 - ・ 情報収集の重要性, 井戸端会議からいろいろなアイデアが生まれることを再確認できてよかった。
 - ・ パネルディスカッションをしたのが初めてで、とても良かった。(内容は難しかったが)
 - ・ 講師の方が実際に研修内容にかかる業務に携わっている方ばかりで、理想論ばかりでなく生の声を知ることができた気がします。
 - ・ 改めて認識したこと, より知識を深めたいと思うことが多くあった。
 - ・ 危機管理やFDのことについて業務上必要なのでとても勉強になり良かったです。
 - ・ パネルディスカッションが面白かった。
 - ・ グループワーク
 - ・ 同様の研修を以前にも受けたが, 色々新しいことを学べたり, 再確認することができた。
 - ・ 他大学の状況(マニュアル作成, 危機管理の意識など)を具体的に知ることができた。(4)
 - ・ 意識する上で良かったと思います。先生も受講者も上手に発表できていて羨ましかったです。
 - ・ 幅広く職務について学ぶことができた。
 - ・ 消極的な自分も多少発言できたこと。
 - ・ あいまいだったFD等の知識を改めて見直すことができた。
 - ・ 学生対応について深く学べて良かったです。
 - ・ 教務や学生の対応等今まで知らなかった内容を知ることができた。
 - ・ 知識の乏しかった分野について勉強できた。
 - ・ 他大学との比較ができたこと
 - ・ 自分自身の行動面などに問題点を見つけることができたこと
 - ・ いろいろ実践面での知識を身につけることができた。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ ワークはグループ内のコミュニケーションを促進したり、主体的な参加を促すメリットはありますが、あまり多いと疲れてしまうのでは？
- ・ テーマに対する講師や他大学出席者の取組事例をもっと知りたいと（個人的には）思います。
- ・ 対象者が大学・学務系前提でお話しされるのは難しかった。
- ・ モンスター学生・保護者への対応が知れば嬉しいです。
- ・ 手元に資料があった方がいいです。前の人でスライドがあまり見えませんでした。
- ・ もっとワークがあっても良かった。
- ・ FD概論・SD・FD（教職員）合同で行うものがあったても良いのでは。
- ・ 教務系は関わっていないので、よく分からなかった。
- ・ 開始時間を 13:00 からにして欲しかったです。
- ・ 会場室内で飲み物が飲めないのはこの時期つらいです。
- ・ 駐車場についての記載を注意事項に入れて欲しかったです。車で来ていいものかどうかわからなかったのです。
- ・ 会場に駐車場があると少し嬉しかったです。
- ・ 今回場所が四国大学内にあると勘違いしてしまった。大学名が入っていて余計に混乱したので、住所や注意書き（キャンパス外）などを記載して欲しい。
- ・ 飲食場
- ・ 他県の参加の方の都合もあり仕方ないと思うが、1日のスケジュールがハード。

SPODフォーラム2014「国際連携系職員養成プログラム（レベルⅡ）」

－留学生受入実践－

1. 到達目標

- ・留学生入学ガイダンスを設計し、実施することができる。
- ・留学生に問題が生じた場合、必要に応じて専門家へ紹介することができる。
- ・地域や行政等関係諸機関との連携を構築することができる。

2. 対象者

学内の国際交流に関わる立場、または国際交流に関わる業務に関心のある教職員

3. 日 時

平成26年8月28日（木）13:00～17:30

4. 場 所

高知大学 朝倉キャンパス 共通教育1号館 136番教室

5. 担当講師

Ruth Vergin（愛媛大学 国際連携推進機構 国際教育支援センター 教授）

高橋 志野（愛媛大学 国際連携推進機構 国際教育支援センター 准教授）

6. 概 要

外国人留学生にとって「安心できる魅力のある受入体制」とは、どのようなものでしょうか。各教育機関で実施してきた「過去の留学生数に基づいた」取り組みは、最近の外国人留学生受入数の増加・多様化に伴い限界に近づいてきており、多くの機関で新たな受入体制の構築が求められているのではないのでしょうか。

本プログラムでは、大学教職員が連携して運営している受入体制の一事例として、愛媛大学の事例を紹介しつつ、留学生受入の際の必須項目そして現状と課題を確認していきます。特に、地域リソースの活用方法・ネットワーク形成については、参加者全員で自分達の実践事例（失敗談や現在進行中の事例も大歓迎です）を積極的に共有することで、それぞれの教育機関で効率的で有効な「大学教職員が一体となった受入体制構築」が可能になることを期待しています。

国際連携系職員養成プログラム（レベルⅡ）「留学生受入実践」アンケート集計結果

当日参加者数：22名

アンケート回答者数：21名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合	その他の記述内容
① 大学	19	90.5	
② 短期大学	2	9.5	
③ 高等専門学校	0	0.0	
④ その他 ()	0	0.0	
計	21	100.0	

(2) 所属先の設置者

	度数	割合	その他の記述内容
① 国（国立大学法人）	9	42.9	
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	6	28.6	
③ 学校法人	6	28.6	
④ その他 ()	0	0.0	
計	21	100.0	

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	16	76.2
② 北海道	0	0.0
③ 東北	1	4.8
④ 関東	0	0.0
⑤ 中部	0	0.0
⑥ 近畿	1	4.8
⑦ 中国	1	4.8
⑧ 九州・沖縄	2	9.5
計	21	100.0

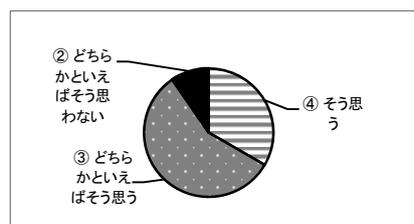
(4) 職種

	度数	割合	その他の記述内容
① 教員	5	23.8	
② 職員	16	76.2	
③ 学生	0	0.0	
④ その他 ()	0	0.0	
計	21	100.0	

2. この研修について

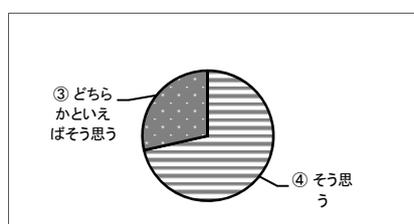
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	7	33.3
③ どちらかといえばそう思う	12	57.1
② どちらかといえばそう思わない	2	9.5
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



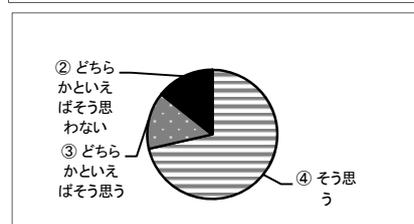
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	15	71.4
③ どちらかといえばそう思う	6	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



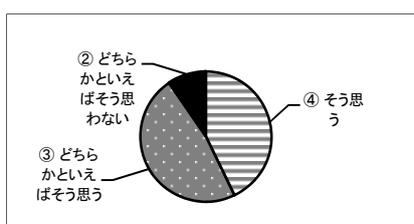
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	15	71.4
③ どちらかといえばそう思う	3	14.3
② どちらかといえばそう思わない	3	14.3
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



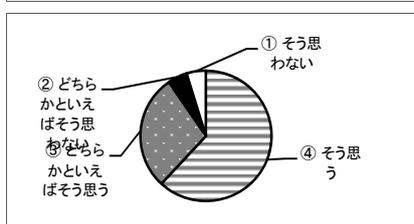
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	9	42.9
③ どちらかといえばそう思う	10	47.6
② どちらかといえばそう思わない	2	9.5
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



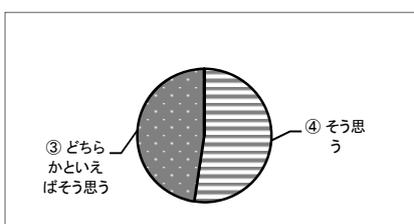
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	13	61.9
③ どちらかといえばそう思う	6	28.6
② どちらかといえばそう思わない	1	4.8
① そう思わない	1	4.8
計	21	100.0



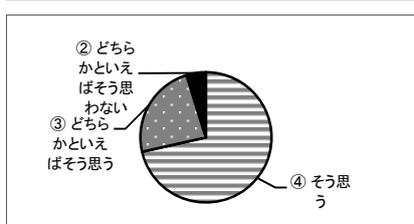
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	11	52.4
③ どちらかといえばそう思う	10	47.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



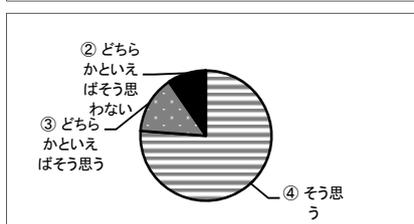
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	15	71.4
③ どちらかといえばそう思う	5	23.8
② どちらかといえばそう思わない	1	4.8
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	16	76.2
③ どちらかといえばそう思う	3	14.3
② どちらかといえばそう思わない	2	9.5
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 様々な事例が聞けた。
- 愛媛大学の具体的な事例を基にして、個々の大学の情報交換ができて有意義な会でした。
- 講師の話が分かりやすく良かった。実践を取り入れ効果的だった。
- 日頃悩んでいた問題の解決法が知れたことと、他大学の取組について共有できた点が良かった。
- 受入プログラム作成にあたり、皆さんの意見が聞けたこと、具体的かつ実行できそうです。ありがとうございました。
- 意見交換が自由に行われたこと。具体例を出して説明していただけたので理解しやすかった。
- 教育として、留学生受入の問題点等が理解できた。
- 留学生の受入担当者の業務が多岐にわたること、苦勞されている点を知れたこと。
- 事例紹介が今後の仕事に役立つと思いました。ありがとうございました。
- 直接自分の職務には関係はないかもしれないが、様々な状況や事例を通して課題を学ぶことができた。
- わかりやすい。グループワークで活性化された。
- 他大学の事例を知ることができた。
- 他大学の状況について知れたところ。あと、留学生受入について改めて話をする場を持てたこと。
- 愛媛大学の事例は大変参考になりました。今後も本学に帰って改善に努めたいと思います。
- 愛媛大学が留学生に具体的にどのような対応をしているかを知ることができ、大変参考になりました。
- 大学の留学生数によってグループ分けし、意見交換ができたことはとても有意義でした。
- 素晴らしい愛媛大学のプログラムを知ることができてとても良かったです。他大学の状況を知り、今後の業務に行かせたいと思います。
- 他大学の取組について知ることができた。
- 実務は経験していませんが、とても役に立ちました。将来国際交流に携わる仕事をし、活かしたいと思います。
- 実務を担当している方の生の体験をたくさん聞けた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 事前のペーパー（課題）提供があるとなお良いです。
- もう少し進め方が円滑になれば4時間ではなく2時間で十分なのでは？
- 職員向けと教員向けのプログラムを分けて作成してはどうだろうか？
- 時間を短くするともっと多くの方々が参加可能になるでしょう。
- 留学生の構成区分別（院生、学部生など）に、問題解決できるような場があれば嬉しいです。
- とても分かりやすく良かったです。ありがとうございました。
- 段取り、ワークグループが改善の余地ありだと思いました。

次世代リーダー養成ゼミナール実施要項

1. 目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に養成する。

2. 到達目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

※詳細については、それぞれの到達目標が、本ゼミナールのカリキュラムでどのように達成されるかの関係性を一覧にしたカリキュラムマップをご参照ください。

3. 開催日（期間）

（第1回）平成26年5月22日（木）～24日（土）（愛媛大学）

※次世代リーダー養成ゼミナールのプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

平成26年度の開催予定

（第2回）平成26年 7月17日（木）～19日（土）（徳島）

（第3回）平成26年11月 6日（木）～ 8日（土）（愛媛）

（第4回）平成27年 1月22日（木）～23日（金）（香川）

4. 場 所

愛媛県松山市道後樋又10番13号 愛媛大学 本部第1・第2会議室

5. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
 - ・各機関の長が推薦する者。
 - ・SPOD加盟校の職員。
 - ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
- ※スタッフ・ポートフォリオ様式、記入要領等を送付しますので、ご参照ください。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
 - ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。

※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。

※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

6. 募集人員

8名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

7. 講師

桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科	教授	諸星 裕
桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科	教授	山本眞一
筑波大学大学研究センター	教授	金子元久
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	教授	秦 敬治
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	准教授	山田剛史
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師	阿部光伸
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師	仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	清水栄子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	丸山智子
愛媛大学教育学生支援部	部長	吉田一恵

8. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなす、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

9. 主催

主担当：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

協力校：高知大学

次世代リーダー養成ゼミナール（第1回）日程表

日時：5月22日（木）～24日（土）

場所：愛媛大学 本部5階第1・第2会議室

時間	(1日目) 5/22		(2日目) 5/23		(3日目) 5/24		時間
	4期生	5期生	4期生	5期生	4期生	5期生	
10:00	講師 清水 栄子 メンター入門		講師 筑波大学 金子 元久 教育財政管理・戦略論		講師 秦・阿部・仲道・清水・丸山・吉田 プロジェクト進捗報告	講師 桜美林大学 山本 眞一 高等教育政策論	9:00
12:00	昼食		昼食		昼食		12:00
13:00	開講式 アイスブレイク						13:00
13:30	講師 丸山・阿部・仲道・清水 SPODシラバース作成	講師 秦 敬治 リーダーシップ論&実践I	講師 吉田・清水・丸山・阿部・仲道 SPODシラバース作成	講師 山田 剛史 高等教育IR		5期生による自大学プレゼンテーション 講師 秦・阿部・仲道・清水・丸山・吉田	15:00
16:30	メンタリング実践I ※4期生が5期生へのメンタリング		講師 桜美林大学 諸星 裕 大学行政管理日米比較				17:00
17:30	休憩						18:00
18:30	リーダーシップ育成実践 (ELS)						
19:00	講師 秦・阿部・仲道・清水・丸山・吉田		情報交換会				
21:00	学生との情報交換会						

(注) 都合により、時間を変更する場合があります。

次世代リーダー養成ゼミナール実施要項

1. 目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に養成する。

2. 到達目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

※詳細については、それぞれの到達目標が、本ゼミナールのカリキュラムでどのように達成されるかの関係性を一覧にしたカリキュラムマップをご参照ください。

3. 開催日（期間）

（第2回） 平成26年7月17日（木）～19日（土） （徳島大学）

※次世代リーダー養成ゼミナールのプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

平成26年度の開催予定

（第1回） 平成26年 5月22日（木）～24日（土）（愛媛）

（第3回） 平成26年11月 6日（木）～ 8日（土）（愛媛）

（第4回） 平成27年 1月22日（木）～23日（金）（香川）

4. 場 所

徳島市南常三島町2丁目1番地

徳島大学常三島キャンパス

共通教育6号館303・306講義室

5. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
※スタッフ・ポートフォリオ様式、記入要領等を送付しますので、ご参照ください。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。
※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。
※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

6. 募集人員

8名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

7. 講師

桜美林大学心理・教育学系健康福祉学群	准教授	石渡尊子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	教授	秦敬治
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師	阿部光伸
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師	仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	清水栄子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	丸山智子
愛媛大学教育学生支援部	部長	吉田一恵

8. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

9. 主催

主担当：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

協力校：高知大学

次世代リーダー養成ゼミナール（第2回）日程表

日時：7月17日（木）～19日（土）

場所：徳島大学 共通教育6号館303・306講義室

時間	(1日目) 7/17 (木)		(2日目) 7/18 (金)		(3日目) 7/19 (土)		
	4期生	5期生	4期生	5期生	4期生	5期生	
9:00	講師 阿部 光伸 S P O D フオーラム プログラム 準備		講師 吉田 阿部・仲道・清水・丸山・ S P O D フオーラム プログラム 準備	講師 秦 敬治 リーダーシップ論&実践II		講師 准教授 桜美林大学 石渡 尊子 高等教育史	9:00
12:00	昼食		昼食		昼食		12:00
13:00	開講式		4期生によるSPODフオーラム講義と講評 若手職員に贈る「仕事の魅力発見！」講座 （気づきから築くアクションプラン） 講師 秦・阿部・仲道・清水・丸山・吉田		講師 丸山・仲道・清水・ 吉田 S P O D フオーラム プログラム 準備	講師 阿部 光伸 S D 演習	13:00
15:00	講師 阿部 光伸 S P O D フオーラム プログラム 準備	講師 仲道・清水・丸山・吉田 1990年代以降の大学改革 プレゼンテーション			15:00		
18:00							
19:00							
19:30	情報交換会		情報交換会				
21:00							
21:30							

(注) 都合により、時間を変更する場合があります。

※色付き箇所は4講義につきましては、次世代リーダー養成ゼミナール受講生以外にも開放いたします。

次世代リーダー養成ゼミナール実施要項

1. 目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に養成する。

2. 到達目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

※詳細については、それぞれの到達目標が、本ゼミナールのカリキュラムでどのように達成されるかの関係性を一覧にしたカリキュラムマップをご参照ください。

3. 開催日（期間）

（第3回）平成26年11月 6日（木）～ 8日（土）（愛媛大学）

※次世代リーダー養成ゼミナールのプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

平成26年度の開催予定

（第1回）平成26年 5月22日（木）～24日（土）（愛媛大学）※実施済

（第2回）平成26年 7月17日（木）～19日（土）（徳島大学）※実施済

（第4回）平成27年 1月22日（木）～23日（金）（香川大学）

4. 場 所

愛媛県松山市道後樋又10番13号 愛媛大学 本部第1・第2・第3会議室

5. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
- ・**※スタッフ・ポートフォリオ様式、記入要領等を送付しますので、ご参照ください。**
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。

※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。

※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

6. 募集人員

8名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

7. 講師

追手門学院大学	副学長 秦 敬治
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師 阿部光伸
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師 仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教 清水栄子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教 丸山智子
愛媛大学教育学生支援部	部長 吉田一恵
愛媛大学教育学生支援部教育企画課	副課長 織田隆司

8. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

9. 主催

主担当：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

協力校：高知大学

次世代リーダー養成ゼミナール（第3回）日程表

日時：11月6日（木）～8日（土）

場所：愛媛大学本部第1・第2・第3会議室

時間	11月6日（木）			11月7日（金）			11月8日（土）			時間
	南大阪コンソーシアム受講生	4期生	5期生	南大阪コンソーシアム受講生	4期生	5期生	南大阪コンソーシアム受講生	4期生	5期生	
										9:00
					講師 丸山・仲道・清水 4期生による プロジェクト進捗報告			危機管理論&実践 講師 吉田・阿部		
				プロジェクト マネジメント 講師 丸山	プロジェクト 論文の書き方 講師 仲道	プロジェクト マネジメント 講師 丸山		南大阪コンソーシアム受講生による 課題プレゼンテーション 講師 阿部・仲道・清水・丸山・吉田		11:00
12:45	開講式			昼食			昼食			12:30
13:00	講師 追手門学院大学 秦 敬治 メンタリング実践	講師 清水・丸山・吉田・仲道 プロジェクト論文指導	講師 仲道 対談準備	講師 阿部 ブレゼンテーション演習	講師 清水 メンタリング実践II		講師 阿部・仲道・清水・丸山・吉田 5期生による 課題プレゼンテーション			13:30
14:00										14:30
14:30	自大学 講師 阿部・吉田 プレゼンテーション	S Dプログラム構築実践I 講師 丸山・清水	トップリーダーとの対談 愛媛大学理事 富田 靖博 聖カタリナ大学事務局長 稲葉 益久 松山大学常務理事 岡村 伸生	教職協働演習 講師 追手門学院大学 秦 敬治						17:00
17:00							閉講式			17:15
18:00										
19:00	情報交換会			情報交換会（ディベート演習）						
21:00										

※ 都合により、時間を変更する場合があります。

※ 色付き箇所の3講義につきましては、次世代リーダー養成ゼミナール受講生以外にも開放いたします。

次世代リーダー養成ゼミナール実施要項

1. 目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に養成する。

2. 到達目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

※詳細については、それぞれの到達目標が、本ゼミナールのカリキュラムでどのように達成されるかの関係性を一覧にしたカリキュラムマップをご参照ください。

3. 開催日（期間）

（第4回）平成27年 1月22日（木）～23日（金）（香川大学）

※次世代リーダー養成ゼミナールのプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

平成26年度の開催予定

（第1回）平成26年 5月22日（木）～24日（土）（愛媛大学）※実施済

（第2回）平成26年 7月17日（木）～19日（土）（徳島大学）※実施済

（第3回）平成26年11月 6日（木）～ 8日（土）（愛媛大学）※実施済

4. 場所

香川大学 幸町キャンパス（香川県高松市幸町1番1号）

研究交流棟5階研究者交流スペース、6階第1・第2会議室

5. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
※スタッフ・ポートフォリオ様式、記入要領等を送付しますので、ご参照ください。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。
※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。
※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

6. 募集人員

8名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

7. 講師

追手門学院大学	副学長 秦 敬治
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師 阿部光伸
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	講師 仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教 清水栄子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教 丸山智子
愛媛大学教育学生支援部	部長 吉田一恵
愛媛大学教育学生支援部教育企画課	副課長 織田隆司

8. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。
※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

9. 主催

主担当：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局
協力校：高知大学

次世代リーダー養成ゼミナール（第4回）日程表

日時：1月22日（木）～23日（金）

場所：香川大学 幸町キャンパス

研究交流棟5階研究者交流スペース，6階第1・第2会議室

時間	(1日目)		(2日目)		時間
	4期生	5期生	4期生	5期生	
11:00	開講式		講師 丸山・吉田・織田 5期生 プロジェクト シエック ンク	講師 丸山・吉田・織田 5期生 プロジェクト シエック ンク	9:00
11:30					12:00
12:30	SDプログラム 構築実践 (シラバスの書き方) 講師 仲道	SPODフォーラム 準備 講師 阿部	プロジェクト指導 講師 阿部・仲道・清水・丸山・吉田・織田		12:30
13:30	昼食		昼食		13:30
17:30	講師 阿部・仲道・清水・丸山・吉田・織田 4期生による修了プロジェクト発表		講師 秦・阿部・吉田・清水 最終口頭試問	講師 仲道・丸山 インスタラクショナル・デザイン（ID）	16:30
18:00					17:00
18:00	修了プロジェクト 論文指導	SPODフォーラム 準備	修了式		17:30
19:00	情報交換会		修了パーティー		18:00
21:00					19:00
					21:00

(注) 都合により、時間を変更する場合があります。

職員のための講師養成講座実施要項

1. 目的

SPOD加盟校の意欲のある職員に対して、研修講師として必要な心構え、知識、技法を習得させることにより、将来のSPOD-SD講師として育成することを目的とする。

2. 内容

- (1) 組織内講師の役割を説明することができる
- (2) 教育課題の探索から研修詳細の設計まで考え方と方法を習得する
- (3) 企画した内容を伝達できるインストラクションスキルを習得する

3. 対象者

- ・説明会、プレゼンテーション等、人前で話すときに自信を持ちたい職員
- ・将来SPOD-SD講師になる意欲のある職員

4. 日時

平成26年6月12日（木）～6月13日（金）

5. 場所

愛媛大学本部5階 第2会議室

6. 旅費

愛媛大学の旅費規則に準じて支給します。

7. 担当講師

愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	講師	阿部	光伸
愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	丸山	智子

8. 受講定員

20名

9. 修了証書

本研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、愛媛大学

職員のための講師養成講座日程表

研修会場: 愛媛大学本部5階 第2会議室

	8:40	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	17:00	18:00
第1日目 6月12日 (木)		受付	オリエンテーション	1. 1人1分程度で自己紹介 (ビデオ撮影) 2. 「よい研修」の条件を考える <個人ワーク・グループワーク> 3. 魅力的な講師とは? <個人ワーク・グループワーク>	休憩	4. プレゼンテーション力を身につける <個人ワーク・グループワーク> <講義> 5. PREP法の活用 <個人ワーク・グループワーク> <講義> ① 自己紹介 ② 自分の仕事 6. ビデオを見て、自分のプレゼンテーションを知る <ビデオ確認>			
					休憩	7. プレゼンテーション演習 <ロールプレイング> <講義> ① アイスブレイク 8. インストラクションスキルを身につける① ~受講者との関わり方~ <個人・グループワーク> <講義> 9. インストラクションスキルを身につける② ~経験談を考える~ <個人・グループワーク> <講義>	10. 実践ロールプレイング <個人ワーク・グループワーク> <ロールプレイング> 11. 実践ロールプレイング ~2回目<個人ワーク・グループワーク> <ロールプレイング> 12. 成果発表~1人ずつ(あるいはグループの代表) <全体発表> 13. 2日間のまとめ	修了式	
第2日目 6月13日 (金)									

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：職員のための講師養成講座
 実施日：平成26年6月12日（木）～6月13日（金）
 実施会場：愛媛大学本部第2会議室
 アンケート回答者数：13名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	13	100.0
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	13	100.0

(2) 所属先の設置者

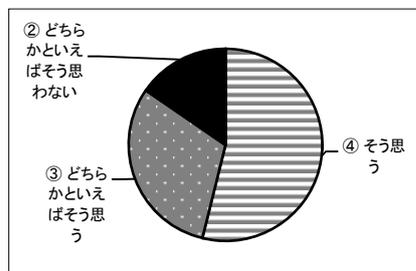
	回答数	割合
① 国(国立大学法人)	9	69.2
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	1	7.7
③ 学校法人	3	23.1
④ その他()	0	0.0
計	13	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。(具体的に) 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

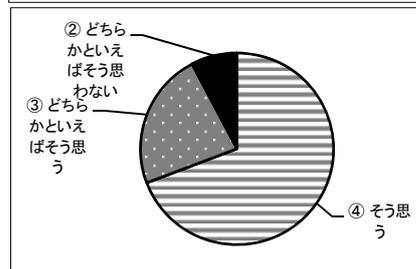
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	7	53.8
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	2	15.4
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



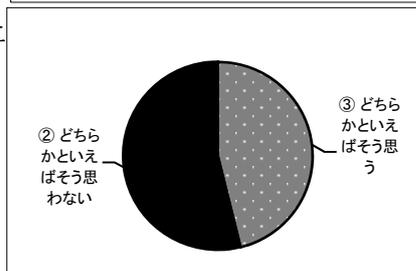
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	3	23.1
② どちらかといえばそう思わない	1	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



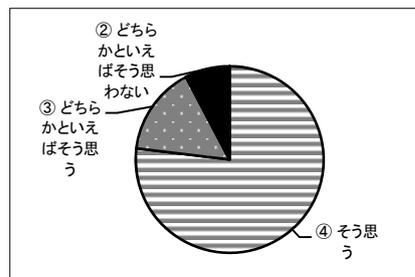
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	0	0.0
③ どちらかといえばそう思う	6	46.2
② どちらかといえばそう思わない	7	53.8
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

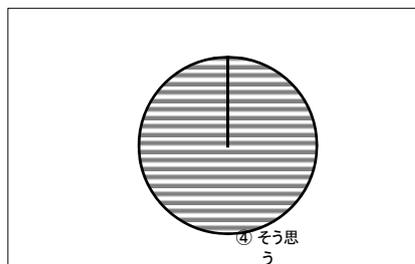
	回答数	割合
④ そう思う	10	76.9
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	1	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



3. 研修プログラムの設計について

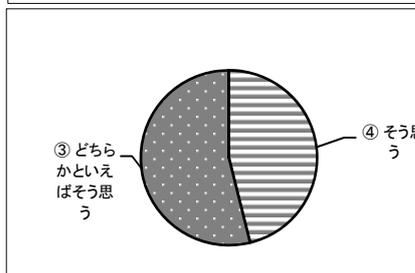
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	13	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



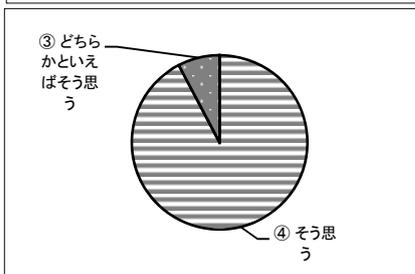
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	6	46.2
③ どちらかといえばそう思う	7	53.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



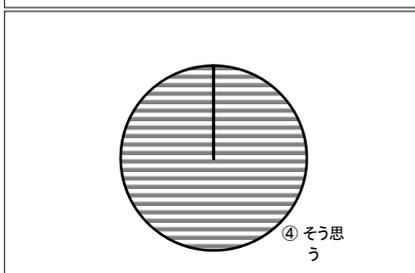
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	12	92.3
③ どちらかといえばそう思う	1	7.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



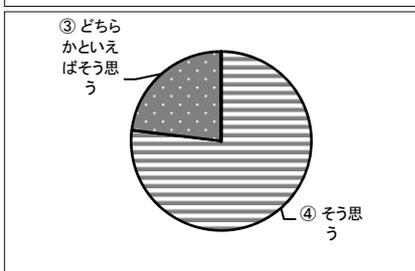
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	13	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



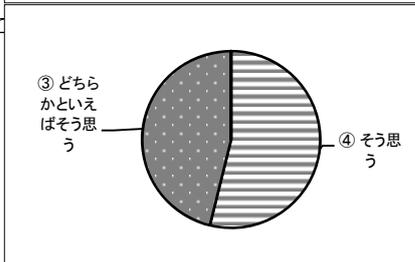
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	10	76.9
③ どちらかといえばそう思う	3	23.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



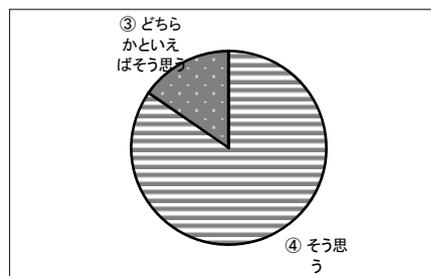
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	7	53.8
③ どちらかといえばそう思う	6	46.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



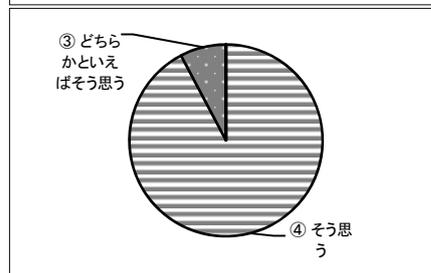
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	11	84.6
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



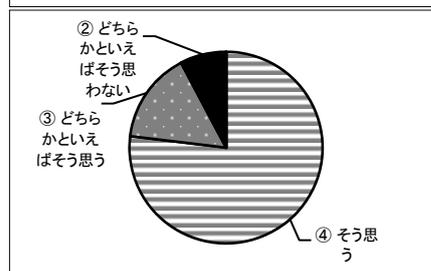
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	12	92.3
③ どちらかといえばそう思う	1	7.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

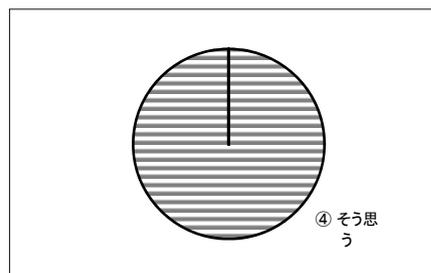
	回答数	割合
④ そう思う	10	76.9
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	1	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



4. 研修スタッフについて

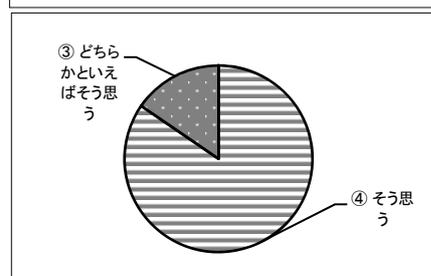
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	13	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



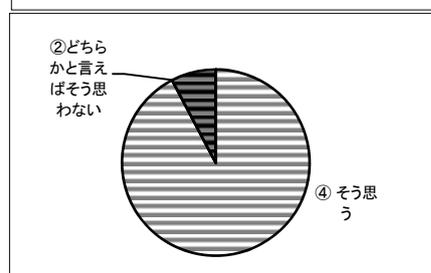
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	11	84.6
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



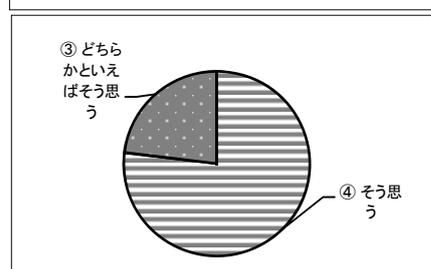
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	12	92.3
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	1	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



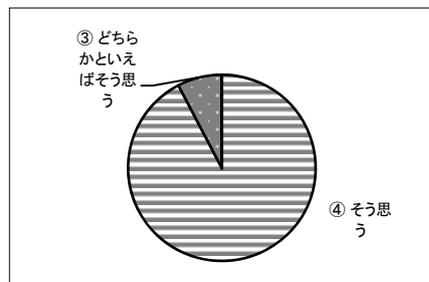
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	10	76.9
③ どちらかといえばそう思う	3	23.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

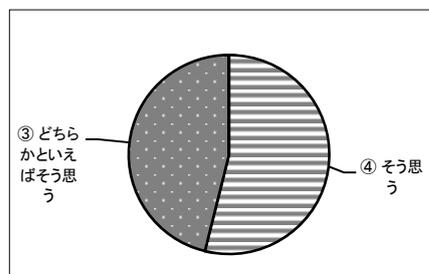
	回答数	割合
④ そう思う	12	92.3
③ どちらかといえばそう思う	1	7.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



5. 研修成果について

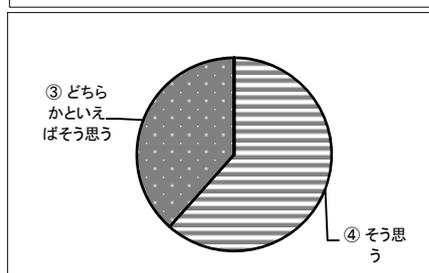
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	7	53.8
③ どちらかといえばそう思う	6	46.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



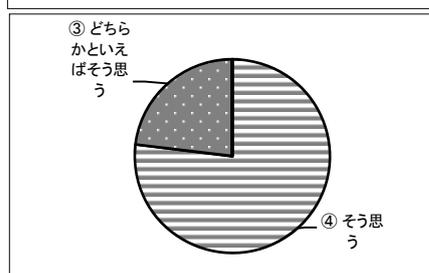
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	8	61.5
③ どちらかといえばそう思う	5	38.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



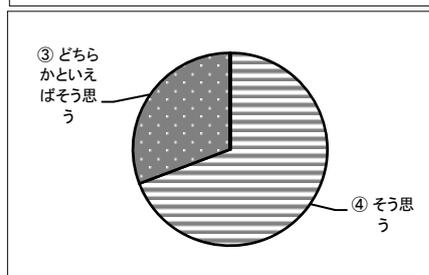
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	10	76.9
③ どちらかといえばそう思う	3	23.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



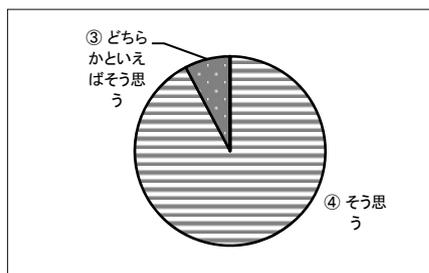
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

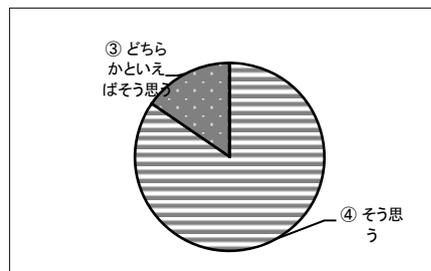
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	12	92.3
③ どちらかといえばそう思う	1	7.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



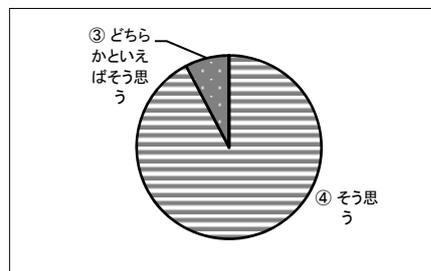
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	11	84.6
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	12	37.5
③ どちらかといえばそう思う	1	7.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



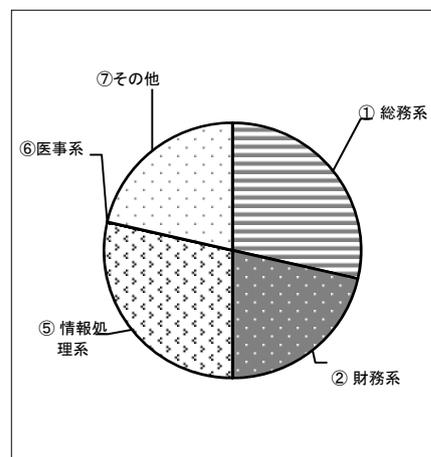
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	4	30.8
② 財務系	3	23.1
③ 施設系	0	0.0
④ 図書系	0	0.0
⑤ 情報処理系	4	30.8
⑥ 医事系	0	0.0
⑦ その他	3	23.1



⑦その他

- ・年輩者の講座
- ・ラインをはずれてただいるだけのお局さん、定年待つばかりの男性職員のパワーアップ講座（戦力として生かす方法）
- ・国際交流関係（英会話、英語の公文書作成）

【自由記述欄】

- 1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)
- ・ 自分の思い、考え方を効果的に伝える方法
 - ・ 考えを素早くまとめる。構成する。
 - ・ 発声 (声が小さい)
 - ・ ビジネスマナー
 - ・ 人前で話すスキル
 - ・ 英語力
 - ・ 交渉力 (海外の大学とのコミュニケーション)
 - ・ 人前で堂々と自分の意見を言えること
 - ・ 他者とのコミュニケーションを円滑にすること
 - ・ 理論的に考察すること
 - ・ 自分の経験したことの整理・自己分析をすること
 - ・ コミュニケーションスキル
 - ・ パワーポイント作成能力
 - ・ 時間管理技術
 - ・ 自己分析をする力
 - ・ 傾聴
 - ・ 資料の整理能力
 - ・ 記録する力
 - ・ 業務に関する専門的な知識
 - ・ 業務改善力
5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
- ・ モチベーションの高い人達が集まっていたので、どんどん吸収していこうとお互いに刺激ができたと思います。
 - ・ 自分ができると思っていたことと実際にできることに差があると気づけた点。
 - ・ 自分が人前で話す場面を客観的に見られたこと。
 - ・ 講師をする際の色々なスキルを学べたこと。
 - ・ 研修のプログラム (内容・時間) 構成がとても適切で、2日間意欲的に取り組めた。
 - ・ ポイントを学んで実際に自己紹介等をし、フィードバックをきちんともらった点。
 - ・ ビデオ撮影を通して自分の弱点を明らかにすることができました。今後改善していきたいと思います。
 - ・ 何度もプレゼンをし、評価してもらったこと。
 - ・ 自分を客観視できた。
 - ・ ビデオ録画はとても良いです。
 - ・ 自分が話をしているところをビデオで観るとというのは、自分の話し方やそれを聞いてどれだけ内容が伝わるのかが客観的にわかり、いい経験となりました。
 - ・ 新しい見方もでき仕事を進める上でプラスになった。若くて優秀職員の皆さんと接してエネルギーになった。
 - ・ 進捗度を客観的に知ることができて良かったと思います。(ビデオ録画, 受講者同士のプレゼンテーション, チェックシート, その場での先生方のコメント)
 - ・ いかに深く分析していないかがわかった。
 - ・ 具体的でワークが多く、充実していた。
 - ・ 講師が非常に良かった。
 - ・ 研修中に体験する緊張感

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
- ・ もっと参加人数が多ければ、いろいろな人のプレゼンを見れたり、意見を聞くことができたと思う。
 - ・ 昼休みの課題がない方が、研修生同士の交流を深める時間が割けたと思います。
 - ・ ビデオ撮影の機会が多いとよいと思いました。
 - ・ 事前のプログラムを選択しておけば情報収集もできていたかもしれません。
 - ・ 資料はもう少し整理するか、一冊の本にして配布して欲しい。系統だてるよう番号をふるとか工夫が必要だと思った。
 - ・ 強いて言えば、スクリーン（室内の明るさ・照明）がより見やすい明るさであれば尚良いかと思います。
 - ・ 2日間では少し短いように感じました。

SPOD－SDC名簿

番号	年月日	所属 / 職名	氏名	備考
1	H23.7.14	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室／教授	秦 敬治	
2	H23.7.14	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室／助教	大竹 奈津子	
3	H23.7.14	愛媛大学教育学生支援部／ 部長	米澤 慎二	
4	H24.7.31	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室／特任助教	阿部 光伸	
5	H24.12.7	愛媛大学教育学生支援部教育 企画課／部課員	岸岡 洋介	
6	H25.12.18	愛媛大学総務部人事課／ 課長	吉田 一恵	
7	H25.12.18	愛媛大学総務部人事課／ チームリーダー	久保 秀二	
8	H25.12.18	愛媛大学総務部人事課／ チームリーダー	上甲 功治	
9	H26.11.19	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室／講師	仲道 雅輝	
10	H26.11.19	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室／助教	清水 栄子	
11	H26.11.19	愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室／特任助教	丸山 智子	
12	H26.11.19	愛媛大学総務部人事課／ 課長	秋谷 恵子	

(注) 資格の取消しを行ったときは、備考欄に取消年月日及び取消理由等を記載すること。

四国地区大学教職員能力開発ネットワークにおける
スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定に関する申合せ

平成 26 年 11 月 19 日
ネットワークコア運営協議会

(趣旨)

第 1 条 この申合せは、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（以下「SPOD」という。）において、職員の能力開発（以下「SD」という。）に関する知識・技術を修得し、自大学及びSPOD加盟校におけるSDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者の資格認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(資格の名称)

第 2 条 資格の名称は、「SPOD—スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター (Staff Development Coordinator)」(以下「SPOD—SDC」という。)とする。

(資格の認定)

第 3 条 SPOD—SDCの資格の認定は、別紙に定める認定基準を満たし、かつ、SPOD加盟校人事課長又はSD担当課長相当が別紙様式 1 により推薦する自大学の教職員に対して、SPODが別紙様式 2 の資格認定証書を授与することによって行う。

2 前項の資格認定証書は、SD専門部会において研修プログラム受講歴及び研修講師歴等を踏まえ審査し、SPODネットワークコア運営協議会が承認した者に授与する。

(資格の有効期間)

第 4 条 SPOD—SDC資格の有効期間は、認定日から、SPOD事業の運営終了日までとする。

(資格認定・授与原簿)

第 5 条 SPOD—SDC資格を認定して資格認定証書を授与したとき、及び第 7 条に規定する資格の取消しを行ったときは、別紙様式 3 のSPOD—SDC認定・授与原簿に所定の事項を記入するものとする。

(資格認定証書の再交付)

第 6 条 資格認定証書を破損又は紛失したときは、再交付を受けることができるものとする。

(資格の取消し)

第 7 条 SPOD—SDC資格を認定された者が、刑事罰又は行政罰等を受けたときは、当該資格を取り消すことができるものとする。

(事務)

第 8 条 SPOD—SDC資格認定に関する事務は、SPOD事務局において処理する。

(雑則)

第 9 条 この申合せに定めるもののほか、SPOD—SDCの認定に関し必要な事項は、SPODネットワークコア運営協議会が別に定める。

附 則

1 この申合せは、平成 26 年 11 月 19 日から施行する。

2 この申合せの施行の際、現に認定されている者については、第 3 条に規定する資格認定証書を授与する。

別紙

SPOD-スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準

SPOD-スタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定基準は、次のとおりとする。

1. SPOD-SD（又は自大学におけるSD）講師を務めることができる。
2. 職員のキャリアプランニングをサポートすることができる。
3. 大学等における職員人材育成ビジョンの構築方法について説明することができる。
4. 大学等におけるSDプログラムの企画・立案ができる。
5. スタッフ・ポートフォリオの有益性を説明することができる。

SPODフォーラム2014リーダーセミナーI
「主体的な学び」を促進するカリキュラム・デザイン」

1. 到達目標

- ・カリキュラム・デザインに関する基本用語（バックワードデザイン、スコープ、シーケンス）について説明できる。
- ・カリキュラム改革の優良事例を通して、自らの組織のカリキュラムの課題について発見できる。

2. 対象者

カリキュラム改善に関心のある教職員。特に、管理職、教務委員、FD委員、教務系職員

3. 日 時

平成26年8月28日（木）13:00～15:00

4. 場 所

高知大学 朝倉キャンパス 共通教育1号館 125番教室

5. 担当講師

佐藤浩章（大阪大学全学教育推進機構准教授／教育学習支援センター副センター長）

6. 概 要

日本の大学においては昨今「主体的な学修を促す学士課程教育」への転換が求められています。これは、主体的な学修については、個々の教員の授業レベルにおいて論じるには限界があり、カリキュラムレベルで論じる必要性があることを意味しています。

本セミナーでは、日本高等教育開発とベネッセ教育総合研究所が、全国の国公私立大学2,376学科の学科長を対象にして行った、カリキュラムの実態に関する調査の結果を踏まえて、「主体的な学び」を促すカリキュラムの内容、変革プロセス、その課題について学びます。

とりわけ高い関心を集めている、カリキュラムのデザイン方法（どのような内容の科目をどのような順番で並べるのか）について焦点をあてます。

本セミナーでは、レクチャーだけではなく、個人によるチェックシートを使ったワーク、ならびにペア・グループワークを適宜取り入れて、他大学の事例との比較の中で、自大学のカリキュラムの課題を発見し、解決方法を見いだせるようにします。

リーダーセミナー I 「主体的な学び」を促進するカリキュラム・デザイン」アンケート集計結果

当日参加者数：88名

アンケート回答者数：77名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合	その他の記述内容
① 大学	65	84.4	
② 短期大学	9	11.7	
③ 高等専門学校	3	3.9	
④ その他 ()	0	0.0	
計	77	100.0	

(2) 所属先の設置者

	度数	割合	その他の記述内容
① 国 (国立大学法人)	14	18.2	
② 地方自治体 (公立大学法人を含む)	16	20.8	
③ 学校法人	47	61.0	
④ その他 ()	0	0.0	
計	77	100.0	

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	23	29.9
② 北海道	0	0.0
③ 東北	3	3.9
④ 関東	16	20.8
⑤ 中部	3	3.9
⑥ 近畿	10	13.0
⑦ 中国	15	19.5
⑧ 九州・沖縄	7	9.1
計	77	100.0

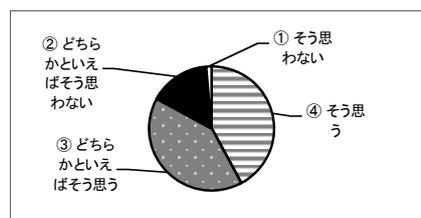
(4) 職種

	度数	割合	その他の記述内容
① 教員	44	58.7	無記入(1)
② 職員	30	40.0	
③ 学生	0	0.0	
④ その他 ()	1	1.3	
計	75	100.0	

2. この研修について

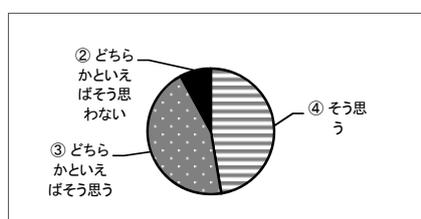
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	32	42.1
③ どちらかといえばそう思う	31	40.8
② どちらかといえばそう思わない	12	15.8
① そう思わない	1	1.3
計	76	100.0



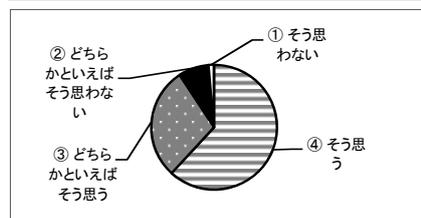
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	36	47.4
③ どちらかといえばそう思う	34	44.7
② どちらかといえばそう思わない	6	7.9
① そう思わない	0	0.0
計	76	100.0



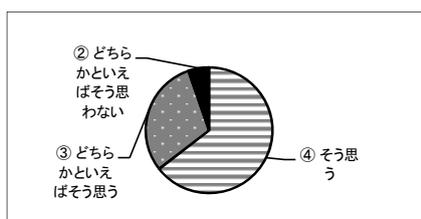
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	47	61.8
③ どちらかといえばそう思う	22	28.9
② どちらかといえばそう思わない	6	7.9
① そう思わない	1	1.3
計	76	100.0



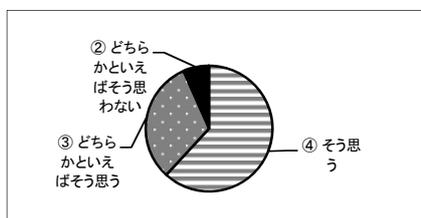
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	49	64.5
③ どちらかといえばそう思う	23	30.3
② どちらかといえばそう思わない	4	5.3
① そう思わない	0	0.0
計	76	100.0



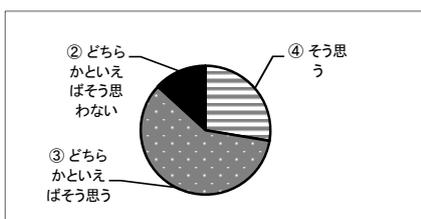
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	47	61.8
③ どちらかといえばそう思う	24	31.6
② どちらかといえばそう思わない	5	6.6
① そう思わない	0	0.0
計	76	100.0



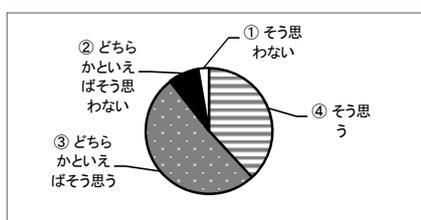
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	21	27.6
③ どちらかといえばそう思う	45	59.2
② どちらかといえばそう思わない	10	13.2
① そう思わない	0	0.0
計	76	100.0



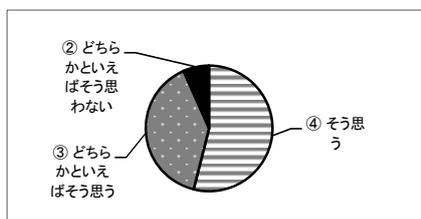
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	29	38.2
③ どちらかといえばそう思う	39	51.3
② どちらかといえばそう思わない	6	7.9
① そう思わない	2	2.6
計	76	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	41	53.9
③ どちらかといえばそう思う	30	39.5
② どちらかといえばそう思わない	5	6.6
① そう思わない	0	0.0
計	76	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 他大学の教職員の方と大学の現状等について情報共有できて有意義だった。
- 各大学の状況がよく分かった。
- 教員や私大職員と交流ができて良かった。
- グループワークで他大学の先生から非常によいアドバイスがもらえたこと。
- 課題が整理できた。
- 自己の抱える課題を明確化することができた。
- 色々な参加者と話ができて、参考にすることができた。
- 「カリキュラムは政治」まさしくその通りだと思います。ありがとうございました。
- 自校の課題が明確となり、他校との情報交換ができた。
- 授業評価アンケートを活用したいと思いました。
- ルーブリック評価と共に事例を示していただいたので具体的に理解することができた。
- 漠然としていた自大学のカリキュラムの問題（肥大化、検証の必要性）が明確化した。
- カリキュラム改革は政治！という言葉が印象的でした。必要な事を考えて取り組みたいと思います。
- DPからカリキュラムに関する目標設定の重要性を学んだ。
- カリキュラムの改革がなぜ悪循環になっているのか把握できた。
- 理論と具体例をバランスよく学ぶことができた。
- カリキュラムの評価について改めて認識できたこと。
- 「カリキュラムは政治」というのが印象的でした。私には向いていない分野と感じました。それが理解できたのが一番の収穫でした。
- 本学的に理解することができました。
- よくわかりました。
- 複数の大学の方と情報交換することができ、有意義でした。ありがとうございました。
- 中期計画の下、DP、CPの見直しを図っている上で、いいきっかけができたし、今後の困難さが身にしみた気がします。しかし、頑張ります。
- カリキュラム改革に対する講義を原理と共に調査事例を挙げて説明していただいたので具体的で大変分かりやすかった。
- 他大学の方々の課題を伺えた点。
- カリキュラムデザインの基礎的な理論が分かった。具体的な問題点を認識することができた。
- 全国の大学（国、公、私）の現状把握。総論に終始したように感じました。
- カリキュラム改訂中で大変事例等が参考になった。他大学の方とのディスカッションにより、さらに深く学べた。
- DP等と実際のカリキュラムの関係のすりあわせの仕方が分かった気がします。質疑応答での佐藤先生のお答えがとても明瞭で感動しました。
- ディスカッションの時間を2回取ることで、教員の立場、職員の立場の状況を知ることができ、有意義でした。
- 現在総務の仕事をしているので、直接すぐ業務に生かせるわけではないが、カリキュラムは大学教育の根本であると思うので受講できて良かった。
- カリキュラムマップの全体像が把握できた。
- グループワーク等を通して他大学、短大、高専の方、また教員、職員の枠を超えて問題点の共有ができた。
- カリキュラム改革を行っていく上で参考になった。
- 自大学の現状についてゆっくり振り返る機会を得た。
- 問題点と思う点は他大学でも共通していると思った。カリキュラムを考え直す、見直すことは、個々の教員の存在から学生主体へ目を向ける事だと思う。
- 他大学の状況を聞く機会を持てて良かった。
- 漠然としていた課題が研修を受講することで明確になった気がします。ありがとうございました。
- カリキュラム改革を客観的、科学的な方法で改善できる方向が見えてきた。
- 最後のQ&A
- 今後取り組むべき方向性が見えた。
- 他の参加者と現状を共有できたこと。
- 組織の問題を考えるきっかけとなった。
- カリキュラムの定義やDPとの関連性等わかり、参考になりました。職員力を身につけ、カリキュラムデザインしたいと思いました。
- カリキュラム改革に関して様々な角度から理解できた。
- ありがとうございました。
- 改善点のあぶり出しに有効な観点を学べた。
- 科目の整理・統合は緊急の課題なので具体的な方法等学べて良かった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

- 120点。
- 文系でカリキュラムマップなどに成功している事例をきいてみたい。
- 知識・キーワードの羅列が多く、ワークでの気づきが乏しかった。
- ディスカッションのテーマが若干散漫になりがち。テーマがもう少し明確だと良かったかもしれません。
- 実際のカリキュラム改善の進め方の方略について深められると、もっと実用的な成果が得られるかもしれないと思いました。

SPODフォーラム2014リーダーセミナーII

「われわれはどのような経営視点を持てばよいのか?～大学のマネジメントを考える～」

1. 到達目標

- ・大学におけるマネジメントの基本を説明できる。
- ・大学においてマネジメントが必要とされる背景が説明できる。
- ・マネジメントの視点からリーダーの役割を説明できる。

2. 対象者

- ・組織のマネジメントに取り組んでいる／取り組もうとしている教職員
- ・大学におけるマネジメント／ガバナンスについて深く学びたいと思っている教職員
- ・マネジメントの必要性は理解しているが、大学でどのように取り組むべきか悩んでいる／迷っている教職員

3. 日 時

平成26年8月28日(木) 15:30～17:30

4. 場 所

高知大学 朝倉キャンパス 共通教育1号館 125番教室

5. 担当講師

大坪 檀(学校法人新静岡学園 理事長 静岡産業大学 総合研究所所長)

6. 概 要

「大学のマネジメント」についての議論が喧しくなって久しくなります。大学のガバナンスを強化するため、トップ・マネジメントの権限を拡大する方向性も明確になってきました。しかしながら、これまでの大学が、マネジメントやガバナンスといったことになじみの薄い組織であったことも事実です。講演では、これからの大学を支えていかれる皆さんに、静岡産業大学での事例をふまえながら、「マネジメントを意識するためにはどのような視点をもてばよいのか」「大学のガバナンスを強化するためには具体的にどのような考えればよいのか」についてお話しします。

1 マネジメントの基本 PDCA

目的、目標を達成するために方針・計画→組織→人事→チェック

PDCAの存在 実行化のリーダーシップの存在

2 この大学は何のため、だれのために存在するのか

理念とミッション明確化 トップの責任／実行 執行 計画の明示

3 大学のステークホルダー 存在の基盤

私学→授業料／国公立→税金

4 執行のプロセス 権限と責任

組織の在り方 ガバナンス／監査の役割

5 リーダーの役割

知識労働者のマネジメント／感激・感動・共鳴させる目標の設定／ハッピーな組織づくり

6 大学マネジメントはユートピア

リーダーセミナーⅡ「われわれはどのような経営視点をもてばよいのか？

～大学のマネジメントを考える～」アンケート集計結果

当日参加者数：85名

アンケート回答者数：79名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	68	86.1
② 短期大学	6	7.6
③ 高等専門学校	2	2.5
④ その他 ()	3	3.8
計	79	100.0

その他の記述内容
コンソーシアム京都(1)
無記入(2)

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国 (国立大学法人)	22	27.8
② 地方自治体 (公立大学法人を含む)	18	22.8
③ 学校法人	37	46.8
④ その他 ()	2	2.5
計	79	100.0

その他の記述内容
無記入(2)

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	28	35.4
② 北海道	1	1.3
③ 東北	3	3.8
④ 関東	10	12.7
⑤ 中部	2	2.5
⑥ 近畿	17	21.5
⑦ 中国	11	13.9
⑧ 九州・沖縄	7	8.9
計	79	100.0

(4) 職種

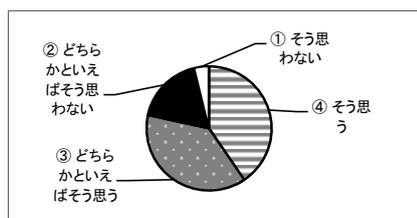
	度数	割合
① 教員	35	44.9
② 職員	42	53.8
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	1	1.3
計	78	100.0

その他の記述内容
無記入(1)

2. この研修について

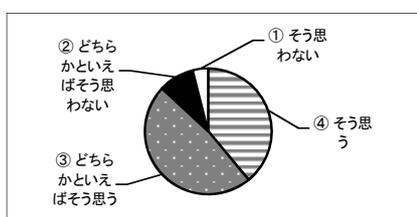
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	32	40.5
③ どちらかといえばそう思う	30	38.0
② どちらかといえばそう思わない	14	17.7
① そう思わない	3	3.8
計	79	100.0



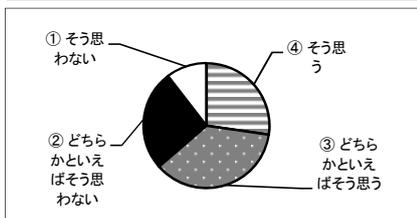
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	30	39.0
③ どちらかといえばそう思う	37	48.1
② どちらかといえばそう思わない	7	9.1
① そう思わない	3	3.9
計	77	100.0



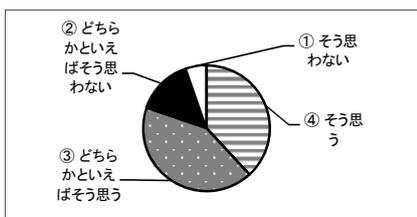
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	21	27.3
③ どちらかといえばそう思う	28	36.4
② どちらかといえばそう思わない	20	26.0
① そう思わない	8	10.4
計	77	100.0



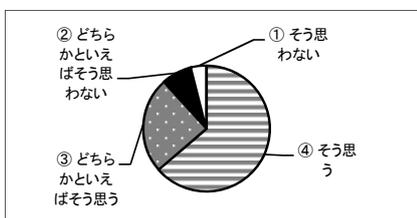
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	29	38.2
③ どちらかといえばそう思う	32	42.1
② どちらかといえばそう思わない	11	14.5
① そう思わない	4	5.3
計	76	100.0



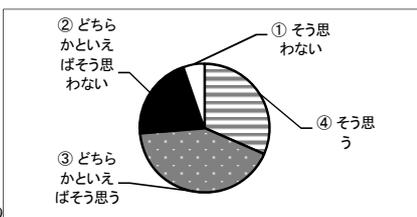
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	49	63.6
③ どちらかといえばそう思う	19	24.7
② どちらかといえばそう思わない	6	7.8
① そう思わない	3	3.9
計	77	100.0



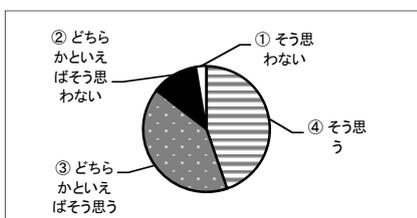
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	24	31.6
③ どちらかといえばそう思う	32	42.1
② どちらかといえばそう思わない	16	21.1
① そう思わない	4	5.3
計	76	100.0



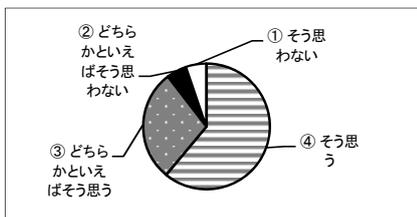
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	34	44.7
③ どちらかといえばそう思う	31	40.8
② どちらかといえばそう思わない	9	11.8
① そう思わない	2	2.6
計	76	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	47	61.0
③ どちらかといえばそう思う	22	28.6
② どちらかといえばそう思わない	4	5.2
① そう思わない	4	5.2
計	77	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 大学マネジメントについて実践的な事を学べた点。大学は企業として考えるとユートピアだと言うことを具体的に知れた点。
- 大化け教育に感心しました。
- 本当に貴重なお話ありがとうございました。
- とても参考になった。一番良かった。
- ミッションを明確にし、それを守る姿を示す意思を構成員に表現することが成果を挙げていることが分かりました。
- 大坪先生の素晴らしい見識、経験に基づいたお話を興味深く聞かせていただきました。ミッションの8番、権限委譲と監査、共鳴・共感の大切さ、が特に印象に残りました。
- 色々ありますが、一番良かったのは“自分と違う信念や意見を持っている方”のお話が聞けたことです。
- 大変貴重なお話を伺えました。ありがとうございました。
- これからの大学のあり方が聞けて良かった。
- エピソード豊富でたいへん勉強になりました。
- ご自身の経験に基づき、熱のこもった考えをレクチャーされていた。
- 大学のマネジメントの概要が分かった。
- おだて上手になれば良いが、とてもためになるお話でした。ありがとうございました。
- ディスカッション良かったです。
- 大所高所からのものの見方を学べる講座でした。
- 私学の経営者のお話を聞くことは大変有意義。ぬるま湯に浸っている国立大学の職員はもっと耳を傾けるべき。
- 教育者として人を育てる事への意欲を持たせていただいた。ありがとうございました。
- 今までにない話を聞けて本当に良かった。大学経営を考える上で、とても参考になった。PDCAの回し方もよく分かった。他のSPOD主催の研修との関連性もよく分かって良かった。
- 静岡産業大学が良く分かったこと。原稿を見ないでしゃべれること。
- 多面でもとても参考になりました。
- 貴重なお話を聞けたこと。大学は何のためにあるのか、概念はあるもののこれをどう考えるかはとても大切な事だと改めて感じた。
- 教育の原理原則を学びました。
- 体験に基づく説得力のあるお話に感激した。
- 理念・方針の大切さを企業、大学マネジメントをする上でどうなのかということが理解できました。
- 法政の清成先生から、大坪先生のお話を伺う機会を作りなさいと言われ、地元高知で、本日、奇跡的なを得ました。お伺いしたお話全てが楽しく、色々考えるべきテーマもいただきました。ありがとうございました。また、チャンスがあれば、再度聞かせていただきます。
- 温かい目で学生を見る。寄付が集まるような教育を行う。
- 大学の運営側の話として、とても参考になった。
- 異なる視点からの意見が聞けて、改めて自分の立ち位置を確認できた。
- 深かったです。一番。
- 大学のあり方を考える視点が分かった。学生に接する前に自分の学生への見方を変化させる必要性を認識した。
- マネジメントへの構成員のコミットメントの大切さを学んだ。
- 大学マネジメントについて、新たなキーワードがいくつかありました。組織のマネジメントの仕方等、60点主義、部署でも取り入れたい。
- 学ぶことを継続し続けなくてはいけないと痛感しました。ありがとうございました。
- 決して完璧を目指さず、地道に教職員との対話を重視することなどを学びました。ありがとうございました。
- 大変貴重な講演でした。今後の糧にします。
- 大学改革の大きな流れをつかむことができた。質問時間が長く、とても良かった。
- 講師の先生の教育、学生に対する熱い想いが伝わってきて自分も頑張らなくてはと思えた。
- 理念とミッションについては、今後働く上で参考になりました。
- 気づかせられたキーワードがいくつもあった。30分間のディスカッションも新鮮だった。
- 色々ヒントになる話を聞くことができた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 異論はあると思いますが、この講演はSPODフォーラムの中で最も「地方の小規模大学」向けの内容だったのではないかと思います。
- リーダーセミナーで「大学のマネジメント」がテーマでありながら、理事や学部長などの参加者が少ないと感じた。（マネジメントに関する質問がでなかったのも）。対象者をもっと参加できるようにした方がいいと思います。
- 本研修の位置づけが不明瞭。管理職に対するマネジメントなのか？それとも職員に対するものなのか？
- 参加型アクティブラーニングの研修会に、旧来のスタイルの講義（しかもほとんどが自分の体験）が入っていて、失望した。しかし、講師の情熱と温かいお人柄には敬意を表したい。ありがとうございました。
- 外国人へのマネジメントと内容が一致していないのでは？
- 話の抑揚がないため、もう少しイントネーションや声のトーンを変えたりして重要な内容について強調して進行して欲しかった。
- 小グループで討論もしたかった。
- このレベルを維持するためには、企業・大学のマネジメント経験を有する方を確保することだと思います。
- 少しお話が長かったと思います。
- 民間時の話を少し取り入れられると良くなるのではないかと思います。

管理職研修 ～人事評価の心構えとその手法～ 実施要項

1. 目 標

- ・人事評価の目的・意義・重要性を説明することができる。
- ・面談の進め方を説明することができる。
- ・効果の上がる人事評価を行うことができる。

2. 内 容

- ・人事評価の目的
- ・人事評価の意義と重要性
- ・評価者が陥りがちなケースと予防策
- ・面談の進め方（環境，ポイント）
- ・実践ケーススタディ

3. 対象者

課長，課長補佐相当級の職員

4. 期 間

平成26年11月28日（金）

5. 場 所

愛媛大学校友会館2階 サロン

6. 日 程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室（拠点・SPOD-SDC）講師 阿部 光伸

8. 受講定員

30名

9. 受講証明書

研修を受講した者には受講証明書を交付する。

10. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD），愛媛大学

管理職研修 ～人事評価の心構えとその手法～ 日程表

研修会場：愛媛大学校友会館 2階 サロン

11月28日(金)	
目 標	1. 人事評価の目的・意義・重要性を説明することができる。 2. 面談の進め方を説明できる。 3. 効果の上がる人事評価を行うことができる。
13:00	受 付
13:30	1. オリエンテーション
13:45	2. 人事評価の目的 〈講義/個人・グループワーク〉
14:30	3. 人事評価の意義と重要性 〈講義〉
	4. 評価者が陥りがちなケースと予防策 〈講義〉
14:50	5. ケーススタディー I 〈個人・グループワーク〉
15:05	休 憩
15:15	5. 面談の進め方(環境、ポイント) 〈講義〉
15:30	6. ケーススタディー II 〈個人・グループワーク〉
16:30	7. まとめ
16:45	閉 講 式
17:00	【講師】 愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 講師(拠点・SPOD-SDC) 阿部 光伸

※研修スケジュールは進行によって変更することがございます。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：管理職研修 ～人事評価の心構えとその手法～
 実施日：平成26年11月28日（金）
 実施会場：愛媛大学校友会館2階サロン
 当日参加者数：28名
 アンケート回答者数：28名

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	27	96.4
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	1	3.6
④ その他（ ）	0	0.0
計	28	100.0

(2) 所属先の設置者

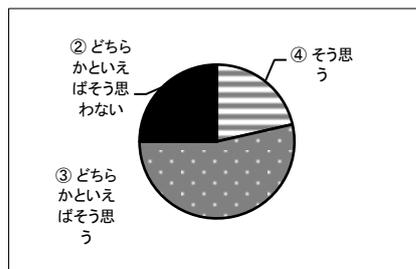
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	19	67.9
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	4	14.3
③ 学校法人	5	17.9
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	28	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に） 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

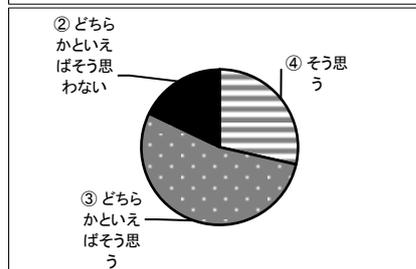
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	6	21.4
③ どちらかといえばそう思う	15	53.6
② どちらかといえばそう思わない	7	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



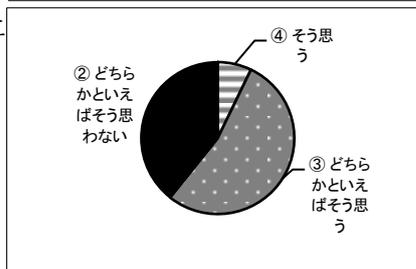
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	8	28.6
③ どちらかといえばそう思う	15	53.6
② どちらかといえばそう思わない	5	17.9
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



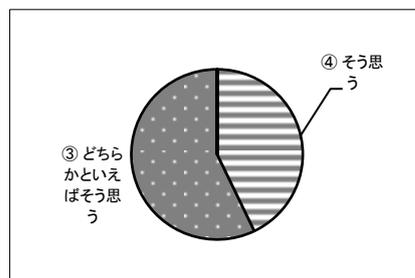
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	2	7.1
③ どちらかといえばそう思う	15	53.6
② どちらかといえばそう思わない	11	39.3
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

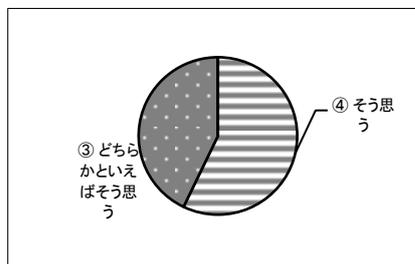
	回答数	割合
④ そう思う	12	42.9
③ どちらかといえばそう思う	16	57.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



3. 研修プログラムの設計について

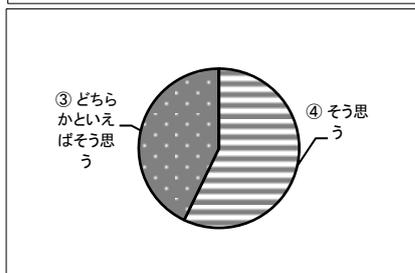
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	16	57.1
③ どちらかといえばそう思う	12	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



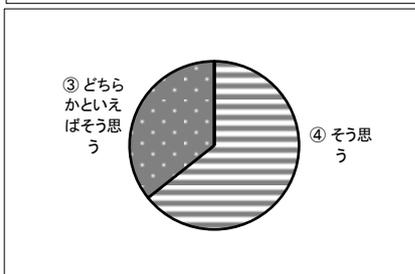
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	16	57.1
③ どちらかといえばそう思う	12	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



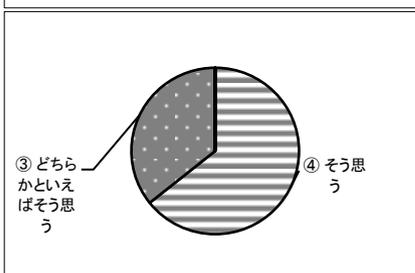
(3) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	18	64.3
③ どちらかといえばそう思う	10	35.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



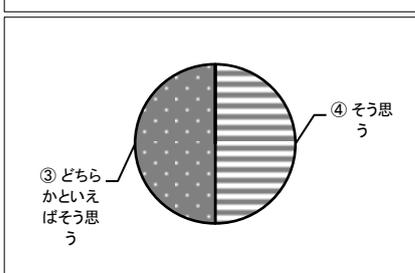
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	18	64.3
③ どちらかといえばそう思う	10	35.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



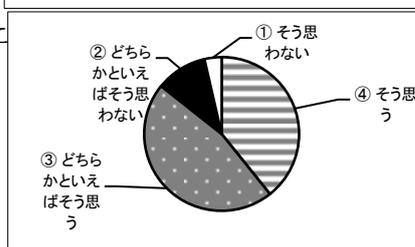
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	14	50.0
③ どちらかといえばそう思う	14	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



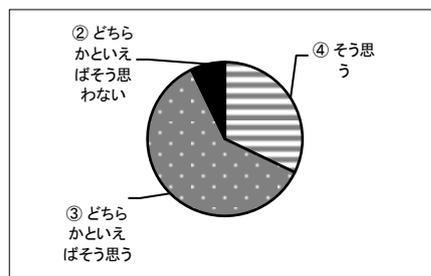
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	11	39.3
③ どちらかといえばそう思う	13	46.4
② どちらかといえばそう思わない	3	10.7
① そう思わない	1	3.6
計	28	100.0



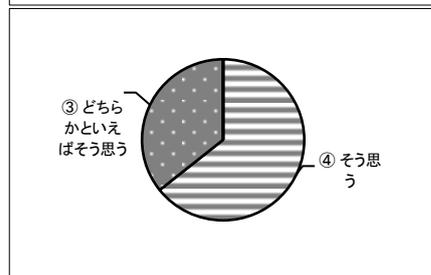
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	9	32.1
③ どちらかといえばそう思う	17	60.7
② どちらかといえばそう思わない	2	7.1
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



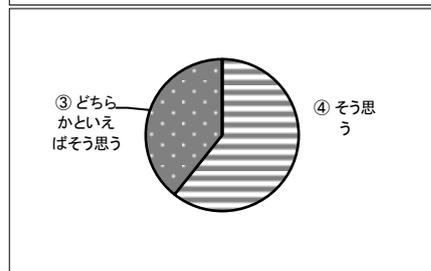
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	18	64.3
③ どちらかといえばそう思う	10	35.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

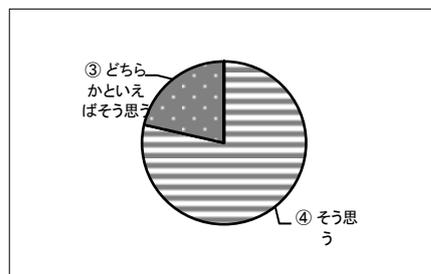
	回答数	割合
④ そう思う	17	60.7
③ どちらかといえばそう思う	11	39.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



4. 研修スタッフについて

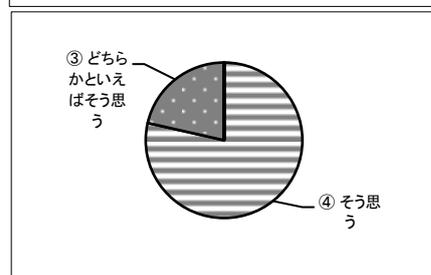
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	22	78.6
③ どちらかといえばそう思う	6	21.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



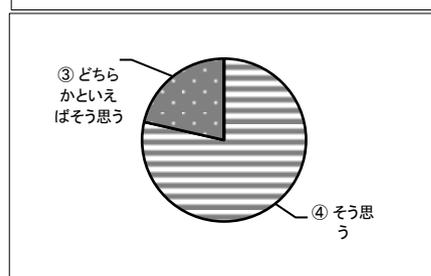
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	22	78.6
③ どちらかといえばそう思う	6	21.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



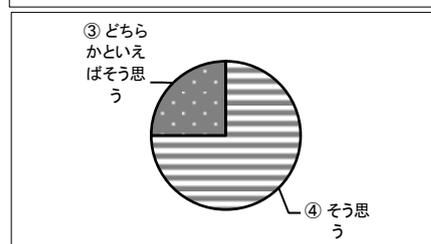
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	22	78.6
③ どちらかといえばそう思う	6	21.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



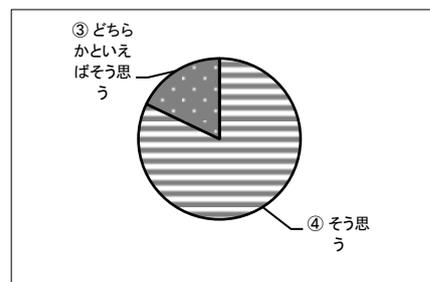
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	21	75.0
③ どちらかといえばそう思う	7	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

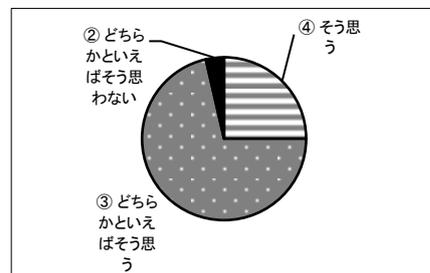
	回答数	割合
④ そう思う	23	82.1
③ どちらかといえばそう思う	5	17.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



5. 研修成果について

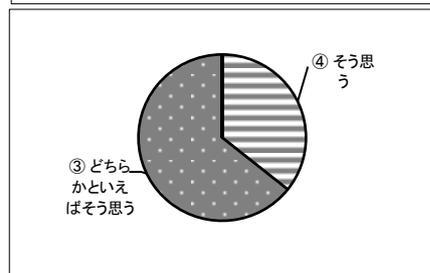
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	7	25.0
③ どちらかといえばそう思う	20	71.4
② どちらかといえばそう思わない	1	3.6
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



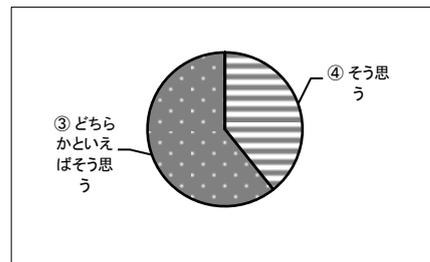
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	10	35.7
③ どちらかといえばそう思う	18	64.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



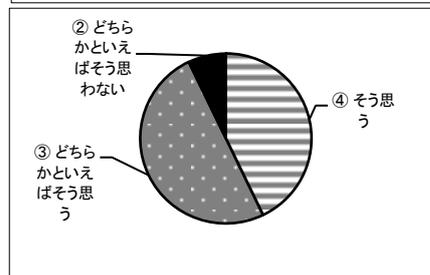
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	11	39.3
③ どちらかといえばそう思う	17	60.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	12	42.9
③ どちらかといえばそう思う	14	50.0
② どちらかといえばそう思わない	2	7.1
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



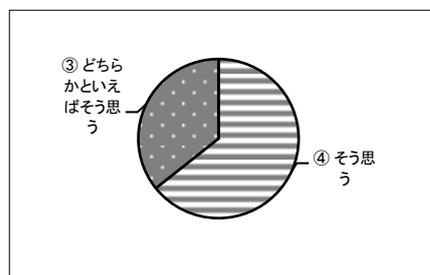
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

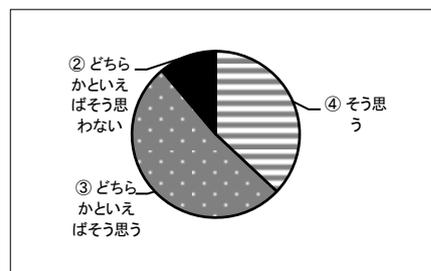
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	18	64.3
③ どちらかといえばそう思う	10	35.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



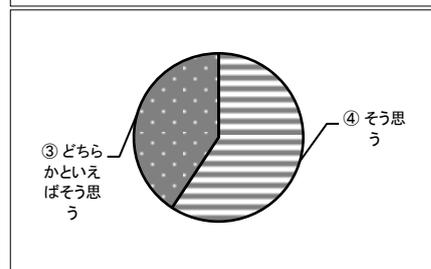
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	10	37.0
③ どちらかといえばそう思う	14	51.9
② どちらかといえばそう思わない	3	11.1
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	16	59.3
③ どちらかといえばそう思う	11	40.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



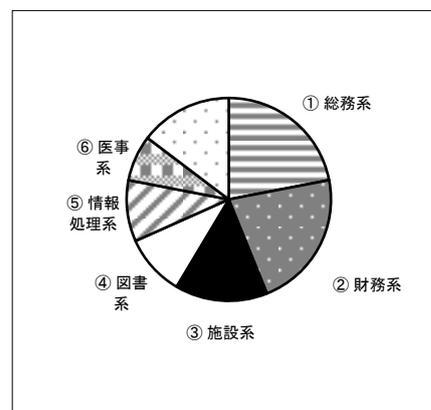
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	9	32.1
② 財務系	9	32.1
③ 施設系	6	21.4
④ 図書系	4	14.3
⑤ 情報処理系	4	14.3
⑥ 医事系	3	10.7
⑦ その他	6	21.4



その他の記述内容

- ・ 教員免許手続きの講習があればありがたいと思います
- ・ 技術系
- ・ 学生募集
- ・ 社会連携系
- ・ 学生指導
- ・ 異文化理解

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ 人材育成能力
- ・ 客観的な評価基準
- ・ 評価基準・方法
- ・ 公平性のある評価
- ・ プレゼンテーション力
- ・ 管理職としてのスキル
- ・ 指導力
- ・ マネジメント
- ・ 技術的知識
- ・ 高校訪問(募集)の高校教員との面談スキル
- ・ 面談力
- ・ 社会連携についてのノウハウ・国際的社会連携についてのノウハウ
- ・ 異文化理解
- ・ 今年度より管理するべきに役に当たり不安なことばかりで、部下とのコミュニケーションをこれからは特に大切にしていきたいと感じました。

5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ 公平性・客観性を基としての評価に心掛けることの大事なことが理解できた。
- ・ 人事評価が文化として大学に根付かせることが大切だと思いました。また、人事評価がSDという考えは目からうろこでした。
- ・ 自分自身が悩んでいる課題について、全く同じものが課題としてでたので、非常に参考になりました。
- ・ 評価者として求められる素養を改めて確認することができた。
- ・ 仕事ができない(適正のない)職員への評価の大切さが理解できた
- ・ 評価者に求められる姿勢を学ぶことができた。
- ・ 受講する、その事だけでも大変価値があった。これからの自分の意識の中に大切にしていきたいと考えます。
- ・ 人事評価において気をつけるべき点が明確になったこと。
- ・ 人事評価についての考え方
- ・ ワークを通して、様々な意見を聴くことができた点
- ・ 客観的に人事評価の基準・ノウハウを知り、自分のそれと比べることが出来、安心する面と改善すべき点がわかった。
- ・ 愛をもって人材育成につながる評価を実践していきます。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ 終日研修でも良かったと思います。
- ・ もう少し時間をとれば良いのでは。
- ・ 遠方から来る場合の終了時間を考慮していただきたい。
- ・ ワークの時間を多く。
- ・ ありがとうございました。

5 平成26年度活動実績 (2) SD事業

②「職員業績記録（スタッフ・ ポートフォリオ）の開発」資料

SPODフォーラム2014「スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ
～キャリアを見つめるための自身の可視化法～」

1. 到達目標

- ・スタッフ・ポートフォリオとは何かを説明することができる。
- ・スタッフ・ポートフォリオの有益性を説明できる。
- ・メンタリングについて説明できる。
- ・スタッフ・ポートフォリオを基にして自身を顧みることができる。

2. 対象者

全職員

3. 日 時

平成26年8月29日（金） 10：00～12：00

4. 場 所

高知大学 朝倉キャンパス 共通教育3号館 335番教室

5. 担当講師

野口 悟（高知大学 医学部・病院事務部 学生課 総務係 係長）
浜田 昌代（高知大学 研究国際部 研究推進課 研究助成係 係長）

6. 概 要

まず、スタッフ・ポートフォリオ（以下、「SP」という。）って？と思われるかと思います。皆目見当がつかない方や、「ティーチング・ポートフォリオは聞いたことあるけど・・・」という方もいるかと思います。「ポートフォリオ」とは直訳すると「根拠」「証拠となるもの」となりますが、「SP」とは「職員の業績の可視化」を意味します。

本プログラムでは、SPとは何かを示した後、職員個人としての有用性（職員個人にどのような影響や効果があるか）・組織としての有用性（大学や大学職員人事マネジメントにどのような影響や効果を与えるか）について考察してもらい、SPについて理解を深めていきます。また、「メンタリング」の手法を用いて、SPの一部分を実際に作成することを体験します。SPは自身で作成するものですが、随時改定していくことが重要です（この改定作業の際も「メンタリング」が有効的です）。本プログラムを通じて自身を顧みるきっかけにしてみませんか？

「スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ

～キャリアを見つめるための自身の可視化法～」アンケート集計結果

当日参加者数：30名

アンケート回答者数：30名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合	その他の記述内容
① 大学	25	83.3	
② 短期大学	4	13.3	
③ 高等専門学校	1	3.3	
④ その他 ()	0	0.0	
計	30	100.0	

(2) 所属先の設置者

	度数	割合	その他の記述内容
① 国 (国立大学法人)	9	30.0	無記入(1)
② 地方自治体 (公立大学法人を含む)	5	16.7	
③ 学校法人	15	50.0	
④ その他 ()	1	3.3	
計	30	100.0	

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	9	30.0
② 北海道	0	0.0
③ 東北	1	3.3
④ 関東	2	6.7
⑤ 中部	1	3.3
⑥ 近畿	6	20.0
⑦ 中国	7	23.3
⑧ 九州・沖縄	4	13.3
計	30	100.0

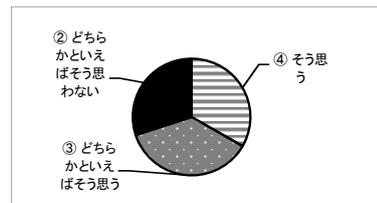
(4) 職種

	度数	割合	その他の記述内容
① 教員	1	3.3	
② 職員	29	96.7	
③ 学生	0	0.0	
④ その他 ()	0	0.0	
計	30	100.0	

2. この研修について

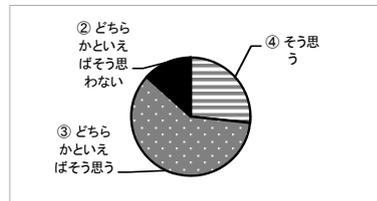
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	10	33.3
③ どちらかといえばそう思う	11	36.7
② どちらかといえばそう思わない	9	30.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



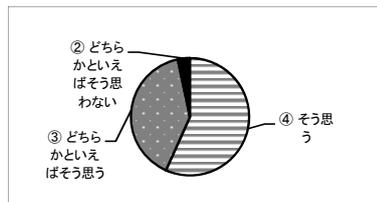
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	8	26.7
③ どちらかといえばそう思う	18	60.0
② どちらかといえばそう思わない	4	13.3
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



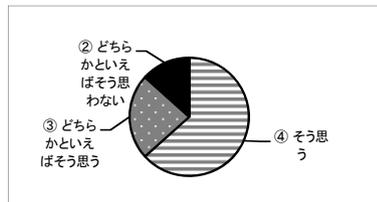
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	17	56.7
③ どちらかといえばそう思う	12	40.0
② どちらかといえばそう思わない	1	3.3
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



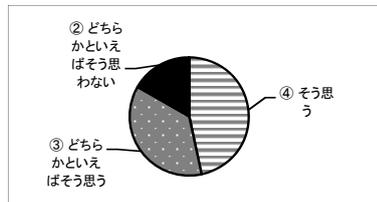
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	19	63.3
③ どちらかといえばそう思う	7	23.3
② どちらかといえばそう思わない	4	13.3
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



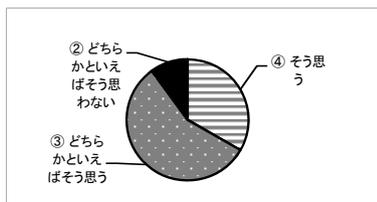
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	14	46.7
③ どちらかといえばそう思う	11	36.7
② どちらかといえばそう思わない	5	16.7
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



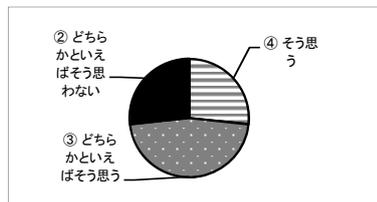
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	10	33.3
③ どちらかといえばそう思う	17	56.7
② どちらかといえばそう思わない	3	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



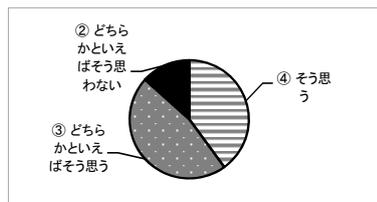
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	8	26.7
③ どちらかといえばそう思う	14	46.7
② どちらかといえばそう思わない	8	26.7
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



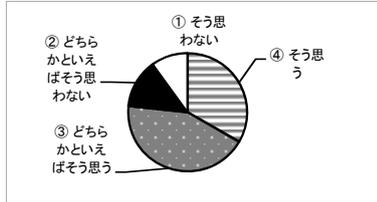
(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	12	40.0
③ どちらかといえばそう思う	14	46.7
② どちらかといえばそう思わない	4	13.3
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



(9) 自大学でもスタッフ・ポートフォリオの導入を期待しますか？

	度数	割合
④ そう思う	10	33.3
③ どちらかといえばそう思う	13	43.3
② どちらかといえばそう思わない	4	13.3
① そう思わない	3	10.0
計	30	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- SPの意義を知ることができた。
- 自分が何をしてきたか、これからどうしたいか、考え見詰めなおす良い機会となりました。
- 導入→理論→実践の流れがスムーズで分かりやすかったです。ありがとうございました。
- SP, メンタリングの再確認ができた。
- 研修内容も勉強になり、また他大学の方の話を聞いて、良い刺激になりました。
- 自分のキャリア形成について、見直すことができた。
- スタッフ・ポートフォリオの必要性を学ぶことができた。
- 自分のキャリアプランを明確にできた。
- 自分の大学でも生かせる内容だったと思います。ありがとうございました。
- スタッフ・ポートフォリオについて、一連の話をきちんと伺えたこと。
- 分かりやすくて良かった。
- スタッフ・ポートフォリオの作成法を知れたこと。
- 1日目にSDC養成講座を受けていたので、今回振り返りができました。
- 普段の職場のコミュニケーションで活用していけるのではないかと思います。
- 自分自身のキャリア形成を改めて考えるいい機会になりました。
- 本当に楽しくあつという間に終わってしまいました。とりあえず自身のスタッフ・ポートフォリオを作成してみます。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 実際に導入しておられる大学の話を聞くことができたらなお良かった。
- メンタリングのグループワークがペアの力量による。間違った方法で盛り上げるペアも多く、介入することなど工夫がいる。
- ポートフォリオの有益性をもう少し掘り下げる(知りたい)?ワークは適切だと思いましたが、時間配分やワークの目的、結果の共有、具体的作業の不明瞭など、再考されてはいかがでしょう?
- ニックネームで呼び合うなら、もっとフランクに講義を進めると良かったかも。
- 1日目のSDC養成講座を受講していたため、内容の重なりが多かったので、重なることを事前に示しておいてもらえると嬉しいです。
- あと1時間あれば、各ワークにもっと余裕があり充実したものになると思います。
- 2時間では少ないと思った。
- 2時間で習得するには少し時間が足りなかったです。
- 時間を延ばした方が良いと思います。

5 平成26年度活動実績

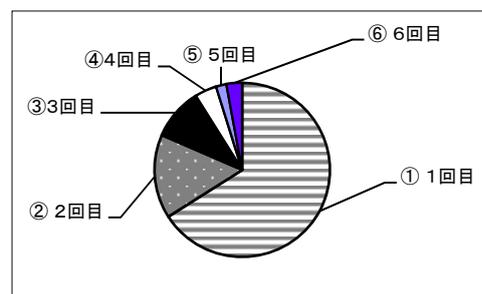
(3) SPODフォーラム

SPODフォーラム2014事前アンケート集計結果

アンケート回答者数:417名 (webでの受講申込時に実施)

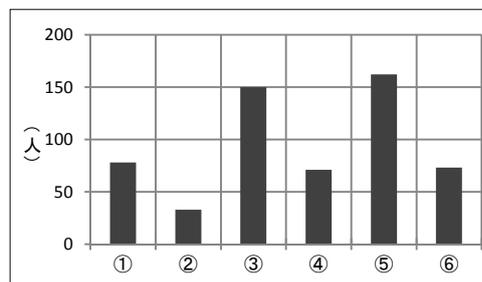
1. SPODフォーラムの参加は何回目ですか？

	度数	割合
① 1回目	275	65.9%
② 2回目	65	15.6%
③ 3回目	40	9.6%
④ 4回目	17	4.1%
⑤ 5回目	8	1.9%
⑥ 6回目	12	2.9%
計	417	100.0%



2. SPODフォーラムをどこで知りましたか？(複数選択可)

	度数	割合
① SPODホームページ	78	18.7%
② SPODメールマガジン	33	7.9%
③ SPODフォーラムチラシ	150	36.0%
④ SPOD研修プログラムガイド2014	71	17.0%
⑤ SPOD関係者からの案内	162	38.8%
⑥ その他	73	17.5%
アンケート回答者数	417	

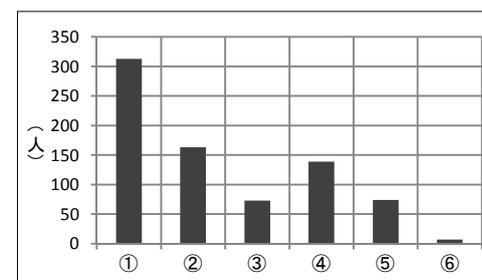


その他の記述内容

- ・ 職場からの案内(34)
- ・ 参加者の口コミ(5)
- ・ 研修担当者からの案内(9)
- ・ 上司からの案内(4)
- ・ SPODの研修から(次世代等) (2)
- ・ 関係者からの案内 (3)
- ・ あさがおML(3)
- ・ インターネット, フェイスブック(2)

3. SPODフォーラムに参加した動機は何ですか？(複数選択可)

	度数	割合
① 自分自身の能力開発のため	313	75.1%
② 組織の課題を解決するヒントを得るため	163	39.1%
③ 組織を超えた人脈づくりのため	73	17.5%
④ FDやSDに関する情報収集のため	139	33.3%
⑤ 上司に参加をすすめられたため	74	17.7%
⑥ その他	7	1.7%
アンケート回答者数	417	



その他の記述内容

- ・ 大学の運営改革を実現するため
- ・ 学校のFD担当者のため
- ・ 他大学の様子を知りたいため
- ・ 大学職員としての質を高めたいと思ったため。
- ・ 近隣地域の同じ立場の方々と、情報共有できる機会であるため。

SPODフォーラム2014全体アンケート集計結果

当日参加者数

SPOD加盟校から:258名

SPOD加盟校以外から:178名

合計:436名

アンケート回答者数:226名(フォーラム終了後、web入力にて実施)

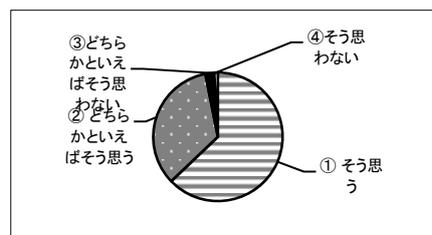
回答率:51.9%

1. SPODフォーラムでの研修成果について

【SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった】

	度数	割合
① そう思う	142	62.8%
② どちらかといえばそう思う	77	34.1%
③ どちらかといえばそう思わない	5	2.2%
④ そう思わない	2	0.9%
計	226	100.0%

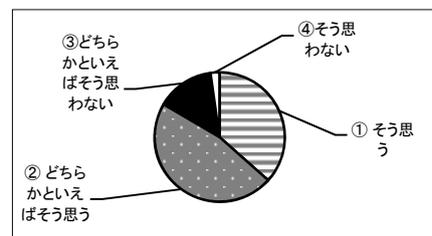
無回答 0



【所属組織を越えて人脈を広げることができた】

	度数	割合
① そう思う	82	36.6%
② どちらかといえばそう思う	105	46.9%
③ どちらかといえばそう思わない	32	14.3%
④ そう思わない	5	2.2%
計	224	100.0%

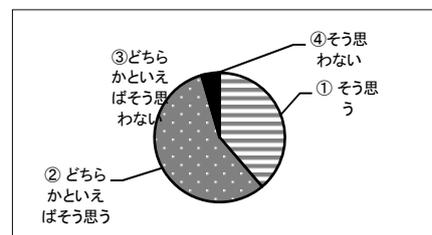
無回答 2



【自分に必要な知識やスキルを身につけることができた】

	度数	割合
① そう思う	86	38.7%
② どちらかといえばそう思う	126	56.8%
③ どちらかといえばそう思わない	9	4.1%
④ そう思わない	1	0.5%
計	222	100.0%

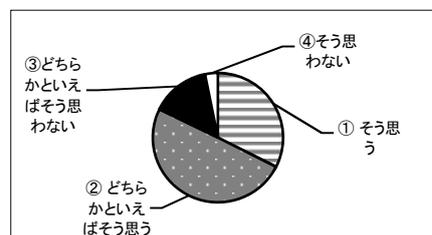
無回答 4



【業務や教育に対する意識や考え方が変わった】

	度数	割合
① そう思う	73	32.4%
② どちらかといえばそう思う	112	49.8%
③ どちらかといえばそう思わない	33	14.7%
④ そう思わない	7	3.1%
計	225	100.0%

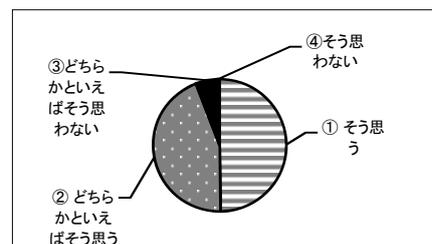
無回答 1



【業務や教育に積極的に取り組んでいきたいと思うようになった】

	度数	割合
① そう思う	111	49.8%
② どちらかといえばそう思う	99	44.4%
③ どちらかといえばそう思わない	12	5.4%
④ そう思わない	1	0.4%
計	223	100.0%

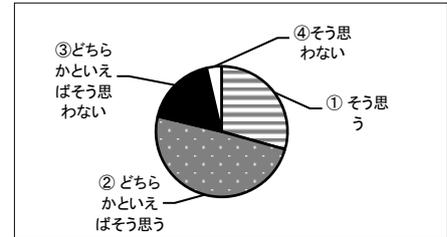
無回答 3



【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や教育現場で実際に活用している】

	度数	割合
① そう思う	65	29.4%
② どちらかといえばそう思う	109	49.3%
③ どちらかといえばそう思わない	39	17.6%
④ そう思わない	8	3.6%
計	221	100.0%

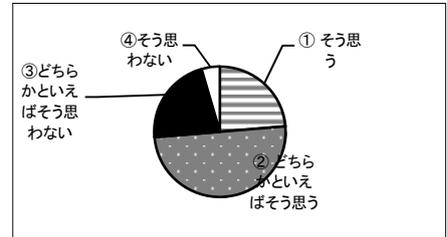
無回答 5



【フォーラムで得た知識やスキルを所属組織や他の教員に伝達している】

	度数	割合
① そう思う	53	23.7%
② どちらかといえばそう思う	112	50.0%
③ どちらかといえばそう思わない	49	21.9%
④ そう思わない	10	4.5%
計	224	100.0%

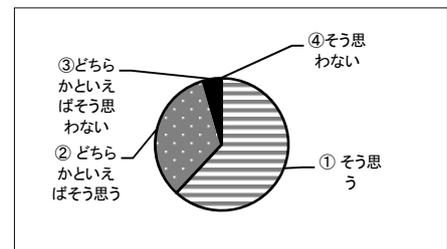
無回答 2



【今後もフォーラムをはじめ、SPODが提供するプログラムに参加したい】

	度数	割合
① そう思う	138	61.9%
② どちらかといえばそう思う	75	33.6%
③ どちらかといえばそう思わない	9	4.0%
④ そう思わない	1	0.4%
計	223	100.0%

無回答 3



2. 感想、ご意見、ご要望等（別紙参照）

3. 参加者ご自身について

所属先

	度数	割合
① 大学	197	87.2%
② 短期大学	21	9.3%
③ 高等専門学校	4	1.8%
④ その他	4	1.8%
計	226	100.0%

無回答 0

所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	90	40.0%
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	33	14.7%
③ 学校法人	101	44.9%
④ その他	1	0.4%
計	225	100.0%

無回答 1

所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	133	58.8%
② 東北	6	2.7%
③ 関東	25	11.1%
④ 中部	7	3.1%
⑤ 近畿	21	9.3%
⑥ 中国	22	9.7%
⑦ 九州・沖縄	12	5.3%
⑧ 北海道	0	0.0%
計	226	100.0%

無回答 0

職種

	度数	割合
① 教員	85	37.9%
② 職員	138	61.6%
③ 学生	0	0.0%
④ その他	1	0.4%
計	224	100.0%

その他の記述内容
・ 研究員(2)

無回答 2

あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか？

	度数	割合
① FDの実施担当者	39	17.7%
② SDの実施担当者	13	5.9%
③ FDとSD両方の実施担当者	8	3.6%
④ FDやSDの実施担当者ではない	160	72.7%
計	220	100.0%

無回答 6

SPODフォーラムに参加して良かったと思われる点

【教員】

1	普段は学ぶ機会の少ないカリキュラム構築や評価などに関する基礎知識を得ることができました。また、他大学の職種の異なる方々のご意見を伺うことができ、有意義な機会であったと思います。
2	他の学会と比較するとワークショップがかなりハードであるが、体験して理解することは良いことであると思う。
3	教育方法を実際に経験しながら学べる点がよかった。
4	他大学、特に遠方から来られた方の非常に積極的に業務を改善しようとする姿勢が印象に残った。
5	今後の授業に活かせる考え方や新しい手法を知ることができた点。
6	FDに関する具体的スキルの習得
7	四国外からも多くの参加者が訪れたことに加えて、グループワーク中心であったので名刺交換等行いやすかった。
8	ルーブリックを作成する契機になった。
9	プログラム内容・目的、講師陣の充実はあることながら、多様・多彩な部門で働く士気の高い30歳代前後の大学職員の参加が多く、参加者同士の交流をとおして、大学という職場および大学職員への認識が深まったように感じます。
10	さっそく後期の授業に取り入れようとしています。
11	実践的なスキルを得られたこと
12	講師の先生方の様々な工夫や取り組みを知ることができた。
13	興味のある口座を受講したため、いずれも満足のできるものであった。
14	学生の対応に関して、他大学の対策、考え方を知ることができ参考になった。
15	専門領域以外の分野の取り組みを聞いて、自分の専門分野の教育のことを振り返る機会となった。
16	大人数授業で注意すべきポイントがよく分かった。
17	具体的な授業実践の内容を知ることができた点。
18	講義法のスキル、振り返りの大切さ、積極的なコミュニケーションの大切さを学んだ。
19	普段接することのない領域の先生方と意見交換することができたのは貴重な機会だったと感じています。
20	日々の業務では触れる事が出来ない知識を学習することができた。
21	全国各地から意欲的な参加者が多かった点。
22	教員だけでなく職員とも講義を通して交流ができる。
23	個別のセッションには同じ問題意識を持たれている方が参加されているので、いろいろと情報交換をすることができ、非常に有益であった。
24	自分が思いつかなかった方法などを得ることができてとてもよかった。さらに、いろいろな方とお話できてとても有意義でした。
25	最新の動向に加えて、各大学の担当者がどのような研修を受けているかや、どんな力を身に付けているかを知ることができ、自校の課題を考える参考になる。
26	実際に講師の先生の声を聴き、具体的な工夫などを聞くことができて有意義であった。

27	(たぶん)SPOD の講演・研修会等は,全国的に見てもレベルの高いFD活動だと思う。授業改善・向上に役立つ具体的な手法等について体験的に学ぶ。これまでも受講内容にもとづく授業改善・向上に役立てることができたし,今年度の受講内容からもいくつか使える手法等の情報が得られた。大学版反転授業・ルーブリック評価入門はとくによかったし,役立つと思う。
28	四国内での活動とっていましたが全国からの参加者がおられて驚きました。また,いろんな大学のいろんな立場での意見交換ができてとても有意義でした
29	学生参加型授業のさまざまな手法を学ぶことができた点。
30	今回は,SD・FD共通の講義を主に選択したので,新しい視点での考えが深まったと思います。
31	TBL の手法をきちんと学ぶことができました。また,専門や科目の枠を越えていろいろな先生方・職員の方々と交流でき,情報交換できてよかったです。
32	多くの参加者と名刺交換をするなど, 交流を広げることができた。学会の懇親会以上にできたように思う。
33	多岐にわたるプログラムがあり,毎年勉強になっている
34	大学内でも部局を越えて,そして他大学の教員と 様々な情報交換と共有ができることです。
35	上記の回答にもありますが,遠くの方・近くの方と知り合いになったこと。講師の先生の講義方法が,今後の自分の授業の参考になったこと。
36	講師から,実例をもとに色々な情報を提供してくれること
37	参加者として講師として学ぶところが多いところ。
38	高知県内の大学の方が,講習に参加したりスタッフとして参加したりされていたこと。
39	多くの教職員の方々と問題意識を共有できた。
40	内容もさることながら,各講師の先生方の授業そのものが,授業の参考となってよかった。
41	大学や専門の枠を超えて,同じ目的・問題意識を持つ方々と情報を共有し,意見を直接交換できたこと。
42	自身の振り返りができ授業の取り組みについて再考することができた
43	ワークショップ形式なので,実践的なイメージが掴みやすかった。
44	ぼんやりと知っていた程度のこと実践を通してよくわかった点。
45	授業に取り入れる具体的な方法論を学べたこと。
46	アクティブ・ラーニングの様々な手法につき,自分の講義での採用可能性も含めて知ることができた点。教職員分け隔てなく交流することができた点。
47	「人脈を広げる」とまではいかなかったが,他大学の各分野の先生方と研修を通して話す機会があり,他大学の様子を聞くことができた。
48	専門的な話を聞く機会が出来たこと
49	全国の大学教職員が教育力等の向上に向け努力されている点が身を以て理解できた。
50	教育の質の向上に関する情報を得られた。
51	まとまった数のWSを1カ所で受けられる機会はここ以外にあり得ない点が一番の売りだと思います。
52	ふりかえりの意義は理解し, やり方も勉強してそれなりにやっていたつもりだったが, 今回のフォーラムでねらいややり方などよく分かった。特にふりかえりそのものの前に達成できる目標の立て方や, フィードバックの重要性がよく分かった。

53	少しずつステップアップしているプログラムに参加して、自分も少しずつステップアップできるようにしたいと思いました。
54	参加して、アクティブラーニングを実際に体験できたことが最も良かった。多くの方法をあげていただいたので、できそうなことから実施しく思います。有難うございました。
55	授業方法の改善に役立つ情報を得ることができた。
56	全国の教員の方に会えて少しでも仕事の話ができ刺激になったこと。自分の「遅れ」を実感できること。もう一度授業形式を作り直そうという気持ちになったこと。
57	どうして、何故、そうしたのか、そうなったのか。結果に目がいき、なかなか学生の理由を聞けていないと改めて気づいた。過程も確認し、評価していきたい。
58	アクティブラーニングがもてはやされている現状においても、大教室における講義型授業も必須であり、そこに何らかの工夫をしているという実践を知ることができた。大人数の共通教育を担当する教員の苦勞を共有できたことで励まされた。変わりゆくものと、不変のものを見極める見識の重要性を再確認できた。
59	実践可能な内容で面白かったです
60	グループの教育方法の知識が増えた
61	各大学でのさまざまな取り組みを知ることができた点。
62	教育に対するモチベーションが上がったところ。

【職員】

63	大学マネジメントに関して、必要な情報を得ることができた。
64	四国以外からも参加者多く、他地域の方と人脈が作れたところが良かった。また、同じ職員としての立場で講師を務められ方も多く目標となった。
65	普段ルーチン化している業務でも、改めて見直す機会となり、
66	インストラクションデザインを受講し、早速、この手法を利用し活用し始めました。また、「リフレクション」を日常業務においても、考えて行動するようになりました。
67	「大学」といっても、国立と私立、地方と首都圏、単科と総合、教員と職員、研究と教育など、各大学が置かれる状況によって課題や取り組み方がさまざまであることを実感できた。様々な大学の教職員と交流することで、自分の環境をとらえる視点が増えたと感じられた。
68	他大学の職員と交流することが出来た。
69	同じ年代の職員と交流することができ、悩みや目標を共有することによって、より幅広い視野で自大学について考える機会になった。
70	他大学の方と交流を持ち、いろいろな意見・考えを聞くことができたこと。
71	ワークショップ的な内容が多く、自分で考え、発信していけば得られるものが多かった点。
72	普段、お話を伺う機会のない先生方の講義を受講できる上、他大学の方と交流できる点
73	グループワーク等を通して人脈を広げ、情報交換を行うことができたこと。
74	・他大学の教職員の方と意見交換が出来たこと。
75	人脈を広げる事が出来た。
76	他大学との交流ができたので良かった。
77	他大学の人たちと会い、他大学の取り組み等を知ることが出来、非常に楽しかったと思います。

78	モチベーションが飛躍的に向上した点
79	多数の他大学の方と交わることができ、日常の大学業務について意見交換ができた点。
80	私立大学等参加者の意識レベルの高さを再認識することができました。国立大学の怠慢な組織体制、業務遂行及び取り組みが、組織に属している大学人として恥ずかしく感じられました。積極的で前向きな姿勢に刺激を受けた事は、自分自身にとってプラスになったと思います。
81	他学の教職員と情報交換できることが良かった。特に他学の取り組みで参考になることも多い。
82	実務においても、私生活においても、今まで考えられなかったことを、視点を変えて考えられるようになった。自分の目標・組織においての在り方・ビジョンを持てるようになったし、それを持つことの重要性を学ぶことができ、本当に良かった。講師の方々のプレゼンや説明がとても上手で、研修にのめり込めるように集中でき、今後のお手本にしたいと思う。
83	他大学の学生支援の取り組みなど、参考になる情報をたくさんいただきました。
84	他大学の業務内容を知ることができた。通常交流のない地域の担当者とも交流ができ知識を広げることができた。
85	プログラムの構成等、教職員として、大学の構成員として、今何が必要とされているスキルなのかを感じたり、再確認するきっかけになった。
86	今回、初めて参加させていただきました。
87	何より、他大学での事業に対する取り組み方を知ることができたのが良かった。このような機会があると、研修に加えて他大学との交流ができるので良い。
88	他大学の方からのお話を聞き、自大学と他大学を比較することができた。他大学の良いところもお手本にし、連携してよりよい大学づくりができると期待できた。
89	他大学の職員と比較して、自分の能力や意識のレベルがわかった。他大学の職員の能力や意識の高さを実感して、自分も成長したいと心から思った。自分の課題を理解するとともに、それを今後どのようにすれば解決できるかという道筋がつかめた。
90	他大学の方の話を聞いたこと
91	多くの大学職員(国立、私立を問わず)と意見交換ができた。また、研修を受講して前向きな気持ちになれた。
92	普段の業務は教員や学生とあまり関わることはありませんが、今回参加させてもらって、改めて大学で働いていることを実感し視野が広がりました。
93	FSDS 共通を受講しました。
94	実施形態に工夫がなされており、退屈せずに(積極的に)参加することができた。
95	教員と職員と一緒に学ぶ場は、刺激があってよい。
96	今まで漠然としていた大学の方向性とそのための対応策を具体的に思い描くことができた。
97	他大学の教職員と交流が持てたこと、自身の業務の振り返りが出来たこと。
98	私立大学の方や他県の大学の方と色々話をすることができ、勉強になった。
99	今回のテーマとして取り上げられていた「“気づき”と“振り返り”」は、企業など社会人の学びにおいても重視されていると聞いており、学校の中だけではなく卒業後まで含めた、ライフキャリアを通じての成長という観点で、学生の学習を捉えなおすことができました。
100	自分が普段の業務でなかなか教えてもらえないことを「研修」という形でご教示いただけるとこはとても勉強になります。

101	他の学会発表とは違い,実践的内容が目に見えてわかること。
102	モチベーションの高い,ベクトルが同じ方向を向いた教職員とコミュニケーションが取れたことについて非常に満足である。
103	他の研究会と違い実践型で,慣れないものでありましたが,他の大学の方々の考え方が参考となり,とても良かった。
104	地域,学校種,教員・職員の別,年齢,性別等,多様でありながらも同様の問題意識を持った方々と意見を交わしワークを行うことにより,今日の高等教育の課題の一端に触れ,知識を得,自らの振り返りを行うことができたこと。
105	他大学の参加者と情報交換や交流ができたこと,懇親会では職種を超えて話げできたこと
106	基本知識をご教示頂いた後,グループワークにより整理ができ,アクティブラーニングが有効であることを実感できました。またグループワークを通じて他大学教職員と情報交換ができ,とても有効でした。
107	他大学の事務職員と交流する機会があるのは非常にありがたい。
108	職場がちがういろいろな人と接触することができ,それぞれがどんな経験をしているのかが直接聞けて大変有益であった。
109	SPOD加盟校にとどまらず,四国外の大学に所属する方と交流できたことが大きかったです。
110	今回参加したプログラムが,自分の業務とは関連が少ない分野であったが,プログラム内容が事前知識が少なくても参加できるもので,興味のある内容だったため,知識を増やすことができてよかった。
111	人脈の広がり。
112	参考になるセッションがあり,日頃の業務が役立つている。
113	今年から学校現場での勤務に初めて携わったので,学校業界の雰囲気も含めて,全体像を把握するには勉強になった。
114	大学職員としての必要な知識を得ることが出来る点。
115	講義形式ではなく,実際にグループワーク等で話し合いを行うことができたので,より活発な意見交換や意識の共有ができたように感じました。
116	国立私立,職員・教員が入り混じっての講義スタイルが,様々な意見が聞ける点で有意義でした。カリキュラム内容が,今話題になっているテーマである点もよかったです。
117	業務をこなすだけの自分の仕事の仕方を見直すことができた。また,他大学の方から多くの刺激を受けることができた。
118	国際連携系職員養成プログラム「留学生受入実践」については,愛媛大学における留学生受入の実例が紹介された。留学生入学時において, どういった情報を優先的に学生に提供すべきか, どういった問題が予想されるか等, 今後本学国際交流課が取り組むべき課題を検討する上で参考となった。また他大学の国際交流課関係教職員と, 互いの大学の留学生受け入れ体制の現状や課題を共有しあう時間が設けられていた為, 他大学の取り組みからも参考になる事例を学ぶことが出来た。
119	・他大学の教職員と情報交換ができたこと。(私の担当するセンターと同じような目的や業務をされているところがあり,参考になった。)
120	様々な方を話げできるので,新たな発見がある。

121	座学だけの研修しか参加したことがなかったので、グループワーク、アクティブラーニング等を興味深く行った。
122	グループワークを通じて、他大学の考え方や現状を知ることが出来、自分の業務との比較ができた。
123	他大学の方々と1つの課題に取り組むなかで、自大学では出てこない発想などが伺える点です。
124	所属組織、地域を超えて、志を持った大学関係者と交流ができること。
125	勤続年数や職階、所属部署、経歴等が様々な他大学の教職員の方々との交流は大変有意義なものでした。研修のプログラム内容はもちろんですが、全国の大学から意識の高いたくさんの方々が参加する SPOD での出会いは本当に価値あるものとなりました。
126	具体的なスキルを、実践例を踏まえながら学ぶことができた。
127	新たな視点で自分の業務や教育支援を考える良いきっかけとなった。
128	ワークショップ形式が多く、実際にワークしながら他大学の方と学ぶことは有意義であった。しかし、中にはもう少し深く理論や背景となる知識面を学びたいと思うものもあったので、カリキュラムによっては半日以上かかかって行う講習が増えても良いと思いました。
129	1年目での研修参加だったため、大学職員はこういったさまざまな研修で学べる機会が多い職業なのだ実感できた点。
130	SPOD なので、「四国内の教職員が大半を占めているのだろう」と思っていたが、参加してみると全国から多くの参加があり、いろいろと意見交換ができたことがとても良かった。
131	普段の業務ではお会いする機会がない他県の大学の方々との意見交換ができ良い刺激を受けることができました。
132	業務に対して前向きな方々と交流ができたこと。また今後異なる業務担当となっても共通して対応可能なスキルを得られたこと。
133	研修中に発言できる場が多いこと
134	他大学の方と交流を深めることもでき、講座を楽しく受講することができました。ありがとうございました。
135	同じ悩みを抱える大学教職員同志で、ワークショップ等により意見交換や想いの共有ができた意義は大きいと感じた。
136	他大学の方とお話をする機会が得られ、様々な意見を聞くことができたこと。
137	初参加で緊張と多少の戸惑いを抱きながら参加したのですが、初日の講座から講師陣の熱の入れように圧倒され、ぐいぐい引き込まれ、終わってみればすごく楽しく、充実した研修となりました。研修の形態がグループワークが基本となっていたので、未だに体に染み付いており、実際の現場で活用できる大きな収穫となっています。

【その他】

138	興味関心のあるワークショップが開催されており、なおかつそれを受講できたこと。グループワークでいろいろな所属の方（参加されている方は熱心な方がほとんど）とお話するのはためになる。
-----	--

SPODフォーラムをよりよいものとするために改善点・開催日程や会場等についてご要望

【教員】

1	国立大学は専門スタッフも潤沢であるが、私学は少ないスタッフをやり繰りしながら、何とか業務を改善しようとしているので、そうした私学にも役立つ講座も考えて欲しい。
2	講演者の対象とする受講者像と、受講者がシラバスから予想する講演内容のギャップがあった。またそれは自分のみならずまわりの数人でも同意見であった。
3	受講したいワークショップの時間帯が重なっていたため、いくつかのワークショップに参加できなかった。同じプログラムで年2回開催することはできないか。
4	少し時間が足りない印象の講演があった。
5	定員の関係上、受講したいプログラムに参加することができなかった点。
6	FD, SD と書かれたものでも、内容は明らかに SD のものであるものがあり、期待した内容とはまったく異なるものがあった。対象が誰なのか明確にする必要がある。受講したい科目の時間帯が重なり、受けたい科目が受けられなかった。内容・テーマごとに(あるいは FD, SD ごとに)教室が分かれば、重なりが減るのではないか(面倒な注文かもしれませんが)。
7	時間にルーズな先生がいました。終盤いきなりスピードアップ、「あとは資料に目を通しておいてください。」で締め括るなど。
8	私が参加した FD は時間が足りなかったのもう少し余裕の持てる時間の配分をお願いできればと思います。
9	有料でも良いので、近くに駐車場があると有り難いです。
10	合宿形式も良いとは思いますが
11	内容を詰め込みすぎていると思われるプログラムが散見された。
12	特にありません。しいてあげるなら、(四国外からの参加のため)人気のある講座はすぐに締切になってしまうので、複数回設けていただけるとありがたいです。日程や会場もちょうどいいので、今の形で続けていただきたいです。
13	3日間の会期のうちオフィシャルな懇親会は1回しかできないとしても、それ以外の日の夜に、この指とまれ形式の飲み会情報が会場の一角に掲示され、行きたい人が自由に集まれるような仕掛けがあるとありがたい。例えば「若手職員同士飲みながら語りませんか?@ひろめ市場」など。いわば分科会みたいな飲み会です。
14	内容の充実したプログラムがどれほど準備できるかが全てだと思う。来年も期待しています。8月末開催で良い。場所も、四国の各大学で持ち回っており、大学を見学する機会となっている。開催大学は、大変だと思いますが、よろしくおねがいします。
15	日程の関係もあるので、現実的には困難だと思いますが、興味のある講座が重なるのが残念です。
16	学会形式で、ポスター、オーラル、シンポジウム形式で事例報告など各大学の事例を発表でき、それらについてディスカッションできる機会があると、自分たちのやり方にアドバイスをもらったり、参考にしたりできると思います。
17	全体では開催校の教員の、リーダーセミナーでは学部・学科長・教務主任クラスの先生方の参加がとて少なかったように感じました。

18	今回の最終日の「シンポジウム」は、シンポジウムというよりワークショップだった。そのことを、事前にアナウンスしておくべきだったと思います。
19	もう少し1回のプログラムの時間を長くしたほうがよいのではないか。時間に追われてしまって、きちんと完結しないプログラムがあった。
20	主に内部の関係者による講座がメインであったように思われるが、外部の有力なFD・SD関係の取り組みを行っている講師の先生を呼んでみても面白いように思う。
21	日程はこのあたりでいいですが、シンポジウムを最終日の午後にもってくると、遠隔地の者は出られなくなります。
22	2日間(28日・29日)の参加で3つの講座に参加しました。全て、WS形式でグループ編成がありました。WS形式には慣れていたつもりでしたが今回とてもストレスフルになりました。28日に2つのワークショップを終えたところで、とても3つ目のWSに参加する気になれず、3つ目をキャンセルしました。自分にとって、毎回新しいメンバーと交流するのは以外と緊張を強いられているのだということに気づきました。(同じメンバーで2日間とか3日間というのは大丈夫なのですが、今回のグループ活動はとても不全感が残り、疲れしました。
23	受講したいプログラムに偏りがあった。
24	関東・関西地方の大規模大学からの参加の多くが職員にとどまっているのが残念です。教員にもっと宣伝してほしいです。
25	学生の休暇中が参加しやすい。
26	ビジネスの世界から話を出来る人を招くというのをもう少し増やしても良いのかもしれない。
27	SDや、FDSDどちらにも対応したプログラムが増え、FDに関するプログラムが減ったような気がします。まだまだFDプログラムを充実させて欲しいと思いました。
28	大学ごとにいろいろ工夫をしている教室で開催してはどうか。
29	3年連続で参加させていただいたが、少し新鮮さを感じなくなった。
30	今の状態でもいいと思います。
31	有料でも良いので、近くに駐車場のある会場にして欲しいです。
32	いまどきはやりのファシリテーターではなく、教育経験豊富な教授陣を配置しているプログラムに学びがあった。今後も継続してほしい。
33	もっと多くの教職員に参加してもらいたいですね。着任初年度、勤続5年、10年などの節目には、参加義務(ゆるやかな義務)にしているはいかがでしょう。
34	研修を受けつづけているとちょっと疲れる感じもするので、次回は一コマ休みを入れる等工夫して参加したいと思います。そのためには、参加者がくつろいで休憩出来る場所も必要かと思います。
35	アクティブ・ラーニング関連のプログラムの増加。
36	日程はこの時期で良いと思いますが、場所は大きな駅の近くなど交通の便が良いところを希望します。

【職員】

37	スライドショーされる資料はなるべく手元にもほしい。
38	会場周辺に宿泊施設がない場合、JRなどの公共交通機関の時刻とフォーラム開始時刻を考慮して

	ほしい。
39	世代別の企画があっても面白いと思います。
40	1コマでは内容を端折ることになってしまうため、講義時間をもう少し長めにスケジュールリングできればよいと思います。
41	名札について、スタッフも名前を入れるべき。
42	各先生方の講演内容に関しては非常に有用なものばかりでした。
43	研修スタッフに対する説明が不十分なのか、講師から指示されたこと(機器の不具合、体調不良者の対応等)の対応に戸惑っている場面が見られました。
44	全ての研修プログラムを受講する事はなかなか難しく、懇親会にも参加する事ができなかったの で、一コマ一コマだけの受講では、人脈を広げる事ができなかった。
45	駐車場がある程度確保できる場所がありがたいです。
46	特に不都合を感じることなく参加させていただきました。
47	高知大学は駅から近く交通の便はよかった。
48	京都からの参加のため、やはり距離・時間の問題が大きいです。また出来れば主要駅から近い会 場で開催していただければ幸いです。大変充実した内容なので、四国以外でも出張開催をしてい ただければと思います。
49	今回受講させていただいた研修は自分の仕事内容に直接かかわる研修ではなかったのですが、内 容がとても良くて時間が物足りない感じがしました。
50	8月末開催は学事スケジュール上、実務者の参加が難しい部分があるため、22~25日頃の開催を 検討いただければと思います。
51	特にありません。
52	ワークショップを行うプログラムにおいて、規模や形態などを考慮していただけると、より身近な問題 の解決策や気づきが見つかる様に思います。
53	来年以降、就職活動スケジュールの後ろ倒し(採用選考8月解禁)に伴い、学生のキャリア支援に関 係するプログラムの実施や、関係教職員の参加が難しくなることを危惧しております。
54	SPODの会場に際し、県外から来た他大学の方々のために簡単な観光スポットなどの冊子を入れ ていただきたいです。
55	4日日程でもいっくらい魅力的な内容ばかり。
56	SDC関連の講座を主に受講したため仕方ないと思うが、スタッフポートフォリオやメンタリングに関し て資料の使い回しが多い。
57	日程については、大学の夏休みであり参加がしやすかった。
58	今回の高知大学(朝倉キャンパス)は市街地から離れていたことから、路面電車、バス等での移動に も時間がかかりました。遠方から参加させていただくには前泊を伴ったり、帰りに大学から市街地、そ こから空港までの移動時間を要する等、少々負担を感じました。
59	開催時期は夏休み中が良い、参加し易い時期であるため
60	教職員が混在するプログラムにおいてグループワークをする場合、できれば教職員が混在 or 教員/ 職員でのグループ割りがいいと思います。私が参加した教職員混在のプログラムは自由席だった のですが、運悪く私以外全員が教員でして、ワークの際に共有できる事が少なかったです。

61	ある程度の前知識が必要なものについては,受講者のレベルをそろえるため,簡単なアンケートを事前に課してはどうか。
62	今回の高知は非常に良かったと思う。
63	中には運営に問題のあるセッションがあった。
64	開催日程は,もっと長くとっていただいてもよいと思う。同一内容を日をずらして重複して行うなど,申し込み人数超過で受講できないといったことがないようにして欲しい。懇親会は,高専チームなど職域の近い者をグループ分けしてテーブル設定して欲しい。名前も分からず懇親にならなかった。
65	ワーク形式の講座スタイルはよかったです,講師の方がそちらに気を取られすぎて,講義内容の時間配分がうまくいっていないケースがあった。
66	講座によっては,最後のほうのスピードが速く,ワークに十分な時間が取れなかったものがあった。ワークに不慣れだったので,もう少し時間が欲しかった。
67	都合により自動車で伺うこともあり,周辺の駐車場(有料で構いません)をいくつかお知らせいただければと思います。
68	特にございませぬ。開催日程は大変参加しやすい時期でした。
69	シラバス等に設定してある到達目標と,実際に内容に若干ずれがあったので改善してほしい。
70	SPODフォーラムは,通常の研修プログラムよりもワークショップに割く時間が短いように感じた。
71	開催日程について,土日も含めて3日間とかであれば,より参加しやすいのかもしれませんが。自主参加したいと思った時に,平日であると前日参加したくても都合がつけられないこともあると思います。
72	実施にあたって,不満な点はありませんでした。
73	開催日程はこのままでお願いしたい

SPODフォーラムで開講してほしい研修プログラム

【教員】

1	理工系の授業に活かせる内容が比較的乏しいので、さらなる充実を期待したい。
2	発達障害・精神障害に関するワークショップの拡充(今回の発達障害のワークショップは大変良かった)
3	新生へへの導入教育(その後の学ぶ姿勢を伝えるのに効果がある方法は?)
4	今回未経験者として TBL 講座に参加した。段階別の講座(Step UP)があればぜひ参加したい。
5	遠隔授業の具体的な授業実践研修
6	学生または職員のメンタルケアに関するプログラムを希望します。
7	発達障害学生への支援,具体的に,学生生活,ゼミ・講義,就職支援など,少し踏み込んで知りたい。
8	現状で良いと思います。受講できる機会が限られているので,個人の時間の調整で解決できる問題である。
9	(1)発達障害その他の多様な困難等をかかえた学生支援について,大学として組織的に取り組んでいる事例の紹介や,その専任スタッフなどによる具体的な組織・運営・実情などの紹介や,一般教員としての対処の仕方の基本知識・技術などの研修,など。
10	クリッカーやアンケートをつかった授業などについても開催してほしいですね
11	内容に偏りがあり,どの講師も学生参加型の垂流を説明しているように感じた。それはそれのためになったが,来年も同様であれば,しばらくは受講しなくてもよいかと考えている。
12	外国語教育に関するプログラムを充実させていただきたい。
13	今回もありましたが,(ジグソーなど)グループワークの具体的な手法や,ルーブリックなどすぐに生かせる手法を充実していただけると嬉しいです。
14	今, 大学に突き付けられている要求を, 懐疑的に検証するような内容をぜひやって欲しい。例えば「アクティブラーニングはやっていいことなのか?」とか「ルーブリックの危険性を考える」など。
15	講師が少しマンネリ化している。四国の教員を中心にしながら,全国規模で(よく知られていないが本当は実力,実績がある)素晴らしい講師を発掘して欲しい。
16	休学者に対するケア,対応方法,ガイダンスなどの方法について。発達障がい,統合失調症,うつなどの学生に対しての非常勤などどのように担当教員に周知しているのかなど。
17	理論 2 時間+実践 2 時間のセットという講座があっても面白いかもしれない。アンケート系のプログラムは復活させてもいいのではないだろうか。
18	実践を裏付ける教育理論について。
19	以前,別の機会に話を聞いたことがあるのだが,株式会社シェアするココロの代表,石井正宏氏の話などは,キャリア支援などの面で参考となる所が多いように感じられたので,講師として招いてみても面白いように思う。また,慶應義塾大学講師もされている,樋栄ひかる氏によるアクティブラーニングの講座なども,面白いのではないかとと思う。

20	学生FDや学生スタッフを対象としたプログラムがあると嬉しいです。
21	マネージメント
22	同じようなプログラムを継続的に開いて、多くの教職員に多様な経験をさせたいので、このような形式で続けてください。
23	FDの総論的なものではなく、具体的な手法を紹介し実践できるのがこのフォーラムの魅力なので、アクティブ・ラーニングの手法についてどんどん発信して欲しい。
24	高校での教育と大学での高等教育の間には現状では大きな隔たりがあるように感じるので、その溝を埋める方法についての研修、また高校の教員が大学に期待すること等も聞いてみたい。
25	専門分野を少し限定したプログラム
26	反転授業に関するニーズがありそう。自習を促す取り組みでもあり、単位の実質化に繋がる取り組みでもあり、大学版反転授業の取り組みをしている教員に事例を紹介してもらってもよい。
27	今年初めて始まり参加したプログラムは、今一つ自分の中で腑に落ちない点もあるため、少しずつステップアップしていくプログラムを期待します。
28	最近の学生はコミュニケーション不足と言われていますが、それに対する対策を他の学校ではどうされているのか知りたいことと、コミュニケーション力アップのための授業を開講していただきたいです。
29	小規模な特に短大ではなかなか取り組めない内容も多い。やる気の起きない学生に対してどのようにすれば興味を持ってもらえるのか。
30	FDファシリテーターの養成講座を、もし可能であれば開講していただけると有り難いと存じます。
31	教育プログラムの問題点に関する理論的。
32	分かり易い講義スライドの作り方

【職員】

33	2018年問題に向けた大学をとりまく経営状況について
34	学校組織図の見直しや、体系・情報の伝達方法をよくする研修
35	寄付金(募財)に関する研修(方法論や広報活動、システムなど)
36	大学の教職員として働く姿勢・マナーなど
37	女性向けのキャリアアップ研修
38	管理職等においては、職種的にも年齢的にも学習する立場から離れている状況です。再教育の機会として、固執した意識や考え方を改善していただくためにも、研修プログラムを検討していただきたい。
39	教育や学生生活など他大学の特徴的な取り組みの紹介

40	部局にもよると思うが、事務を行う上で内外からのクレームを扱うことも多い。クレーム対応の実践的なプログラムがあれば助かる。
41	SDC 養成プログラムを近畿内で開催してほしいです。
42	障がい(発達障害含む)をもった学生への授業を含めた対応についての実践例に基づく研修をお願いできればと思います。
43	生涯教育の推進や社会人学生の取り込みについての方法及び問題点
44	SPOD フォーラムには、多くの地域の大学等から参加者が集まっておりますので、それを利用して、四国地区の大学等がもつ課題に対して、全国各種の高等教育機関の教職員がディスカッションして提案をつくるワークショップ(その過程で、企画立案やグループダイナミクスの体験をする。PBL の教職員版)を設けてはいかがでしょうか？
45	係員対象のものをもう少し増やしていただきたいです。
46	初年次科目「日本語リテラシー」の実践について
47	スタッフポートフォリオの導入に至る苦労や現在抱えている困難。
48	問題発生時の対処・解決方法、取り組み方
49	科研費(奨励研究)の応募について、事務職員の取れる外部資金について
50	自分のスキルアップに繋がるもの。
51	管理職向けセミナーを中心に設定を増やして欲しい。
52	業務マニュアル作成方法の研修。調達業務などで必要な交渉力をつける研修。
53	中退予防、教養教育に関してのプログラムがほしい。
54	【開講希望プログラム:留学生の受け入れ実践について】留学生を受け入れる際は、異文化適応に関する問題、授業料未納などの経済問題、アルバイト等の資格外活動時間に関する問題等、様々な問題が発生する可能性がある為、実際の事例ならびに対応方法を取り組んだ研修プログラムを企画していただきたい。
55	有用なパソコンスキル、特にアクセスについて、研修をしていただきたい。
56	「国際交流」という切り口ではなく「グローバル化」という視点での研修プログラム。
57	発達障害の心配のある学生への指導について
58	障害学生支援(合理的配慮等)についてのプログラムがあれば参加したいです。
59	中堅以上の意識改革(変わりたいけど、方法が分からない。変わる気がそもそもない)につなげられるような研修があるとよいです。
60	今回もありましたが、大学経営・マネジメントに関するプログラム

61	グローバル化に向けての取り組み
62	プレゼン資料の効果的な作成と発表方法など
63	人材育成関連
64	今回参加できなかったプログラムが、次年度も継続して行われるところにも魅力を感じています。

SPODの事業全般についてご意見やご要望

【教員】

1	内容によっては、もう少し実習に時間を掛けて、基礎から応用まで網羅した方が良いように感じました。
2	今回初めて参加させていただきましたが、すごく丁寧な運営だったと思います。
3	過去2年間、毎回参加している。毎年楽しみにしている。
4	運営、大変だと思いますが、よろしくお願いします。
5	毎年、参加させてもらっています。大変勉強になります。ありがとうございます。
6	常連の先生方どうして和気あいあいと話されている光景をよく見かけましたので、非常に良い場であると感じておりました。私も馴染めるようこれからも参加させて頂きたく思っております。
7	大変有意義な事業であり、運営努力に敬意を表します。
8	毎回いろいろ勉強させていただいています。ひきつづきよい内容での講演・研修会等を実施してください。
9	今回は3回目の参加になりますが、非常に勉強になります。しかし、理解されていない先生が現場には多くいらっしゃるため、広めたくとも難しい状況が現実にはあります。積極的参加を呼び掛けてほしいものです。
10	東京から参加させていただいていますが、毎年何か必ず得るものがあり、とても楽しみにしています。今後も続けていただきますよう、よろしくお願いいたします。
11	よく準備されていて完成度の高いイベントだと思った。参加して楽しかったです。
12	長い歴史と実績に敬服。それが大学にどんな効用がもたらされているのか、この点がそろそろ問われていると思うが、それについての明快な答えが聞こえてこない。来年はこの点を発表して欲しい。
13	始まる時間が遅く、終わる時間が遅いため、他の教職員と意見交換する時間が少なく感じた。プログラムを朝方にシフトすることは難しいのでしょうか。涼しい時間に実施されることで冷房費も抑えられるかもしれません。
14	四国でまとまっていながら境界を越えた取組としてのSPODフォーラムは非常に有意義である。
15	裏方のスタッフの方々、お疲れさまでした！
16	大変興味深い事業であるので、今後もぜひ積極的に継続して行っていただけると、学ぶ側としては大変ありがたく思う。
17	四国巡礼の趣を呈してきました。
18	四国地区以外からも受け入れてくださったことに感謝いたします。
19	きめ細やかな対応で、大変助かりました。
20	維持継続していくのはとても大変だと思いますが、拠点の継続も決まったようなので、是非頑張ってくださいと思います。
21	最初に目標が示され、一方的な講義ではなく、具体的なワークショップが多く、大変勉強になりますが、その時は分かったような気になっていても、改めて振り返ると・・・ということがあるので、自分の問題かもしれませんが、何か方策はないでしょうか？
22	お疲れ様です。

【職員】

23	今後もより多くの大学が参加されるよう、広報に力を入れて頂きたい。
24	いつも業務に直結するプログラムをご提供くださり、ありがとうございます。SPODフォーラムは、今回2回目でしたが、複数参加することで、前回参加した時の自らの振り返りをする機会にもなりました。
25	危機管理(ハラスメント)を受講したが、使っている資料も古く、内容もハラスメント論や啓蒙ばかりで組織としての対応などにも全く触れられておらず、防止に役立つものとは思えなかった。なぜ無くなるのか、そればかりか同じ人間が複数の被害者を生み出している現状がなぜ改善されないか、そういったことにちゃんと向き合って問題点に切り込んで欲しかった。他の分野は受講してないのでわからないが、少しでも役立つものを身につけたいと期待して参加したのに失望した。
26	四国でこのような取り組みをされているのは意欲的で羨ましいです。
27	とても有意義な3日間の研修でした。また是非参加したいです。
28	今回初めて参加致しました。スタッフの皆様のご苦勞や先生方の熱意に感動致しました。近畿地区でも同じような取り組みが出来ないものかと考えております。
29	事業が開始された時期に採用されている職員にとっては、有り難い研修であり、恵まれた立場だと考えています。四国地区なので、比較的参加しやすい地理状況ではありますが、業務遂行上部下を頻繁に参加させる事が難しい。
30	たくさん事を学ばせて頂き、自分にとってとても有意義な研修になった。学んだ事は今後惜しみなく発揮し、また自分の大学に波及していきたい。
31	フォーラム開催だけでも、大変な労力がかかっていることと思います。どうもありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。
32	もっと、研修などにも参加したいが、職務上難しい部署にいる。2回にわけて開催されているセミナーなどは、1回目を修了した人でなければ2回目を受講できないなど、制約があり、できれば、もっと自由に参加できるとありがたい。
33	今後も内容が濃く、バラエティーに富んだ事業を期待しています。
34	今回は1コマのみの受講でしたが、他にも受けたら良かったと後で後悔しました。
35	今年初めて参加させていただきました。1日目しか参加できず残念な思いをしたので、来年は全日程参加したいと思います。ありがとうございました。
36	非常に先進的ですし素晴らしい取組だと思えます。
37	ネットワークコア校をはじめとしたSPOD加盟校の皆さまの日ごろのご尽力の成果を、SPODフォーラムでは、ありがたく享受させていただいております。
38	開講科目から興味のあるテーマを選択して受講できる点が良い。申込みが遅くなり、受けたいと思った内容の一部は既に満員であった。
39	本当にいい研修を受けることができ、ありがとうございました。ご教示頂いたことすべてを即業務に活かすのは困難ではありますが、少しずつでも活かせるよう工夫していきたいと思っていますし、他の職員にも伝えていきたいと思っています。

40	SPODに参加されている方は、そもそも教育改善、改革等に対して意識の高い方たちだと思う。その中で、感じることや、得ることはそれなりにあるが、現場に持ち帰った時に、大多数の教職員の関心、意欲の低さを実感する。そういう意味で SPOD での成果を現場にそのまま活用できるというアンケート回答はできなかった。
41	運営スタッフの手際の良さに頭が下がります。ありがとうございました。
42	これからも続けてほしい。
43	よく頑張っていると思う。自分の若いときにSPODがあれば、よかったと思う。
44	事前に自己紹介用紙を記入してもらって、セミナー当日にみんなに配付できるようにしておくこととなり、親しみが出てくるように思う。
45	フォーラムの運営がきちりとされており、告知や受付もわかりやすく丁寧で、カリキュラムも多岐にわたり、ここまできちり運営されているフォーラムは、なかなかなかったです。その分、企画立案から実施まで運営側の皆さんは、かなり大変だと思いますが、今後とも継続して頂きますようよろしくお願い致します。
46	素晴らしい講師陣、スタッフの運営手腕に心から感服致しました。素晴らしい時間を有難うございました。
47	今後も、四国内だけでなく、他県の方々も加えて継続していただきたいです。
48	eラーニング方式によるSD講座
49	このアンケートですが、実施してから期間が空きすぎていると思う。
50	開催日程をもう少し早くに決定できないでしょうか。
51	これだけの内容の事業を継続して実施されていること自体に心から敬意を表します。

SPODフォーラム2014参加者からの要望等について

■開催時期／期間について

- ・開催時期は夏休み中が良い、参加し易い時期であるため
- ・4日日程でもいっくらい魅力的な内容ばかり。
- ・開催日程について、土日も含めて3日間とかであれば、より参加しやすいのかもしれませんが。自主参加したいと思った時に、平日であると前日参加したくても都合がつけられないこともあると思います。
- ・来年以降、就職活動スケジュールの後ろ倒し（採用選考8月解禁）に伴い、学生のキャリア支援に関するプログラムの実施や、関係教職員の参加が難しくなることを危惧しております。
- ・開催日程は、もっと長くとっていただいてよいと思う。

対応

過去の実績に基づき、教職員が最も参加しやすい夏季休業中の平日に開催する。なお、来年度は愛媛大学で8月26日（水）～28日（金）の3日間で開催する予定である。

■開催会場について

- ・会場周辺に宿泊施設がない場合、JRなどの公共交通機関の時刻とフォーラム開始時刻を考慮してほしい。
- ・四国外からの参加のため、出来れば主要駅から近い会場で開催していただければ幸いです。大変充実した内容なので、四国以外でも出張開催をしていただければと思います。
- ・都合により自動車で伺うこともあり、周辺の駐車場（有料で構いません）をいくつかお知らせいただければと思います。
- ・今回の高知大学（朝倉キャンパス）は市街地から離れていたことから、路面電車、バス等での移動にも時間がかかりました。遠方から参加させていただくには前泊を伴ったり、帰りに大学から市街地、そこから空港までの移動時間を要する等、少々負担を感じました。
- ・大学ごとにいろいろ工夫をしている教室で開催してはどうか。
- ・四国の各大学で持ち回っており、大学を見学する機会となっている。開催大学は、大変だと思いますが、よろしくおねがいします。
- ・高知大学は駅から近く交通の便はよかった。
- ・四国巡礼の趣を呈してきました。

対応

今年度高知大学で開催したことにより、高知県内加盟校の教職員に多数御参加いただいた。2年前の徳島開催でも新たな参加者の獲得に繋がっており、SPOD加盟校にフォーラムを有効活用していただくためにも、四国内持ち回り開催について引き続き検討していく。また、参加者には公共交通機関の利用をお願いしていることから、フォーラムの開始時刻等についてはできる限り配慮する。

■広報活動について

- ・全体では開催校の教員の、リーダーセミナーでは学部・学科長・教務主任クラスの先生方の参加がとて少なかったように感じました。カリキュラム編成等で大学教育の中心を担う先生方には大学としてもっと参加を呼びかけるべきだと思います。
- ・関東・関西地方の大規模大学からの参加の多くが職員にとどまっているのが残念です。教員にもっと宣伝してほしいです。
- ・もっと多くの教職員に参加してもらいたいですね。
- ・今後もより多くの大学が参加されるよう、広報に力を入れて頂きたい。

対応

フォーラムの広報については、チラシを作成し全国の高等教育機関に配布しているほか、SPODメールマガジンやホームページで案内している。また、あさがおMLや他機関ホームページでの開催案内掲載等、多くの教員が活用しているメディアでも積極的に行っているが、毎年職員の参加者数が上回っている状態である。加盟校外への案内周知については限界があるが、各加盟校においては、教員だけでなく管理職クラスの方々にも参加いただけるよう案内方法等の検討をお願いするとともに、運営側としても、多くの方が参加したくなるような魅力的なプログラムを提供する。

■参加者間の交流について

- ・常連の先生方どうしで和気あいあいと話されている光景をよく見かけましたので、非常に良い場であると感じておりました。私も馴染めるようこれからも参加させて頂きたく思っております。
- ・2日間（28日・29日）の参加で3つの講座に参加しました。全て、WS形式でグループ編成がありました。WS形式には慣れていたつもりでしたが今回とてもストレスフルになりました。28日に2つのワークショップを終えたところで、とても3つ目のWSに参加する気になれず、3つ目をキャンセルしました。
- ・事前に自己紹介用紙を記入してもらって、セミナー当日にみんなに配付できるようにしておくこととなりがわかって、親しみが出るように思う。

- ・始まる時間が遅く、終わる時間が遅いため、他の教職員と意見交換する時間が少なく感じた。プログラムを朝方にシフトすることは難しいのでしょうか。涼しい時間に実施されることで冷房費も抑えられるかもしれません。
- ・3日間の会期のうちオフィシャルな懇親会は1回しかできないとしても、それ以外の日の夜に、この指とまれ形式の飲み会情報が会場の一角に掲示され、行きたい人が自由に集まれるような仕掛けがあるとありがたい。例えば「若手職員同士飲みながら語りませんか？@ひろめ市場」など。いわば分科会みたいな飲み会です。
- ・懇親会は、高専チームなど職域の近い者をグループ分けしてテーブル設定して欲しい。名前も分からず懇親にならなかった。

対応

- ・SPODフォーラムは、年々大学教職員の間で定着していると感じる。フォーラムの特徴であるワークショップ型研修の提供が、自然に参加者間の交流を促進しており、フォーラムへの参加を同窓会に出席するような気持ちで参加されている方もいらっしゃる。一方で、SPODとしては、これまでどおり特徴である参加型の研修を提供していくが、それだけにとらわれず新しいスタイルの研修についても検討していく。
- ・例年、参加者相互の交流を図ることを目的として、リフレッシュルームの設置や懇親会の開催のほか、ラウンドテーブル、ランチョンセミナーや連続受講プログラムを設ける等、色々工夫しているところである。現在、来年度のフォーラムについて検討中であるが、ポスターセッション等、参加者が自然に交流を図ることができる仕掛けについてアイデアを出し合って検討している。
- ・懇親会についても、参加者が交流しやすくなるような仕掛けを検討する。

■プログラム構成について

- ・世代別の企画があっても面白いと思います。
- ・合宿形式も良いと思う。
- ・同一内容を日をずらして重複して行うなど、人数超過で受講できないといったことがないようにして欲しい。
- ・定員の関係上、受講したいプログラムに参加することができなかった点。
- ・受講したい科目の時間帯が重なり、受けた科目が受けられなかった。内容・テーマごとに(あるいはFD、SDごとに)教室が分かれば、重なりが減るのではないかと(面倒な注文かもしれませんが)。
- ・学会形式で、ポスター、オーラル、シンポジウム形式で事例報告など各大学の事例を発表でき、それらについてディスカッションできる機会があると、自分たちのやり方にアドバイスをもらったり、参考にしたりできると思います。
- ・国立大学は専門スタッフも潤沢であるが、私学は少ないスタッフをやり繰りしながら、何とか業務を改善しようとしているので、そうした私学にも役立つ講座も考えて欲しい。

- ・SDや、FDSDどちらにも対応したプログラムが増え、FDに関するプログラムが減ったような気がします。まだまだFDプログラムを充実させて欲しいと思いました。
- ・開講科目から興味のあるテーマを選択して受講できる点がよい。申込みが遅くなり、受けたい思った内容の一部は既に満員であった。
- ・内容を詰め込みすぎていると思われるプログラムが散見された。
- ・もう少し1回のプログラムの時間を長くしたほうがよいのではないか。時間に追われてしまって、きちんと完結しないプログラムがあった。
- ・3年連続で参加させていただいたが、少し新鮮さを感じなくなった。

対応

- ・フォーラムは毎回全体的に好評であるが、例年プログラム構成について賛否様々なご意見をいただいている。マンネリ化というご意見もあるが、人気の高いプログラムについては受講できなかった方のため2年以上開講することとしており、リピーターの確保に繋げている。また、FD/S Dのプログラム数については、一方に偏ることが無いようバランスを考慮して配置しているほか、教職協働が問われる状況の中、教員職員が共に考える場としてFD/S D共通プログラムも積極的に提供している。今後も引き続き、新規の方にもリピーターの方にも満足いただける、時代のニーズに合わせた魅力的なプログラムを提供していく。
- ・研修時間については、次回はもう少し柔軟な時間設定となるよう検討中である。

■プログラムの進行・運営について

- ・講演者の対象とする受講者像と、受講者がシラバスから予想する講演内容のギャップがあった。またそれは自分のみならずまわりの数人でも同意見であった。
- ・FD/S Dと書かれたものでも、内容は明らかにS Dのものであるものがあり、期待した内容とはまったく異なるものがあった。対象が誰なのか明確にする必要がある。
- ・予期した内容(プログラム内容の説明も読んでいた)と異なっていると感じる内容のものがいくつかあった。
- ・シラバス等に設定してある到達目標と、実際に内容に若干ずれがあったので改善してほしい。
- ・教職員が混在するプログラムにおいてグループワークをする場合、できれば教職員が混在 or 教員/職員でのグループ割りがいいと思います。私が参加した教職員混在のプログラムは自由席だったのですが、運悪く私以外全員が教員でして、ワークの際に共有できる事が少なかったです。
- ・ある程度の前知識が必要なものについては、受講者のレベルをそろえるため、簡単なアンケートを事前に課してはどうか。
- ・S P O Dの会場に際し、県外から来た他大学の方々のために簡単な観光スポットなどの冊子を入れていただきたいと思います。

対応

・今年度は、申込み時にシラバスを確認いただけるようチラシやホームページ上で工夫したところ、例年指摘をうけてきた「事前にプログラム内容を把握したい」等のコメントはなく、シラバスを確認された上で申込みいただけるよう改善されたことが分かった。しかし、上記コメントのようにシラバスと研修内容にギャップがあったとの指摘をいくつかいただくこととなった。次回フォーラムでは、講師の方々には、受講者に分かりやすいシラバス作成及びそのシラバスに沿った研修の実施をお願いするとともに、運営側としても講師の選考を早めに行い、内容を十分検討いただいた上でシラバス作成に望んでいただけるようスケジュールを調整する。

・講師から希望のあったプログラムについては、予め職種や所属を考慮の上、グループ分けを行っているが、指定がない場合は自由席となっている。会場受付で、同じ所属の方や職員同士が別グループとなるよう呼びかけるほか、講習冒頭に講師からも、受講者がより多くの方と交流いただけるグループメンバーとなるよう促していただく。

・シラバスの中で受講対象者を記載いただくことにより、ある程度のレベル設定を行っている。あとは、参加者の自己判断となるところであるが、講師には受講レベルをイメージしやすいよう受講対象者をより具体的に記載いただくこととする。また、研修によっては参加者に予習として事前課題を提示し、共通知識をもって研修に望んでいただくための工夫をする。

■シンポジウムについて

・今回の最終日の「シンポジウム」は、シンポジウムというよりワークショップだった。そのことを、事前にアナウンスしておくべきだったと思います。

・日程はこのあたりでいいですが、シンポジウムを最終日の午後にもってくると、遠隔地の者は出られなくなります。

対応

・シンポジウムについては、ワークショップ形式での実施やツイッターの導入など、参加者の皆様に満足いただけるものとなるよう毎年改善の努力を行っている。引き続き、内容・進行等を見直しつつ、教職員が一体となって考えることができるシンポジウムとなるよう工夫する。

・シラバスには参加型シンポジウムと明記していたが、講師の方々には受講者により分かりやすいシラバスとなるよう記入時に注意していただく。

・シンポジウムの日程については、開催校の状況を含め、フォーラム全体の流れを考慮しつつ決定させていただく。

■運営上の要望について

- ・名札について、スタッフも名前を入れるべき。
- ・研修スタッフに対する説明が不十分なのか、講師から指示されたこと（機器の不具合、体調不良者の対応等）の対応に戸惑っている場面が見られました。
- ・研修を受けつづけているとちょっと疲れる感じもするので、次回は一コマ休みを入れる等工夫して参加したいと思います。そのためには、参加者がくつろいで休憩出来る場所も必要かと思います。
- ・開催日程をもう少し早くに決定できないでしょうか。

対応

- ・開催日程については、年内にはメールマガジンやホームページでご案内している。手続き上、詳細なプログラムについては毎年6月頃のご案内となっているが、できる限り早く案内できるよう調整する。
- ・運営スタッフのほとんどは、事前に1度の説明を受けただけでご協力いただいている他大学や他部署の職員であるため、対応に手間取ってしまうことはある程度仕方がないと考えている。その場合でも、より経験豊富なスタッフを巡回させるなどの対策はとっているが、ご協力いただくスタッフが当日よりスムーズに動けるよう、事前の説明会の内容を改善する等さらに工夫する。
- ・受講者の休憩場所については毎回準備しているが、会場の関係上、全ての参加者に便利な場所での提供は難しい。また、休憩時間も短いため、実質的に十分に活用いただける状況ではない。今後は、プログラム配置や休憩時間等を検討し、参加者が交流を図りながら一息つける場所作りについても検討する。

5 平成26年度活動実績

(4) SPOD共通事業

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：クラスルームコントロール
 講師名：秦 敬治 (愛媛大学)
 実施日：平成26年4月25日 (金)
 実施会場：徳島工業短期大学

当日参加者数：17名
 アンケート回答者数：17名

1. 参加者ご自身について

職種

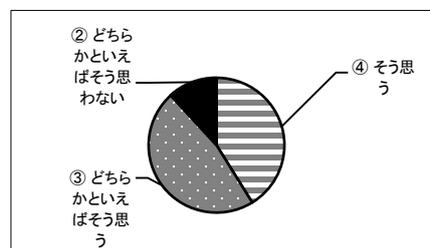
	度数	割合
① 教員	17	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	17	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

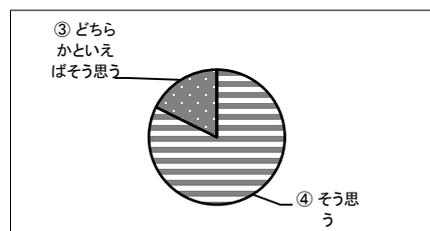
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	7	41.2
③ どちらかといえばそう思う	8	47.1
② どちらかといえばそう思わない	2	11.8
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



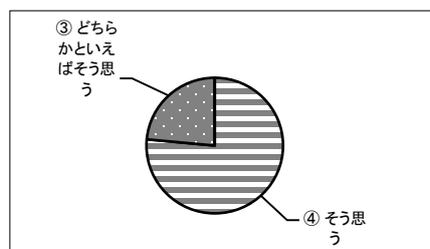
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	14	82.4
③ どちらかといえばそう思う	3	17.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



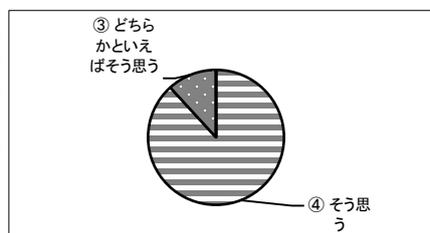
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	13	76.5
③ どちらかといえばそう思う	4	23.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



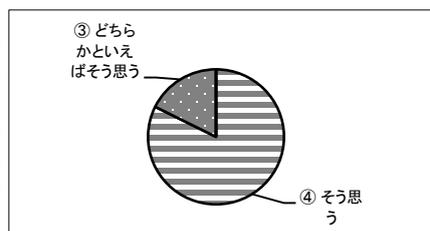
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	15	88.2
③ どちらかといえばそう思う	2	11.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



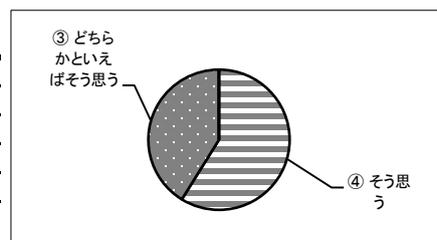
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	14	82.4
③ どちらかといえばそう思う	3	17.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



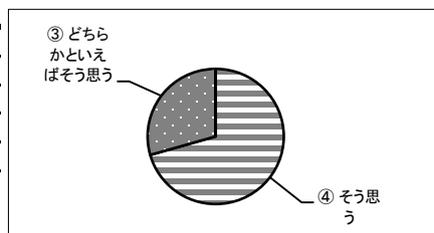
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	10	58.8
③ どちらかといえばそう思う	7	41.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



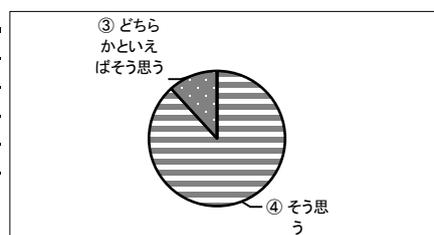
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	12	70.6
③ どちらかといえばそう思う	5	29.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	15	88.2
③ どちらかといえばそう思う	2	11.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 教室への考え方を改めて考えることができた。
- パワーポイント使用上のこと
- 予習させる方法
- 授業に向けてのしかけ・・・1回目の授業
- 自分の講義の反省になった。
- 授業の目的を明確にして授業するようにしたい。
- アイスブレイクの活用
- 早速授業に活かそうな内容でした。
- これからの授業に適用することの内容で良かった。
- 学生とのコミュニケーションによるムード作り方法
- 1回目授業の規則等（が全てにつながる点）
- 具体的なポイントが明示されていた。
- 事前の仕掛けが大事なこと。
- 明確にすること。
- 数学でコミュニケーション挨拶を教える。
- 毎回の授業で加点する。
- 具体的に指示、やり方について説明があり、参考になった。
- 授業の改善手段を見つけることができた。
- 授業方法に確信が持てる内容であった。
- アンケートが参考になった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 2回目もぜひ受けてみたいです。
- 授業時のムード作りについて
- 研修時のグループディスカッション等があればさらに良かった。
- 15回の授業の見直し
- 工業系の指導方法を講義してもらいたい。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：担任教員に求められること～担任スキル開発ワーク～
 講師名：坪井 泰士（阿南工業高等専門学校）
 実施日：平成26年6月5日（木）
 実施会場：弓削商船高等専門学校

当日参加者数：22名
 アンケート回答者数：22名

1. 参加者ご自身について

職種

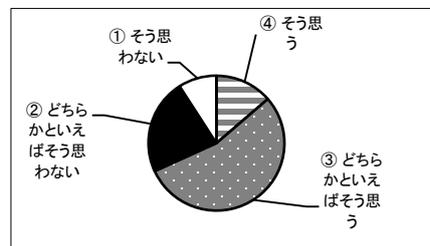
	度数	割合
① 教員	22	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	22	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

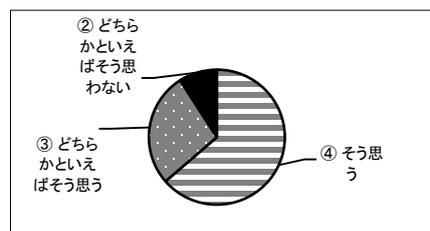
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	3	13.6
③ どちらかといえばそう思う	12	54.5
② どちらかといえばそう思わない	5	22.7
① そう思わない	2	9.1
計	22	100.0



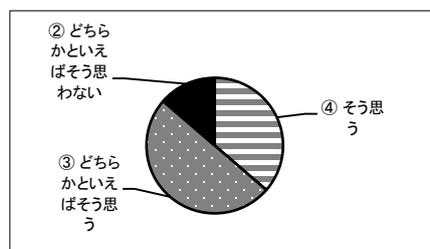
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	14	63.6
③ どちらかといえばそう思う	6	27.3
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



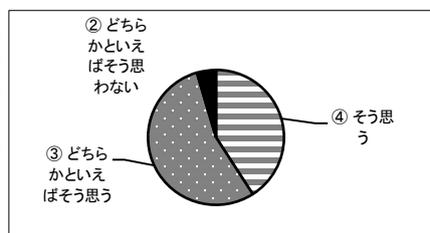
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	8	36.4
③ どちらかといえばそう思う	11	50.0
② どちらかといえばそう思わない	3	13.6
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



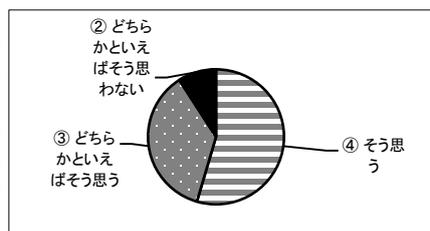
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	9	40.9
③ どちらかといえばそう思う	12	54.5
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



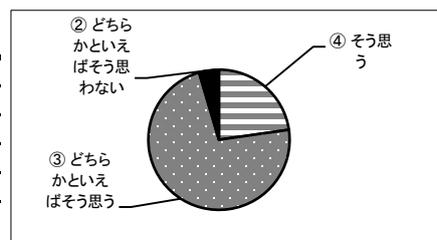
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	12	54.5
③ どちらかといえばそう思う	8	36.4
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



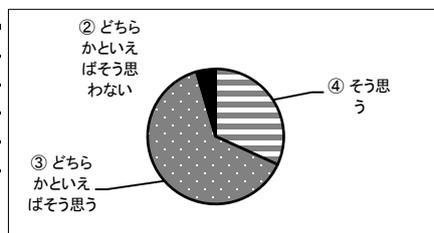
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	5	22.7
③ どちらかといえばそう思う	16	72.7
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



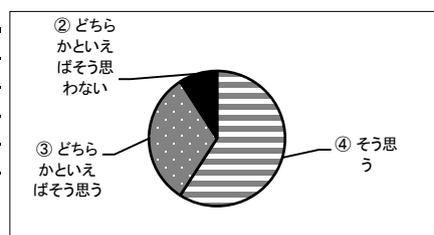
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	7	31.8
③ どちらかといえばそう思う	14	63.6
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	13	59.1
③ どちらかといえばそう思う	7	31.8
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ワーク形式の取り入れと、自己分析の時間があつた。(グループによるワーク)
- 具体的事例で話しを進めていた。
- 話し合う場ができた。
- いろいろなケースを知ることができた。
- 自分が思っていることを再認識させられる工夫がなされていた。
- 他の先生がどのように考えて指導しているのかを知ることができ、とても良かった。自分から言うのではなく、学生が自ら考えて答えを出す方法は自分も学校で取り組んでみようと思う。
- 各学校の問題を共有・共感することができた。
- 初心を思い出した。
- 日頃の業務を見直す良いきっかけとなったと思う。
- 他の教員の意見を聞いたこと。
- 問題の具体例・対応を聞いたこと。
自身の振るまいについて、改めて向き合うことができた。
良い経験を知りました。
- 高専教員による研修なので、実情に合っている。
- どこの高専も同じような問題を抱えていることがわかった。
- 学生の叱り方、声かけ法
- 学生指導の一面を具体的に講演していただき、勉強になりました。
- ワークを通じて認識を深めることができた。
- 同じ思いを共有することができました。
- 新しい技術のプレゼンテーションでとりあえず最初を掴む。
- 自分はまだ5年目だが、隣の新任の方にはためになったと思う。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 非常に難しい大きなテーマなので、明確な答えがあるものではなかったもので、漠然としたというイメージであった。ただ、個人の指導方法以外にもいろいろな状況や対応法があることを見出せたので、それについては考えさせられる良い機会であったと思う。
- もう少し長い時間でケーススタディなどできたら。
- 今のままで良いと思う。
- 難しいかもしれないが、もっと具体的な解決法・スリム化(負担減)を知りたい。
- 時間が少し短いと思う。
- もう少し時間を短く。
- 事例を今後も収集して共有していきたい。
- 事前に内容の通知とともに、ねらい目を明確にしてほしい。その上で来るべき教員の決定を行ってほしい。
- 40人に対応し続ける能力は24時間でも足りないかと思ったので、そのあたりへの言及が欲しかった。(担任ではなく主事の言葉はありましたが。)

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育
 講師名：坪井 泰士（阿南工業高等専門学校）
 実施日：平成26年6月10日（火）
 実施会場：新居浜工業高等専門学校

当日参加者数：30名
 アンケート回答者数：29名

1. 参加者ご自身について

職種

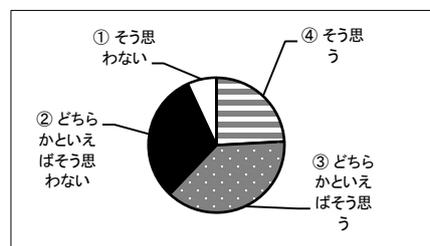
	度数	割合
① 教員	29	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	29	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

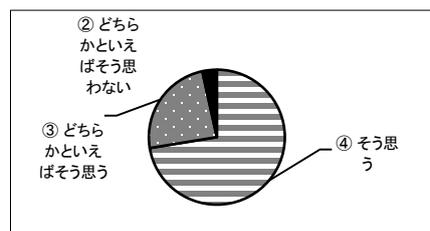
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	7	24.1
③ どちらかといえばそう思う	11	37.9
② どちらかといえばそう思わない	9	31.0
① そう思わない	2	6.9
計	29	100.0



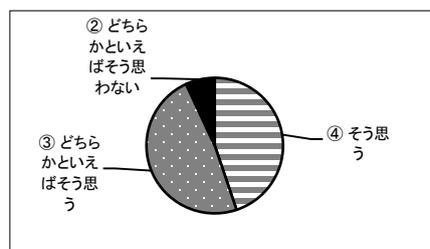
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	21	72.4
③ どちらかといえばそう思う	7	24.1
② どちらかといえばそう思わない	1	3.4
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



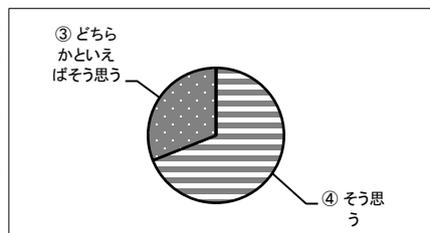
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	13	44.8
③ どちらかといえばそう思う	14	48.3
② どちらかといえばそう思わない	2	6.9
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



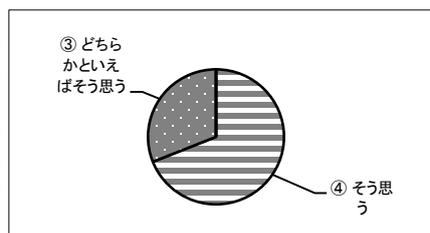
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	20	69.0
③ どちらかといえばそう思う	9	31.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



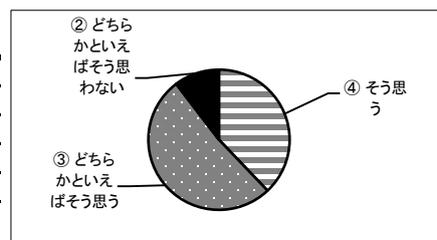
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	20	69.0
③ どちらかといえばそう思う	9	31.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



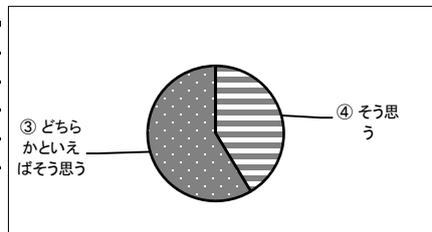
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	11	37.9
③ どちらかといえばそう思う	15	51.7
② どちらかといえばそう思わない	3	10.3
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



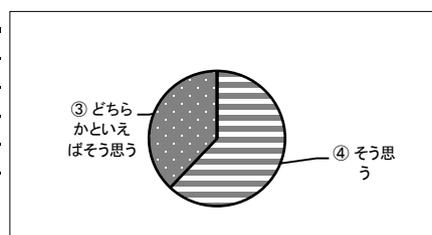
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	12	41.4
③ どちらかといえばそう思う	17	58.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	18	62.1
③ どちらかといえばそう思う	11	37.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	29	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 多くの事例と判例を知ることができた。
- 具体的な事例が端的にまとめられていて分かりやすかった。
- 身近な事例が多く、有益だった。
- 具体的事例（本校でも起こりうる）が豊富。
- 具体的な情報もあって、よくわかりました。
- 多忙の中、案件をこなすことに追われ、ポイントにおけるチェックについて考えることができました。
- 何が重要で、どこに集中し、全学で考えることができれば良いと考えました。
- （いじめ、事故など）突発的に耳に入りうる内容についてそなえておく。
- 教員として学生とのつきあい方、「教育」について考えておく。（継続的）
- 緊急における対処方法を考えるきっかけができた。
- 毎年講師が同じで継続性がある。
- 具体的内容で分かりやすく、興味が持てた。
- 何かあった際の対応について考えることができた。
- 危機管理について再考する必要性を強く感じた。今後、少しずつ改善していこうと思う。
- 安全に対する普段の対応などを再確認することができた。
- クラス運営に活かせる内容であった。
- 具体的な事例を紹介していただいたので、参考になった。
- 最近の問題点の明確化、その対応
- 身近な危機への備えが必要であると再認識できた。
- 本校の具体的な課題が明確にできた。（対応策を検討する必要はある）
- 問題が生じる前にどのような対策が必要であるかという具体例をいろいろと知ることができた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- グループ討論をもう少し多く。
- 高専での具体例をもっと挙げれば良くなると思います。
- 分野や対象を絞って多角的に行うと良いと思われる。
- 対保護者という面では、近年益々難しくなっているように思う。
- マイクロワークに出された点検事項（AED、熱中症、ノロなど）について、口頭で良いから対処方法を述べてもらえるとありがたい。
- 危機管理のためにすべきことを増やすと教員はより疲弊するが、それへの対処方はどうすべきか？を教えてもらえるとありがたい。
- 参加する教員を指名する。（参加すべき教員を決める）

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：職員が輝くSDの実践事例
 講師名：阿部 光伸, 丸山 智子, 織田 隆司 (愛媛大学)
 実施日：平成26年6月10日 (火)
 実施会場：高知大学

当日参加者数：16名
 アンケート回答者数：16名

1. 参加者ご自身について

職種

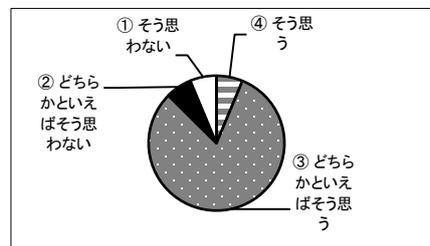
	度数	割合
① 教員	0	0.0
② 職員	16	100.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	16	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

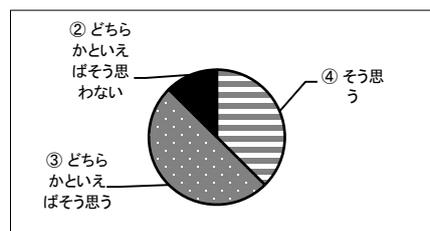
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	1	6.3
③ どちらかといえばそう思う	13	81.3
② どちらかといえばそう思わない	1	6.3
① そう思わない	1	6.3
計	16	100.0



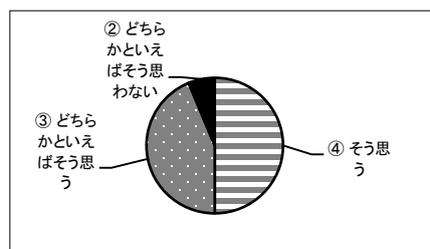
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	6	37.5
③ どちらかといえばそう思う	8	50.0
② どちらかといえばそう思わない	2	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



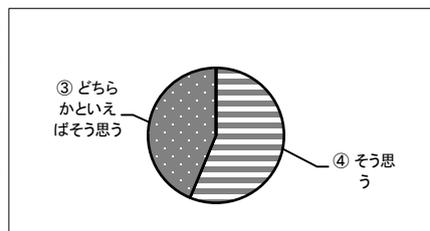
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	8	50.0
③ どちらかといえばそう思う	7	43.8
② どちらかといえばそう思わない	1	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



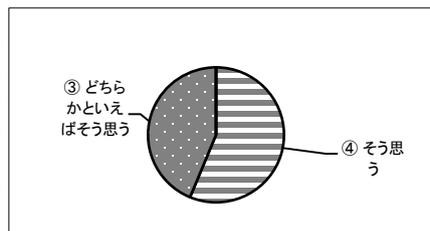
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	9	56.3
③ どちらかといえばそう思う	7	43.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



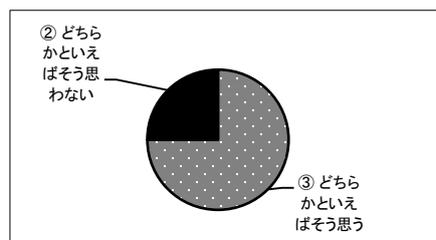
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	9	56.3
③ どちらかといえばそう思う	7	43.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



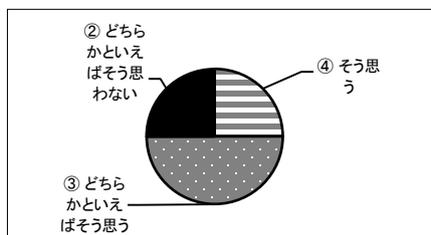
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	0	0.0
③ どちらかといえばそう思う	12	75.0
② どちらかといえばそう思わない	4	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



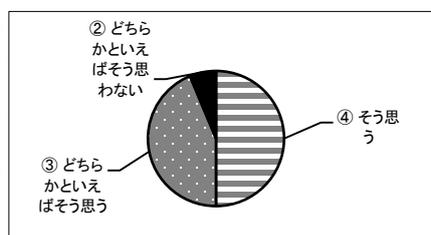
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	4	25.0
③ どちらかといえばそう思う	8	50.0
② どちらかといえばそう思わない	4	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	8	50.0
③ どちらかといえばそう思う	7	43.8
② どちらかといえばそう思わない	1	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 本学のSDの意味、意義が再認識できた。これから実践していきたい。
- 他部署の方と意見交換でき有意義でした。
- 言葉で見える形にすることで課題と解決策を検討できることが理解できた。
- モチベーションが高まった。
- わかりやすく勉強になった。
- SD担当者としての研修の実現に前向きになることができた。この経験を生かしたい。
- SDの必要性と課題について他者と話し合うことができた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 他大学の事例をもっと報告してほしい。
- OJTの効果的、具体的手法について学べたら良かったと思います。ありがとうございました。
- 本人の気づきをさせる研修がやる気が出る。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：基礎から学ぶ学習評価法
 講師名：山田 剛史（愛媛大学）
 実施日：平成26年6月19日（木）
 実施会場：松山大学

当日参加者数：32名
 アンケート回答者数：30名

1. 参加者ご自身について

職種

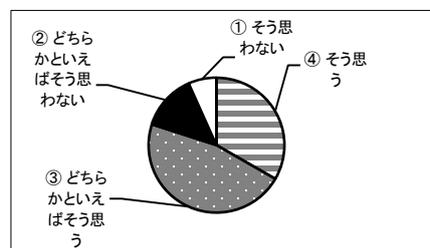
	度数	割合
① 教員	30	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	30	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

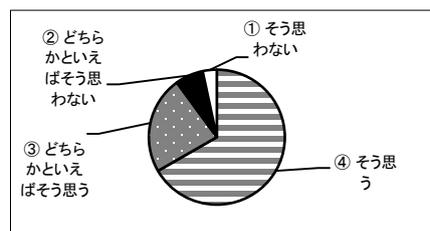
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	10	33.3
③ どちらかといえばそう思う	14	46.7
② どちらかといえばそう思わない	4	13.3
① そう思わない	2	6.7
計	30	100.0



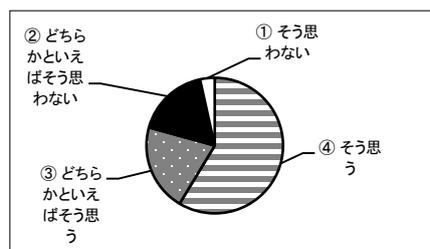
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	20	66.7
③ どちらかといえばそう思う	7	23.3
② どちらかといえばそう思わない	2	6.7
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



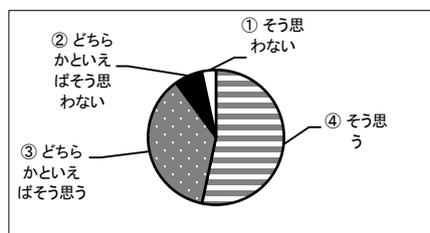
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	17	58.6
③ どちらかといえばそう思う	6	20.7
② どちらかといえばそう思わない	5	17.2
① そう思わない	1	3.4
計	29	100.0



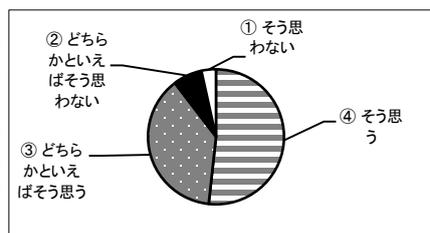
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	16	53.3
③ どちらかといえばそう思う	11	36.7
② どちらかといえばそう思わない	2	6.7
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



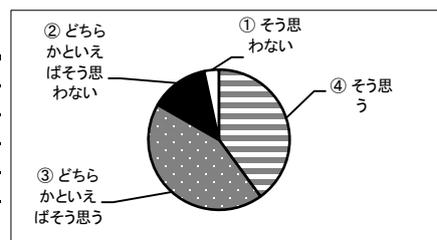
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	15	51.7
③ どちらかといえばそう思う	11	37.9
② どちらかといえばそう思わない	2	6.9
① そう思わない	1	3.4
計	29	100.0



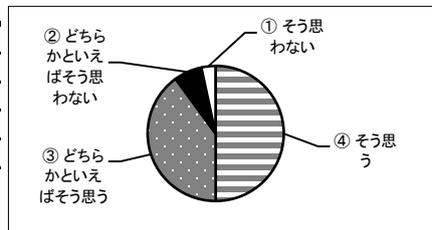
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	12	40.0
③ どちらかといえばそう思う	13	43.3
② どちらかといえばそう思わない	4	13.3
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



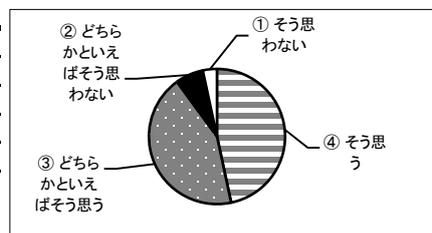
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	15	50.0
③ どちらかといえばそう思う	12	40.0
② どちらかといえばそう思わない	2	6.7
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	14	46.7
③ どちらかといえばそう思う	13	43.3
② どちらかといえばそう思わない	2	6.7
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ルーブリックを知ることができた。
- レポートを例として作業をしましたが、評価項目を分けてそれぞれに客観的な基準を設けるということが良い経験になった。
- 学習の客観的な評価法について理解できた。
- 形成的評価で特に学生→教員側の手法と必要性を理解できたので、今後使いたいと思う。
- 学生への学習動機の手法のヒントがあった。
- 形成的評価の重要性が認識できました。
- 最終評価の方法など異なる観点から再考することができた。
- ルーブリック評価を初めて知りました。良かったです。
- 『大学での学び入門』がほしい。
- もう少し時間がほしかったです。
- 形成評価という観念と、それについての有意義な理解の深化を得ることができました。
- ルーブリック評価について学ぶことができた。
- 入力負荷を減らした学生へのフィードバック法を知ることができた点。
- 良い試験を行うための留意点の中で、レポート課題の設定についてや、学生の自主学習を促すためのメモ用紙持ち込み許可など、実際にやってみようと思った。
- ルーブリック評価は示されたものを使った事があったが、自分で作って改めて評価について考えることができたし、実際に作って使用したいと思った。グループワークは楽しかった。
- 他の分野の教員と情報を問題点についてディスカッションし、共有できてよかった。
- プロセスの重要性
- ルーブリックの活用
- 入力負荷を減らす方法
- 「評価」を改めて考えることができたこと。
- 評価に対する自分の意識が変わった。
- 講師の先生や同僚の先生の実践例を聞くことができて有益でしたが、自分のケースに当てはめると難しいと思うこともありました。
- 概念と実践的な部分が両方入っていてよかった。
- 具体的な方法（ルーブリック評価）を知ることができた。
- ゼミの発表では活用できると思います。
- アンケートや感想文のスリム化と、学生へのフィードバックについて具体的に知ることができました。特にフィードバック方法に関して悩んでいたので示唆を頂きました。
- 内容的には活用したいものがあった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 一般的な説明の部分がメリハリがなかった。
- もう少し時間があれば良かった。
- 多くの教員に参加してもらおう。
- グループワーク多めでも良いと思います。
- シラバスは使わなかった。
- 部屋での作業をしている最中、まぶしかった。
- ワークショップにもっと時間をとって行ってほしい。
- 回数を増やす。
- 参加者で実際に作業する時間がもう少しあればと思います。
- シラバスの作成の仕方を学びたかった。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座
 講師名：仲道 雅輝（愛媛大学）
 実施日：平成26年6月26日（木）
 実施会場：徳島大学

当日参加者数：59名
 アンケート回答者数：59名

1. 参加者ご自身について

職種

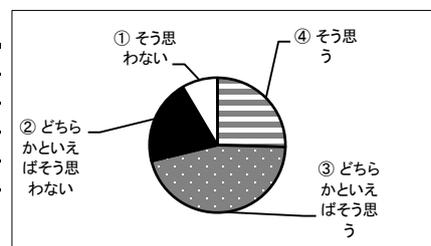
	度数	割合
① 教員	0	0.0
② 職員	59	100.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	59	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

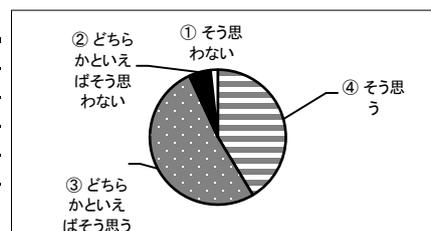
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	15	25.4
③ どちらかといえばそう思う	27	45.8
② どちらかといえばそう思わない	12	20.3
① そう思わない	5	8.5
計	59	100.0



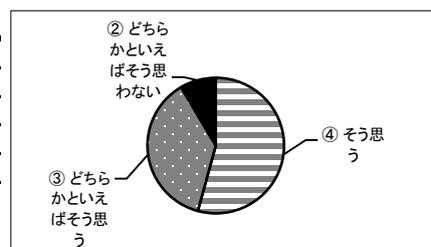
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	24	41.4
③ どちらかといえばそう思う	30	51.7
② どちらかといえばそう思わない	3	5.2
① そう思わない	1	1.7
計	58	100.0



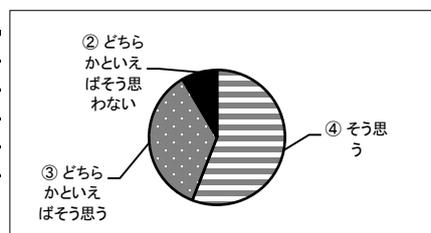
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	32	54.2
③ どちらかといえばそう思う	22	37.3
② どちらかといえばそう思わない	5	8.5
① そう思わない	0	0.0
計	59	100.0



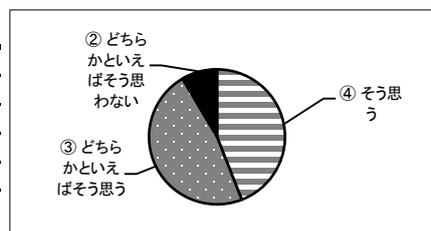
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	33	55.9
③ どちらかといえばそう思う	21	35.6
② どちらかといえばそう思わない	5	8.5
① そう思わない	0	0.0
計	59	100.0



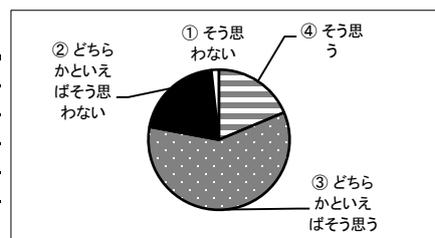
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	26	44.1
③ どちらかといえばそう思う	28	47.5
② どちらかといえばそう思わない	5	8.5
① そう思わない	0	0.0
計	59	100.0



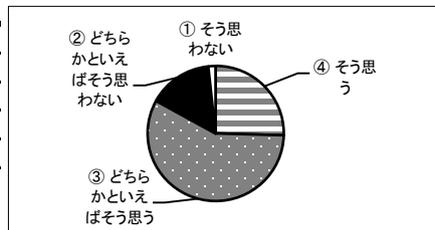
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	11	18.6
③ どちらかといえばそう思う	35	59.3
② どちらかといえばそう思わない	12	20.3
① そう思わない	1	1.7
計	59	100.0



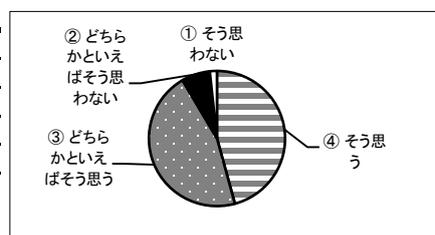
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	15	25.4
③ どちらかといえばそう思う	34	57.6
② どちらかといえばそう思わない	9	15.3
① そう思わない	1	1.7
計	59	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	27	45.8
③ どちらかといえばそう思う	27	45.8
② どちらかといえばそう思わない	4	6.8
① そう思わない	1	1.7
計	59	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 判断と決断の違いがよく分かった。判断はゆっくりと決断はスピード感をもって。
- 判断力、決断力の違い、身に付け方を系統立てて学ぶことが出来た。
- 判断力と決断力の関連が具体的によく分かり理解を深めることが出来ました。
- 判断、決断の定義、考え方、コツなどが分かりやすく解説されていた点。
- 判断力、決断力を身に付けるためのポイントを知ることができた点が多かった。
- 判断力、決断力について何故必要かについて具体的に認識できた。判断力、決断力を高めるコツについて学んだことについて日々の業務に活かしたい。
- 判断力、決断力に「情報」が意外と重要な位置にあることが分かった。
- 決断力と判断力の重要さがわかった。
- 決断力、判断力を身につける方法が分からなかったのが、受講してその方法が分かったのがよかった。
- 判断、決断力を意識して仕事に取り組む。
- 今後高めていくべきスキル、これから取り組みたいことが分かった。
- 自分のタイプが数値として見え、今後の参考になった。
- 今後、自分がリーダーになるとき・・・について、考える良い機会になった。
- 目標を持つ！
- 日々の業務に生かすことができると思う。
- 自分の考えをしっかりと持つことができた。
- 職務への心持ちがかわりました。ありがとうございました。
- 正解のない論題に対してお互いに意見を出し合うことで知識が深まった。
- 今の自分の上司と、仕事で関わりのある先生が、まさに判断力、決断力がある方なので、その方々と照らし合わせながら、うんうん、と納得しながら、研修が受けられました。
- リーダーに必要な能力が、ディスカッション等で具体的にたくさん提案されたので、考えていなかった能力もあり意識できた。
- これまでの自分の仕事を振り返ったり、これからのビジョンを考える機会となり良かったです。
- ディベートを2回して、これは判断力、決断力のトレーニングになると実感しました。今後の業務に活かしていきたいと思います。
- ディベートの練習になった。
- ディベートは初体験でした。いろいろな意見が聞けて良かったです。
- ディベートをすることで、多様な意見を聞き、決断する際の判断材料にすることができた。
- ディベートタイムで自分の意見を話す話し方ができて良かったです。
- ディベートを行う機会を得た。
- 充実したディスカッションができて良かった。
- 普段しないディベートが取り入れられていた。
- 決断力と判断力の違いをディスカッションで意識しながら考える経験ができて良かった。
- 2班に分かれてのディベートは、色々な考えが聞けて良かった。
- グループワーク等をして、色々な人の考え方が分かって面白かった。
- グループワーク中心で楽しく受講できた。

- 業務と離れたところでコミュニケーションを図ることができ、良い刺激になった。
- 判断、決断をするためにも、知識、経験、責任感等が重要である事を改めて感じました。
- 直接仕事につながることはわからないが、全体的な考えとして有益だと思った。
- 判断力、決断力とテーマに身構えていたのですが、思っていたより気楽で、それでいて楽しくできるものでした。即仕事に役立てるというより、気持ちを新たに組み立てるという意味でよかったと思います。ありがとうございました。
- 他の受講生の方々からの意見を聞き、新たな気づきのきっかけを得られた。
- 反対意見を言われることの重要性が分かったこと。
- 考えて業務を行っているつもりになっていた事が、クリアになりました。研修参加者の姿勢、講師の先生の熱が伝わって今日からまた頑張ろうと思えました。
- チームなどの組織の流れに乗るのではなく、個人でしっかり情報収集すべきと気づいたこと。
- 判断や決断に対してじっくり考えたことがなかったのが有意義でした。
- 私なりに判断するために大事なことが分かった点。
- 他大学との交流、ディベートが出来たことが新鮮でした。
- 他大学の方々との意見交換ができたことも良かったです。
- 他大学の人と一緒に研修を受けられたこと。
- 新しい考え方を色々な大学、立場の人から聞くことができ、良い経験になりました。
- 参加者の年齢層が幅広かったので、先輩からおもしろい話や、役に立つ意見を数多く聞くことが出来た。
- 判断力、決断力についての考え方を、同じグループの人と共有できた。
- 他人の意見を聞き、自分と違った視野を確認出来た。
- 色々な方の考え、意見が聞けて勉強になりました。
- 想定外の意見を聞き、人により考え方がこんなにも違うことが分かり良かった。
- いろいろな人の話を聞くことができ、仕事に生きるような内容もあったので、モチベーションが上がった。
- 新しい考え方を多く聞くことができた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- リーダーとしての判断、決断なのか、若手、中堅としての判断、決断なのかが分かりにくい。
- 他大学の方と話をするのも楽しかったが、同じ大学の人とこういった話が出来ても面白いような気もしました。
- 他班とのコミュニケーションの場がもっとあればよいと思う。
- 今の流れでよいのではないか。
- 具体的な話を増やす。
- 具体的にこんなケースではどのように判断、決断すべきかというものについてQ&Aがあると面白いのでは？
- リーダーシップのある人物のエピソードの紹介。
- 作業の目的と効果をもう少し明確にしてほしかった。
- もう少し細かく、研修スケジュールがかかれば良いかと思います。
- ワークと研修目的の関連性に疑問があり納得感が薄かったので、プログラム全体を見直して頂ければと思います。
- もう少し少ないほうが良い。
- ディベートは20分間×2よりも、10分×4などで短く区切ったほうがよいと思いました。
- ディベートは極論vs極論の方が熱くなれたかも・・・。たすごく面白かったです。ありがとうございました。
- ディベートのお題を改善したほうが・・・。
- ディベートの1回目は例が難しかったので、もう少し全員が共有できる内容がよかったのかなと思う。
- ディベートと判断、決断との関連性を強くすればよかったのでは？
- ディベートは、自分が思っているほうにつかせてくれないと難しい。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン～考え方と進め方～
 講師名：俣野 秀典（高知大学）
 実施日：平成26年7月22日（火）
 実施会場：愛媛県立医療技術大学

当日参加者数：24名
 アンケート回答者数：22名

1. 参加者ご自身について

職種

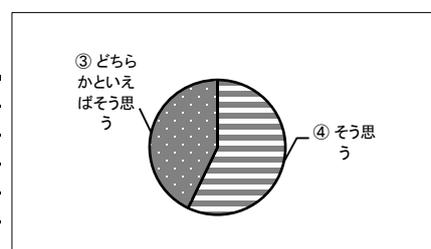
	度数	割合
① 教員	20	90.9
② 職員	2	9.1
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	22	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

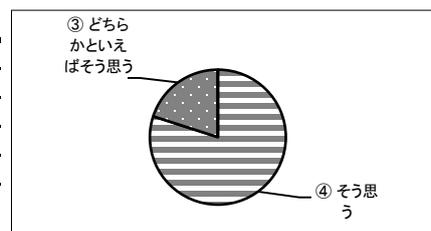
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	12	57.1
③ どちらかといえばそう思う	9	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



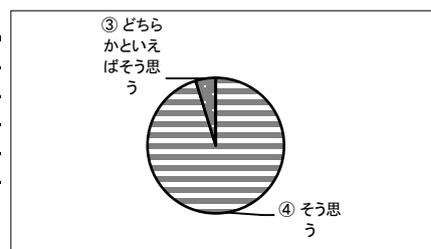
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	16	80.0
③ どちらかといえばそう思う	4	20.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



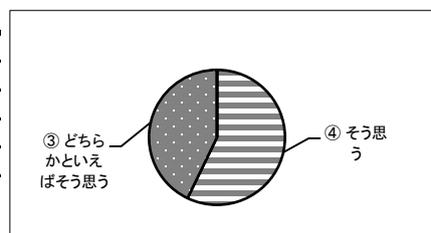
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	20	95.2
③ どちらかといえばそう思う	1	4.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



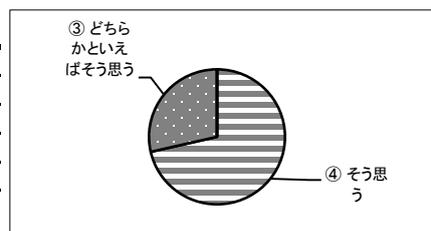
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	12	57.1
③ どちらかといえばそう思う	9	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



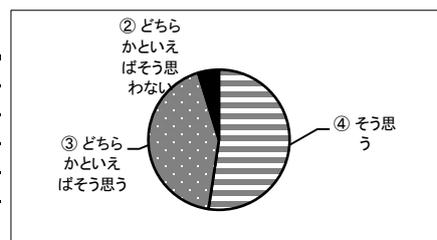
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	15	71.4
③ どちらかといえばそう思う	6	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



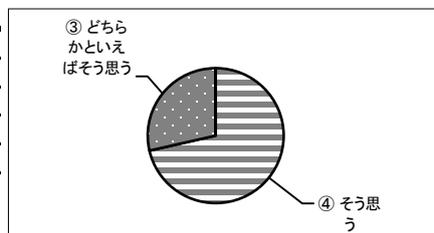
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	11	52.4
③ どちらかといえばそう思う	9	42.9
② どちらかといえばそう思わない	1	4.8
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



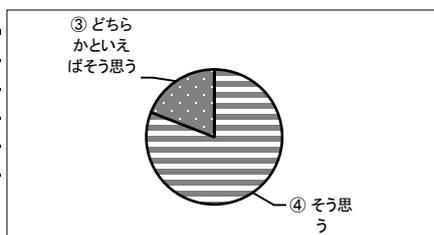
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	15	71.4
③ どちらかといえばそう思う	6	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	17	81.0
③ どちらかといえばそう思う	4	19.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



3. 具体的に本ワークショップの内容にふまえて、グループ学習を導入／実施する際に気をつけようと思ったことがありましたら自由に書いてください。

- 導入する学年をしぼる必要がありそう
- 段階的に導入していく時の順序や配慮することに気をつけようと思った
- これまでも個人ワークとグループワークを組み合わせた展開をよく用いてきたが、学習目標の明確化やワークシートの工夫をするなど、改善したいと思う
- 発表者以外の脳は働いていないということへの対策
- 個人のプライバシーに関する事はグループ分けの際には使えないように思います(身長 e t c)
- グループメンバー全員が、程度の差はあれど各々学ぶことのできる課題設定をする必要があるということ
- 目的や目標を明確にし、加えて(最初の方は特に)手順も丁寧に示すことが大切だと分かりました。
- メンバーの役割を明らかにすることで自覚や意欲が出てくると思いました。
- 課題を与える時、グループに丸投げするのではなく、もっと丁寧に役割、やるべきことをしっかり指導していこうと思いました。
- 発表者が学んでいると言うことをふまえて、発表の機会を増やそうと思う。
- スモールステップの課題を明確にする。グループ成員の各個人の課題を明確に提示することを今後、取り組んでいきたいと思いました。
- グループ構成が難しいと思っています。本学のようにほぼ4年間同じメンバー同じクラスで進行する場合、ランダムに構成していったら学習効果が上がるのか疑問です・・・というか困っています
- 学生への課題が過重にならないように配慮する必要があると思った。
- 「互恵的な協力関係」・「グループと個人の責任の明確化」に留意してグループワークを取り入れていきたいと思えます。ありがとうございました。
- 基礎要素の活動の振り返りを導入しようと思った。
- 新入生を担当することが多いので、アイスブレイキングにつながる手法を導入したいと思いました。

4. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 教育方法について学べた。
- 事務業務グループの運営に生かせる考え方が多く参考になった。
- FDなので対象が教員であるが、事務職員にも適用できると思われた(SD)
- 理解しやすく、受講者の反応をみてすすめていた。
- 協同学習のスキルについて、ヒントをたくさんいただきました。活用できるよう咀嚼したいと思えます。
- 「能動的学習の効果」→どれほど重要かのデータ
- 自分の授業について課題となっていた振り返りが必要であることを時間をとって行っていく必要があると思いました。
- 授業の組み立て方を具体的に示していただいた点
- グループワークにおける課題の出し方を考えることができた点
- グループワークの効果的な手法と効果が理解できた
- 様々なグループワーク技法があることが分かった

- 自分の現在講義の組み立てと比較しながら学べました。
- 協同学習について学べた
- 俣野先生の笑顔がステキでした
- ペアの具体的な経験を通して定着したと思う
- 協同学習の定義について整理されたものを提示され、学びが深まった。
- 目標が明確であれば、やり方はたくさんあるな・・・と思った。
- 実際にこの技法をとりいれたいと思うものが紹介された。
- 今年の後期の授業でチャレンジしたいと思います。ありがとうございました。
- 新しい知識を得た（互恵的協力関係を生み出す工夫・活動の振り返り）
- これまでの方法を振り返り、新しくやり方を考えるためのヒントになりました。

5. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 外部教職員の参加があれば、一層興味深い結果が得られたと思う。
- もう少し長い時間で、個別具体的な実践例などをお伺いしたかったです。
- ボリュームのある内容で、もう少し時間をかけて考えることができればと思う部分がありました。復習します。
- グループワークで（集団での成果）成績をつけてよいのか、注意すべきことは何か疑問となった。
- お話の内容が突然変わってついていけなかったところがありました。
- スライドと資料の用語・順番が違う点があったのでもっと見やすくなるとよいと思いました。
- 事前に質問内容を聞いてはどうか？
- 参加メンバーに偏りがあったので、多くの人に参加できるといいと思いました。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ～考え方と進め方～
 講師名：俣野 秀典（高知大学）
 実施日：平成26年7月29日（火）
 実施会場：高知工業高等専門学校

当日参加者数：22名
 アンケート回答者数：16名

1. 参加者ご自身について 職種

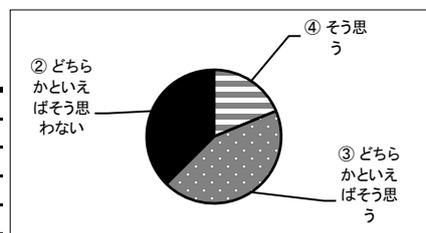
	度数	割合
① 教員	22	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	22	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

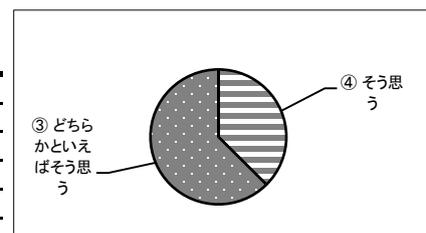
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	3	18.8
③ どちらかといえばそう思う	7	43.8
② どちらかといえばそう思わない	6	37.5
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



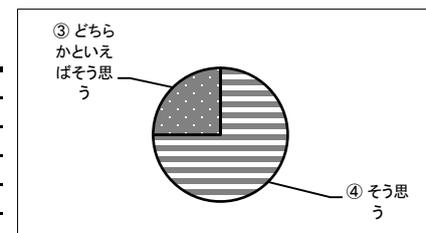
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	6	37.5
③ どちらかといえばそう思う	10	62.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



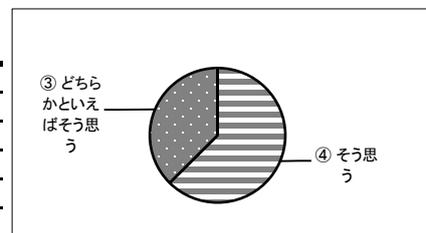
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	12	75.0
③ どちらかといえばそう思う	4	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



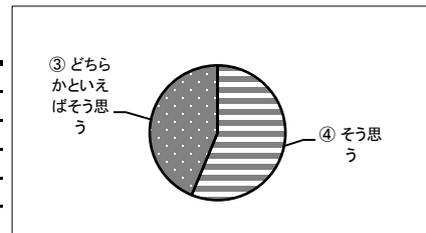
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	10	62.5
③ どちらかといえばそう思う	6	37.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



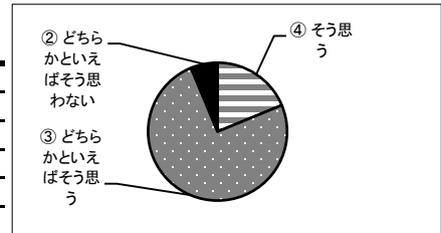
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	9	56.3
③ どちらかといえばそう思う	7	43.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



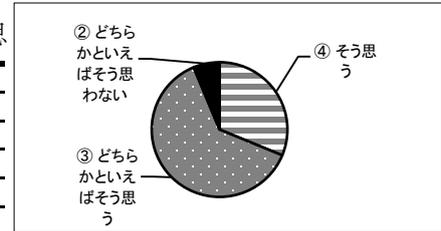
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	3	18.8
③ どちらかといえばそう思う	12	75.0
② どちらかといえばそう思わない	1	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



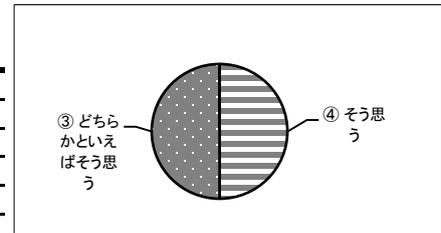
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思

	度数	割合
④ そう思う	5	31.3
③ どちらかといえばそう思う	10	62.5
② どちらかといえばそう思わない	1	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	8	50.0
③ どちらかといえばそう思う	8	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



3. 本ワークショップの内容をふまえて、グループ学習を導入/実施する際に特に気をつけようと思ったことがありましたら自由に書いてください

- 目標設定やグループ分けなどに気を使いたいと思います。
- 待ち状態の学生を作らない
- 手順でルールを明確にし、丁寧に説明していくことの重要性に気づきました。
- 最初は丁寧に手順を教えるということ。
- 授業の最後の5分間のふり返りを自分なりに考えてみたいと思います。大変参考になりました。
- 話のやめ方（手を上げさせてやめさせる）
- ペアを作る上で席を指定すること！
- 準備が必要なのと、毎回何かworkを継続してとり入れていくことで、授業に対する姿勢を積極的なものにしていければよいなと。
- 学生の意識を20分毎に活性化すること
- 最初にルールを明確にすること

4. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- グループペア学習の意義がわかった気がします。
- スキル（手法）を知ることができた。
- 授業の進め方を見直す機会ができた。
- 話し方も分かりやすかったと思います。
- ペア学習などは実践できると考えたこと
- ノートの振り返りを実行する
- 学内開催をふやしてください！！
- どの様に振り返りを促すか色々な手法のヒントが得られた。
- 体験を通してグループ・ペア学習の効果を実感することができた点

5. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 参考になりました。ありがとうございました。
- グループによる話し合いが多すぎたので、もう少し、先生のノウハウや伝承を聞く時間があってもよかったと思います。
- また聴講してみたい
- 様々な具体的方法をもっと詳しく解説していただけるとよかったと思います。大変参考になりました。ありがとうございました。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？
 講師名：岩中 貴裕（香川大学）
 実施日：平成26年8月19日（火）
 実施会場：香川県立保健医療大学

当日参加者数：28名
 アンケート回答者数：27名

1. 参加者ご自身について

職種

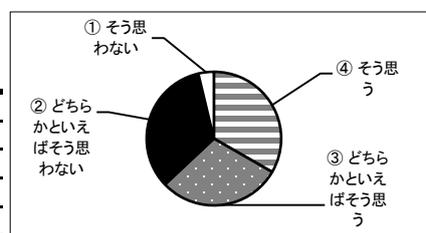
	度数	割合
① 教員	28	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	28	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

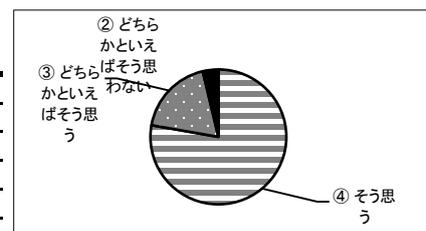
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	9	33.3
③ どちらかといえばそう思う	8	29.6
② どちらかといえばそう思わない	9	33.3
① そう思わない	1	3.7
計	27	100.0



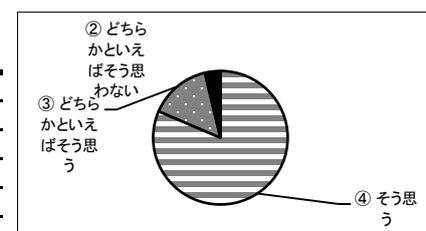
(2) 研修の目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④ そう思う	21	77.8
③ どちらかといえばそう思う	5	18.5
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



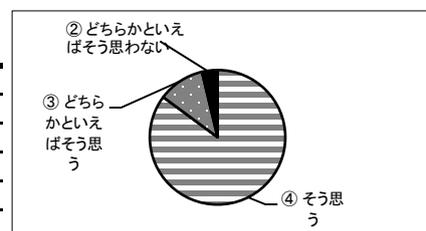
(3) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	22	81.5
③ どちらかといえばそう思う	4	14.8
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



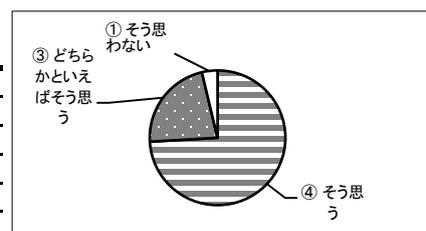
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	23	85.2
③ どちらかといえばそう思う	3	11.1
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



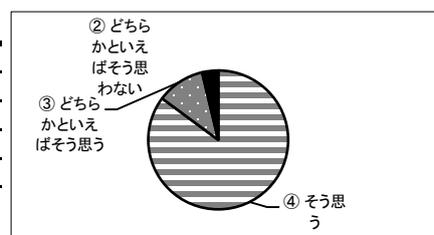
(5) 研修会場は快適な環境だった

	度数	割合
④ そう思う	20	74.1
③ どちらかといえばそう思う	6	22.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	3.7
計	27	100.0



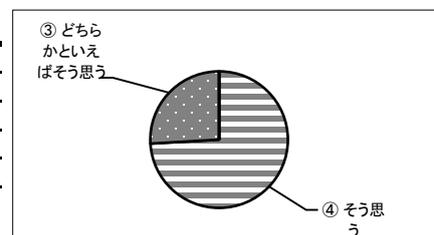
(6) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	23	85.2
③ どちらかといえばそう思う	3	11.1
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



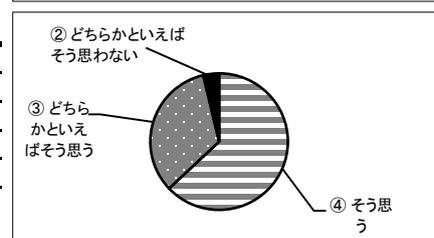
(7) FD委員会は手際よく研修を運営していた

	度数	割合
④ そう思う	20	74.1
③ どちらかといえばそう思う	7	25.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



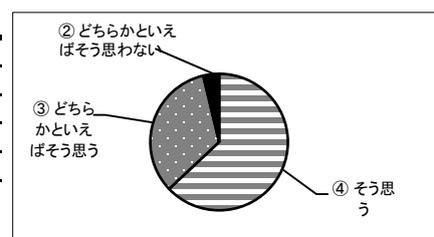
(8) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	17	63.0
③ どちらかといえばそう思う	9	33.3
② どちらかといえばそう思わない	1	3.7
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



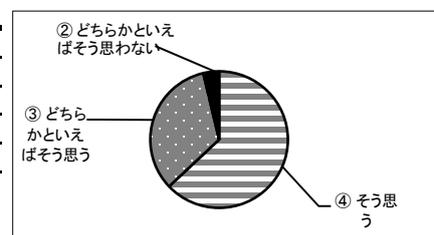
(9) 受講したことによって業務の取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	12	44.4
③ どちらかといえばそう思う	13	48.1
② どちらかといえばそう思わない	2	7.4
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



(10) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	21	77.8
③ どちらかといえばそう思う	4	14.8
② どちらかといえばそう思わない	2	7.4
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



3. 自分にとってレベルアップが必要なスキル・知識について

- 集団をまとめる能力、目的を維持させる能力
- 英語
- 学生に自分の意見をまとめさせるスキル
- 多人数授業の方法
- 話の間、抑揚のある話し方
- 教育方法、学生への接し方など
- 英語の読み書き
- 授業の組み立て方
- 動機づけ

4. 受講してよかったと思う点について

- グループワークをできた点。教育について新しい視点で考えることができ新鮮だった。
- 学習支援（具体的な協同学習、グループ分けの手法）が学べた。
自分の英語学習の方針が確認できた。
- グループ学習を体験し、90分に15分程度は取り入れようと思った。考える時間（1分程度）をおくことが大切なこと。難易度の高い教材をわかりやすく（むつかしいが・・・）。
- 協同学習の仕方がよく理解できた。
- 協同学習の技法は学んだことがあったが、動機づけについてはとても興味を持てた。
- グループ学習の有効的な指導方法にヒントがもたらされた。学ぶ意欲を引き出し、持続させるポイントが参考になりました。

- 現在おこなっている授業方法が、やり方次第で効果があがることが再確認できた。
- 体験的に学習できたので、授業に活用できると思った。
- 自分の授業に取り入れるための準備ができたと思う。
- 岩中先生の説明とGWの間合いがよかった。
- 自己決定理論、特に有能さの欲求の説明を受けて反省した。もっと難易度を高くすべきだと反省。
- 協同学習の実際等、実習する中でよくわかった。有能さの欲求が学生にあるということに気づきがあった。

5. 研修をよりよくするための改善点について

- 予め事前学習に適した教材などがあれば教えてほしい。
- 本学の学生特性かもわからないが、同じように協同学習を設定しても機能しないこともあり、もう一步工夫する方法があればお聞きしたかった。
(講師に、看護学授業の特性と実際をもう少しお伝えしておけばよかったのではないかと思う。)

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：大学職員のための企画力養成講座
 講師名：阿部 光伸, 丸山 智子 (愛媛大学)
 実施日：平成26年9月3日 (水)
 実施会場：高松大学・高松短期大学

当日参加者数：23名
 アンケート回答者数：23名

1. 参加者ご自身について

職種

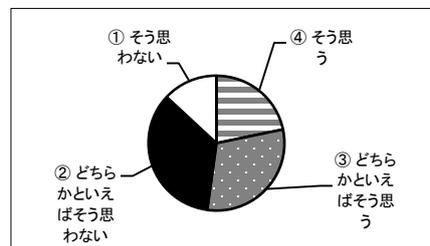
	度数	割合
① 教員	0	0.0
② 職員	23	100.0
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	23	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

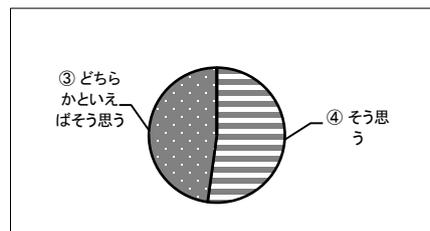
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	21.7
③ どちらかといえばそう思う	7	30.4
② どちらかといえばそう思わない	8	34.8
① そう思わない	3	13.0
計	23	100.0



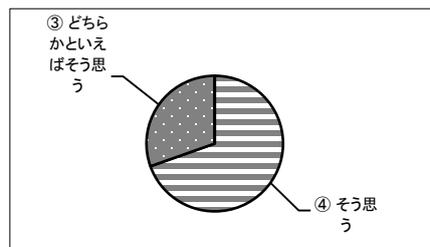
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	12	52.2
③ どちらかといえばそう思う	11	47.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



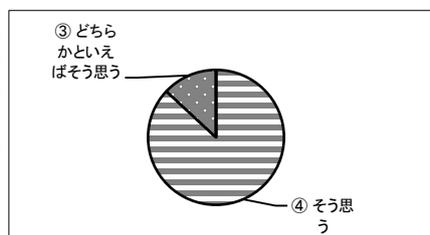
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	16	69.6
③ どちらかといえばそう思う	7	30.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



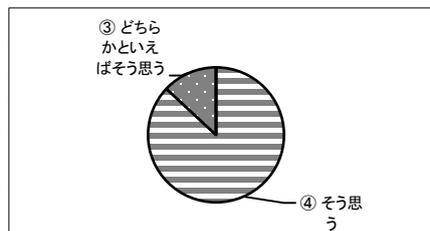
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	20	87.0
③ どちらかといえばそう思う	3	13.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



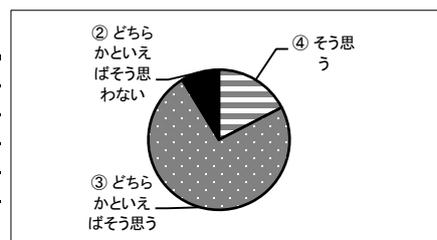
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	20	87.0
③ どちらかといえばそう思う	3	13.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



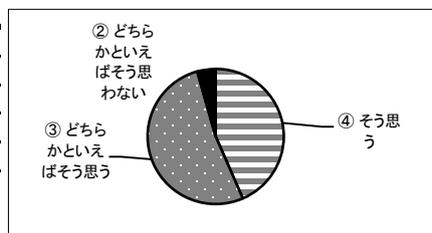
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	4	17.4
③ どちらかといえばそう思う	17	73.9
② どちらかといえばそう思わない	2	8.7
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



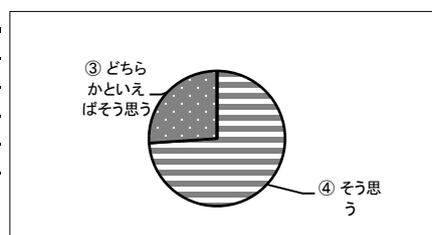
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	10	43.5
③ どちらかといえばそう思う	12	52.2
② どちらかといえばそう思わない	1	4.3
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	17	73.9
③ どちらかといえばそう思う	6	26.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- チームでの会話でコミュニケーションが図れた。この経験を日常業務にも生かしたい。
- 色んな人の考え方が分かった。講師の先生方もとても元気で何かやる気をもらいました。
- 講師の方々の研修の進行は非常に「やる気」を引き出すようなものであった。プレゼンテーション能力の大切さが改めてよくわかりました。ありがとうございました。
- 「空・雨・傘」の考え方を学ぶことができたこと。
- 今日の研修をきっかけに本学の問題点の1つが改善されそうなこと。
「定期的な事務連絡会の開催」⇒情報共有
- 同じ大学の職員同士で問題抽出～改善のプロセスを考え、ひとつの形にしていくことで、より連帯感が強まりました。
- 考えてまとめて発表する。この作業を繰り返すことが訓練になった。
- 大変わかりやすく楽しい研修でした。
- 意見を遠慮無く出し合う機会が普段の業務でほとんどないので、貴重な体験となった。
- 日常業務を見直す良い機会となった。用語など難しいところはあったが、講師の分かり易い説明で取り組むことができました。
- 普段の業務、生活を振り返る良い機会となった。出来ていない点、改善点を確認し、改善するように努力したい。
- 講師の先生方の表情、姿勢、取り組み方を目の当たりにして“力”をいただきました。今後も引き続き笑顔で業務を頑張っていきたいと思います。
- 日常の業務とは違った環境での研修で新たな問題点も見つかり良かったと思います。
- 課題となる問題点は同じようなことが多かったが、解釈は人によって違うので、解釈の捉え方を統一することは大事だと思った。解釈の違いで行動が変わるので、大事にしていきたい。
- 日頃の業務等についての問題点等を話すことがあまりなかったので良かった。
- 進行が極めてスムーズに行われた。
- 今かかえている本学の問題点が明確になりました。自分が何をすべきか、自分の立場ですべき事がわかりました。
- 研修は楽しく過ごせて、あっという間に時間が経ちました。空・雨・傘のプロセスについては話し合っって色々な意見が出て、そういう感じ方もあるのだなと思い、今後の業務に参考になりました。
- 前向きな研修であったことが一番良いと感じた。今できることをよりよくし、高めつつ継続することが大事であると感じた。
- 普段、周囲とのやり取りが少ない状態だったので、久しぶりに他部署の方とコミュニケーションが取れた。
- 改めて意識することが大切である。
- 職員の仲間意識がより良いものとなった。思っている事を口に出して言えたことは大きかったように思う。
- 同僚が日頃感じていることを聞くことができた。具体的な反省、方策を認識した。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- タイマーの導入により、タイムロスがほとんどなくよかったですと思います。
- 短かったと思える研修会だった。もう少しこの会に時間が取れば良かったと思う。
- 時間が足りない部分と余る部分がありました。4時間あっという間でした。ありがとうございました。
- 長い研修だと思ってましたが、参加していて楽しかったです。時間が足りなかったことが（話し合い等）残念でした。
- よりよい職場が、よりよい研修につながると思います。
- 非常勤の方にも参加いただければいいのではないかと思います。
- 各大学の個性を生かした話し合い。
- 契約専任職員、非常勤職員も同じ研修を受けることで事務所全体の質の向上につながると同時に、一体感、連帯感を持つことが出来る。2回／人を1回／人にしてでも、全員が参加した方がよい。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：マインドマップ入門講座
 講師名：俣野 秀典（高知大学）
 実施日：平成26年9月9日（火）
 実施会場：高知学園短期大学

当日参加者数：46名
 アンケート回答者数：44名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	3	6.8
② 短期大学	41	93.2
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	44	100.0

その他の記述内容

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国（国立大学法人）	0	0.0
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	3	6.8
③ 学校法人	41	93.2
④ その他 ()	0	0.0
計	44	100.0

その他の記述内容

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	44	100.0
② 北海道	0	0.0
③ 東北	0	0.0
④ 関東	0	0.0
⑤ 中部	0	0.0
⑥ 近畿	0	0.0
⑦ 中国	0	0.0
⑧ 九州・沖縄	0	0.0
計	44	100.0

(4) 職種

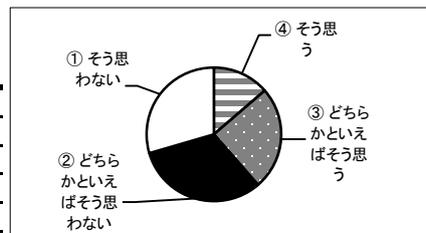
	度数	割合
① 教員	35	79.5
② 職員	9	20.5
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	44	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

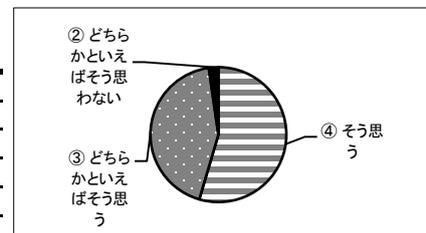
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	6	13.6
③ どちらかといえばそう思う	11	25.0
② どちらかといえばそう思わない	14	31.8
① そう思わない	13	29.5
計	44	100.0



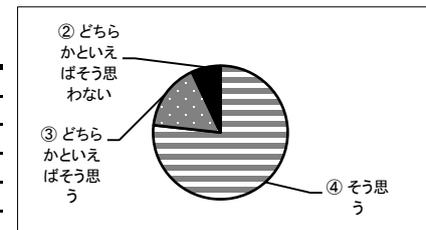
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	24	54.5
③ どちらかといえばそう思う	19	43.2
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



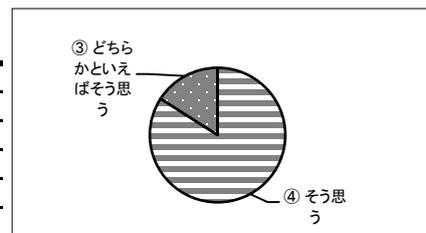
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	33	76.7
③ どちらかといえばそう思う	7	16.3
② どちらかといえばそう思わない	3	7.0
① そう思わない	0	0.0
計	43	100.0



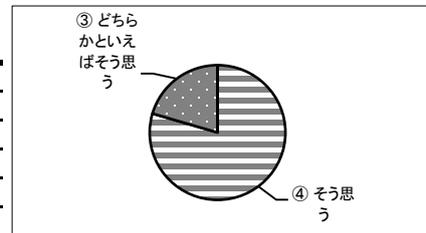
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	37	84.1
③ どちらかといえばそう思う	7	15.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



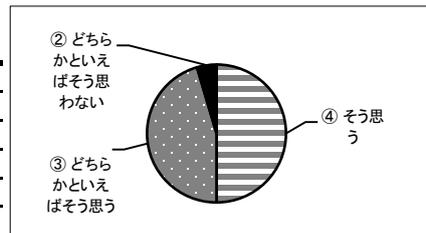
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	35	79.5
③ どちらかといえばそう思う	9	20.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



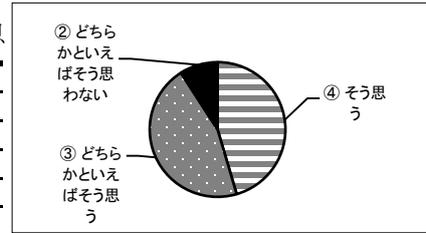
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	22	50.0
③ どちらかといえばそう思う	20	45.5
② どちらかといえばそう思わない	2	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



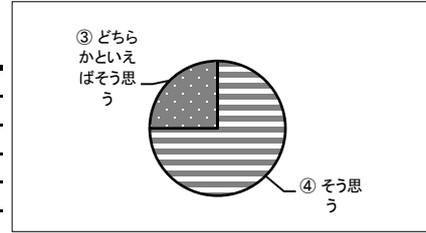
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思

	度数	割合
④ そう思う	20	45.5
③ どちらかといえばそう思う	20	45.5
② どちらかといえばそう思わない	4	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	33	75.0
③ どちらかといえばそう思う	11	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



3. マインドマップをどのように役立てたいですか？使ってみようと思う場面や方法などを自由にお書きください。

- 仕事に活用したいと思います。
- 学生の面談，レポートの書き方，国試合格の道，自分の健康づくり。
- 具体的方法として確立することは重要と思うが，そこまでたどり着くまでが大変な作業になると想像する。
- マインドマップを授業に活用したいと思っていたのですが，それ以外にもスケジュール管理，未来構想など様々に利用できることを体験し，今後日々の生活の中で使ってみようと思いました。
- 業務管理に活かしたい。
- 研究・講義で使ってみようと思います。
- 仕事する上で，連携づくりに役立つと思った。子育てでも活用したい。
- 学生との対話・コミュニケーションの中で。
- 学生の目標作り
- 教育において何を一番教えたいかを中心にしたマインドマップを作りたい。
- 忙しい毎日で，自分が今何をすることが大切かをマインドマップを作りたい。
- 国際学会を開催する際，スケジュール作成，準備物，その他運営に必要となるものを割り出す。
- 入学時にお互いの理解を深める。
- 専門職への理解を深めてもらう。
- 仕事のマニュアル作成
- やる・やらないの判断
- 会議でアイデアを出すとき
- 授業や実習で対象に必要なケアを考えるとき
- 授業，特に初対面時に使用してみたい。そのうち国試対策にも使えたら…!?
- 家で子供と一緒にやったら，おもしろいかもと思った。（考えていることがわかりそう!）
- まずは自分のスケジュール管理で慣れていきたい。その後，授業に対する自分の狙いを広げるなどしてみたい。
- 仕事計画，日常生活行動
- 自分の生活で考えを進める時に使いたい。
- 授業はじめにイメージ作り，発想作り。授業の後には，まとめとして役立てると思いました。
- 毎日のスケジュール管理
- 学生に自分の考えていることを見直す時に使ってみたい。
- 各学年の学生に，自分の将来像を考えるキッカケとして使いたい。
- 3年生に国家試験に対する姿勢を考える時に使いたい。
- グループワークの進め方など検討したいと思います。
- 物事の全体が見れることが非常に良いと思う。使う範囲は多方面にかかわる事ができると思う。
- 自分のキャリアプラン，授業計画に使う予定
- 業務計画や自分自身の学習に役立てたいです。
- スケジュール管理，授業の進め方，学生への活用など
- 何らかの企画や組み立てをする際に枠組みにとらわれない発想ができるので活用できるのではないかと思います。
- 学生の授業，試験
- 日々の仕事のスケジュール管理や優先順位の把握，または意思決定に役立てたいと思います。
- 子供の将来像を考えさせる上で有益と思いました。
- 自分の発想力，潜在能力を多角的に開発してみたい。
- 大学での仕事（研究・教育・地域貢献）の見直し
- 人間関係の分析（学生，地域，研究者・・・）
- 自分自身，そして学生の柔軟な思考力を醸成したりするのに使ってみたい。
- 学生自身の振り返り
- 自分自身の目標設定，または夢を描いてみる。
- コミュニケーション力をつける。
- 想像力を豊かにし，広い視野を持つ。
- 1日のスケジュール管理，今日1日しなくてはいけない事への手順を見出す。
- 仕事の段取り，取組等多くの場面で使いたいと思います。
- 趣味や仕事で役立てたい。
- やりたいこと（就職等）で迷っている学生等
- 授業組み立てや，他趣味，友人との遊びに紙がなくても出来そうな気がします。
- 英単語を覚える。
- 思考の整理
- 家庭を軸として活用してみたい。
- 自分の考えをまとめきれない場合などに，マインドマップを書くことにより整理できるのではないかと思います。

4. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 思考方法，連想の仕方，授業の進め方
- 具体的に図式や文字にすることで，思考の整理が出来るような感じがした。

- 発想が柔軟になったと思う。
- 書籍を読むだけではなかなか実践に結びつかないので、実際に体験できて良かったと思います。
- 人それぞれ、考え、発想が全くちがう。
- 脳を活性化させること。
- 最初はあまり発想することができなかったが、一度やってみると次々にいろいろなアイデアを出すことができた。
- 頭の中の整理に役立つと感じた。
- 順序立てることができる。
- マインドマップを知ることが出来た。
- 実際に使えそうと思えた。
- マインドマップをグループで使う体験ができたのでよかった。
- 参加型、体験型で、楽しく受講できました。あつという間に時間がすぎました。
- 実際にやってみると、意外と楽しかったです。
- 自分の連想力が自分が思う以上に乏しかったことが分かった。
- 発想の乏しさがよくわかった。
- 他の先生方の発想、特徴がおもしろかった。
- マインドマップを身近なものとして感じられて、使ってみようと思った。
- 他の学内の先生方と交流できたこと。
- 「マインドマップ」は自分で取り入れたことのない分野だったので、体験できたことが良かった。
- マインドマップについてはほとんど知らないで参加しましたが、思考過程を振り返る方法として良いと思いました。
- 物事を考えるに当たり、ものすごくリラックスして取り組む事の可能性を実感した。
- ルーブリックの時もすごく分かりやすく、今後もすぐ実践できる内容でしたので、参加してとてもよかったです。
- イメージの連想をしていく事の難しさを感じることができた。
- 内容が納得でき、授業や仕事に利用できること。
- イメージ力、発想力を養うことの大切さを再確認できました。
- 頭の整理がよくできると思いました。
- マインドマップは図書を購入し、チャレンジしていましたが、なかなかアイデアが広がっていかなかったのですが、コツが理解でき、また試してみようと思いました。
- いろんな意見をみなさんと共有できるところ。
- 興味を抱いていくマインドマップのルールを学べたこと。
- 授業の見直しに役立つようなこと。
- 楽しく学べました。
- 自分の頭の固さがよく認識できた。もっと自由に豊かな発想ができるように考えていきたいと思った。
- 発想、アイデアを科学的方法で生み出すことを知ることができました。
- 受け身でなく、行動、実践で進められたこと、交流ができる方法でやれたこと。
- 自分自身、柔軟に物事を考えることが、乏しいと感じ反省した。発想力、行動力の必要性を感じた。
- 色々な方の意見や発想を聞くことが出来た。
- 楽しく学べた。普段あまり関わりのない先生方とコミュニケーションをとることができた。
- 考えることが楽しいと思える方法を見つけた気がします。
- 自身の職務の取組バランスが明確になると思います。
- 他の人が自分とは違うイメージを持っていること、その発想。
- いつもの先生方と違う方面でのお付き合いが出来、とても楽しい時間でした。
- アイスブレイクの方法も含め、いろいろと教えていただいたと思います。
- 日々の業務の多くの場面に対応できそうな点。
- 発想がどんどん出てくることを改めて感じた。
- 自分の考えをまとめきれない場合などに、マインドマップを書くことにより整理できるのではないかと思います。

5. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- もう少し深くやりたかった。
- 所属組織のメンバーでやれば、大学をどうしたいかについていろいろな意見が出せたと思います。
- スライドを見る角度（座っている場所が悪かった?!）、首がまわらなかった。
- 学生にも教えてあげたいけど、教えるのが難しそうです。
- 2時間では短すぎるように思います。
- 「なぜ（そうするかなど）」と感じる場面があり、少し消化不良です。
- 時間が足りない。（先生の話を理解するまで…）
- 一番始めにタイムスケジュールがあれば、時間の流れがイメージできたのではと思います。
- 眠くならない配慮がされていてすばらしいと思いました。ありがとうございました。
音楽も脳がリラックスします。
- 継続していくことが何よりです。
- ホワイトボードの板書が見えづらかった。（遠い席にいたので）
- もっとしっかりルールについて教えてくれる時間が欲しかったと思います。
- 願わくば、もう1時間程あれば…と思いました。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？
 講師名：岩中 貴裕（香川大学）
 実施日：平成26年9月11日（木）
 実施会場：徳島文理大学徳島キャンパス

当日参加者数：45名
 アンケート回答者数：34名

1. 参加者ご自身について

職種

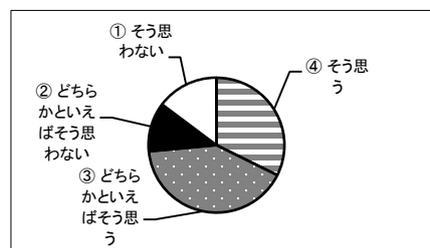
	度数	割合
① 教員	28	84.8
② 職員	5	15.2
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	33	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

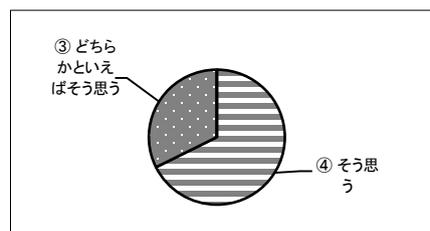
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	11	32.4
③ どちらかといえばそう思う	14	41.2
② どちらかといえばそう思わない	4	11.8
① そう思わない	5	14.7
計	34	100.0



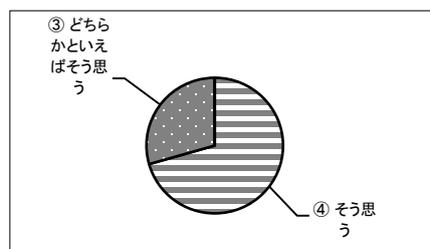
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	23	67.6
③ どちらかといえばそう思う	11	32.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



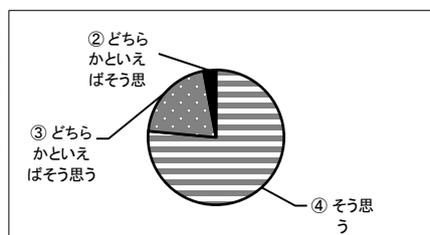
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	24	70.6
③ どちらかといえばそう思う	10	29.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



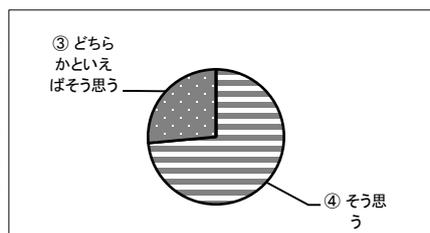
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	26	76.5
③ どちらかといえばそう思う	7	20.6
② どちらかといえばそう思わない	1	2.9
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



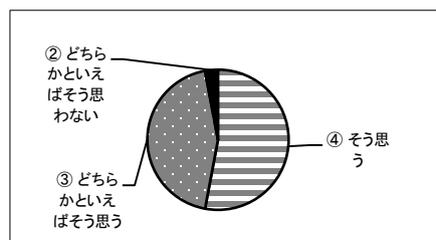
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	25	73.5
③ どちらかといえばそう思う	9	26.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



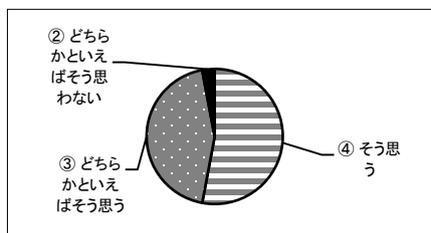
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	18	52.9
③ どちらかといえばそう思う	15	44.1
② どちらかといえばそう思わない	1	2.9
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



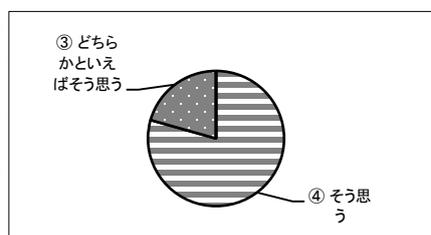
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	18	52.9
③ どちらかといえばそう思う	15	44.1
② どちらかといえばそう思わない	1	2.9
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	27	79.4
③ どちらかといえばそう思う	7	20.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- グループ作りの方法がなんとなく分かった。
- 大変参考になりました。後期の講義にぜひ生かしたいと思います。
(ドキドキ感も新鮮、学生の気持ち分かりました。楽しかったです。)
- 具体的に協同学習が体験できたこと。
- 討論型の講義のやり方について詳しく知ることができた。
- 体験型の研修であったので、受け身にならずよかったと思う。
- 意欲を高める方向性を確認できた。
- シンク・ペア・シェアの有効性を感じることができた。仮に講義中心の授業であっても、一部でもこの手法を取り入れることで授業が活性化できると思う。
- 研修の目的となる項目を修得できるのはもちろんのこと、他の(他学科)先生方と接する機会ともなり、よかった。
- 授業の進行を学べることはないので、貴重な時間となった。仮に分かっている事であっても、改めて刺激となり、良かった。
- 今後の授業で、取り入れる事が可能な授業で取り入れていきたいと思った。
- 協同学習を行うにあたり、集団内異質、グループ間等質が大切ということ再認識できたことが良かった。
- 具体的内容が説明され、分かりやすい進行でした。
- 資料を最後に配布するのは良い
- FD研修会に参加することで学びが深まると思う。
- ペア-学習の問題(テーマ)が今一番考えたいテーマだった(習熟度別指導, グループ分け)
- 協同学習のやり方, グループの作り方で, 学生の学びが効果的になるのは理解できたが, 単純ではないので難しい。
- 研修目標が明確にされていたこと。
- 具体的な取り組み内容が示されていたこと。
- グループ学習の導入のヒントを得られた。
- 協同学習の技術が分かった。
- 協同学習をどのように進めていったら良いのか, その手法を知ることができたことが参考になりました。
- 自分なりに(我流)で, これまでやってきたことについて, これを確かめ, 改善する機会になりました。特に「planning」の重要性について工夫しなければなりません。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 時間的に余裕が欲しく思います。
- 研修内容をもとに学内教職員から希望するテーマについて吸い上げて研修を行う。
- 協同学習をスムーズに進めていくための手続きの手法が中心でしたが、授業の目的との関係で教師はどのようにスキャフォールドしていけば良いのかが、不明確である。
- 授業参観, 研究授業という形もあり得るのでは?

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？
 講師名：岩中 貴裕（香川大学）
 実施日：平成26年9月11日（木）
 実施会場：徳島文理大学香川キャンパス【遠隔配信】

当日参加者数：25名
 アンケート回答者数：24名

1. 参加者ご自身について

職種

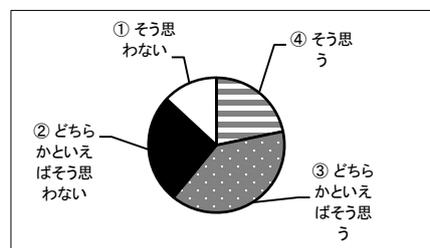
	度数	割合
① 教員	23	95.8
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	1	4.2
計	24	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

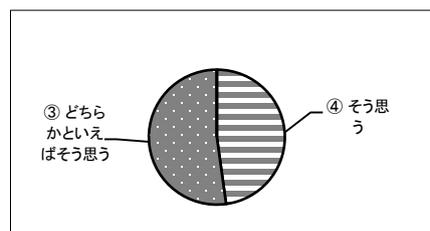
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	21.7
③ どちらかといえばそう思う	9	39.1
② どちらかといえばそう思わない	6	26.1
① そう思わない	3	13.0
計	23	100.0



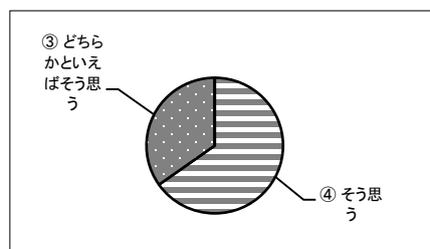
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	11	47.8
③ どちらかといえばそう思う	12	52.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



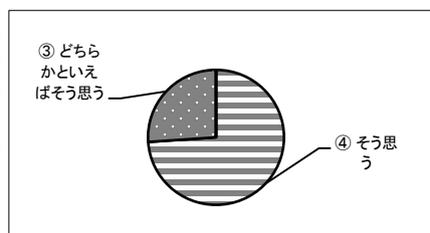
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	15	65.2
③ どちらかといえばそう思う	8	34.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



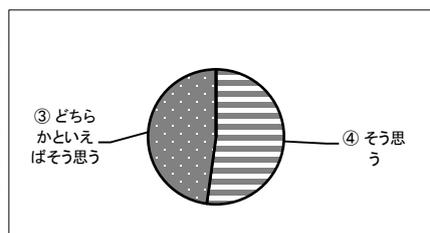
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	17	73.9
③ どちらかといえばそう思う	6	26.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



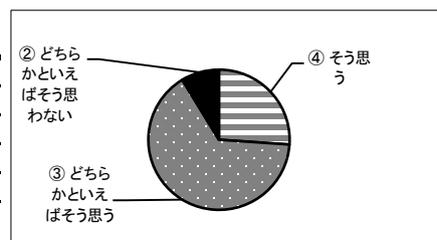
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	12	52.2
③ どちらかといえばそう思う	11	47.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



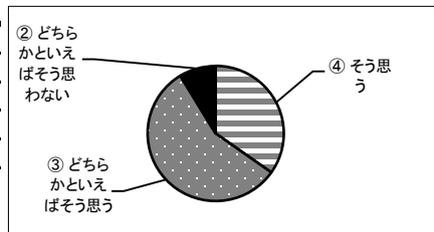
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	6	26.1
③ どちらかといえばそう思う	15	65.2
② どちらかといえばそう思わない	2	8.7
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



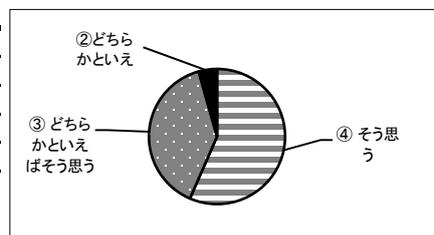
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	8	34.8
③ どちらかといえばそう思う	13	56.5
② どちらかといえばそう思わない	2	8.7
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	13	56.5
③ どちらかといえばそう思う	9	39.1
② どちらかといえばそう思わない	1	4.3
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- より良い教育方法を学ぶことができた。あとで資料を渡すことの意義も理解できた。
- 協同学習のやり方を具体的に知る（体験する）ことができた点。
- 専門が異なる教員と意見交換ができた。
- 「演習」で協同学習を取り入れようと思います。
- 普段やっているグループ学習の手法が補間できた。
- グループでの学習の際に、1人で考える時間をとるようにすることは役に立つと思いました。
- ワークショップ（体験学習）は、学習意欲が高まるとともに身につくものも多く、よかった。また、協同学習の仕方、留意点などもよくわかり、今後の教育に十分に生かしていける内容であった。感謝しています。
- グループ学習についてのノウハウを得た。
- 学生の学ぶ意欲を引き出すにはどうすべきか、理解できました。
- 現在実施している授業の方法が大筋で受講内容に当たった方法である事を確かめられた。本講演を参考にさらに改良していきたい。
- すでに知っていることややっていることも多かったが、知識を確認することができたし、自信を持つことができた。
- アイスブレイキング、協同学習体験の例が分かりやすかった。実際に取り組んでみて様子が分かった。
- 日頃考えていることを他の方と共有できる機会にもなった。また、他の方の意見も聞くことができてよかった。
- グループ分けについてのスキル
- 明るくポジティブな雰囲気よかった。わかりやすかった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 今後も、体験学習を組み込んだFD研修の計画をよろしく願いいたします。
- 英語授業を中心に話しをされたが、理系の授業とは異なる点もあると考えられる。しかし、グループ学習の方法などは非常に参考になった。
- 良い研修だったと思うが、基本的に教職の授業などでこうした授業法をすでに実施している。
- より具体性のあるものがあると、さらに良いと思います。
- 事務局として研修中に「まとめ」を読む機会があり気づいたこととして、「まとめ」の研修者への提示は日程②が終了した時点での動機づけ説明の時間が効果的だと思います。プリントの文字を目で追いながら先生の言葉を聞いていると、内容がよく分かりました。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：判断力・決断力養成講座
 講師名：仲道 雅輝，丸山 智子（愛媛大学）
 実施日：平成26年9月12日（金）
 実施会場：香川短期大学

当日参加者数：19名
 アンケート回答者数：17名

1. 参加者ご自身について

職種

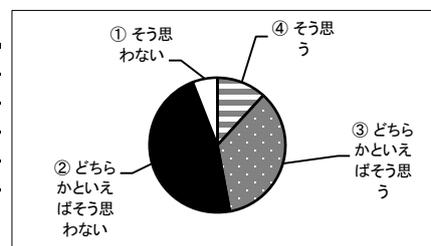
	度数	割合
① 教員	0	0.0
② 職員	17	100.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	17	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

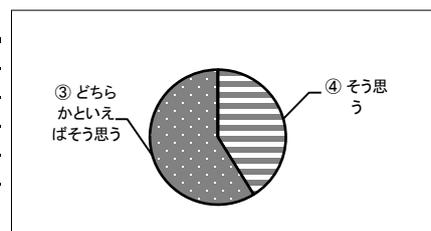
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	2	11.8
③ どちらかといえばそう思う	6	35.3
② どちらかといえばそう思わない	8	47.1
① そう思わない	1	5.9
計	17	100.0



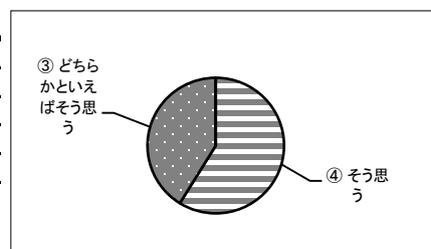
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	7	41.2
③ どちらかといえばそう思う	10	58.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



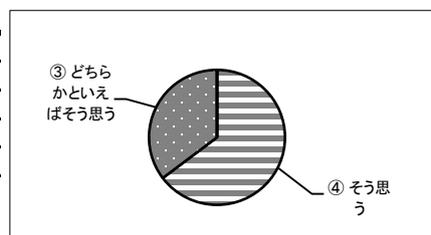
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	10	58.8
③ どちらかといえばそう思う	7	41.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



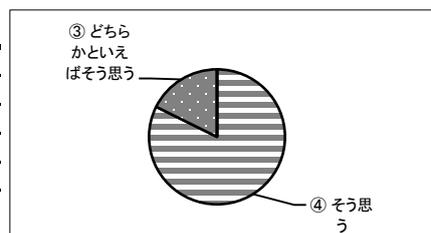
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	11	64.7
③ どちらかといえばそう思う	6	35.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



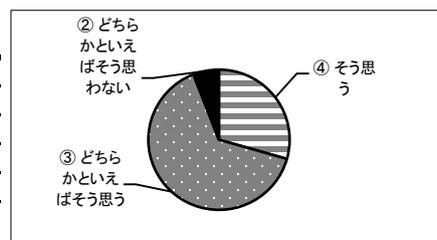
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	14	82.4
③ どちらかといえばそう思う	3	17.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



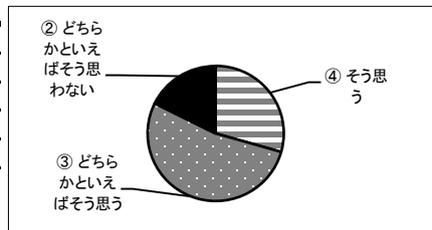
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	5	29.4
③ どちらかといえばそう思う	11	64.7
② どちらかといえばそう思わない	1	5.9
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



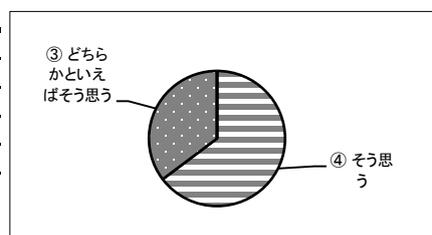
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	5	29.4
③ どちらかといえばそう思う	9	52.9
② どちらかといえばそう思わない	3	17.6
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	11	64.7
③ どちらかといえばそう思う	6	35.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 日頃の業務を客観的に見直すことができた。
- 自己やチームを振り返ることができた。
- 新たな“気づき”があった。
- 講義とグループワークと互いに行い、よく分かりやすかったです。
- 今までのSD研修は、他大学へ研修に行った報告を聞いていたので、今回みたいにグループになって、話し合うことは非常に良かったし、今まで気付いてなかったことも今回の研修で気付かされました。このような研修があれば受けたいと思う。
- 判断力、決断力について学ぶことにより、自分の意見を持つこと、意見を言うことをすることができ、気付くことが多かったです。
- 改めて自分の意見をまとめて主張することの難しさを感じられたので、話し方も含めて改善したいと思いました。また、判断や決断についてあまり考えたことが無かったので、考えてみる良い機会になりました。
- 判断、決断することの責任を感じた。自分の意見を少しでも言葉にできたのでよかった。ディベート初体験で緊張しましたが、良い経験になりました。
- ディベートタイムは苦手で、どうなる事かと思いましたがとても良い勉強になりました。
- 相手に対しての自分の意見の出し方を論理的にすることによって変わってくるものがあると分かった。
- 普段、あまり関わらない人とも話すことができた。
「反対意見は問題解決の鍵」明日から実行していこうと思った。
- 日頃、世間話をほとんどしない方とグループになる事で、その人柄に触れられて良い機会でした。意見を通すというリーダーシップを発揮できる場面は少ないですが、チャンスがあれば、是非活かしたいと思いました。
- ディベート：自分の意見や考えを発言するという機会がなかったので良かった。中々、自分の意見を言えなかったけれど、こういった機会がないとできなかったと思う。
- ディベートタイムの実習が良かった。反対意見はラッキーを知った事が良かった。
- 色々な方と意見をかわせることができて良かった。
- ディベートは苦手で、ルールとコツをつかんで努力していこうと思いました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- もう少し時間をコンパクトにさせていただくか、開催日時についてアンケート等を取ってくださると助かります。(夏季休業終了間際はどの部署もごたつきますので)
- 初めて研修を受けました。私たちのレベルに合わせていただけてとても助かりました。ありがとうございます。
- 研修の日程をもう少し考えていただきたいです。できれば8月が良かったです。
- セッション時間がもう少し長い方が良いと思いました。
- 職員間のコミュニケーション。
- これからもこのような研修があると良い。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の学びを促すシラバスの書き方
 講師名：葛城 浩一（香川大学）
 実施日：平成26年9月17日（水）
 実施会場：聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部

当日参加者数：25名
 アンケート回答者数：25名

1. 参加者ご自身について

職種

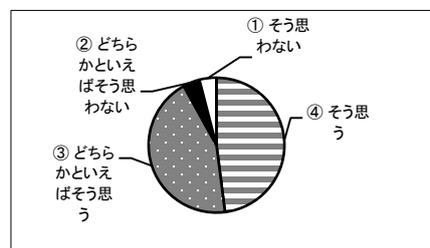
	度数	割合
① 教員	25	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	25	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

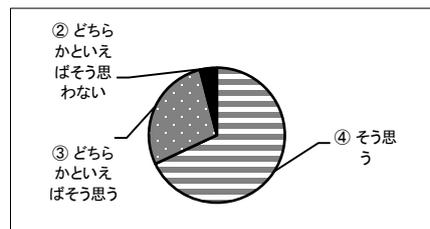
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	12	48.0
③ どちらかといえばそう思う	11	44.0
② どちらかといえばそう思わない	1	4.0
① そう思わない	1	4.0
計	25	100.0



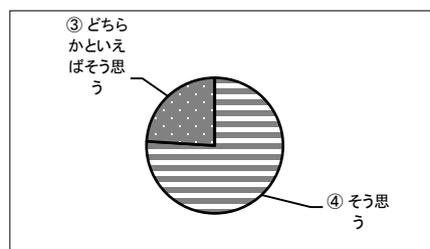
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	17	68.0
③ どちらかといえばそう思う	7	28.0
② どちらかといえばそう思わない	1	4.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



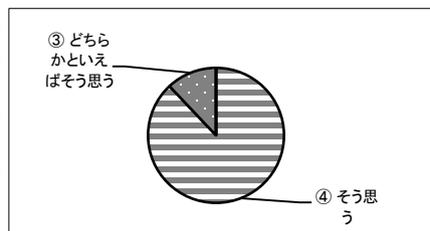
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	19	76.0
③ どちらかといえばそう思う	6	24.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



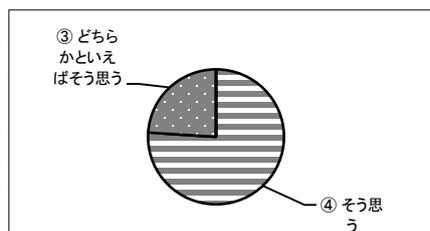
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	22	88.0
③ どちらかといえばそう思う	3	12.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



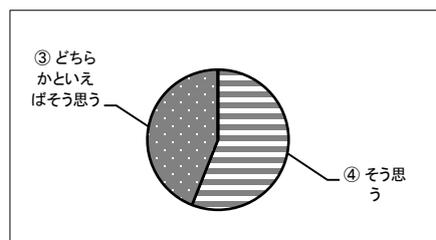
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	19	76.0
③ どちらかといえばそう思う	6	24.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



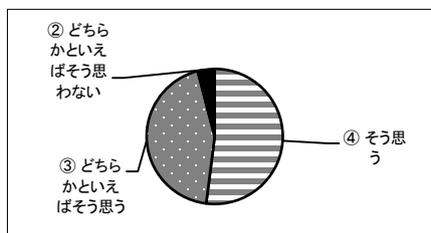
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	14	56.0
③ どちらかといえばそう思う	11	44.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



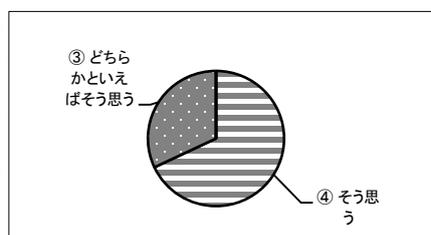
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	13	52.0
③ どちらかといえばそう思う	11	44.0
② どちらかといえばそう思わない	1	4.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	17	68.0
③ どちらかといえばそう思う	8	32.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 授業目標を評価できるものとして書く方法を学ぶことができたので、実際のシラバス作成に活かしてみます。
- 細かな点を再確認できた。
- 先日授業デザインワークショップを受けたばかりなので、よく分かりました。
- 目的、目標、評価の一貫性。
- グループでの話し合い。
- 自分のシラバスをもとに考え直すことができたので良かったと思います。
- 分かりやすく説明していただき、大変学び多い時間となりました。
- シラバスの作成、特に学習順序原理を知ったのがよかった。
- シラバスは学生との距離を短くするツール。
- 愛大授業デザインワークショップにも参加させていただきましたので、良い復習ができました。
- シラバスの研修は学内で一度実施されているが、香川大学の例が知れてよかったと思う。
- 疑問点15回の標記は1回ずつ記載すべきものと思っており、本学はそうしている。香川大学とは異なっていた。
- 学生に分かり易くすることをより努力しようと思う。
- 到達目標と評価方法の対応はこの研修前に考えておりましたので確信しました。
- 第三者評価委員の仕事に役立ちます。ありがとうございました。
- 「授業目的」と「到達目標」のちがいを認識できた。
- 自分のシラバスが評価する際、不明瞭なものであることが分かった。抽象的すぎであることを発見。評価可能な目的を作成することにしようと思う。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 目的の「問題点」と「書き直し」のところでの例ですが、15回分のスケジュールを見せてもらわないと挙がる内容が多様すぎる形になると思います。
- 具体的に「ダメ」シラバスを「良い」シラバスへと赤ペン添削した事例が1枚あれば、「パクリ」ことができるので助かります。
- 具体的な数や時間を示すこと。
- 学生主体に~するために意識的に示すことにする。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育
 講師名：坪井 泰士（阿南工業高等専門学校）
 実施日：平成26年9月18日（木）
 実施会場：香川高等専門学校

当日参加者数：26名
 アンケート回答者数：26名

1. 参加者ご自身について 職種

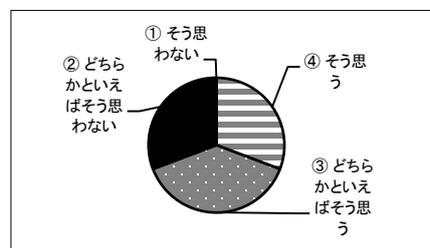
	度数	割合
① 教員	19	73.1
② 職員	7	26.9
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	26	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

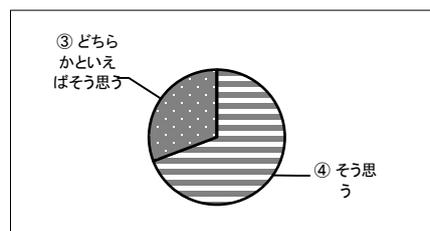
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	8	30.8
③ どちらかといえばそう思う	10	38.5
② どちらかといえばそう思わない	8	30.8
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



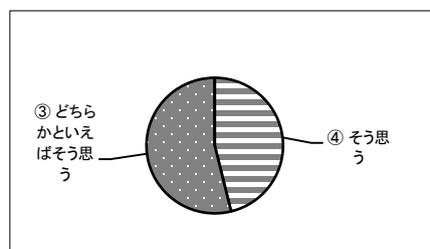
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	18	69.2
③ どちらかといえばそう思う	8	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



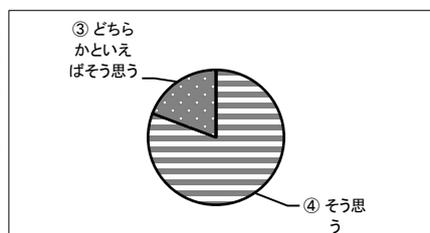
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	12	46.2
③ どちらかといえばそう思う	14	53.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



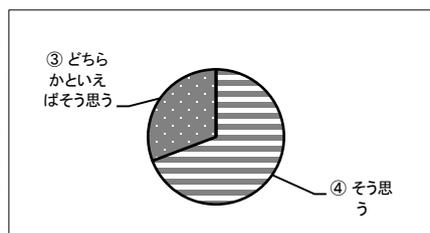
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	21	80.8
③ どちらかといえばそう思う	5	19.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



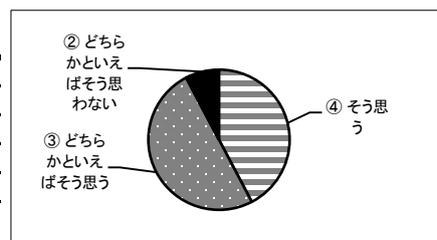
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	18	69.2
③ どちらかといえばそう思う	8	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



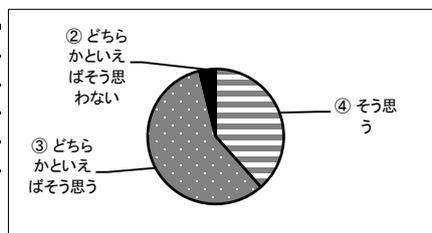
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	11	42.3
③ どちらかといえばそう思う	13	50.0
② どちらかといえばそう思わない	2	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



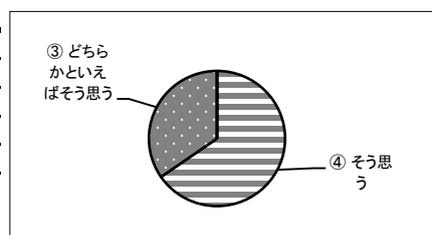
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	10	38.5
③ どちらかといえばそう思う	15	57.7
② どちらかといえばそう思わない	1	3.8
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	17	65.4
③ どちらかといえばそう思う	9	34.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 学生と接することの全般において、普通に意識していなくやっていることをきちんと意識しないといけないことが再確認できた。
- 講師の先生の、具体的な体験談（対応の様子）がきけてよかった。
- 「裁量権逸脱校則は違法ではない」ケースがあることを知ることができた。
- 对学生，対保護者にすることを再認識できた。「なれ」で許されると思って動いている自分がいた。
- マイクロ・ワークは面白かった。いろいろな意見が聞けた点が良い。
- 具体的な事例が多くて良かった。
- 学生への対応事例が多く役に立った。
- 知らなかった事例を教えていただいた点。
- 知らなかった事例が説明されたこと。
- 危機意識を新たにできたこと。
- 即席のグループ編成ながら議論が進められたこと。
- 指導要録を公開前提で作成すること，その表現方法。
- 判例等参考になった。若い先生には特に勉強になったのではないのでしょうか。
- 教員保険を知れた。
- 指導の継続の他に，記録の重要性を知れた。
- 具体的で分かりやすかった。
- 今後の学生支援に役立つと思う。
- 事例紹介など詳しい説明で，改めて学生指導の大切さを考える機会となった。
- 自分の知らない事例を多く知ることができた。
- マイクロワークでは，他の人の考え方をすることもでき，有意義であった。
- 知らない内容が多かったので，大変勉強になりました。
- 本校の意識レベルを自覚させられ，求められる水準に対応するための課題が見えてくる。
- 指導要録，内申書の開示やWEB化や，訴訟された時の教員保険等，知らない大変だと思われることを知れてよかった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ビデオ撮りは，少し…。
- ワークはもう少し時間をとる方がよい。
- ワークブック等の整備。
- 事例の多くは中学校のものであった。高専の事例中心だともっと良いのではないかと思った。
- もう少し時間を長くして事例を増やして欲しい。
- 事例を最近のものに改めるとなお良かった。
- 一班の人数を減らす。
- 参加者がもっと増えれば良い。
- もっと多くの先生が知っておくべきことなので，参加者を増やした方が良い。
- 参加者拡大のため，組織長等から積極的な周知や参加指示。
- 担任を持っている教員も受講した方が良かったと思った。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：教職員のためのPowerPoint－分かりやすい話の組み立て方・資料作成・分かり易い話し方－
 講師名：立川 明（高知大学）
 実施日：平成26年9月24日（水）
 実施会場：高知工科大学

当日参加者数：15名
 アンケート回答者数：15名

1. 参加者ご自身について

職種

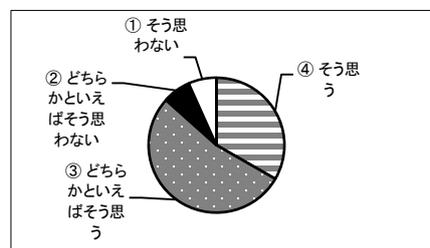
	度数	割合
① 教員	0	0.0
② 職員	15	100.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	15	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

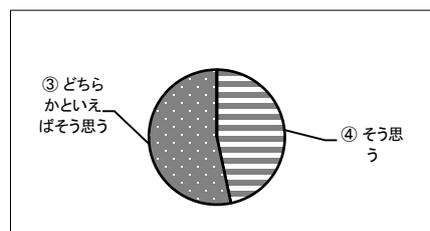
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	33.3
③ どちらかといえばそう思う	8	53.3
② どちらかといえばそう思わない	1	6.7
① そう思わない	1	6.7
計	15	100.0



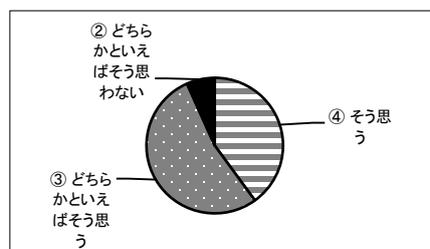
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	7	46.7
③ どちらかといえばそう思う	8	53.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



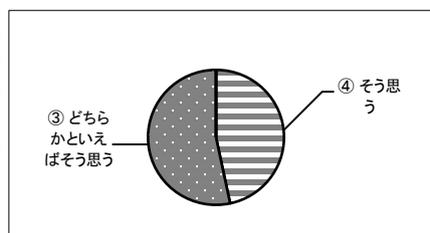
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	6	40.0
③ どちらかといえばそう思う	8	53.3
② どちらかといえばそう思わない	1	6.7
① そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



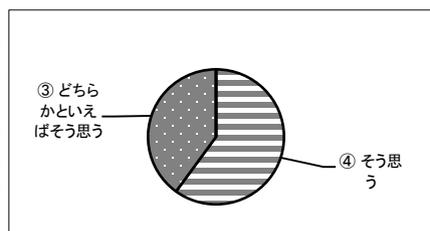
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	7	46.7
③ どちらかといえばそう思う	8	53.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



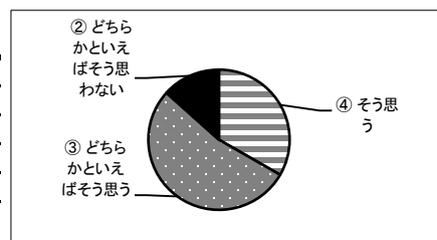
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	9	60.0
③ どちらかといえばそう思う	6	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



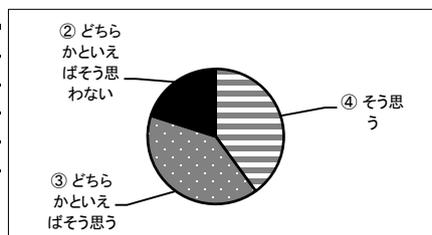
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	5	33.3
③ どちらかといえばそう思う	8	53.3
② どちらかといえばそう思わない	2	13.3
① そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



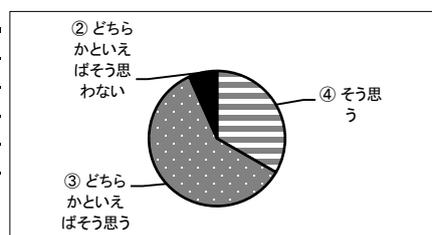
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	6	40.0
③ どちらかといえばそう思う	6	40.0
② どちらかといえばそう思わない	3	20.0
① そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	5	33.3
③ どちらかといえばそう思う	9	60.0
② どちらかといえばそう思わない	1	6.7
① そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- パワーポイント作成や話を伝えることについての要点や注意事項を整理して学ぶことができた。
- 自分の課題に気づくことができたので今後活かしていきたい。
- 説明（CUE）の技術はすぐにでも取り入れたい。
- 分かっているつもりのポイントを改めて意識し、今後も引き続き達成するための目標作りをするように心がけていきたい。
- はなしの組み立て方のポイントがよく理解できた。
- 自身を知れた。
- 聞き手への伝わりやすい内容を話すことが大切だと思った。
- とても分かりやすい内容でした。ありがとうございました。
- 相手の立場に立ち、自分がどのようにアピールできるのか、話の組み立てに関して勉強になりました。
- 伝え方をしっかりと学ぶことができ、即活かせる内容であったと思う。
- 人に話を聞いてもらうための方法「CUE」の理論を理解することができた。今後のプレゼン時に活かすことができる。
- パワーポイントの操作だけでなく、仕事をしていく上で必要なことも学ぶことができた。
- 自分の担当業務に欠かせないプレゼンについて、効果的な手法が学べた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- グループは4人以下がスムーズに進みそうです。
- パワーポイントを使いながら話をするをやりたかったが、時間が少なかったので、もう少し時間があれば良いと思いました。
- 事前の講座内容の説明がもっと詳しくあればよかった。
- パワーポイントの使用方法について、もう少し時間を割き、具体例を組み入れながら説明していただけると良かったです。
- パワーポイントを用いた発表の方法を学びたかった。そのため、具体的なパワーポイントの使い方や、プレゼンを交えた使い方を研修に取り入れてもらいたい。
- 個人的には、CUEの理論をもっと学びたかったです。
- ドリル的にいろいろやってみたく思います。
- 実際にパワーポイントの作成をする部分を充実させていただきたかった。内容的に満足できたが、今回の研修だけでは素人が実際にパワーポイントでプレゼンするには難しいと思う。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～
 講師名：清水 栄子（愛媛大学）
 実施日：平成26年9月25日（木）
 実施会場：今治明德短期大学

当日参加者数：16名
 アンケート回答者数：13名

1. 参加者ご自身について

職種

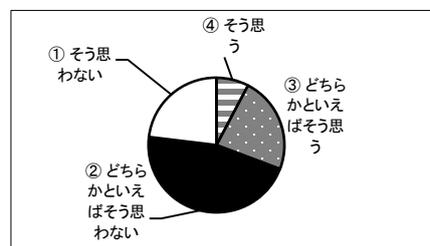
	度数	割合
① 教員	6	46.2
② 職員	7	53.8
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	13	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

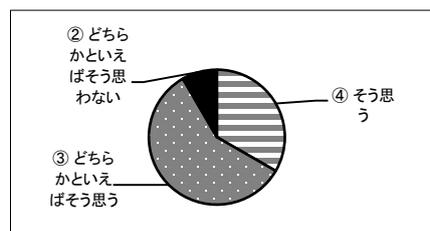
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	1	7.7
③ どちらかといえばそう思う	3	23.1
② どちらかといえばそう思わない	6	46.2
① そう思わない	3	23.1
計	13	100.0



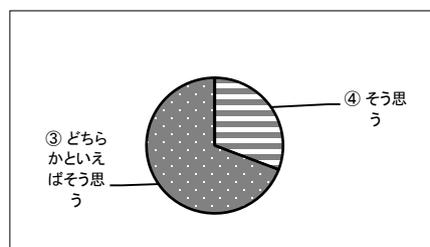
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	4	33.3
③ どちらかといえばそう思う	7	58.3
② どちらかといえばそう思わない	1	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



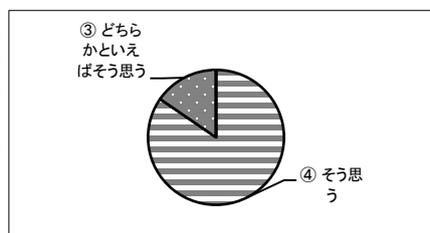
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	4	30.8
③ どちらかといえばそう思う	9	69.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



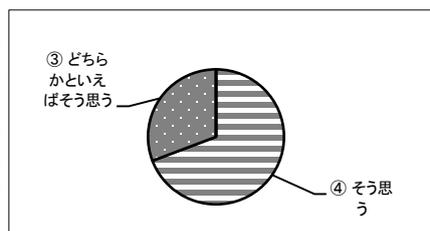
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	11	84.6
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



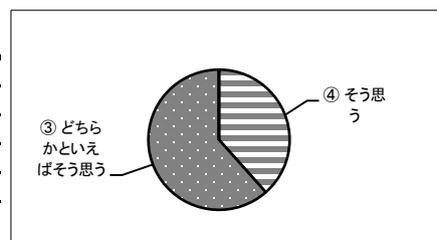
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



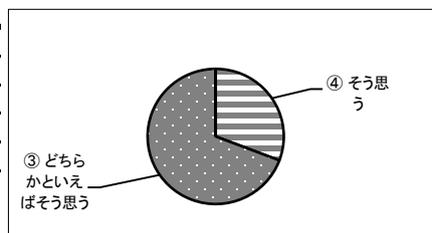
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	5	38.5
③ どちらかといえばそう思う	8	61.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



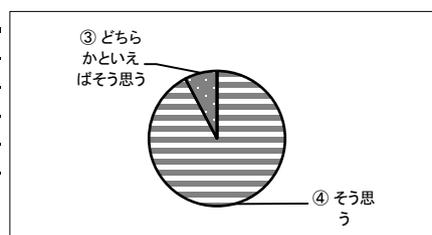
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	4	30.8
③ どちらかといえばそう思う	9	69.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	12	92.3
③ どちらかといえばそう思う	1	7.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 話を聞くということ自体が苦手であるため、何故？ワークはとても勉強になりました。関連したことと聞き続けるには、傾聴はもちろん頭でまとめることも必要で、体験できてよかったです。
- 短時間ではあったため、自らの教育実践を少し振り返ることができ、良かったと思います。
- 自分の熱心さにびっくりしました。自信になりました。理解されるよう頑張りたいです。
- 自分の気持ちが吐き出せてスッキリしました。
- 理念を見つめることができたこと。
- 業務から離れて、真っ白な気持ちで受講できてよかったです。
- 自分の中で新しい気持ちが目覚めたように思えてよかったです。ありがとうございました。
- TP が全く分かりませんでした。清水先生の説明により理解することができました。ワークショップも行われていること、重要性についても知ることができました。
- 改めて自分の問題点や改善点、目標を見つめ直すことができたこと。
- ワークでペアになった相手のことを、より知ろう、分かろう。と思えたこと。
(それによって、自分も見つめ直せたから。)
- 自分の日頃の授業に対する姿勢を振り返ることができた。
- メンターとして聞く内容に難しさを感じた。ポートフォリオは自己覚知につながるものであると思った。
- 自分の平素の授業を振り返り、来週からの授業に臨むことたできた。
- ペアの先生の教育方法や教育観を伺うことができ、再度自分の教育方法を振り返りたい。
- なんとなくだった事が少し言葉で表現できた。
- 授業を丁寧に行うことの大切さ（手抜きしない）
- 時間を守る（チャイムと同時に授業開始）こと大切さ。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 2～3日かけて行う内容を2時間だったので、結局TPはよく分かりませんでした。先生の書かれたものも見せていただきましたが、難しいなというのが…。申し訳ありません。
- ワークショップが本学で開かれることがあれば良いと思います。
- もっと時間があれば（相手の理念や具体的内容を知りたい）良いと思います。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の自立を促す学生支援のコツ
 講師名：吉田 博（徳島大学）
 実施日：平成26年9月25日（木）
 実施会場：四国大学・四国大学短期大学部

当日参加者数：38名
 アンケート回答者数：24名

1. 参加者ご自身について

職種

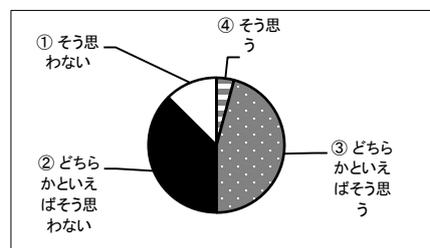
	度数	割合
① 教員	18	75.0
② 職員	6	25.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	24	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

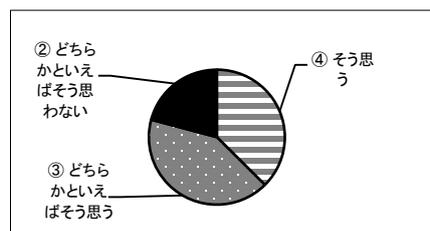
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	1	4.2
③ どちらかといえばそう思う	11	45.8
② どちらかといえばそう思わない	9	37.5
① そう思わない	3	12.5
計	24	100.0



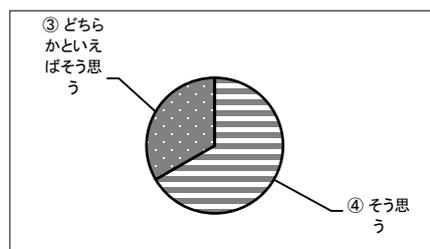
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	9	37.5
③ どちらかといえばそう思う	10	41.7
② どちらかといえばそう思わない	5	20.8
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



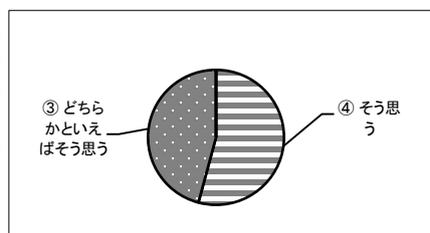
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	16	66.7
③ どちらかといえばそう思う	8	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



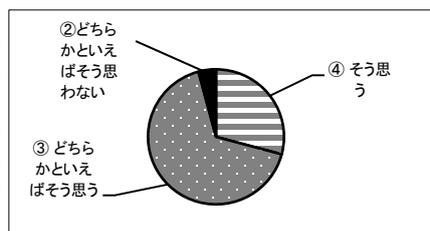
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	13	54.2
③ どちらかといえばそう思う	11	45.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



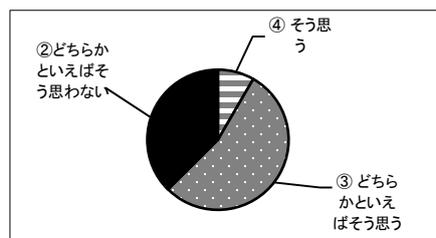
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	7	29.2
③ どちらかといえばそう思う	16	66.7
② どちらかといえばそう思わない	1	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



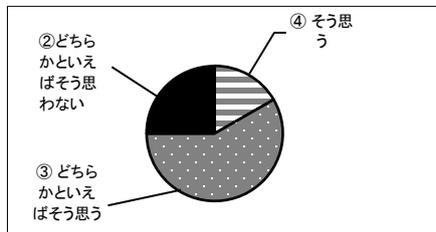
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	2	8.3
③ どちらかといえばそう思う	13	54.2
② どちらかといえばそう思わない	9	37.5
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



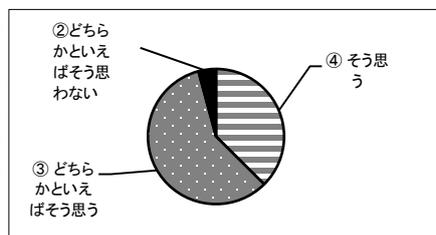
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	4	16.7
③ どちらかといえばそう思う	14	58.3
② どちらかといえばそう思わない	6	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	9	37.5
③ どちらかといえばそう思う	14	58.3
② どちらかといえばそう思わない	1	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 学生との接し方について参考になる点が多々あった。
- ピア・サポートという言葉が知らなかった位なので色々知識として勉強になりました。
- 学生とのつき合い方、学生をどのように育てるかが、大学の発展、質の高まりにつながる。
- 他学科の先生方と意見交換ができた。
- 90分の時間配分が good!
- 演習の採用は効果的→教職員が顔見知りとなり働きやすいキャンパスにつながる。
- ピア・サポートの内容がよく理解できました。
- 後期の授業開始前に、新しく試みる目標ができました。
- 参加型の研修でわかりやすかったです。
- 学生の成長には、教員の成長も不可欠だと改めて実感した。
- 授業外での学生への評価、モチベーションの向上の方法の手がかりが少しつかめた。
- 他の先生と悩みを共有することができた点。
- 現在の大学教育の傾向がわかった。
- FD・ピアサポートという言葉について、今まであまり知らなかったが、今回の研修で良くわかるようになった。
- 講師の方の話がおもしろかった。
- 学生の自立を促すため、いろんな事が学べた。学生サービスを心がけていきたい。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- このような研修を今後も開催してもらいたい。
- 四国大学内での実際の取り組みとして意見交換したい。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？
 講師名：岩中 貴裕（香川大学）
 実施日：平成26年9月26日（金）
 実施会場：愛媛大学

当日参加者数：9名
 アンケート回答者数：9名

1. 参加者ご自身について

職種

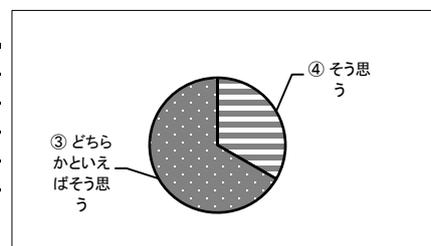
	度数	割合
① 教員	9	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	9	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

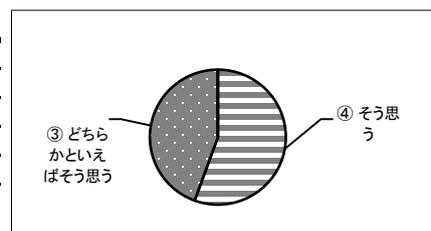
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	3	33.3
③ どちらかといえばそう思う	6	66.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



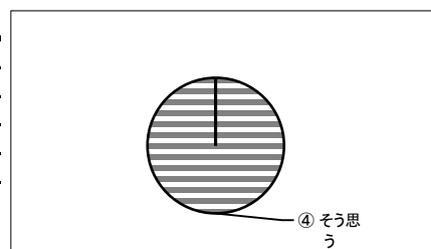
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	5	55.6
③ どちらかといえばそう思う	4	44.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



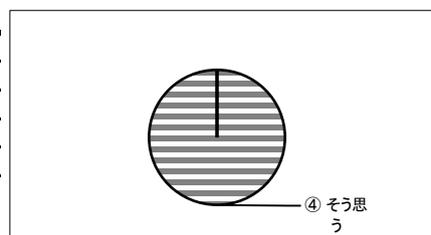
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	9	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



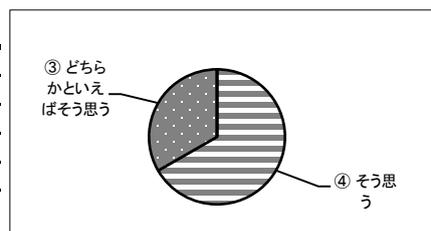
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	9	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



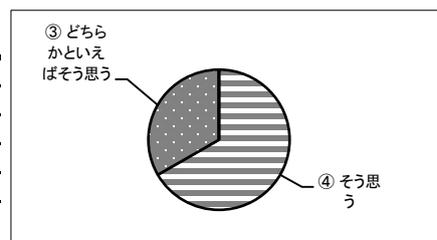
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	6	66.7
③ どちらかといえばそう思う	3	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



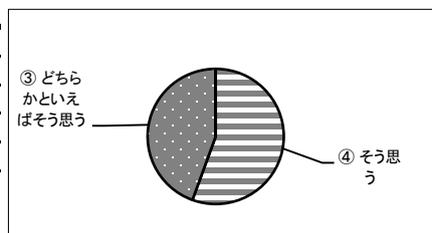
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	6	66.7
③ どちらかといえばそう思う	3	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



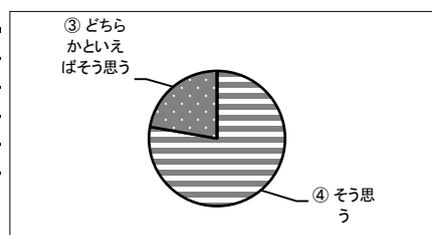
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	5	55.6
③ どちらかといえばそう思う	4	44.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	7	77.8
③ どちらかといえばそう思う	2	22.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 手法を明日から早速使います。
- 非常に分かりやすかったです。
- 「自己決定理論」というものに載っているので面白かった。実際に取り入れたいと思える講義だった。
- 受講者が実際に共同作業等を体験できるように工夫されている点
- 自分の経験を照らし合わせてみても、いろいろ納得のいく点が多く、大変参考となった。また、先生の講義そのものが、1つの授業のスタイルとして見ていて勉強になった。
- 自分が工夫していたことは良かったと確認できました。
- 疑問点をいくつか確認できた。
- いくつか考えていたことと違った点が見つかった。
- 動機付けについて詳しく学べた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 先に資料をいただくとメモがとりやすかったです。
- 工業系、理学系の授業に対する例などがあればありがたい。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：教えないで成績を上げるTBL（チーム基盤型学習）という授業方法
 講師名：立川 明（高知大学）
 実施日：平成26年9月26日（金）
 実施会場：香川大学

当日参加者数：10名
 アンケート回答者数：10名

1. 参加者ご自身について

職種

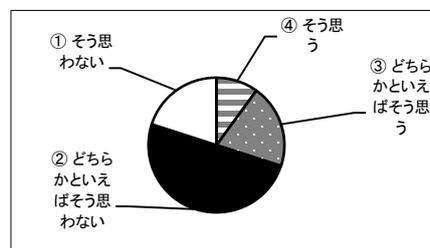
	度数	割合
① 教員	10	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	10	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

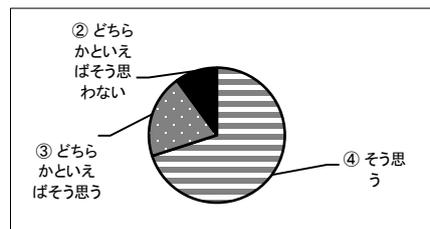
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	1	10.0
③ どちらかといえばそう思う	2	20.0
② どちらかといえばそう思わない	5	50.0
① そう思わない	2	20.0
計	10	100.0



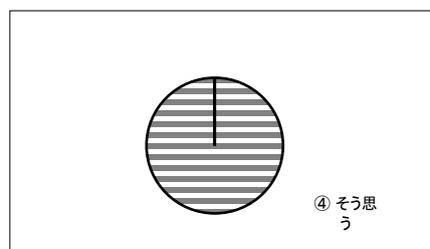
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	7	70.0
③ どちらかといえばそう思う	2	20.0
② どちらかといえばそう思わない	1	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



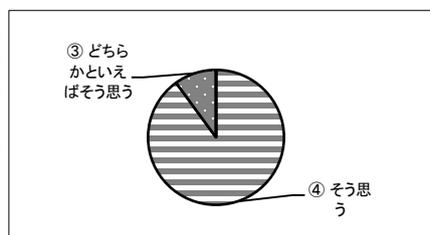
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	10	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



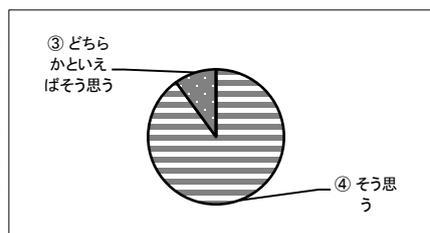
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	9	90.0
③ どちらかといえばそう思う	1	10.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



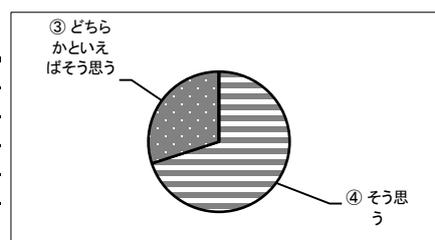
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	9	90.0
③ どちらかといえばそう思う	1	10.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



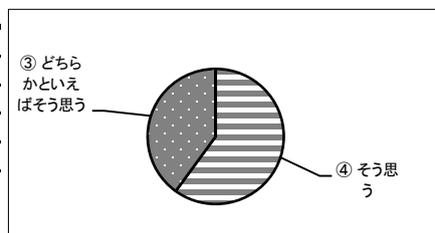
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	7	70.0
③ どちらかといえばそう思う	3	30.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



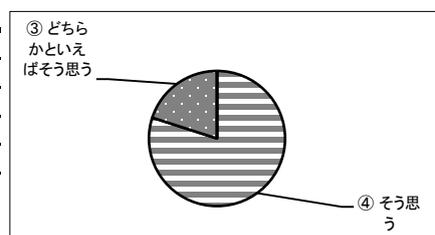
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	6	60.0
③ どちらかといえばそう思う	4	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	8	80.0
③ どちらかといえばそう思う	2	20.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 自分の将来の改善していく方針が見えた。
- 日頃の自分の講義と対称させて、示唆を得ることがたくさんあった。
- 学生の評価に対する考え方が変わりました。個人の理解を評価すべきだと思っていましたので、グループで考え、グループのために個人が努力する点について評価することの良さを学ぶことが出来ました。
- L i t のやり方が解ってよかった。グループ分けからアイスブレイクを実際にやれて良かった。
- 「良い問題の作り方」など、すぐに使える知識が身についた。話しやすい先生達とグループになって楽しく進められた。
- 自分の授業スタイルとは異なる別のスタイルを知ることができ有益であった。
- 新しい知見を得ることができ、活用できる場面が来た際には使ってみたいと思う。
- 勉強しようとする学生にいかにもモチベーションを与えるかで以前から悩んでいました。かなりのヒントが得られて良かったと思います。
- すぐに使える手法が紹介されていた点。
- T B Lの詳細な部分についていろいろと確認することができた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 分かりやすく、楽しめて自分もこのような研修につとめたい。
- もっと多くの教員が参加して、協力して具体化出来れば良いと思う。
- レジュメが充実するとありがたいです。
- 学生の授業反応評価も知りたかった。
- 応用編というか、少し発展した実践例など（正解のない問題を扱うものなど）について紹介があればなお良かった。
- 時間が長いので、参加者が及び腰になっているところもあるのかもしれない。もう少し短くならないのでしょうか？

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：大人数講義を魅力的にするテクニック
 講師名：川野 卓二（徳島大学）
 実施日：平成26年9月26日（金）
 実施会場：高知県立大学 池キャンパス

当日参加者数：39名
 アンケート回答者数：22名

1. 参加者ご自身について

職種

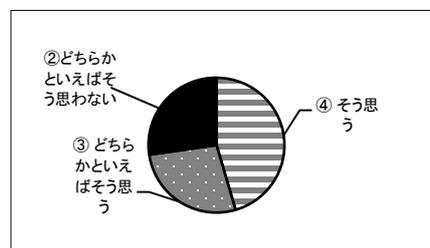
	度数	割合
① 教員	22	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	22	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

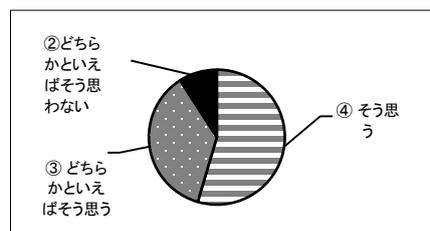
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	10	45.5
③ どちらかといえばそう思う	6	27.3
② どちらかといえばそう思わない	6	27.3
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



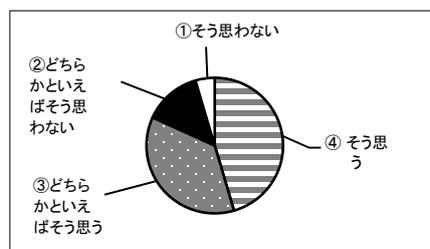
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	12	54.5
③ どちらかといえばそう思う	8	36.4
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



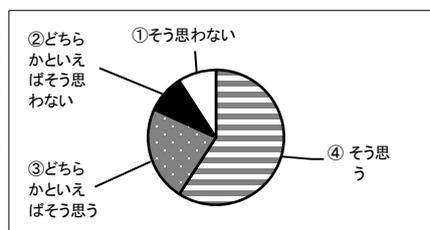
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	10	45.5
③ どちらかといえばそう思う	8	36.4
② どちらかといえばそう思わない	3	13.6
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



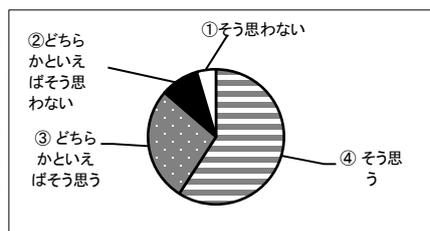
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	13	59.1
③ どちらかといえばそう思う	5	22.7
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	2	9.1
計	22	100.0



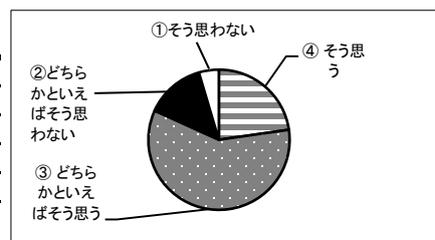
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	13	59.1
③ どちらかといえばそう思う	6	27.3
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



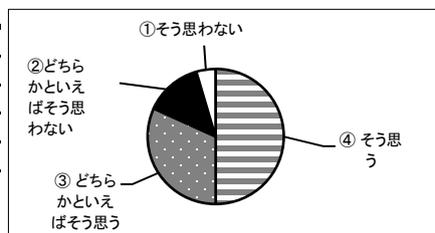
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	5	22.7
③ どちらかといえばそう思う	13	59.1
② どちらかといえばそう思わない	3	13.6
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



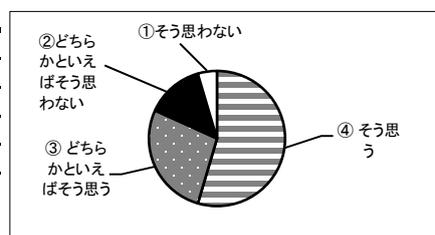
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	11	50.0
③ どちらかといえばそう思う	7	31.8
② どちらかといえばそう思わない	3	13.6
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	12	54.5
③ どちらかといえばそう思う	6	27.3
② どちらかといえばそう思わない	3	13.6
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 学生による自己評価やStart, Stop, Continueなどが使えそうだと思う。SoTLも、自分の授業の実践研究としてやってみたい。
- 資格取得のために講義で使えることが多くなりがちであるが、能動性を高める授業の方法、コツが分かった。
- アクティブ・ラーニングのポイントなどがよくわかりました。
- クリッカー等のツールを知ることができたこと。
- 授業改善のポイントが理解できた。
- 「講義」がなぜ問題なのか、それを解決するにはどうしたらいいか、“双方向の方法”よく分かって良かったです。グループやペアでの活動をよく授業でしますが、たまにしたがらない学生がいます。そういうときはどうするといいいでしょうか？
- クリッカーを実際に使用できたこと。
- アクティブラーニングやAwdragogyの考え方がよくわかりました。特に時間の構造化の大切さを再認識しました。
- リアクションペーパーの取り方も、早速工夫していきなさいと思いました。
- 講義の中で、学生の理解を深める方法 (ex. Buzz groups) などを学べた。
- 授業の改善に向けた、具体的な方策を学ぶことが出来た。研修の内容も実践的で、自らの教育実践に反映可能な情報を多く得ることが出来た。
- アクティブラーニングの要点などが聞けてよかったです。ありがとうございました。
- 授業改善のための評価項目が理解できた。先生ご自身の評価データを提示していただき、率直に出していただいていたありがたいと思った。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- アクティブラーニングの要素を取り込んでもよいと思う。
- 人数の事前把握をすべき。(資料、クリッカーの不足)
- 大人数の長所、短所とその活用について触れてもらってはどうか。
- 学部によって、授業の形式に特徴があると思うので学部ごとのFDを、より重視してはどうか？(特に教育方法に関するFDについて)
- 研修の終了時間は、告知通りに守って欲しい。(次の業務に支障が出るので)
- こうした研修会に参加する時間があれば、研究に時間を使いたい。普段研究時間をしっかり確保できる環境なら、積極的に研修に参加できると思う。
- 時間の厳守。
- こういう機会を、池キャンパスだけではなく永国寺キャンパスでもしていただけるとありがたいです。このために来るのだけで、午前か午後が全部終わってしまいますので。
- 具体的な授業について話し合う時間があればよいと思います。時間通り(16:00)に終わるとさらによいと思います。
- 何度かFD研修に参加してきたが、同じような話が多いと思う。大体FDで出てくる話は

決まりきっているので、オリジナリティのある話はそれほど出ないのだから、毎年参加する意味はあるのだろうかと感じています。したがって、75%参加という大人数を集めるのではなく、よいものにしていくためには、5人くらいの少人数で、毎年参加者を変えて、アクティブな形式で実施した方が良いのではないだろうか。

- 話が、やや冗長な気がしました。
- 統計の具体例のワークもやった方がよいと思う。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？
 講師名：塩崎 俊彦（高知大学）
 実施日：平成26年9月29日（月）
 実施会場：環太平洋大学短期大学部

当日参加者数：18名
 アンケート回答者数：17名

1. 参加者ご自身について

職種

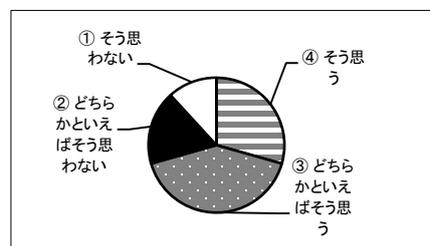
	度数	割合
① 教員	13	76.5
② 職員	4	23.5
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	17	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

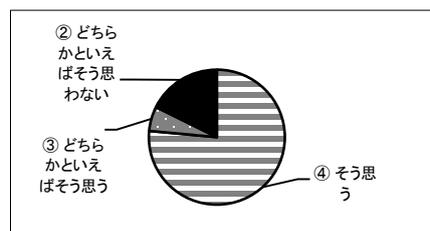
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	29.4
③ どちらかといえばそう思う	7	41.2
② どちらかといえばそう思わない	3	17.6
① そう思わない	2	11.8
計	17	100.0



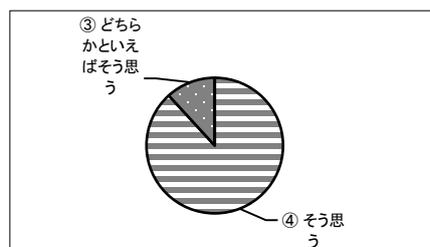
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	13	76.5
③ どちらかといえばそう思う	1	5.9
② どちらかといえばそう思わない	3	17.6
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



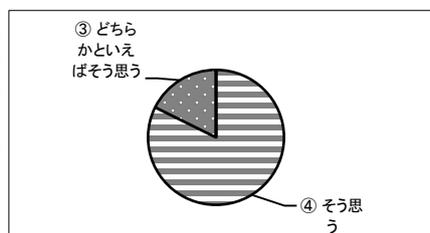
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	15	88.2
③ どちらかといえばそう思う	2	11.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



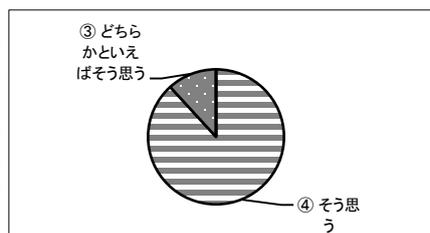
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	14	82.4
③ どちらかといえばそう思う	3	17.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



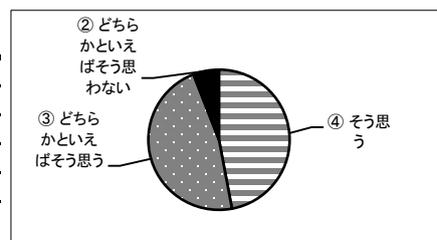
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	15	88.2
③ どちらかといえばそう思う	2	11.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



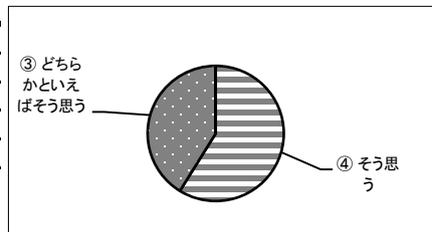
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	8	47.1
③ どちらかといえばそう思う	8	47.1
② どちらかといえばそう思わない	1	5.9
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



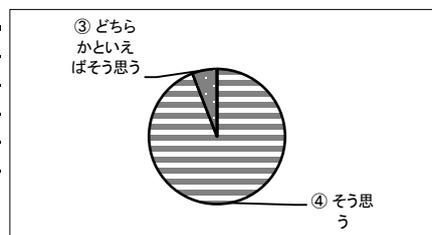
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	10	58.8
③ どちらかといえばそう思う	7	41.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	16	94.1
③ どちらかといえばそう思う	1	5.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 初心に戻れた。
- シラバスにおける到達目標を提示する理由がよく理解できた。
- これまでのシラバスには記載の無かった到達目標について、どのように設定すれば良いか理解することができた。アドミッションカリキュラム、ディプロマポリシーに則った目的、目標を各講義のシラバスに明確にわかるようにする必要性を感じた。
- 目標を具体的に明文化するという事は、普段わかっているけれども実践できないということに改めて気づかされた点。後期授業で行おうとしていた授業の進め方についてちょうどリンクしていたので、大変勉強になりました。
- 自身の教育観を、また1つ高められそうに感じた。
- 実際に担当する授業に取り入れたい内容の1つであった。
- 自分の授業を見直す良い機会となりました。ありがとうございました。
- 抽象的な授業科目の目標を明文化する方法が理解でき、今後の学生へのフィードバックに生かせそうです。ありがとうございました。
- プロセスが常に大切と思ってきました。嬉しく思いました。
- もっと学生に明確に目的を示します。
- 指導の塩崎先生がご親切にご指導してくださり、安心しました。
- シラバスの書き方の改善に参考になった。
- 授業への取り組みが改善されると思われる。
- プロセスが大切であること。
- 人は失敗を通して学び、成長できる。したがって、“失敗はいいことなのだ”ということをして学生に常に伝えていくことが重要であるということに改めて学ぶことができてよかったです。
- ワークショップもあり、とてもためになった。
- もっと早く習っておけば良かった。
- シラバスの書き方が授業の改善に大変参考になった。
- シラバスには直接関わっていませんが、学生との関わりのヒントをいただきました。ありがとうございました。
- 学校説明を行う際などにシラバスの重要性や目的を学生や保護者の皆様に話せるようになるのではないかと思います。
- 「基礎」とはどういったものかなど、ことばを厳密に用いることの大切さを改めて考える機会になりました。
- ありがとうございました！！
- 実際のシラバスの表記と講義で学んだ内容の違いを理解できた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 自分自身の教授の仕方をふりかえる必要がある。
- ワークショップ型の研修の場合、机の配置は島や円の形にした方が良かったと思う。意見交換がしやすいので。
- 自分自身が人間的に成長したいと思います。ありがとうございました。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の学びを促すシラバスの書き方
 講師名：宮田 政徳（徳島大学）
 実施日：平成26年10月29日（水）
 実施会場：鳴門教育大学

当日参加者数：58名
 アンケート回答者数：31名

1. 参加者ご自身について

職種

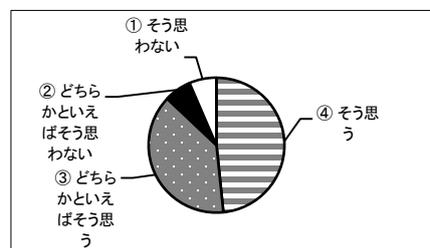
	度数	割合
① 教員	30	96.8
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	1	3.2
計	31	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

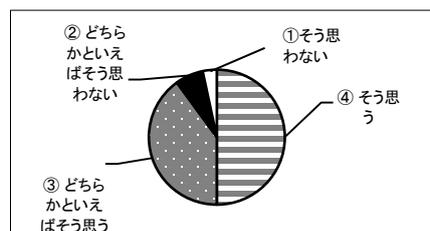
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	15	48.4
③ どちらかといえばそう思う	12	38.7
② どちらかといえばそう思わない	2	6.5
① そう思わない	2	6.5
計	31	100.0



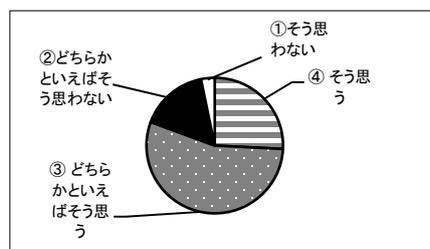
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	15	50.0
③ どちらかといえばそう思う	12	40.0
② どちらかといえばそう思わない	2	6.7
① そう思わない	1	3.3
計	30	100.0



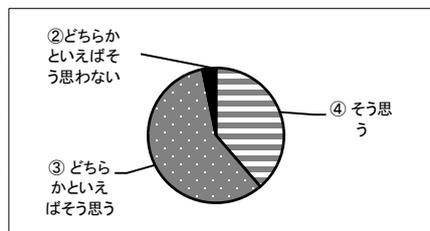
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	8	25.8
③ どちらかといえばそう思う	17	54.8
② どちらかといえばそう思わない	5	16.1
① そう思わない	1	3.2
計	31	100.0



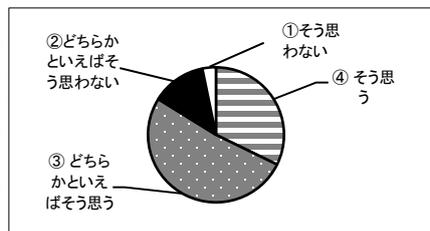
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	12	38.7
③ どちらかといえばそう思う	18	58.1
② どちらかといえばそう思わない	1	3.2
① そう思わない	0	0.0
計	31	100.0



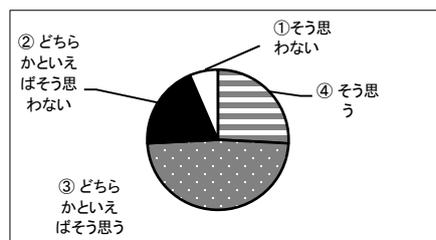
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	10	32.3
③ どちらかといえばそう思う	16	51.6
② どちらかといえばそう思わない	4	12.9
① そう思わない	1	3.2
計	31	100.0



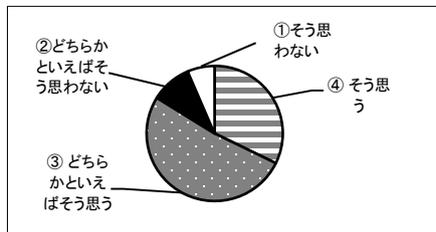
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	8	25.8
③ どちらかといえばそう思う	15	48.4
② どちらかといえばそう思わない	6	19.4
① そう思わない	2	6.5
計	31	100.0



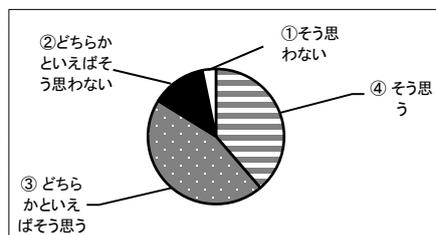
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	10	32.3
③ どちらかといえばそう思う	16	51.6
② どちらかといえばそう思わない	3	9.7
① そう思わない	2	6.5
計	31	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	12	38.7
③ どちらかといえばそう思う	14	45.2
② どちらかといえばそう思わない	4	12.9
① そう思わない	1	3.2
計	31	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 自己流で作成していたシラバスの作成ポイントがよく分かりました。教員側の考えを整理する上で、グラフィックシラバスはとても役立つと思います。
- 参加型で良かった。
- グラフィックシラバスについて知見が得られたこと。
- グラフィックシラバスなる概念を知ったこと。
- 「シラバス」を考える機会にはなりました。
- グラフィックに表してみることに。
- Teaching⇒Learningという発想の転換についての理解が深まった。
- ワークをまじえた研修で実践的であった。
- 全体的に和やかな雰囲気であった。
- 教員養成に必須の教育力について考える機会となった。
- 「教員としての実践力が身についたか？」ということをどのように適確に評価できるか、見えにくい実践力を評価することの研究や評価者の能力育成、体制づくりが求められると感じた。
- シラバスの奥行きを理解できた。
- シラバスへの認識を深めることができた。
- シラバスを作成する意義を学ぶことができた。
- 活動を取り入れていたこと。
- 前半のワークショップを受講できず、残念だった。
- 講師は研修の準備をよくしていた。ご苦労様です。
- シラバスに要求される形式、内容がよく理解できた。グラフィック・シラバスの考え方が参考になった。
- 自身のシラバスの作り方について振り返り、改善すべき点を明確にすることができた。
- グラフィックシラバスについての知識が得られた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ワークショップ形式の研修さらに充実させる。
- アクティブ・ラーニングを取り入れようとして、それに時間を取られすぎ、質疑の時間が短く深まらなかった。計画通りに進めようとして、臨機応変の対応が少しできていないように思いました。逆説的ですが、授業において「脱線」することの大事さに気付かされました。
- 人数、多すぎない方がよい。
- 出席の義務化をすべきである。
- もう少しゆっくりお話しただけるとありがたかったです。
- 作業よりも講演の中味を深めていただければと思います。
- 参加者を増やす工夫が必要と感じた。
- もっとテーマを絞って話をしてほしかった。
- シラバスを利用して学生が主体的に勉学に向かう為には、何をすれば良いか、もっと具体的な、画期的な方法を提示して欲しかった。これはシラバスによる方法によらなくても他の新たな方法でも良い。

- FDは教員の基本，全ての教員に参加することが原則ということを周知する。
- シラバスは教員個人が書くものです。こうあるべきであるなどの基準は示すべきではありません。
- もっと質疑応答の時間をとるべき。
- 時間が少し足りなかった。

平成26年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：教えないで成績を上げるTBL（チーム基盤型学習）という授業方法
 講師名：立川 明（高知大学）
 実施日：平成26年12月2日（火）
 実施会場：阿南工業高等専門学校

当日参加者数：49名
 アンケート回答者数：43名

1. 参加者ご自身について

職種

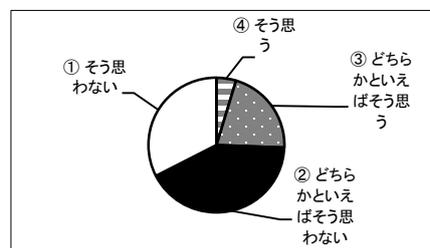
	度数	割合
① 教員	43	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	43	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

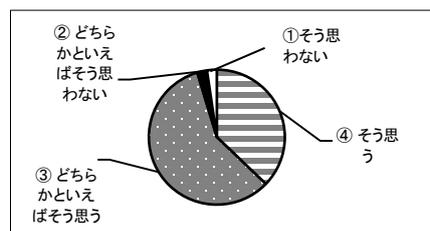
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	2	4.7
③ どちらかといえばそう思う	9	20.9
② どちらかといえばそう思わない	18	41.9
① そう思わない	14	32.6
計	43	100.0



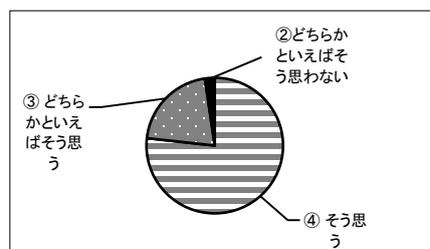
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	16	37.2
③ どちらかといえばそう思う	25	58.1
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	1	2.3
計	43	100.0



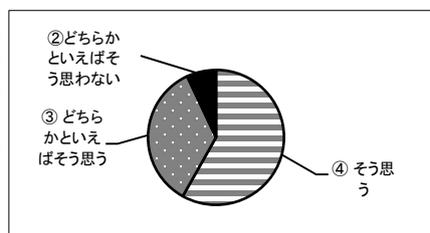
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	33	76.7
③ どちらかといえばそう思う	9	20.9
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	43	100.0



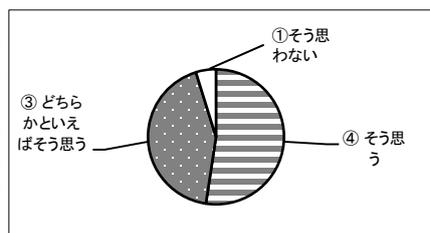
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	25	58.1
③ どちらかといえばそう思う	15	34.9
② どちらかといえばそう思わない	3	7.0
① そう思わない	0	0.0
計	43	100.0



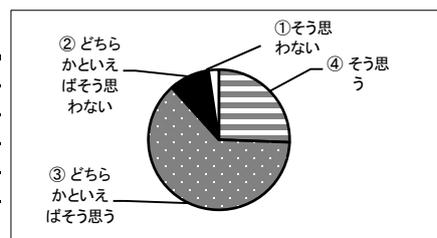
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	22	52.4
③ どちらかといえばそう思う	18	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	2	4.8
計	42	100.0



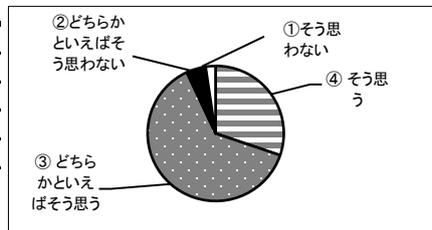
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	11	25.6
③ どちらかといえばそう思う	27	62.8
② どちらかといえばそう思わない	4	9.3
① そう思わない	1	2.3
計	43	100.0



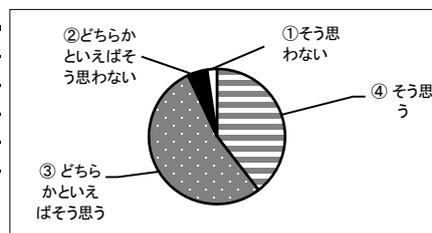
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	13	30.2
③ どちらかといえばそう思う	27	62.8
② どちらかといえばそう思わない	2	4.7
① そう思わない	1	2.3
計	43	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	17	39.5
③ どちらかといえばそう思う	23	53.5
② どちらかといえばそう思わない	2	4.7
① そう思わない	1	2.3
計	43	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 授業に活かせるような内容がいくつかあった。
- 授業設計について考える良い機会となり、参考にすることができた。
- 講義内におけるグループワークの組込み方について知ることができた。
- TBLのやり方がよく分かった。
- 実習も含め、理解しやすかったです。実際に使えるかは、まだハードルがありますが。
- 講義系科目にも簡単に取り入れることのできるL i Tの具体的な導入方法がわかった。
TBLの流れが良くわかった。
- 新しい教授法のトレンドについて学びました。
- TBLについて知ることができた。
- 内容は濃いですが、適度に体験型になっていて理解しやすかった。
- 「もっとも妥当と思うものを一つ選んでください」という問いの立て方を、自分の科目の講義・試験等に導入してみたいです。
- 新しい授業方法を知ることができた。具体的で分かりやすかった。
- 大好きマップはよかった。
- 実践可能な内容だった。
- スクラッチを使ったGRATは良かった。
- ポジティブな気持ちにさせてくれた。
- 新しい授業法の一端が分かり良かった。
- グループ学修の有効性が理解できました。
- グループ学習を積極的に取り入れて良いという発見があった。
- TBLの進め方などを理解できた。
- 反転授業の実際を学べた。
- 論理的に説明がなされた。
- 授業に使いそうであった。
- アイス・ブレイクは是非やりたい。
- 分かりやすかったです。自分の授業をより良くする方向性が見えたように感じます。
- World Cafeのこと。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 我々初心者向けのガイダンスが少し欲しかった。
- 講師の前提と対象者の前提の違いが大きすぎる。対象者に内容を事前に知らせて欲しい。
- 時間が少し長く感じた。
- 専門用語集を配付してください。
- この時間では十分な内容だった。
- 中学校の理科や英語（または数学）の内容を例として説明した方がイメージしやすいと思う。
- 以前もグループワークに関する同様の研修を受講しました。
他の観点から（グループワーク以外）、授業を考える研修にしていただければよろしいかと存じます。グループワークについての研修が重複しているという点も考慮していただければ幸いです。

- 何回も書いていますが、テスト期間中、採点期間中など誰もが忙しい時期の実施は避けていただきたいです。（普段でも誰か忙しくて出られない方もいると思いますが、わざわざ誰もが忙しい時にしなくてもいいのではないのでしょうか。）
- 本校の問題点との関係を明確して、改善の意義を見える形でフィードバックできるようにするとよいのでは。今回も現状分析した上でTBL導入を積極的にすることが可能。
- 実際のTBLの様子DVDとか見せてくれると分かりやすいと思います。にわかには信じ難いので。
- 大学生よりも低年齢、顔見知りの集団である高専におけるやり方にアジャストした方法論があれば良い。
- 具体的に、その授業法を実践することで実現した効果・評価方法を知りたかった。

平成26年度 SPOD内講師派遣事業についてのアンケート 集計結果

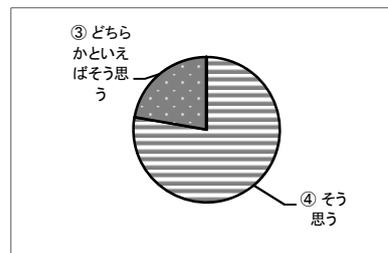
SPOD内講師派遣事業実施校：24校

アンケート回答数：23校

回答者内訳：FD担当 15名，SD担当 8名，事務担当 4名

1. SPOD内講師派遣事業を来年も継続したらいいと思いますか。

	回答数	割合
④ そう思う	21	77.8
③ どちらかといえばそう思う	6	22.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



2. SPOD内講師派遣事業により、学内でどのような成果や変化がありましたか。

○FDプログラム

1	SPOD講師派遣事業に頼りっぱなしでしたが、そこから得たものを生かして、今年度は学内の教員を講師としたFD研修会を開催することができた。
2	複数の教員が、ペア学習を授業に取り入れた。授業評価で良いコメントがあった。今後、別の形態（ジグソー等その他）についても導入の検討が始まった。ペア学習の効果について研究的視点からの分析・検討が必要だと思える教員がいた。
3	今回のグループ学習では、参加した教員がこれまでの研修会以上に積極的に取り組んでいました。SPOD講師派遣事業を年間計画の中に位置づけることにより、教職員の意識が高まっており、授業改善にもつなげることができています。
4	FD・SD合同の研修を実施した。参加者は、本学の教員8名、職員7名、学外参加1名の合計16名であった。 研修は、ポートフォリオとは何かという講義から始まり、その後グループワークをしながら、ポートフォリオを体験しつつ学びを深めていった。 研修内容は、日常の授業や業務で多く経験している事項であったが、今後はそれらを文章として整理し、いかに可視化していけるのかが課題になると思われ、その点についての教職員間での共通認識ができたことが成果として挙げられる。 授業後に実施したアンケート結果からも、自身の業務に対する取り組みを客観視するツールとしての利用が期待できるなどの成果がみられた。
5	シラバスに関する講演であったため、現時点での効果等については認められていないが、次年度のシラバス作成時に何らかの効果・変化があるものと思われる。
6	平成26年度の講師派遣事業は、「事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育」というテーマで、高専の教員を対象とした具体的なプログラムであったので、実際の業務の中で研修内容が生かしているのではないかと思う。
7	特に成果はないが、今年は高専に特化した話であったので、個人レベルでは影響があったように感じられた。
8	今まで気付いていなかったことを認識させてもらえる良い機会であった。しかし、その後の継続性という点で、学校として取り組めていないことが問題である。
9	「小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ～考え方と進め方～」に24名の教員が参加し、教員が一方的に講義をするのではなく、学生の主体的な参加を促す授業の方法について学んだ。来年度からアクティブ・ラーニングを積極的に授業に取り入れることが求められているため、教員がアクティブ・ラーニングの考え方を知り、具体的な手法を学んでいく契機となった。 その後、多くの教員がSPODフォーラム（8月 高知大）、アクティブ・ラーニングシンポジウム（12月 函館高専）、アクティブ・ラーニング入門セミナー（12月 愛媛大学）等に参加して、アクティブ・ラーニング導入に向けた取り組みが加速することとなった。

10	SPOD講師派遣事業による成果は特にはない。 ただし、講座参加者にとってはよい学びの機会ではあったと思う。
11	本学は、12月から全学でLMSを導入し、これから全学で本格的にICT活用とアクティブラーニングに取り組みを始める時期である。TBLの手法は反転授業にもつながり、LMSと共によく活用すれば新たな教育改善につながると期待できる内容だった。 アンケート結果からも「授業に生かせる内容だった」、「必要な知識・スキルを身に付けた」、「業務への取り組みが改善される」は高い肯定的な回答を得ている。 研修を受けた直後には成長・変化の測定は難しいが、新年度には刺激を受けた結果として新たな授業手法への取り組みが増えるのではないかと期待できる。
12	全学的に年1回実施しているSPOD講師派遣事業によるFD講演会には、教員の約7割が参加し全教員の教育研修の機会提供とともに、学科を越えた意見交換の場として機能しており、教員のFDに取り組む姿勢や授業改善への意欲が高められている。また、若手教員が主体的・積極的に近隣大学主催のFDスキルアップ講座に参加し、授業実践のための能力向上に努めている。本年度の「学生の自立を促す学生支援の実践とコツ」では、ワークショップにより、学生目線での体験をすることにより、授業方法を見直すきっかけとなり、シラバスや授業方法の改善に向けた意欲の高まりが感じられた。
13	シラバスづくり、授業運営等に於いて、各教員の目的意識が向上し、教育の質的向上が顕著にみられる。
14	FD研修「学生の学びを促すシラバスの書き方」を9月17日に実施（SPOD派遣講師プログラムを活用）し、次年度のシラバス原稿のチェックを実施するようになった。教務委員、IR委員と協力し特に学生の視点に立った記述・到達目標について確認を行い、更に充実したシラバスへ向けて努力する方向性が見られるようになった。
15	教員各自が研修内容を参考に授業向上等にとりくんだ。学部・センターによっては、ミニ・ティーチング・ポートフォリオに取組はじめるなどの事例もでてきている。
16	1回の研修で授業の成果が上がるということはないが、日ごろ各教員が悩んでいることを数人のグループで共有し話合う場を持てたことは教員の意識改革（授業改革）につながったと思う。

○SDプログラム

1	今回が第1回の研修会だったので現時点では職員の変化等はわからない。 アンケートの内容をみると、研修会については好評であった。
2	他大学の先生方による研修ということで、良い刺激を受けるとともに、説明が研修参加者の意欲を高める話し方でしたので、参加した職員の仕事に対する意欲が高まりました。 また、内容についても問題解決の手法を学んだり、身近な課題をチームで考えることができ参加者同士のコミュニケーションも図れ、職場の雰囲気も良くなりました。 チームで考えた課題や改善案のポスターについては、研修終了後に職員全員でデータとして情報を共有しました。今後、学生のためのより良い大学づくりのための参考資料としていきたいと思います。
3	日常業務でなかなか研修に参加できない中堅層の職員が、SPOD講師派遣事業により学内開催することで多数出席したことが一番の効果と思われる。中には、その後に開催されたSPOD研修の参加も見られた。また、アンケート結果から自分の業務に生かせる内容であったとの回答が93%、業務への取り組みが改善されると思うとの回答が83%であったことから成果があったと思われる。
4	平成25年度に実施したアンケートにより、「SD担当者への説明会（役割、実施すべき事項等）を開催してほしい」「SD担当者での意見交換や検討（どのような方法が実現可能なのか、改良点はないのか）の機会がほしい」というニーズとともに、「●●大学事務職員の能力開発に関する基本方針・基本計画」が職員全体に十分に浸透していない状況を把握した。このような状況を踏まえ、本学は、SPOD講師派遣事業の受講対象者を各課SD担当者等とし、「職員が輝くSDの実践事例」を選択して、SDの意義、本学のSD実施の状況・課題についての研修を行うこととし、上記アンケートにより把握していたニーズを満たすこととした。 研修後、平成27年度設置予定の新学部及び平成25年度採択の地（知）の拠点整備事業の中身と関連について理解したいという事務職員からのニーズに応えるため、3課合同企画という従来なかった柔軟な方法で全学FD/SD研修会を企画、実施した。また、従来より行って

いた部局内研修報告会以外に、報告会で発表できなかった全研修資料の課内回覧を積極的に行う等、形骸化していたSDの取組みの意義を再認識し、行動するきっかけになっている。本研修における受講者間の議論等で得られた課題は、平成26年度事務職員能力開発委員会及びそのワーキング・グループにより議論を行っているSDの検討課題の集約に繋がっている。
--

○FD・SDプログラム

1	多くの教員が授業改善を意識するようになり、徐々に浸透してきたと思われる。近年は、教員同士の授業参観を通して教育改善に積極的になるなど、SPOD講師派遣事業をきっかけとしてその成果は大きいと思われる。平成26年度は「マインドマップ入門講座」を開催していただいた。マインドマップとは聞きなれない教職員も多く、あまり研修目的を把握しないまま参加した教職員が多かった。それでも、自分の業務へどのように活かすことができるかを考え、今後の業務への反映が大きく期待される成果を得られた。
2	学内の勉強会や研修報告会等で発表する際に、意識して話し方を工夫する等の姿勢が見られました。
3	今年度は、講師派遣事業を本学の初任者研修として行いました。初めて大学生に接することとなる教員にはとてもためになったのではないかと考えています。また、それ以外の参加者にとっても今の学生との接し方についてのヒントが得られたという声がありました。

3. SPOD内講師派遣事業への要望があれば、具体的にお書き下さい。

1	ご担当の講師の先生方は大変かと思いますが、ぜひ継続していただきたいと思います。現在加盟校で実施していますので、その負担もかなりのものと思います。SPOD講師派遣事業もかなり浸透してきたと思いますので、もし負担が大きいようであれば、複数の加盟校合同での実施や同一県内での開催なども一案かと思いますが（希望としては今の形を継続していただきたいと存じますが）。
2	アクティブ・ラーニングを主体とした研修内容を増やしていただきたいと思います。
3	H26年度は、SD研修プログラムの強化もあり、ぜひ聞きたいという声が寄せられました。今後も現場の要望を踏まえた新しい研修を実施して頂けると有り難いです。
4	今後も、SPOD講師派遣事業を継続して実施していただければと思います。
5	高専向けの講師派遣事業を増やしてきていただいているので非常に感謝している。今後も、高専向けの派遣事業の充実をよろしく願いたい。
6	高専に特化したプログラムをもっと増やして欲しい。大学向けの話はうまく適用できないことが多い。
7	規模の小さな本校にとっては外部講師によるFD/SD活動は大変重要な役割を果たしており、今後も引き続き事業の継続を希望したい。
8	SPOD講師派遣事業を継続するのであれば、講師へのインセンティブを早急に検討してほしい。
9	時流に乗った新しいトピックを毎年開設して欲しい。
10	研修全般に当てはまることであるが、主催者側（本事業でいえば、プログラムの選択大学）に各大学の実情に沿った具体的な目的があるほど、担当講師との内容のすりあわせが難しく主催者側と講師双方の負担は大きくなる。担当講師が研修内容を全て決定するのであれば双方の負担は少ないが、各大学の実情に沿った内容にすることが難しくなる。平成27年度のプログラム選択に際しては、選択する側に目的等を明確にさせておく等の改善がされているので、今後も引き続き改善をお願いしたい。学内に研修の開催通知を行う頃までに、研修資料案をお送りいただければ幸いです。また、昨年度も記載したとおり、原則としてSPODの全プログラムが講師派遣事業でも選択可能となっていれば、旅費の制約による人数調整の必要がなく、業務多忙により出張を伴う研修を敬遠する職員も受講できるので、（担当講師の都合もあり難しいとは思いますが）ご検討をお願いしたい。
11	参加者のアンケートを見ると、盛りだくさんな内容で楽しく受講できたという感触を受ける一方、一つのことを掘り下げる内容も期待しているように感じられます。幅広い内容からヒントを得るのにも意義があると思いますが、限られた時間でもありますので、いくつかのポイントを絞っていただけると何か習得できたという実感がより得られると思います。
12	全学的なFD活動を進めるにあたり、SPOD講師派遣事業は大変有効に機能しており、SPODとの連携は不可欠である。SPODの支援は今後も継続していただきたい。
13	どの事業も大学教育改革に繋がる重要な事業である。本学FDとしては、可能なかぎり勉強させていただく予定である。

14	SPODの研修会はどれも有意義なものが多いので、年度につき1件だけでなく、派遣予算は派遣先(派遣をうける大学等)が負担してもよいので、複数回の派遣依頼を受けてほしい。
15	講師を捜すことがまずなかなか難しいので、継続していただくと非常に助かります。また、研修内容も色々な中から、自分の大学に必要なことを選択させていただけるのというシステムも、現状問題となっていることや気になることについて研修を受けることができるようになるので助かっています。
16	毎年お願いしている授業改善のための研修 学習しようがい学生などへの理解と対応のためのプログラム FDとSD同時にできる研修テーマ

4. SPOD全体への要望があれば、具体的にお書き下さい。

1	特にありません。外部講師の講義が、教員の問題意識啓発に非常に役立っていると感じられています。
2	引き続きご指導くださいますよう、よろしく申し上げます。
3	毎年のプログラムの見直しや改善が適切に行われており、今後も大いに期待しております。
4	日常は授業や校務に追われ、つい目の前の仕事を優先してしまいます。我々にとって最も重要な教育活動をFD・SDによって活性化する大切さを、他校の実例を知ることで、折に触れて再認識しています。今後も様々な情報提供をお願いしたいと思います。
5	FD、SDとも、●●県で開催のSPOD講座を増やしていただければ、参加しやすくなりますので、ご検討いただければと思います。
6	たくさんの研修プログラムを用意していただき感謝いたします。今後は学内への情報提供を強化してより多くの教職員の参加を促していきたいと思います。
7	アーカイブをオンデマンドで視聴できるプログラムを増やして欲しい。更に利便性が上がり参加者(聴衆)が増えると考えられる。また、アクティブラーニングの手法に関する取り組みを増やして欲しい。
8	大学単位ではなかなか実施できない研修を企画していただき、事務局の皆様や講師の先生方には大変感謝しております。来年度以降本学は業務が一層多忙になることが予想されます。次世代リーダー養成ゼミナールなど、研修へは引き続き参加させていただきたいと思っておりますが、なるべく負担のないようご配慮いただけますと幸いです。
9	本年度は該当教員がおらず、新任教員研修会への参加はなかったが、若手教員の授業実践のための能力開発には有効であり、今後も継続していただきたい。
10	ひきつづき、四国内でのFD活動の充実をはかっていただきたい。
11	SPODの会議等への参加でも色々な情報が得られたり、人的な交流もできるとあって非常にありがたい集まりとなっているのではないかと思います。
12	研修を出来るだけ年度初めに実施して学生に成果を還元したい。

SPODにおける 新任教員研修の効果



■ 調査の目的

SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）は平成20年に発足以来、今日まで様々なFD・SD事業を展開してきた。そして平成24年度、SPODの連携効果及び組織変容の検証のため「調査・研究プロジェクト」のワーキンググループが設置された。その一つである「連携効果検証ワーキンググループ」では、先ず手始めにSPODで実施している「新任教員研修」の効果検証のためのアンケート調査を平成25年度中に実施することが決まった。その目的は、今までの「新任教員研修」

の取り組みを振り返り、今後のプログラムの改善のための基礎資料を得るためである。今回はSPODで標準化され、コア校4校（愛媛大学、高知大学、香川大学、徳島大学）で実施されているプログラム「新任教員研修」に焦点をあてたアンケート調査である。このアンケート調査に回答頂いた先生方には厚くお礼申し上げたい。以下に、概要、結果、考察、まとめを記載して、アンケート調査報告としたい。

■ 調査の概要

→ 調査対象及び方法

この調査は、平成22年度から24年度までの3年間のSPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）新任教員研修の受講者208人を調査対象とした。調査方法は、各受講者にアンケート用紙を配布し、回答用紙（マークシート）を回収した。

→ 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者208人（国立大142人、公立大20人、私立大（短大を含む）40人、高専6人）のうち、回答数は90人で、回収率は43.3%であった。（基本属性のみ、1名無記名）

→ 調査時期

この調査は、平成26年2月1日から2月21日まで実施した。

*ここでいう「新任教員研修」とは、愛媛大学では「授業デザインワークショップ」、高知大学では「新任教員FDワークショップ」、香川大学では「よりよい授業のためのFDワークショップ」、徳島大学では「教育力開発基礎プログラム」を指す。

→ 基本属性

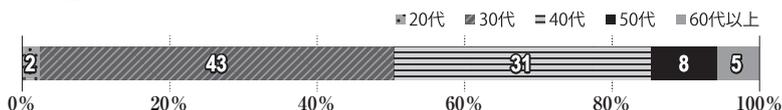
● 職位(現在)



● 専門分野



● 年齢



● 新任教員研修に参加された年度を選択して下さい



● 新任教員研修に参加した場所を選択して下さい

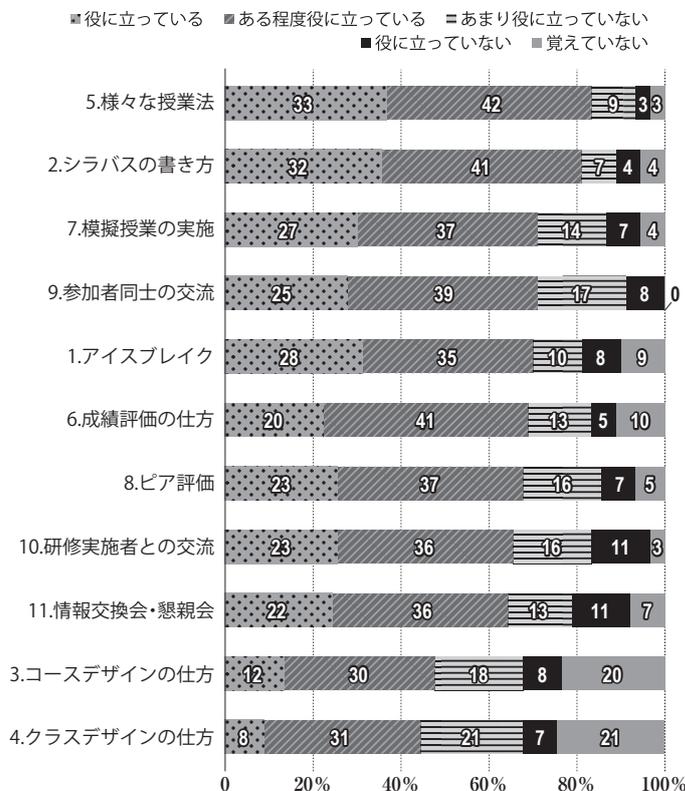


◆ SPOD 新任教員研修アンケート分析から見える研修の成果と課題

■ SPOD の新任教員研修の内容が役に立っていることについて

項目全体において、役に立っている、ある程度役に立っていると回答した教員が、平均して66%に達していることから、SPOD で実施している新任教員研修は、参加者にとって概ね有益であったことが伺える。特に、「様々な授業方法」、「シラバスの書き方」については、ある程度役に立っているを含めて、役に立っていると回答した教員が80%を超えている。この結果から、新任教員研修のコアの目的である、授業設計の基本を習得することが達成できていると推察できる。また、「模擬授業の実施」のように、実践的なプログラムは、日常の教育活動における役立ち度が高いことが分かる。一方、「コースデザイン」、「クラスデザイン」については、覚えていないと回答した教員が20%を超えていることから、プログラムの組み方や説明の仕方などが、今後の課題である。

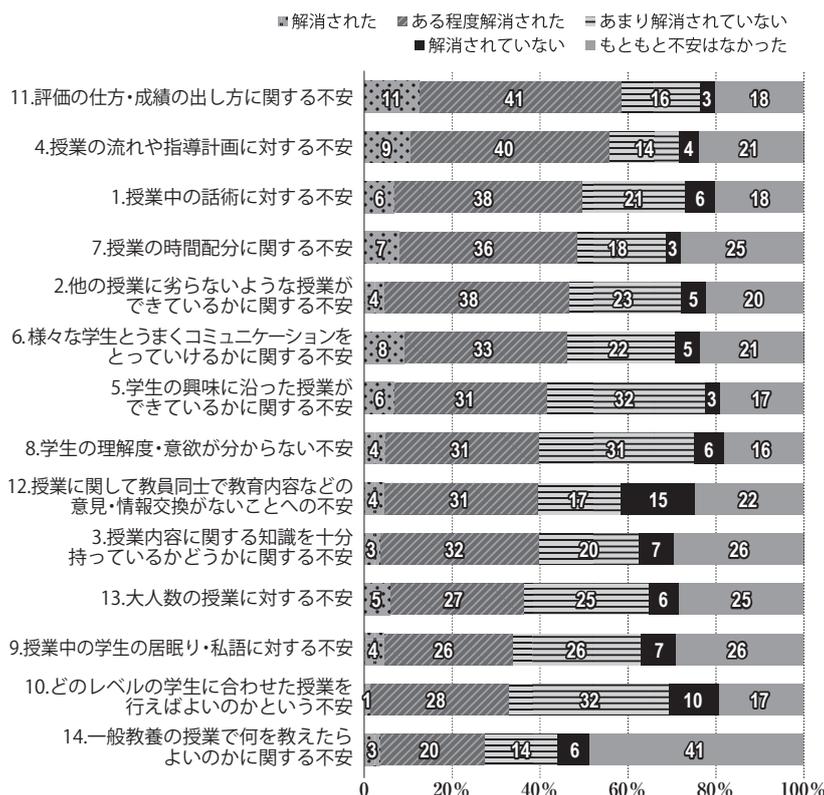
● 新任教員研修の教育活動への役立ち度



■ SPOD の新任教員研修で解消された不安について

不安がある程度解消されたを含め、解消されたと回答した教員が比較的多かった項目として、成績評価、指導計画、時間配分などの授業設計に関わる内容が挙げられる。このことから、役立ち度と同様に、研修の目的に関連する内容においては、新任教員の不安解消に繋がっていることが分かる。また、学生とのコミュニケーションの取り方や授業中の話術といった教育技術に関する不安を解消することにも、少なからず貢献できている。学生の興味や理解度・意欲の把握に関する不安について解消できたという回答が4割以下に留まっており、内容の充実が課題となる。解消されたという回答が少なかった項目では、本研修で取り扱っていない内容も含まれており、他のFDプログラムと連携し、新任教員の不安解消、教育力の向上に取り組むことが求められる。

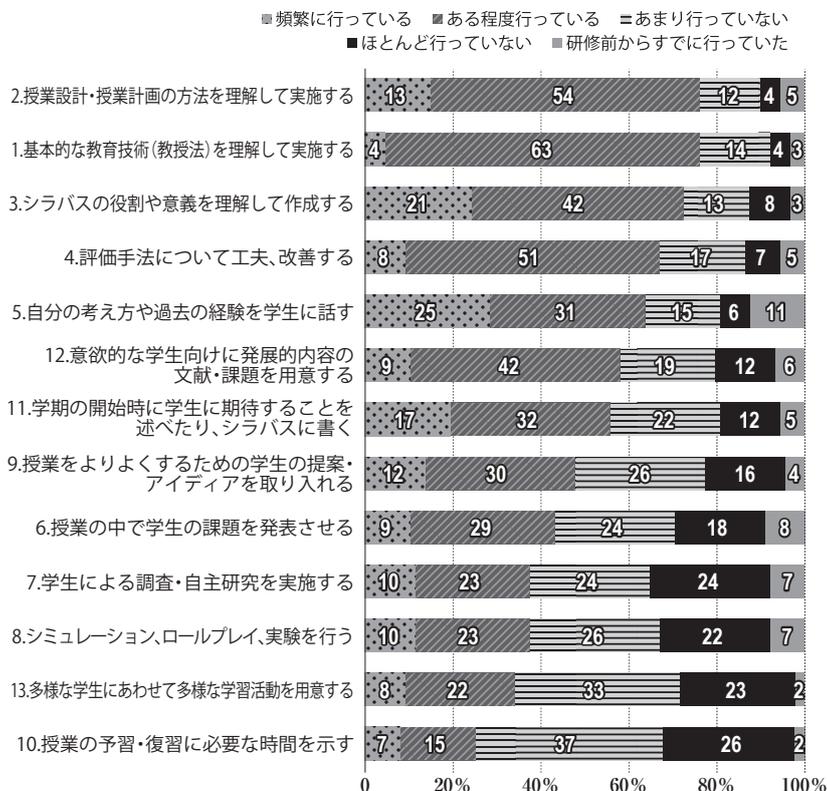
● 新任教員研修で解消された不安



■ 研修後の日常の授業活動について

研修後においては、授業設計・授業計画の方法、シラバスの役割や意義、教育技術等を理解し、日常の教育活動に取り組んでいる教員が比較的多いことが伺える。評価手法についての工夫や改善も含めると、研修で習得した知識や理解が日常の教育活動に活かされていることが分かる。一方、授業に学生提案の課題を取り入れること、学生に課題を発表させること、学生による調査・自主研究を実施することは、学生の能動的学習（アクティブ・ラーニング）に繋がる内容であるため、教員が実施できるように具体例を示すなどの改善が必要である。また、「授業の予習・復習に必要な時間を示す」ことについては学生の主体的な学習や授業外学習の促進に関連する内容であるため、その重要性を示すことや事例を紹介するなどの工夫が課題である。

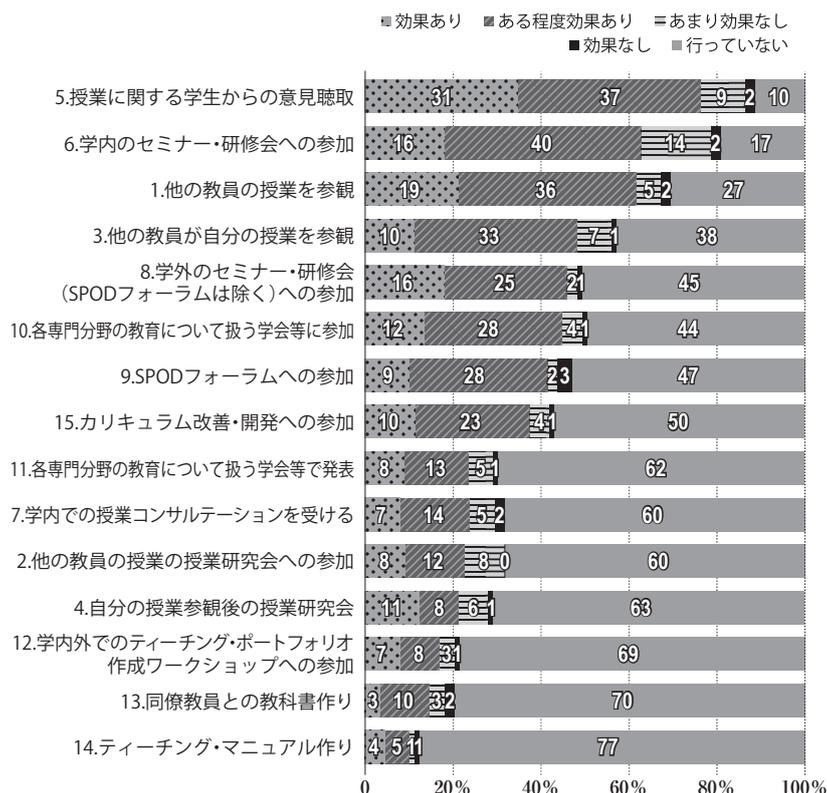
● 研修後の日常の授業活動について



■ 研修後における教育力向上のための活動への参加とその有効性について

教育力向上のための活動については、全体的に行っていないと回答した教員が多く存在していることが分かる。しかし、行っていると回答した教員の中では、効果の有無について、ある程度効果ありを含めると、効果ありと回答した教員は、平均して80%程度であることが分かる。項目別では、「授業に関する学生からの意見聴取」、「他の教員の授業を参観」、「学内のセミナー・研修会への参加」については、行っていると回答した教員は比較的多い。これらの項目には授業評価アンケートや、授業公開なども含まれており、大学全体で組織的に取り組んでいるケースがあると考えられる。教育力向上のための活動では、個人レベルの取り組みだけでなく、組織的な取り組みが必要であることが推察できる。

● 研修後における教育力向上のための活動への参加とその有効性



■ まとめと今後の課題

調査・研究プロジェクト統括
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室／副室長・准教授 山田 剛史

SPODでは、これまでの取組の効果を検証すること、そこから次の課題を見出し、さらなる充実を図ることを目的として、平成24年度に「調査・研究プロジェクト」を立ち上げた。その中に「連携効果検証WG」を置き、まず四国地区（コア校4大学）において標準化された新任教員研修を調査の対象とした。具体的には平成22年度から24年度までの3年の間に当該研修を受講した教員を対象に、その後の教育活動への波及効果等を捉えることを目的として調査を企画・実施した。

一般的に研修の効果検証として用いられているのが、受講直後の満足度調査であるが、研修の効果として十分とは言えない。カークパトリックは研修効果のレベルとして、受講直後の反応（Reaction）、学習成果（Learning）、行動変容（Behavior）、組織変容（Result）の4つを提唱している。その意味では多くの研修評価はレベル1にとどまっていると言える。何のための研修か。それはその場における満足感等の情緒的なものではなく、その後の個人の教育活動や組織の活性化、最終的には学生の学びの成功に結びつかなければならない。そこで、本WGではこのフレームを意識しながら対象・時期・内容を検討し、調査を実施した。

個々の結果については本文を参考にさせていただきたいが、新

任教員に対する集中的な研修の機会は、教員の教育活動を一歩前に進める上で有効であることが示されたと言える。特に、研修後の日常の授業で様々な方法を実施していることも伺えた。

ここでは、教育力向上のためにどのような活動が必要なのかに関する自由記述を整理してみたい。SPODが提供している研修等に参加することを肯定する意見も多い一方、一般的な技法・ツールの提供に留まっていることに対するコメントもいくつか見られた。近い分野を含む教員間での深い交流や学生の特性に応じた実践的な内容、組織として積極的に取り組む姿勢の重要性も指摘されていた。限られたリソースで全ての要求に応じることは難しいが、調査の結果も踏まえてさらなる改善に臨みたい。

また、明らかにしなければならない連携効果の検証対象は他にも様々存在する。今回は「新任教員（教員個人）」「授業（ミクロレベル）」を主な調査対象としたが、キャリアステージに対応した教育上の課題が存在する。また、FDのターゲットとして、カリキュラム（ミドル）や組織（マクロ）など異なるレベルが存在し、複雑な課題を内包している。こうした課題を解決していくためにも、調査・研究活動を通じて実態を把握し、具体的な方策を検討・提供していくことが求められる。

<編集後記>

徳島大学では「新任教員研修」の受講生を対象とし、そのフォローアップとして平成17年度より授業参観と授業研究会を行う「授業コンサルテーション」を実施している。その幾つかの授業研究会で、熱心な先生方が実際に新任教員研修で身につけた授業法を実践されている例に出遭うとFD冥利に尽きることがある。例えば、保健学科のある先生は、事前にweb上で事例映像を観て、授業ではそれについて学生同士に議論させ発表させる反転授業を実施したり、また別の先生は事前に看護事例を与え、その診断のレポートを書かせ、授業当日はそのレポートを学生に発表させることを行って、学生に考えさせるアクティブ・ラーニングを行っている。また、歯学部のある先生は、学生の理解度を確かめるために、授業最後にミニツペーパーを配り、今日授業で学んだことや分からなかった事に対する質問を書かせたりしている。これらの取組を「新任教員研修がきっかけで行うようになりました。」と話して下さる先生に出会うと、新任教員研修が確実に役だっていることを実感させられるのである。

徳島大学総合教育センター／准教授 宮田 政徳

本アンケート調査で、研修後における教育力向上のための活動については全体的に行っていないと回答した教員が多く存在していることが分かった。FDが教育力向上に効果があると実感できれば、教員自身にとっても意味のあるFDになる。教育技術の向上に役立つ具体的なもの、即効性のあるものが提供できるよう、内容の充実を図り、SPODで行われるFDへの参加者の増加を目指していきたい。本アンケート調査にご協力いただきましたSPOD加盟校の先生方に厚く御礼申し上げます。

徳島大学総合教育センター／特任研究員 上岡 麻衣子

SPOD 調査・研究プロジェクト 連携効果検証ワーキンググループ

平成27年1月

編集 徳島大学総合教育センター
発行 SPOD 調査・研究プロジェクト

http://www.spod.ehime-u.ac.jp/chosa_cate2/

SPOD 新任教員研修に関するアンケート調査

SPOD・FD専門部会

お 願 い

このアンケート調査は、平成22年度～24年度まで3年間の「SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）新任教員研修*」の参加者の皆様を対象としてご協力をお願いしております。本調査は、SPOD新任教員研修参加後の皆様の教育に関する意識および取り組みについてお聞きするもので、SPODの活動の質向上のための基礎資料づくりを目的としております。調査結果は、厳正にプライバシーを守って取り扱われるため、回答内容が回答者個人に影響を及ぼすことはありませんので、安心して率直にお答え頂ければと思います。

*ここでいう「新任教員研修」とは、愛媛大学では「授業デザインワークショップ」、高知大学では「新任教員FDワークショップ」、香川大学では「よりよい授業のためのFDワークショップ」、徳島大学では「教育力開発基礎プログラム」を指します。

〔調査期間：平成26年2月1日～2月21日〕

提出期限は、2月21日です。

* 回答は返信用封筒に入れ投函して下さい。

回答記入上の注意事項

1. 無記名でご記入下さい。
2. 各質問の指示に従って、直接記入してご回答ください。
3. 調査に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

<調査内容に関するお問い合わせ先>

SPOD・FD専門部会

調査担当：徳島大学教育改革推進センター

宮田政徳・吉田 博・上岡麻衣子

E-Mail: mmiyata@tokushima-u.ac.jp

【ご自身について】

- 1) 所属機関名： ()
- 2) 職位（現在）： 1. 教授 2. 准教授 3. 講師 4. 助教 5. 助手 6. その他 ()
- 3) 職位（新任教員研修当時）： 1. 教授 2. 准教授 3. 講師 4. 助教 5. 助手 6. その他 ()
- 4) 雇用条件（現在）： 1. 任期なし 2. 任期あり 3. その他 ()
- 5) 雇用条件（新任教員研修当時）： 1. 任期なし 2. 任期あり 3. その他 ()
- 6) 専門分野：
 1. 人文学 2. 社会科学 3. 数物系科学 4. 化学 5. 工学
 6. 生物学 7. 農学 8. 医歯薬学 9. その他 ()
- 7) 年齢： 1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代以上
- 8) 勤務年数（高等教育機関）：

これまでに高等教育機関に勤務された年数は、今年も含めて何年になりますか。

 1. 1年未満 2. 1～3年 3. 4～6年 4. 7～9年 5. 10年以上
- 9) 勤務年数（現在の所属機関）：

現在の所属機関に勤務された年数は、今年も含めて何年になりますか。

 1. 1年未満 2. 1～3年 3. 4～6年 4. 7～9年 5. 10年以上
- 10) 新任教員研修に参加された年度を選択して下さい。
 1. 平成22年度 2. 平成23年度 3. 平成24年度
- 11) 新任教員研修に参加した場所を選択して下さい。
 1. 愛媛大学 2. 高知大学 3. 香川大学 4. 徳島大学

13) SPOD の新任教員研修で解消された不安について：

SPOD の新任教員研修後、解消された不安の項目の番号に○をつけて下さい。

新任教員の不安	不安があった				もともと不安はなかった
	解消された	ある程度解消された	あまり解消されていない	解消されていない	
1. 授業中の話術に対する不安	4	3	2	1	0
2. 他の授業に劣らないような授業ができているかに関する不安	4	3	2	1	0
3. 授業内容に関する知識を十分持っているかどうかに関する不安	4	3	2	1	0
4. 授業の流れや指導計画に対する不安	4	3	2	1	0
5. 学生の興味に沿った授業ができているかに関する不安	4	3	2	1	0
6. 様々な学生とうまくコミュニケーションをとっていきけるかに関する不安	4	3	2	1	0
7. 授業の時間配分に関する不安	4	3	2	1	0
8. 学生の理解度・意欲が分からない不安	4	3	2	1	0
9. 授業中の学生の居眠り・私語に対する不安	4	3	2	1	0
10. どのレベルの学生に合わせた授業を行えばよいのかという不安	4	3	2	1	0
11. 評価の仕方・成績の出し方に関する不安	4	3	2	1	0
12. 授業に関して教員同士で教育内容などの意見・情報交換がないことへの不安	4	3	2	1	0
13. 大人数の授業に対する不安	4	3	2	1	0
14. 一般教養の授業で何を教えたらいのかに関する不安	4	3	2	1	0

14) 研修後の日常の授業活動について：

SPOD の新任教員研修後、日頃実施している授業で、あなたの授業は以下の項目に、どの程度あてはまりますか。次の各項目について、あてはまる番号に○をつけて下さい。

研修後の日常の授業活動	頻繁に行っている	ある程度行っている	あまり行っていない	ほとんど行っていない	研修前からすでに行っていた
1. 基本的な教育技術（教授法）を理解して実施する	4	3	2	1	0
2. 授業設計・授業計画の方法を理解して実施する	4	3	2	1	0
3. シラバスの役割や意義を理解して作成する	4	3	2	1	0
4. 評価手法について工夫、改善する	4	3	2	1	0
5. 自分の考え方や過去の経験を学生に話す	4	3	2	1	0
6. 授業の中で学生の課題を発表させる	4	3	2	1	0
7. 学生による調査・自主研究を実施する	4	3	2	1	0
8. シミュレーション、ロールプレイ、実験を行う	4	3	2	1	0
9. 授業をよりよくするための学生の提案・アイデアを取り入れる	4	3	2	1	0
10. 授業の予習・復習に必要な時間を示す	4	3	2	1	0
11. 学期の開始時に学生に期待することを述べたり、シラバスに書く	4	3	2	1	0
12. 意欲的な学生向けに発展的内容の文献・課題を用意する	4	3	2	1	0
13. 多様な学生にあわせて多様な学習活動を用意する	4	3	2	1	0
14. その他（具体的に： ）	4	3	2	1	0

【教育力向上に関する活動について】

15) 研修後における教育力向上のための活動への参加とその有効性について：

あなたは SPOD 新任教員研修を受けた後、教育力向上に関する活動をどの程度行っていますか？また行っているもののうち、その効果はどの程度ありましたか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

教育力向上に関する活動	行 っ て い る				行っていない
	効果あり	ある程度効果あり	あまり効果なし	効果なし	
1. 他の教員の授業を参観	4	3	2	1	0
2. 他の教員の授業の授業研究会への参加	4	3	2	1	0
3. 他の教員が自分の授業を参観	4	3	2	1	0
4. 自分の授業参観後の授業研究会	4	3	2	1	0
5. 授業に関する学生からの意見聴取	4	3	2	1	0
6. 学内のセミナー・研修会への参加	4	3	2	1	0
7. 学内での授業コンサルテーションを受ける	4	3	2	1	0
8. 学外のセミナー・研修会（SPOD フォーラムは除く）への参加	4	3	2	1	0
9. SPOD フォーラムへの参加	4	3	2	1	0
10. 各専門分野の教育について扱う学会等に参加	4	3	2	1	0
11. 各専門分野の教育について扱う学会等で発表	4	3	2	1	0
12. 学内外でのティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップへの参加	4	3	2	1	0
13. 同僚教員との教科書作り	4	3	2	1	0
14. ティーチング・マニュアル作り	4	3	2	1	0
15. カリキュラム改善・開発への参加	4	3	2	1	0
16. その他（具体的に： ）	4	3	2	1	0

16) 今後の教育力向上のための活動について：

今後、どのような内容の教育力向上のための活動が必要だと思いますか。また、あなた自身はどのような内容の教育力向上のための活動に参加したいと思いますか？自由にお書き下さい。

尚、追加で質問等にご協力頂ける方はよろしければ氏名と連絡先をご記入下さい。

氏 名 ()

E-mail ()

それでは以上です。お忙しい中、調査へのご協力ありがとうございました。

大学間連携 SD を活用した講師養成プログラムの開発と実践 ～SPOD－SD の事例から～

丸山智子・阿部光伸・上甲功治（愛媛大学）

はじめに

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)はSDプログラム「講師養成プログラム」を平成22年度から実施してきた。当初は、外部の研修機関に委託し実施していたが、平成25年度から、SPOD加盟校内の教職員が講師となり実施することができた。大学の教職員が講師を担当することにより、研修内容に講師自身の大学人としての経験を盛り込むことができ、より大学職員向けの研修とすることができた。また、本プログラムの受講生が講師を務めることにより、職員のロールモデルとなるとともに、担当講師の職員としてのスキルアップにも繋がっている。

SPOD 立ち上げから5年経ち、本プログラムを受講した職員が講師として独り立ちし、数多くの研修実績を収めている。本発表ではこうした活動状況を示し、SD教育の充実を図りたい大学の方々の参考事例となるべく、その育成方法、及び現状と課題について報告する。

1. 講師養成研修

本プログラムは「総論」、「各論」の2部で構成されている。初回の総論において講師としての心構えや知識、技法を取得し、次のステップの各論では実践編として模擬研修を実施する。詳細な内容は以下の通りである。

= SPOD 講師養成研修プログラム =

	■総論	■各論
目 的	研修講師として必要な心構え、知識、技法を習得させることにより、将来のSPOD－SD講師として育成することを目的とする	SPOD－SD講師を務める際に必要なスキルを、外部講師が研修時に使用するテキストに沿って学び、習得することを目的とする。
対 象 者	説明会、プレゼンテーション等、人前で話すときに自信を持ちたい職員 将来SPOD－SD講師になる意欲のある職員	講師養成プログラム「総論」修了者及び次世代リーダー養成ゼミナール修了者
到 達 目 標	(1)企画した内容を的確に伝えることができるプレゼンテーション・スキルを修得する (2)企画した内容を伝達できるインストラクショナル・スキルを修得する (3)企画した内容を計画通りに進めることができる人前力を修得する	(1)講師に必要なインストラクションスキルを修得し説明することができる。 (2)講師に必要なコミュニケーションスキルを修得し説明することができる。 (3)コミュニケーション入門の講師をすることができる。
内 容	1. よい研修について 2. プログラム作成手法について 3. インストラクション・スキルについて 4. プレゼン演習「自己紹介」 5. プレゼン演習「アイス・ブレイク」 6. プレゼン演習「経験談」 7. 模擬講義 8. 振り返り	1. インストラクションスキル、コミュニケーションスキルについて 2. コミュニケーションの基本 3. 「きく」の意味 4. 「聴く」スキル＝「傾聴力」のポイント 演習 5. 「訊く」スキル＝「質問力」のポイント 演習 6. 振り返り

また、受講生の属性は以下のとおり。

H22年度	17名	徳島大学, 香川大学, 愛媛大学, 高知大学, 四国大学, 聖カタリナ大学, 松山大学
H23年度	12名	香川大学, 愛媛大学, 高知大学, 高知工科大学, 徳島文理大学, 今治明德短期大学
H24年度	11名	鳴門教育大学, 愛媛大学, 高知大学, 聖カタリナ大学
H25年度	12名	香川大学, 愛媛大学, 高知大学, 徳島文理大学
H26年度	13名	徳島大学, 愛媛大学, 高知大学, 高知県立大学, 高知工科大学, 四国大学, 徳島文理大学, 松山東雲女子大学

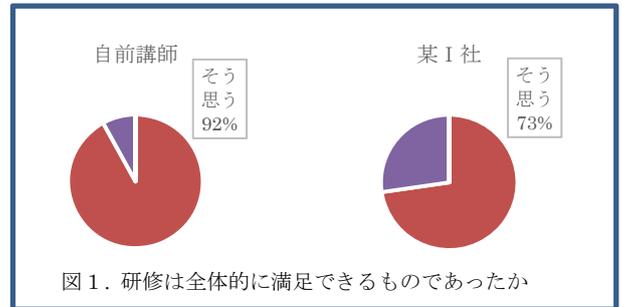
2. アンケート調査結果

平成 25 年度から本研修の外部委託を止め、愛媛大学の教職員による実施とした。当初は、自前での実施により研修内容の評価が下がるのではと不安視したが、結果は、図1のとおり、自前講師による研修の評価が高かった。その理由は、大学職員に則した事例や講師が大学職員経験を有することによる説得力の高さであると言える。

また、講師養成プログラムの効果や課題等を明らかにするため、平成 25 年度 6 月の総論、同年 11 月の各論各々の修了生を対象とし、アンケート調査を実施した(回答者数:総論 12 名, 各論 10 名, 回答率 100%)。

「総論」の結果としては、研修全体について 92%が「満足できるものだった」と評価し、83%が「期待を上回る内容であった」と回答している。自由記述においては「具体的手法を知識として身につけた」「人前で話す不安感がなくなった」「講義には周到な準備が必要」などの記載が見受けられ研修の妥当性を示す内容であった。また、講師としてデビューできるチャンスの提供、フォローアップ研修の設定などの要望があった。

「各論」の結果としては、研修全体について 90%が「満足できるものだった」と評価し、40%が「期待を上回る内容だった」、70%が「今後も研修を継続していくべき」と回答している。自由記述においては「自分に足りないものを知ることができ、一步講師に近づくことができた」「できていない部分を気づかせてくれる研修」「自分自身の振り返りになった」など、実際の模擬授業をすることによって、自分を改めて振り返る機会となったようだ。また、2泊3日くらいかけて更に深いところまで講師としての技術を深めていきたい、との意見もあった。



3. プログラム受講者（後・研修講師経験者）の気づき

私は、職員自らが講師となって、次世代の職員を養成し、受講した職員が、また、講師となって職員を育成するサイクルを確立するという SPOD の目的に共感し、SD プログラム講師を養成する研修を受講した。

講師養成研修で学んだ講師のスキルは、会議の司会役を任される場面、人前で発言する場面等でも応用でき、事務系職員に必要なスキルであると感じた。実際、研修講師を任されるより、人前で話をしたり、会議で発言する場面のほうが多いが、講師研修で学んだことは、とても役に立っていると感じている。

現在では、学内講師や SPOD 研修講師を任されるようになったが、その度に、受講生にどう伝えるかを考え、資料作りに悩み、リハーサルを繰り返し、どうすれば、受講生が達成感を得ることができるだろうか、満足してもらえるだろうか、研修の質保証を担保しなければという重圧に押しつぶされそうである。ただ、職員の育成するサイクルに参加させてもらえることは幸せなことであり、次に講師を目指す人材が育ってくれることを願いながら、講師を務めていきたいと思っている。(愛媛大学広報課長)

4. 今後の課題

外部委託研修から、SPOD 加盟校の教職員による実施に変わり、大学職員に特化した研修プログラムが構築され、SD の目的である自大学に必要な人材の育成に一步近づくことができた。しかし、研修講師を引き受けることで逸失利益が生ずる可能性も指摘されており、組織としてバックアップする体制の構築が併行して取り組まなければならない課題となっている。

SD講師養成プログラムの 開発と実践

～SPOD-SDの事例を通じて～

国立大学法人 愛媛大学 教育企画室

丸山 智子
阿部 光伸
上甲 功治

総務部広報課



0. 本発表の構成

1. SPOD-SD「講師養成講座」について
2. 調査1「研修事後アンケート（結果）」について
3. 調査2「受講者意識調査（結果）」について
4. プログラム受講者（研修講師経験者）の気づき
5. 今後の課題



2

1. SPODの概要



【目的】

- ① 地域内のFD・SD事業の効率化／高度化／実質化
- ② 学生の豊かな学びと成長を支援する実践的力量を
もった高等教育のプロフェッショナルの輩出

教育の質の保証を図ること

【設立】平成20年10月（平成23年度から自主運営）

【加盟】33校（四国地区の全高等教育機関） 《代表校》愛媛大学



4

1. SPOD-SD「講師養成講座」について

〈発表者〉丸山 智子



3

1. SPOD-SDの特徴

1. 四国地区の全高等教育機関により連携事業
2. 国・公・私立、大学・短大・高専職員共通プログラムの構築
3. 実践と理論の融合
4. 体系的・持続的・段階的プログラム
5. 教職協働によるプログラム構築
6. 職員個人のキャリア形成と大学内での人事マネジメントに活用
7. ポートフォリオとメンター制度によるキャリア・アップサポートの構築
8. 理解する → 実践できる → 指導できるへ
9. ジェネリックスキルとスペシャルスキルの融合
10. SDに関するノウハウの伝授（各校で企画、実施、講師養成が行えるように）
11. 自前講師の育成（外部委託研修は無し）
12. SPOD研修生制度（インターン制度）
13. GPによる補助金終了後も同様の質を保証して事業継続

キャリア・アップ支援

講師育成



5

1. SPOD-SD「講師養成講座」について

本プログラムは「総論」、「各論」の2部で構成されている。初回の総論において講師としての心構えや知識、技法を取得し、次のステップの各論では実践編として模擬研修を実施する。



6

1. SPOD-SD「講師養成講座」について

■ 総論

目的	研修講師として必要な心構え、知識、技法を習得させることにより、将来のSPOD-SD講師として育成することを目的とする
対象者	説明会、プレゼンテーション等、人前で話すときに自信を持ちたい職員 将来SPOD-SD講師になる意欲のある職員
到達目標	(1) 企画した内容を確に伝えることができるプレゼンテーション・スキルを修得する (2) 企画した内容を伝達できるインストラクショナル・スキルを修得する (3) 企画した内容を計画通りに進めることができる人前力を修得する
内容	1. よい研修について 2. プログラム作成手法について 3. インストラクショナル・スキルについて 4. プレゼン演習「自己紹介」 5. プレゼン演習「アイス・ブレイク」 6. プレゼン演習「経験談」 7. 模擬講義 8. 振り返り



7

1. SPOD-SD「講師養成講座」について

■ 各論

目的	SPOD-SD講師を務める際に必要なスキルを、外部講師が研修時に使用するテキストに沿って学び、習得することを目的とする。
対象者	講師養成プログラム「総論」修了者及び次世代リーダー養成ゼミナール修了者
到達目標	(1) 講師に必要なインストラクショナルスキルを修得し説明することができる。 (2) 講師に必要なコミュニケーションスキルを修得し説明することができる。 (3) (3)コミュニケーション入門の講師をすることができる。
内容	1. インストラクショナルスキル、コミュニケーションスキルについて 2. コミュニケーションの基本 3. 「きく」の意味 4. 「聴く」スキル＝「傾聴力」のポイント 演習 5. 「話す」スキル＝「質問力」のポイント 演習 6. 振り返り



8

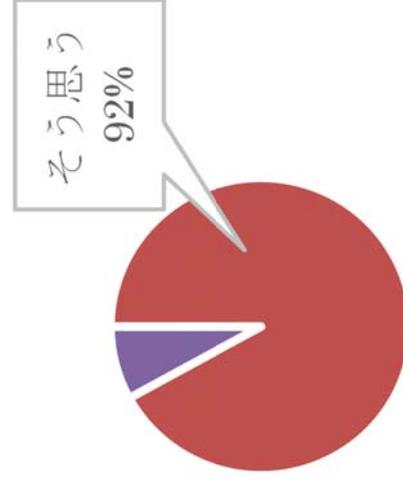
2. 調査1「研修事後アンケート（結果）」について

調査の概要

1. 調査の目的： 研修効果と課題などを明らかにすること
2. 調査時期と対象者：
平成25年6月14日(金)；講師養成研修(総論)修了生 12名
平成25年6月14日(金)；講師養成研修(総論)修了生 12名
平成25年11月8日(金)；講師養成研修(各論)修了生 10名
平成26年6月13日(金)；講師養成研修(総論)修了生 13名
3. 方法: 研修終了後、アンケート用紙にて回答

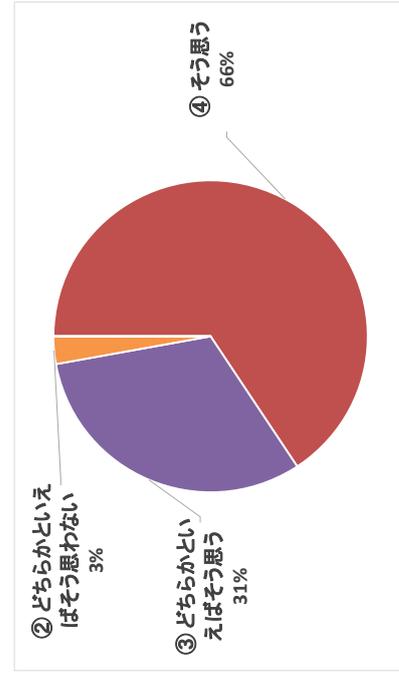
2. 調査1「研修事後アンケート（結果）」について

【問1】 研修は全体的に満足できるものであったか？



2. 調査1「研修事後アンケート（結果）」について

【問2】 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた



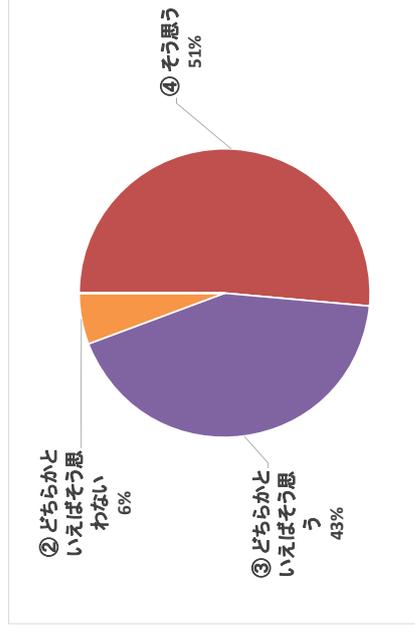
【調査1】

「研修事後アンケート（結果）」について

〈発表者〉 丸山 智子

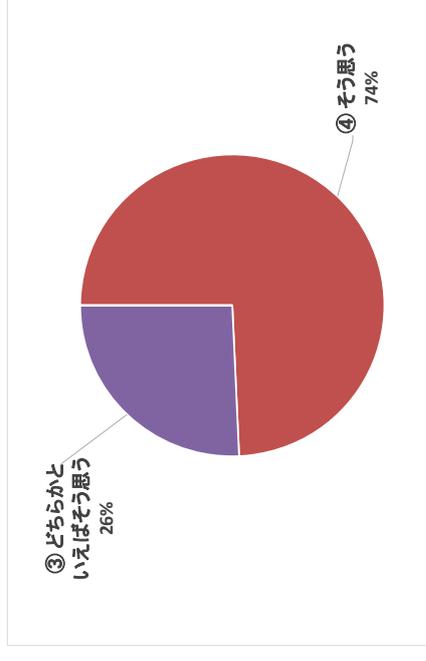
2. 調査1「研修事後アンケート（結果）」について

【問3】 受講したことによって、業務の取り組み方が改善されると思う



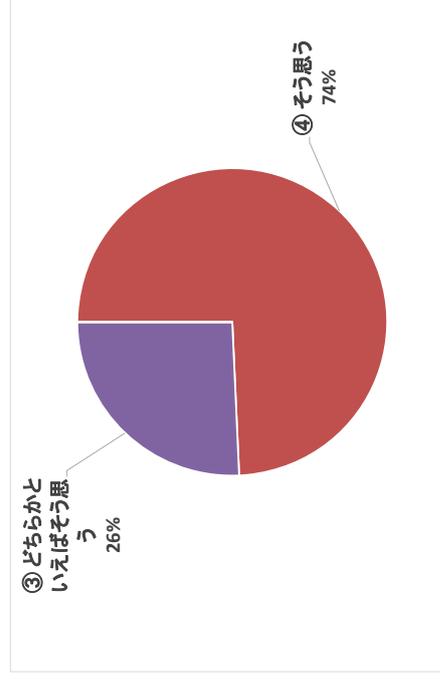
2. 調査1「研修事後アンケート（結果）」について

【問4】 研修の内容は十分理解できた



2. 調査1「研修事後アンケート（結果）」について

【問5】 新たに人的なつながりをつくることのできた



2. 調査1「研修事後アンケート（結果）」について

【自由記述】 受講してよかった点

- 講師としての具体的手法を知識として身につけた
- 人前で話す不安感が無くなった
- 講義には周到な準備が必要だということがわかった
- 自分に足りない要素を知ることができ、一步講師に近づくことができた
- 自分自身の振り返りになった
- 短い時間で考えをまとめる訓練になった
- コミュニケーションの大切さを再認識できた
- 人前で話す際の注意点を認識できた

2. 調査1「研修事後アンケート（結果）」について

【自由記述】講座の改善点

- 2泊3日くらいかけて、よりじっくりとやってみたいと感じた
- もっと参加人数が増えると、色々な人のプレゼンが見れたり、意見を聞くことができたと思う
- 自分を分析する上で、プレゼンのビデオ撮影を更にしていただくとありがたい
- 採用間もない職員も必要なスキルであると感じた

【調査2】

「受講者意識調査（結果）」について

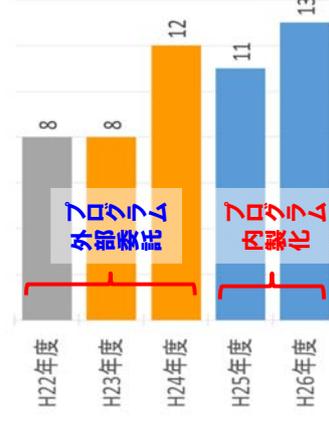
3. 調査2「受講者意識調査（結果）」について

調査の概要

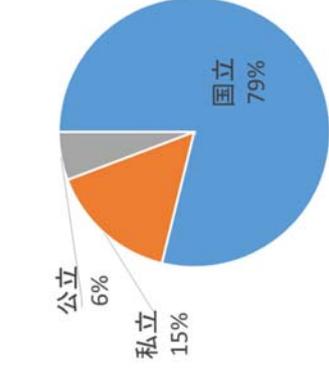
- 目的： 研修受講後の変容と効果検証
- 実施時期： 2014.7.25(金)～8.19(金)
- 調査対象： SPOD「講師養成講座(総論)」受講生 全61名
- 方法： Google ドライブによるweb調査
- 回答者数： 52名 (回答率：85.3%)

3. 調査2「受講者意識調査（結果）」について

【問1】 回答者属性（受講年度）

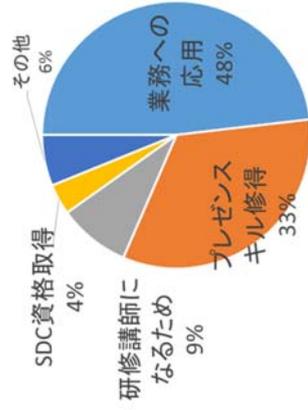


【問2】 回答者属性（所属）

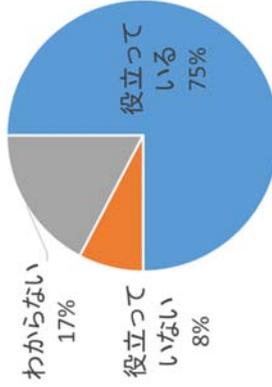


3. 調査2「受講者意識調査（結果）」について

【問3】受講目的

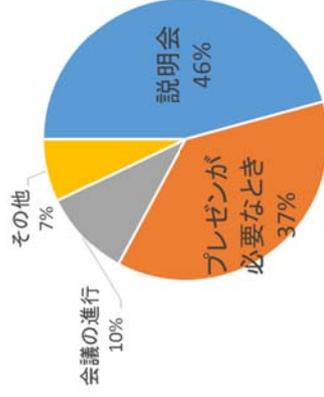


【問4】業務への応用

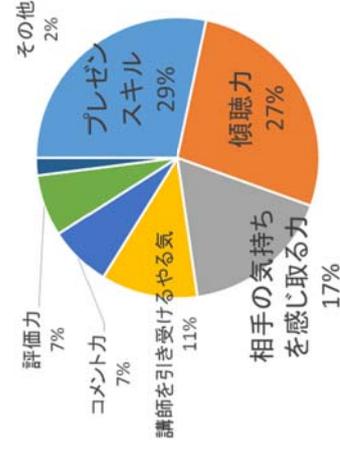


3. 調査2「受講者意識調査（結果）」について

【問5】役立っている業務

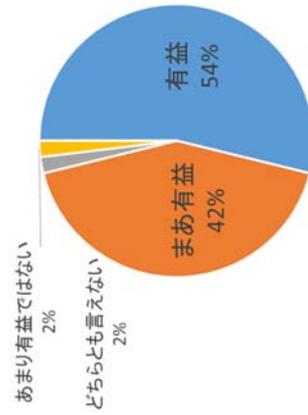


【問6】身についた力



3. 調査2「受講者意識調査（結果）」について

【問7】有益だったか



【問8】自由記述（肯定的意見）

- ビデオ録画
- ケース・スタディ
- ロールプレイ
- **相互評価（客観的な意見）**
- 講師の知識・経験
- 人との出会い
- **傾聴力**

講師養成講座は、職員の総合的な能力開発！

3. 調査2「受講者意識調査（結果）」について

＜外部委託P＞ 平成22, 23, 24年度
＜内製化P＞ 平成25, 26年度

内製化プログラムと外部委託プログラム別の評価

	研修レベル	研修内容	自己のモチベーション	講師の指導助言	受講の推奨	研修の有益さ	業務への役立ち度	受講の良否
内製化プログラム	ちょうど良い	非常に興味持てた	維持してきた	非常に効果的	強く勧める	非常に有益	非常に役立っている	非常に良かった
	17	14	14	12	10	17	19	174
外部委託プログラム	15	8	11	9	6	11	20	9
	53.6%	28.6%	39.3%	32.1%	21.4%	39.3%	71.4%	32.1%
	70.8%	58.3%	58.3%	50.0%	41.7%	70.8%	79.2%	58.3%

●全項目、内製化プログラムの方が高い評価！

＜疑問＞内製化プログラムと外部委託プログラムに有意差はあるのか？

3. 調査2「受講者意識調査（結果）」について

クロス集計【受講年度*研修の有益さ】

受講年度	研修の有益さ			合計
	有益	まあ有益 言えない	あまり有益 ではない	
H22年度	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	8 100.0%
H23年度	2 25.0%	6 75.0%	0 0.0%	8 100.0%
H24年度	3 25.0%	8 66.7%	1 8.3%	12 100.0%
H25年度	5 45.5%	5 45.5%	1 9.1%	11 100.0%
H26年度	12 92.3%	1 7.7%	0 0.0%	13 100.0%
合計	28 53.8%	22 42.3%	1 1.9%	52 100.0%

Pearson のカイ2乗(漸近有意確率(両側)) .032

3. 調査2「受講者意識調査（結果）」について

クロス集計【講師*研修の有益さ】

	研修の有益さ			合計
	有益	まあ有益 言えない	あまり有益 ではない	
内製化 プログラム	17 70.8%	6 25.0%	0 0.0%	24 100.0%
外部委託 プログラム	11 39.3%	16 57.1%	1 3.6%	28 100.0%
合計	28 53.8%	22 42.3%	1 1.9%	52 100.0%

Pearson のカイ2乗(漸近有意確率(両側)) .056

◎SDは、企業の人材育成とは異なる！

◎SDは、大学教職員が担う方が効果的！

3. 調査2「受講者意識調査（結果）」について

4. プログラム受講者 (研修講師経験者)の気づき

〈発表者〉上甲 功治

4. プログラム受講者（研修講師経験者）の気づき

SPOD-SDの特徴

- ・SPOD加盟機関の職員自らが、SDプログラムの開発に携わる。
- ・SDプログラムにより知識・能力を身につけた職員自らが、SDプログラム講師となる。

SPOD-SDの特徴・取組に共感

- ・以下の講師養成研修を受講
 - 講師養成研修（総論） 2010/5/19-5/21
 - ☆講師養成研修（コミュニケーション入門） 2011/3/14
 - 講師養成研修（プレゼンテーション入門） 2012/2/3
 - 講師養成研修（ビジネスマナー入門） 2012/5/18

4. プログラム受講者（研修講師経験者）の気づき

	講師歴	
1	SPODフォーラム講師 学生支援 ～大学における危機管理～（米澤慎二、上甲）	2010/8/26
2	SPODフォーラム講師 事例から学ぶ危機管理～東日本大震災の被災から授業開始まで～（阿部光伸、石川尚、上甲）	2011/8/25
3	SPOD内講師（東雲女子大学） スタッフポートフォリオ作成ワークショップ（阿部光伸、上甲）	2012/8/10
4	SPODフォーラム講師 スタッフポートフォリオ作成ワークショップ（阿部光伸、玉岡兼治、上甲）	2012/8/24
5	愛媛大学内講師 文章作成の基礎（有契約職員新任研修）	2013/4/24
6	SPODフォーラム講師 スタッフポートフォリオ作成ミニワークショップ（大竹奈津子、清水栄子、阿部光伸、玉岡兼治、上甲）	2013/8/21
7	SPOD内講師（高知県立大学） スタッフポートフォリオ作成ワークショップ（阿部光伸、上甲）	2013/9/5
8	SPOD内講師（愛媛大学） 講師養成研修（コミュニケーション入門講師養成）（上甲、阿部光伸）	2013/11/8
9	愛媛大学内講師 文章作成の基礎（有契約職員新任研修）	2014/4/23
10	SPOD内講師（愛媛大学） スタッフポートフォリオ作成ワークショップ（阿部光伸、久保秀二、上甲）	2014/5/8
11	SPOD内講師（徳島大学） 社会人としての基礎力養成プログラムー職員キャリア形成入門編ー レベルⅠ ワークショップ（上甲）	2014/5/16
12	愛媛大学内講師 中堅職員研修レベルⅠ（後輩の指導・育成 OUTワーク）	2014/8/22

4. プログラム受講者（研修講師経験者）の気づき

SPOD-SD 講師養成イメージ



4. プログラム受講者（研修講師経験者）の気づき

- 講師養成研修を受講して
 - ・事前準備の大切さ、大変さ
 - ・シナリオ作りの重要性
 - ・日常業務への応用、活用（司会進行、説明会）（傾聴、質問）

- 講師を担当して
 - ・事前準備の大切さ、大変さ 再認識
 - ・シナリオ作りの重要性 再認識
 - ・ワークショップの大切さ
 - ・後輩職員の育成に関わることができる喜び
 - ・研修の質保証に対する重圧
 - ・受講後のバックアップ（研修を担当する機会の不足）

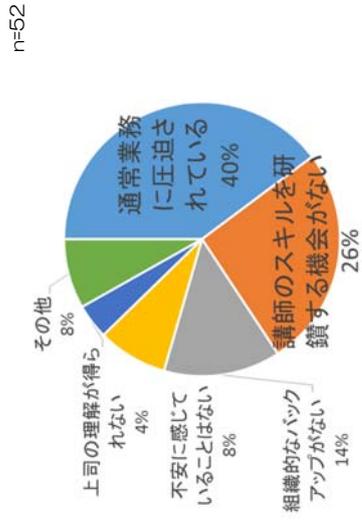
5. 今後の課題について

〈発表者〉阿部 光伸

5. 今後の課題

調査2「受講者意識調査（結果）」から

【問】研修講師を務めるにあたっての不安は？



5. 今後の課題

- 組織の理解構築
- 研修機会の提供
- インセンティブの設定
- 受講対象者の選別
- 総合プログラムとしての展開

ご清聴、ありがとうございました。

<http://web.oparehime-u.ac.jp/>

5 平成26年度活動実績 (5) SPOD運営

①「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

総会，FD／SD分科会 資料

平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会
及びFD/S D分科会 実施要項

主催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）
日時：平成27年3月27日（金）13：00～16：00
場所：（総会）愛媛大学城北キャンパス総合情報メディアセンターメディアホール
（FD/S D分科会）愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ3階M32, 33
出席者：（総会）加盟校各大学長、短期大学長、高等専門学校長等
（FD/S D分科会）加盟校 FD/S D担当者等

【総会】

- 13：00 開会挨拶 SPOD会長：愛媛大学長
- 13：05 平成26年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の実施状況について（25分）
- 13：30 平成27年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の運営について（30分）
- 14：00 質疑応答（30分）
- 14：30 閉会

【FD/S D分科会】※FD分科会及びS D分科会を2箇所で開催

- 15：00 各加盟校での取り組み状況の報告
今後の具体的な事業の進め方について
意見交換 など
- 16：00 閉会

5 平成26年度活動実績 (5) SPOD運営

②「ネットワークコア運営協議会」 議事概要

①ネットワークコア運営協議会

平成26年度第1回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成26年4月28日(月) 13:15～14:15
- 2 場 所 各コア校(遠隔会議システム利用)
- 3 出席者 別紙のとおり

議事に先立ち、平成26年度第1回SPODネットワークコア運営協議会開催にあたり、出席者全員から自己紹介があった。

4 議 題

(1) ネットワークコア運営協議会の構成員等について

議長から資料1-1及び参考資料1-1に基づき、平成26年度ネットワークコア運営協議会の構成員について説明があり、了承された。

引き続き、議長から資料1-2～3及び参考資料1-2～3に基づき、FD/SD専門部会の構成員について説明があり、了承された。

(2) SPODフォーラム2014について

議長から資料2-1に基づき、SPODフォーラム2014の開催概要について説明があった。なお、各プログラムの正式なタイトル名を5月9日(金)までにSPOD事務局へ連絡いただくこと及びシラバス提出期限を5月30日(金)に設定しており、あらかじめ各講師へ周知いただくよう依頼があった。

高知大学塩崎委員から資料2-2に基づき、SPODフォーラム2014の日程(案)について、「四国キャンパス元気プロジェクト」は今年度実施しないこと及びプログラムNo. 3の講師と内容が変更となり、検討している旨の説明があった。

(3) SPODが拠点に提供するプログラムについて

議長から資料3-1～2及び参考資料2に基づき、教職員能力開発拠点からSPODに対して研修プログラムの利用依頼があった旨の説明があり、プログラムの利用について了承された。

(4) 平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会について

議長から資料4-1～2に基づき、3月28日(金)に開催されたSPOD総会について、報告があった。

引き続き、議長から参考資料3-3に基づき、平成24年度より共同事業契約書は自動更新となっており、今後、各加盟校への負担金請求手続きを行う旨の説明があった。

- (5) 平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」FD／SD分科会について
愛媛大学山田委員から資料5-1に基づき、3月28日（金）に開催されたFD分科会の概要について報告があった。
次に、愛媛大学吉田委員から資料5-2に基づき、同日に開催されたSD分科会の概要について報告があった。
- (6) 平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査結果について
議長から資料6及び参考資料4に基づき、3月25日（火）、28日（金）に実施した監事による会計監査の結果概要について報告があった。
- (7) SPOD将来構想ワーキンググループについて
議長から資料7及び参考資料5に基づき、3月20日（木）に開催されたSPOD将来構想ワーキンググループの検討概要について報告があった。
- (8) 研修プログラムガイド2014について
議長から資料8に基づき、研修プログラムガイド2014に掲載するプログラムについての説明、及び作成にご協力いただいたことに対する謝辞があった。
- (9) 平成26年度大学人・社会人基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）の開催について
愛媛大学秦委員から資料9に基づき、5月14日（水）～16日（金）に開催の「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）（新任職員研修）」の概要について説明があった。
- (10) 平成26年度次世代リーダー養成ゼミナール（第1回）の開催について
愛媛大学秦委員から資料10に基づき、5月22日（木）～24日（土）に開催の「次世代リーダー養成ゼミナール」の概要について説明があった。
- (11) 平成26年度職員のための講師養成講座の開催について
愛媛大学秦委員から資料11に基づき、6月12日（木）～13日（金）に開催の「職員のための講師養成講座」の概要について説明があった。
- (12) その他
議長から次回の第2回ネットワークコア運営協議会は、5月26日（月）に遠隔で実施予定である旨の説明があった。

平成26年度 第1回ネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター 教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育企画室教育企画係長	金治 志津子	事務
香川大学	大学教育開発センター調査研究部 准教授	葛城 浩一	FD
	大学教育開発センター調査研究部 准教授	佐藤 慶太	FD
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	松永 京一	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	川池 晃子	SD
	教育・学生支援室学務グループ リーダー	野口 豊裕	事務
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	山本 英和	事務
高知大学	総合教育センター大学教育創造部門 教授	塩崎 俊彦	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 准教授	立川 明	FD
	人事課長	中山 胤	SD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	有友 幸代	SD
	人事課労務管理係係員	高松 基子	SD
	学務課総合教育センター事務係長	武内 智之	事務
	学務課総合教育センター事務係 事務補佐員	石川 愛	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	FD
	教育企画室准教授	山田 剛史	FD
	教育企画室副室長	秦 敬治	SD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	総務部人事課長	秋谷 恵子	SD
	総務部人事課副課長	久保 秀二	SD
	総務部人事課人事・人材育成チームリーダー	大塚 陽介	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	古村 翔	SD
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	川井 順子	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課長	神 智彦	FD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	山内 ちあき	事務
	教育学生支援部教育企画課能力開発室	秋山 裕佑	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	戸田 裕香	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	三好 歌織	事務

平成26年度第2回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

1 日 時 平成26年5月26日（月）10:00～10:55

2 場 所 各コア校（遠隔会議システム）

3 出席者 別紙のとおり

4 議 題

（1）SPOD事業評価について

議長から資料1-1～2及び参考資料1～2に基づき、平成25年度のSPOD事業における事業評価委員会委員からの主なコメントについて説明があり、課題や改善点について意見交換を行った。

なお、事業評価委員からのコメントに対する検討課題及びその対応案については、次回ネットワークコア運営協議会において審議する予定である旨の説明があった。

（2）SPODフォーラムについて

議長から資料2-1に基づき、今後のスケジュールについての確認及び説明があり、了承された。また、議長から講師のシラバスについてはSPOD事務局から各講師に作成を依頼しており、5月30日（金）までに提出していただき、内容を確認の上、必要に応じて各講師に修正を依頼することがある旨の説明があり、了承された。

引き続き、議長から資料2-2に基づき、プログラムの開催時間帯の変更等があった旨の説明があり、了承された。

次に、高知大学塩崎委員から資料2-2に基づき、スケジュールの変更点、新規に追加したプログラム及びシンポジウムの開催会場を変更する旨の説明があり、了承された。続いて、高知大学俣野委員からシンポジウムのタイトル変更について説明があり、了承された。

（3）授業設計ワークショップの開催について

徳島大学宮田委員から資料3に基づき、6月28日（土）～29日（日）に開催の「授業設計ワークショップ」の概要について説明があった。

（4）授業デザインワークショップの開催について

議長から資料4に基づき、7月5日（土）～6日（日）に久万高原ふるさと旅行村、9月1日（月）～3日（水）に愛媛大学城北キャンパスで開催の「第22/23回授業デザインワークショップ」の概要について説明があった。

（5）その他

議長から次回の第3回ネットワークコア運営協議会は、将来構想ワーキング・グループ及びFD/SD専門部会とあわせて6月24日（火）に愛媛大学において開催する旨の説明があった。

平成26年度 第2回ネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター 教育改革推進部門 教授	川野 卓二	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課長	関谷 直樹	SD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育企画室教育企画係長	金治 志津子	事務
香川大学	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	松永 京一	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	川池 晃子	SD
	教育・学生支援室学務グループ リーダー	野口 豊裕	事務
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	中屋敷 美和	事務
	教育・学生支援室学務グループ グループ員	吉鷹 麻穂美	事務
高知大学	総合教育センター大学教育創造部門 教授	塩崎 俊彦	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 准教授	立川 明	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 講師	俣野 秀典	FD
	人事課長	中山 胤	SD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	有友 幸代	SD
	人事課労務管理係係員	高松 基子	SD
	学務課総合教育センター事務係長	武内 智之	事務
	学務課総合教育センター事務係 事務補佐員	石川 愛	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	FD
	教育企画室副室長	山田 剛史	FD
	教育企画室副室長	秦 敬治	SD
	教育企画室特任助教	丸山 智子	SD
	総務部長	西尾 澄気	FD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	人事課長	秋谷 恵子	SD
	人事課副課長	久保 秀二	SD
	人事課人事・人材育成チームリーダー	大塚 陽介	SD
	人事課人事・人材育成チーム	古村 翔	SD
	教育企画課長	神 智彦	FD・事務
	教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育企画課能力開発室	秋山 裕佑	事務
	教育企画課教育企画チーム	戸田 裕香	事務
	教育企画課教育企画チーム	八丈野 真子	事務
	教育企画課教育企画チーム	川井 順子	SD・事務

平成26年度第3回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成26年6月24日（火）16:00～17:15
- 2 場 所 愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージズ3階会議室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

(1) SPOD事業評価について

議長から資料1及び参考資料1に基づき、事業評価委員からの意見を基に作成した対応（案）について説明があった後、意見交換を行った。その結果、資料1に基づき対応していくことが了承された。

(2) SPODフォーラムについて

議長から資料2-1に基づき、SPODフォーラムのチラシが完成した旨の報告があった。

次に高知大学俣野委員から資料2-2～3に基づき、シンポジウムの概要について説明があった。

次に議長から資料2-4に基づき、昨年度と同様に展示スペースの設置について説明があり、各加盟校から取組の成果物や配布資料等を提供いただく旨の説明があった。

引き続き議長から資料2-5～7に基づき、SPODフォーラムのアンケートの実施について説明があり、事前アンケート、プログラム実施直後の個別アンケート及びSPODフォーラム後の全体アンケートは、実施時期も含め昨年度と同様とすることで了承された。

(3) ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップへの後援について

議長から資料3-1～2及び参考資料2-1～3に基づき、JACET（大学英語教育学会）アカデミック&ティーチング・ポートフォリオ研究会から、SPOD主催のティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ及びアカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップへ後援の申し出があった旨の説明があり、了承された。

(4) 次世代リーダー養成ゼミナール（第2回）の開催について

愛媛大学秦委員から資料4に基づき、7月17日（木）～19日（土）に徳島大学で開催する「次世代リーダー養成ゼミナール（第2回）」の概要について説明があった。

(5) 学務系職員養成プログラム研修（レベルI）の開催について

SPOD事務局の山内から資料5に基づき、7月24日（木）～25日（金）に四国大学で開催する「学務系職員養成プログラム研修（レベルI）」の概要について説明があった。

(6) その他

① 平成26年度第1回将来構想ワーキンググループについて

議長から、同日に実施した将来構想ワーキンググループにおける検討状況について、主に以下のような意見が出され、引き続き検討していくこととなった旨の報告があった。

- ・各コア校のFDの取組をSPOD内で活かすことはできないか。また、FDマップを作成してはどうか。
- ・各加盟校のFDやSDに関する優良事例をSPOD加盟校間で共有することが必要ではないか。
- ・SPOD内講師派遣を実施した際に、派遣先の加盟校のニーズを調査できないか。
- ・将来構想ワーキンググループについて、時間をかけて集中的にSPODの方向性を議論する機会を設けてはどうか。

② 第4回ネットワークコア運営協議会について

議長から、次回の第4回ネットワークコア運営協議会は、7月28日(月)に遠隔で開催予定である旨の説明があった。

平成26年度 第3回ネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター 教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課長	関谷 直樹	SD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
香川大学	大学教育開発センター調査研究部 准教授	佐藤 慶太	FD
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	松永 京一	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	川池 晃子	SD
高知大学	総合教育センター大学教育創造部門 教授	塩崎 俊彦	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 准教授	立川 明	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 講師	俣野 秀典	FD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	学務課総合教育センター事務係長	武内 智之	事務
	学務課総合教育センター事務係 事務補佐員	石川 愛	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	FD
	教育企画室副室長	山田 剛史	FD
	教育企画室助教	清水 栄子	FD
	教育企画室総合情報メディアセンター教育デザイン室長 講師	仲道 雅輝	FD
	教育企画室 特定研究員	林 真弥	FD
	教育企画室副室長	秦 敬治	SD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	教育企画室特任助教	丸山 智子	SD
	総務部長	西尾 澄気	FD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育企画課教育企画チームサブリーダー	山内 ちあき	事務
	教育企画課能力開発室	秋山 裕佑	事務
	教育企画課教育企画チーム	戸田 裕香	事務
	教育企画課教育企画チーム	三好 歌織	事務
	教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	SD・事務
	教育企画課教育企画チーム	川井 順子	SD・事務

- 1 日 時 平成26年7月28日(月) 10:00~10:20
- 2 場 所 各コア校(遠隔会議システム利用)
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

(1) SPODフォーラムについて

議長から資料1-1~2及び参考資料1に基づき、SPODフォーラム2014の申込み状況について報告があった。なお、現在WEB申込みにおいて、一般参加者受付中であるが、SPOD加盟校の教職員も申込み可能であるため、各コア校内で再度周知していただくよう依頼があった。

また、定員を満たしていないプログラムについては、二次募集として7月31日(木)正午~8月7日(木)正午までWEB申込みを実施する旨の説明があった。

次に、議長から、加盟校外からの参加費による収入が当初予算額を超えているため、昨年度と同様に、フォーラム経費に充当する旨の説明があり、了承された。

高知大学塩崎委員から資料1-2に基づき、「リーダーセミナーⅡ」のプログラムについて、教室変更により定員を増やす旨の提案があり、了承された。また、「リーダーセミナーⅠ」のプログラムについても、教室変更により定員を増やせるか担当講師と調整し決定する旨の説明があった。(後日調整の上、「リーダーセミナーⅠ」及び「リーダーセミナーⅡ」は教室変更により定員を80名から120名に変更した。)

(2) 平成27年度における負担金の算定方法について

議長から資料2-1~2に基づき、来年度の事業経費に係る各加盟校の負担金の算定方法について説明があった。今年度と同様に学校基本調査における教職員数に基づき算定することとし、本年5月1日現在の教職員数を調査する旨の説明があり、了承された。なお、各加盟校の負担金額等については、次回のネットワークコア運営協議会において平成27年度事業計画と併せて審議する予定である旨の説明があった。

(3) 新任教職員研修の開催について

高知大学塩崎委員から資料3-1に基づき、9月1日(月)~2日(火)に高知大学で開催する「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ」の概要について説明があった。

次に、香川大学葛城委員から資料3-2に基づき、9月18日(木)~19日(金)に香川大学で開催される「よりよい授業のためのFDワークショップ」の概要について説明があった。

(4) ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(西四国対象) / アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップの実施について

議長から資料4-1~2に基づき、9月17日(水)~18日(木)に愛媛大学で開催するティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(西四国対象)及びアカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップの概要について説明があった。

(5) その他

ア 議長から資料5に基づき、10月24日(金)~25日(土)に愛媛大学教育企画室が教職員能力開発拠点事業の一環として開催する「I R e r / S D コーディネーター養成講座in九州」の概要について説明があった。

イ 愛媛大学阿部委員から、研修プログラムガイド2014(65頁)記載の9月18日(木)~19日(金)に開催予定であった「職員のための講師養成講座」について、講師の都合により年末もしくは来年1月に日程変更する旨の説明があり、了承された。

ウ 議長から次回以降のSPODネットワークコア運営協議会の開催について、各コア校の後期スケジュールとあわせ日程調整を行う旨の説明があった。

平成26年度 第4回ネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター 教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育企画室長	三好 信幸	事務
香川大学	大学教育開発センター調査研究部 准教授	葛城 浩一	FD
	大学教育開発センター調査研究部 准教授	佐藤 慶太	FD
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	松永 京一	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	川池 晃子	SD
	教育・学生支援室学務グループ リーダー	野口 豊裕	事務
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	山本 英和	事務
	教育・学生支援室学務グループ グループ員	吉鷹 麻穂美	事務
高知大学	総合教育センター大学教育創造部門 教授	塩崎 俊彦	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 准教授	立川 明	FD
	人事課長	中山 胤	SD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	有友 幸代	SD
	人事課労務管理係係員	高松 基子	SD
	学務課総合教育センター事務係長	武内 智之	事務
	学務課総合教育センター事務係 事務補佐員	石川 愛	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	FD
	教育企画室 特定研究員	林 真弥	FD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	教育企画室特任助教	丸山 智子	SD
	人事課長	秋谷 恵子	SD
	人事課副課長	久保 秀二	SD
	人事課人事・人材育成チームリーダー	大塚 陽介	SD
	人事課人事・人材育成チーム	古村 翔	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育企画課教育企画チームサブリーダー	山内 ちあき	事務
	教育企画課能力開発室	秋山 裕佑	事務
	教育企画課教育企画チーム	戸田 裕香	事務
	教育企画課教育企画チーム	三好 歌織	事務
	教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	SD・事務
	教育企画課教育企画チーム	川井 順子	SD・事務

平成26年度第5回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成26年9月22日(月) 10:00～10:40
- 2 場 所 各コア校(遠隔会議システム利用)
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

(1) ネットワークコア運営協議会の構成員等について

議長から資料1-1に基づき、教職員の転出等に伴い、平成26年度SPODネットワークコア運営協議会の構成員が変更となった旨の説明があり、了承された。

引き続き、議長から資料1-2に基づき、今年度からSD専門部会長が愛媛大学阿部講師となったことに伴い、平成26年度SPOD将来構想ワーキンググループのメンバーが変更となった旨の報告があった。

(2) SPODフォーラム2014の総括について

議長から資料2-1に基づき、SPODフォーラム2014の受講者数及びSPOD加盟校以外の参加者からの研修料収入について報告があった。

次に、議長から資料2-2～3に基づき、事前アンケートの集計結果及び各プログラムの個別アンケートの満足度について説明があった。また、事後アンケートについては既に受講者へ回答依頼をしており、第6回SPODネットワークコア運営協議会で集計結果の報告を行う予定である旨の説明があった。

(3) 平成27年度SPOD事業スケジュールについて

議長から資料3及び参考資料1に基づき、平成27年度のSPOD事業スケジュール(案)について説明があった。なお、事業スケジュールについては、各専門部会等で検討の上、修正する予定であり、12月開催予定の第7回SPODネットワークコア運営協議会を目処に決定予定である旨の説明があった。また、SPODフォーラム2015については、愛媛大学において平成27年8月中～下旬の3日間の予定で現在調整中である旨の報告があった。

(4) 平成26年度SPOD事業経費の執行について

SPOD事務局の濱元から資料4-1～2に基づき、平成26年度SPOD事業経費の9月9日時点の執行状況について報告があった。なお、当初の見積額を超えたSPODフォーラム2014の研修料収入については、SPODフォーラムの実施経費、余剰分はSPOD事業費に充当する旨の説明があった。

(5) 平成26年度大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修等について

愛媛大学阿部委員から資料5-1～2に基づき、5月14日(水)～16日(金)に徳島大学で開催した「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)」のアンケート結果及び効果測定アンケート結果について、次に、資料5-3に基づき、6月12日(木)～13日(金)に愛媛大学で開催した「職員のための講師養成講座」のアンケート結果について、引き続き、資料5-4に基づき、7月3日(木)～4日(金)に愛媛大学で開催した「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅢ)」のアンケート結果について、最後に、資料5-5に基づき、7月24日(木)～25日(金)に四国大学で開催した「学務系職員養成プログラム(レベルⅠ)研修」のアンケート結果について報告があった。

(6) その他

ア 議長から以下の会議の開催スケジュールについて説明があった。

① 第2回SPOD将来構想ワーキンググループ：10月29日(水) (場所：愛媛大学)

② 第6回SPODネットワークコア運営協議会：11月19日(水) (場所：愛媛大学)

イ 議長から、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室が7月31日(木)に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点の再認定(次年度より5年間)を受けた旨の説明があった。

平成26年度第5回ネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター 教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
香川大学	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	松永 京一	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	川池 晃子	SD
	教育・学生支援室学務グループ リーダー	野口 豊裕	事務
	教育・学生支援室学務グループ グループ員	吉鷹 麻穂美	事務
高知大学	総合教育センター大学教育創造部門 教授	塩崎 俊彦	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 講師	俣野 秀典	FD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	有友 幸代	SD
	人事課労務管理係係員	高松 基子	SD
	学務課総合教育センター事務係長	武内 智之	事務
	学務課総合教育センター事務係 事務補佐員	石川 愛	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	FD
	教育企画室副室長	山田 剛史	FD
	教育企画室 講師	村田 晋也	FD
	教育企画室 助教	清水 栄子	FD
	教育企画室 特定研究員	林 真弥	FD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	人事課長	秋谷 恵子	SD
	人事課副課長	久保 秀二	SD
	人事課人事・人材育成チームリーダー	大塚 陽介	SD
	人事課人事・人材育成チーム	古村 翔	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育企画課教育企画チームサブリーダー	山内 ちあき	事務
	教育企画課能力開発室	秋山 裕佑	事務
	教育企画課教育企画チーム	戸田 裕香	事務
	教育企画課教育企画チーム	三好 歌織	事務
	教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	SD・事務
教育企画課教育企画チーム	川井 順子	SD・事務	

平成26年度第6回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

1 日 時 平成26年11月19日(水) 14:45～17:00

2 場 所 法文学部本館2階中会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 議 題

(1) ネットワークコア運営協議会の構成員等について

議長から資料1に基づき、平成26年度SPODネットワークコア運営協議会の構成員として、徳島大学川瀬助教を新たに追加したい旨の説明があり、了承された。

(2) SPODフォーラム2014全体アンケート結果等について

議長から資料2-1～2に基づき、フォーラム事後に実施した参加者対象の全体アンケートの集計結果及び自由記述欄の内容について説明があった。

引き続き、議長から資料2-2に基づき、参加者からの要望等への対応について説明があった。なお、対応について意見がある場合は、11月28日(金)までにSPOD事務局へ連絡するよう依頼があった。

(3) 平成27年度SPOD事業計画について

議長から資料3-1～2に基づき、平成27年度のSPOD事業計画(案)及びSPODフォーラム2015の開催について説明があり、了承された。

(4) 平成27年度SPOD事業経費について

SPOD事務局の濱元教育企画課教育企画チームリーダーから資料4に基づき、平成27年度のSPOD事業予算(案)についての概要及び平成26年度からの変更点等の説明があり、了承された。

(5) 平成26年度SPOD事業経費の執行について

SPOD事務局の濱元教育企画課教育企画チームリーダーから資料5に基づき、平成26年度SPOD事業経費の執行状況について説明があった。なお、現時点で生じている予算の余剰分については、各事業費の余剰分に応じ講師活動費として支出予定であり、FD事業については平成26年度にティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(西四国対象及び高専対象)の講師を担当した方の講師活動費として支出することを優先し、その後予算状況によっては、SPOD内講師派遣の講師等の講師活動費として支出予定である旨の説明があり、また、SD事業については訪問調査等プログラム開発費として支出予定である旨の説明があり、了承された。

(6) SPOD内講師派遣について

議長から資料6-1～2に基づき、平成27年度SPOD内講師派遣について、プログラム一覧(案)の説明があり、変更がある場合は、11月28日(金)までにSPOD事務局へ連絡するよう依頼があった。

次に、議長から資料6-3～4に基づき、SPOD内講師派遣プログラムの希望調査様式の変更について説明があった。このことについて、香川大学葛城委員から意見があり、文言等の一部修正することとなった。修正案については、第7回ネットワークコア運営協議会にて審議することとした。

(7) 研修プログラムガイド2015について

愛媛大学丸山委員から資料7-1～4に基づき、研修プログラムガイド2015の作成について説明があった。また、SPOD内講師派遣プログラムについては、議題(6)の調査様式の変更に伴うスケジュールの都合上、プログラムガイドに掲載しない旨の説明があった。

このことについて高知大学俣野委員より、講師派遣の希望調査の時期を早めることで、プログラムガイドへの掲載は可能ではないかとの意見があり、次年度以降については、改めて検討することとなった。

(8) 四国地区大学教職員能力開発ネットワークにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定について

愛媛大学阿部委員から資料8-1～4に基づき、第2回ネットワークコア運営協議会SD専門部会において、愛媛大学仲道講師、清水助教、丸山助教、秋谷人事課長の4名が、SPODのスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（以下SPOD-SDCという）の名称付与基準を満たしていると認められた旨の報告があった。この報告を踏まえ、議長から、4名を新たにSPOD-SDCとして認定したい旨の説明があり、了承された。

(9) 四国地区大学教職員能力開発ネットワークにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの資格認定に関する申合せについて

愛媛大学阿部委員から資料9に基づき、第2回ネットワークコア運営協議会SD専門部会において、「SPOD-SDCの資格認定に関する申合せ」について審議した旨の報告があった。この報告を踏まえ、議長から、当該申合せを制定したい旨の説明があり、このことについて徳島大学宮田委員及び香川大学葛城委員から文言等について意見があり、一部修正の上、了承された。なお、当該申合せについては平成26年11月19日（水）から施行することとした。

(10) 平成26年度研修プログラム実施状況について

議長から資料10に基づき、平成26年度の研修プログラム実施状況について報告があった。

(11) 第2回SPOD将来構想ワーキンググループについて

議長から資料11に基づき、平成26年10月29日（水）に開催された第2回SPOD将来構想ワーキンググループの概要について報告があった。

なお、議長から、将来構想等に関する対面での意見交換を、FD/SDに分かれて今年度中に再度実施したい旨の説明があり、了承された。

(12) 教育関係共同利用拠点の認定について

議長から資料12に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室が平成26年7月31日（木）に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点として再認定を受けた旨の報告があった。

(13) その他

議長から、第7回ネットワークコア運営協議会は、12月17日（水）に遠隔会議で開催予定である旨の説明があった。

平成26年度 第6回ネットワークコア運営協議会出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター 教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	FD
	総務部人事課長	関谷 直樹	SD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
香川大学	大学教育開発センター調査研究部 准教授	葛城 浩一	FD
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	松永 京一	SD
高知大学	総合教育センター大学教育創造部門 准教授	立川 明	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 講師	俣野 秀典	FD
	人事課長	中山 胤	SD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	学務課総合教育センター事務係長	武内 智之	事務
	学務課総合教育センター事務係 事務補佐員	美川 真希	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	FD
	教育企画室副室長	山田 剛史	FD
	教育企画室 講師	村田 晋也	FD
	教育企画室兼総合情報メディアセンター教育デザイン室長 講師	仲道 雅輝	FD
	教育企画室 特定研究員	林 真弥	FD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	人事課副課長	久保 秀二	SD
	人事課人事・人材育成チーム	古村 翔	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育企画課長	神 智彦	FD・事務
	教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育企画課教育企画チームサブリーダー	山内 ちあき	事務
	教育企画課教育企画チーム	戸田 裕香	事務
	教育企画課教育企画チーム	三好 歌織	事務
	教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
	教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	SD・事務
	教育企画課教育企画チーム	川井 順子	SD・事務

平成26年度第7回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

1 日 時 平成26年12月17日（水）13：15～14：15

2 場 所 各コア校（遠隔会議により実施）

3 出席者 別紙のとおり

4 議 題

（1）平成27年度SPOD事業計画について （資料1-1, 1-2）

議長から資料1-1に基づき、平成27年度SPOD事業計画について説明があり、審議の結果、異議なく了承された。

引き続き議長から資料1-2に基づき、SPODフォーラム2015において各コア校に2コマ程度ずつプログラムを担当してもらいたい旨の説明があり、SPOD事務局に平成27年2月27日（金）までに連絡するよう依頼があった。

（2）平成27年度SPOD事業経費について （資料2）

SPOD事務局の濱元教育企画課教育企画チームリーダーから資料2に基づき、平成27年度SPOD事業経費について説明があり、審議の結果、異議なく了承された。また、ネットワーク年会費（案）については、各加盟校へ事前通知する予定である旨の説明があった。

（3）平成27年度SPOD内講師派遣について （資料3-1～3-4）

議長から資料3-1～2に基づき、平成27年度SPOD内講師派遣におけるプログラム及び講師の変更等について説明があった。このことについて高知大学塩崎委員から、「授業アンケートを見直しませんか？～アンケートの効果的実施と活用方法～」をプログラムから削除して良いのではないかと意見があり、審議の結果、平成27年度に派遣希望がなければ削除を検討することとなった。

次に議長から資料3-3～4に基づき、平成27年度講師派遣プログラム希望調査を、本会議終了後に各加盟校に依頼する旨の説明があり、審議の結果、異議なく了承された。

（4）平成26年度SPOD活動報告書について

（資料4-1～4-3, 参考資料1-1～1-3）

SPOD事務局の濱元教育企画課教育企画チームリーダーから資料4-1～2及び参考資料1-1～2に基づき、平成26年度SPOD活動報告書について説明があり、追加掲載したい事項があれば、平成26年12月22日（月）までにSPOD事務局に連絡するよう依頼があった。

次に議長から資料4-3及び参考資料1-3に基づき、各加盟校における今年度の取組報告書の作成を平成27年1月30日（金）締切で依頼する旨の説明があり、審議の結果、異議なく了承された。また、本報告書については、ネットワーク総会及びFD/SD分科会において資料として配付予定である旨の説明があった。

- (5) 平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及びFD／SD分科会の開催について (資料5)
- 議長から資料5に基づき、平成27年3月下旬にSPODネットワーク総会及びFD／SD分科会を開催予定である旨の説明があり、審議の結果、異議なく了承された。
- (6) 平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査の実施について (資料6, 参考資料2)
- 議長から資料6及び参考資料2に基づき、平成27年3月下旬に平成26年度会計監査を実施予定である旨の説明があり、審議の結果、異議なく了承された。
- (7) 平成26年度SPOD事業評価委員会の開催について (資料7, 参考資料3-1～3-2)
- 議長から資料7及び参考資料3-1～2に基づき、平成27年3月上旬にSPOD事業評価委員会を開催予定である旨の説明があり、審議の結果、異議なく了承された。また、議長から各コア校におけるFD, SD担当者に事業評価委員会に出席してもらいたい旨の依頼があった。
- (8) 各コア校で実施する新任教員研修について (資料8-1～8-5, 参考資料4-1～4-4)
- 議長から資料8-1及び参考資料4-1に基づき、平成26年7月5日(土)～6日(日)、9月1日(月)～3日(水)に実施された「第22回／第23回授業デザインワークショップ」について報告があった。
- 次に徳島大学吉田委員から資料8-2及び参考資料4-2に基づき、平成26年6月28日(土)～29日(日)に実施された「授業設計ワークショップ」について報告があった。
- 次に香川大学葛城委員から資料8-3及び参考資料4-3に基づき、平成26年9月18日(木)～19日(金)に実施された「よりよい授業のためのFDワークショップ」について報告があった。
- 次に高知大学塩崎委員から資料8-4及び参考資料4-4に基づき、平成26年9月1日(月)～2日(火)に実施された「学生の学びを支援するための授業準備ワークショップ」について報告があった。
- 最後に議長から資料8-5に基づき、各校の新任教員研修の事後アンケートについて説明があり、現在アンケートの質問項目が各コア校で統一されていないため、次年度に向けて様式をコア校で統一していきたい旨の説明があった。
- (9) 平成26年度大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修について (資料9-1～9-2)
- 愛媛大学織田委員から資料9-1～2に基づき、平成26年9月11日(木)～9月12日(金)に実施された「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(共通科目)」及び平成26年10月23日(木)～24日(金)「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)」について報告があった。

(10) 大学教育カンファレンスin徳島について (資料10)

徳島大学吉田委員から資料10に基づき、平成26年12月26日(金)に徳島大学で開催の「大学教育カンファレンスin徳島」の概要について説明があった。

(11) 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」加盟校の退会について (資料11)

議長から資料11に基づき、四国学院大学より平成26年12月4日付けで退会届が提出され、当該大学は平成27年3月31日をもってSPODを退会する旨の報告があった。なお、今年度のSPOD総会において、このことについて報告する予定である旨の説明があった。

(12) その他

議長から第8回ネットワークコア運営協議会は、平成27年1月21日(水)に遠隔配信により行う旨の説明があった。

平成26年度 第7回ネットワークコア運営協議会 出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター 教育改革推進部門 教授	川野 卓二	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 准教授	宮田 政徳	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 助教	川瀬 和也	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課長	関谷 直樹	SD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育企画室長	三好 信幸	事務
	学務部教育企画室教育企画係長	金治 志津子	事務
香川大学	大学教育開発センター調査研究部 准教授	葛城 浩一	FD
	大学教育開発センター調査研究部 准教授	佐藤 慶太	FD
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	松永 京一	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	川池 晃子	SD
	教育・学生支援室学務グループ リーダー	野口 豊裕	事務
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	中屋敷 美和	事務
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	山本 英和	事務
	教育・学生支援室学務グループ グループ員	吉鷹 麻穂美	事務
高知大学	総合教育センター大学教育創造部門 教授	塩崎 俊彦	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 准教授	立川 明	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 講師	俣野 秀典	FD
	人事課長	中山 胤	SD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	有友 幸代	SD
	学務課総合教育センター事務係長	武内 智之	事務
	学務課総合教育センター事務係 事務補佐員	美川 真希	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	議長・FD
	教育企画室 准教授	山田 剛史	FD
	教育企画室 助教	清水 栄子	FD
	教育企画室 特定研究員	林 真弥	FD
	教育企画室 特任助教	丸山 智子	SD
	総務部人事課副課長	久保 秀二	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	古村 翔	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	山内 ちあき	事務
	教育学生支援部教育企画課能力開発室	秋山 裕佑	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	戸田 裕香	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	三好 歌織	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	神谷 敦子	SD・事務	

平成26年度第8回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成27年1月21日(水) 10:00～10:55
- 2 場 所 各コア校(遠隔会議により実施)
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

- (1) 平成25年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項に対する対応状況について

【資料1】

議長から資料1に基づき、平成25年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項に対する対応状況(案)について説明があり、対応状況(案)について意見がある場合は、平成27年1月30日(金)までにSPOD事務局へ連絡するよう各コア校へ依頼があった。

また、当該資料を平成26年度SPOD事業評価委員会の資料として利用する旨及び平成26年度SPOD活動報告書に掲載予定である旨の説明があった。

- (2) 平成27年度SPOD事業計画について

【資料2】

議長から資料2に基づき、平成27年度SPOD事業計画(案)について前回からの変更点の説明があり、審議の結果、異議なく了承された。

- (3) SPOD事業評価委員会委員の改選について

【資料3-1～2, 参考資料1】

議長から資料3-1～2及び参考資料1に基づき、SPOD事業評価委員会委員の任期満了に伴う次期委員の改選について説明があった。主に新規委員候補者の推薦及び委員数の削減について説明があり、審議の結果、異議なく了承された。

なお、次期委員については平成27年3月27日(金)開催のSPOD総会に諮る予定である旨の説明があった。

- (4) 平成27年度SPOD事業経費について

【資料4】

SPOD事務局の濱元教育企画課教育企画チームリーダーから資料4に基づき、平成27年度SPOD事業予算(案)について前回からの変更点を中心に説明があり、審議の結果、異議なく了承された。

- (5) 平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会等の開催について

【資料5】

議長から資料5に基づき、平成27年3月27日(金)開催の平成26年度SPOD会計監査、総会及びFD/SD分科会の概要について説明があった。

- (6) 平成26年度SPOD事業評価委員会の開催について

【資料6】

議長から資料6に基づき、平成27年3月5日(木)開催の平成26年度SPOD事業評価委員会の概要について説明があった。

- (7) SPODフォーラム経年変化について

【資料7】

議長から資料7に基づき、SPODフォーラム経年変化(2009年～2014年)について説明があった。

なお、当該資料は平成26年度SPOD活動報告書に掲載予定である旨の説明があった。

- (8) SPOD新任教員研修アンケート分析について

【資料8】

徳島大学吉田委員から資料8に基づき、SPOD調査・研究プロジェクトの連携効果検証ワ

ーキンググループ（FD部門）において平成25年度に実施された新任教員研修アンケート調査の分析結果について説明があった。

なお、本資料はSPOD各加盟校及び全国高等教育機関に送付予定である旨の説明があった。

(9) 愛媛大学教育改革シンポジウムの開催について 【資料9】

議長から資料9に基づき、平成27年3月9日（月）開催の愛媛大学教育改革シンポジウムの概要について説明があった。

(10) その他 【資料なし】

ア 議長から、平成26年度第3回SPOD将来構想ワーキンググループをメール審議にて後日実施する旨の説明があった。

なお、SD部門においては、将来構想ワーキンググループの内容を踏まえた意見交換会を平成27年2月5日（水）に愛媛大学にて開催する旨の説明があった。

イ 議長から第9回SPODネットワークコア運営協議会は、平成27年2月18日（水）に遠隔配信により行う旨の説明があった。

平成26年度第8回ネットワークコア運営協議会 出席者名簿

大学名	所 属	氏 名	担当
徳島大学	総合教育センター 教育改革推進部門 講師	吉田 博	FD
	総合教育センター 教育改革推進部門 特任研究員	上岡 麻衣子	FD
	総務部人事課課長補佐	沖津 貴司	SD
	学務部教育企画室長	三好 信幸	事務
	学務部教育企画室教育企画係長	金治 志津子	事務
香川大学	大学教育開発センター調査研究部 准教授	葛城 浩一	FD
	大学教育開発センター調査研究部 准教授	佐藤 慶太	FD
	教育・学生支援室修学支援グループ チーフ	石井 さおり	FD
	経営管理室給与福利グループ リーダー	松永 京一	SD
	経営管理室給与福利グループ チーフ	川池 晃子	SD
	教育・学生支援室学務グループ チーフ	山本 英和	事務
	教育・学生支援室学務グループ グループ員	吉鷹 麻穂美	事務
高知大学	総合教育センター大学教育創造部門 教授	塩崎 俊彦	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 准教授	立川 明	FD
	総合教育センター大学教育創造部門 講師	俣野 秀典	FD
	人事課長	中山 胤	SD
	人事課課長補佐	川崎 美保	SD
	人事課労務管理係長	有友 幸代	SD
	人事課労務管理係係員	高松 基子	SD
	学務課総合教育センター事務係長	武内 智之	事務
	学務課総合教育センター事務係 事務補佐員	美川 真希	事務
愛媛大学	教育・学生支援機構副機構長／教育企画室長	小林 直人	議長・FD
	教育企画室 講師	村田 晋也	FD
	教育企画室 助教	清水 栄子	FD
	教育企画室 特定研究員	林 真弥	FD
	教育企画室兼広報室副室長 講師	阿部 光伸	SD
	総務部人事課副課長	久保 秀二	SD
	総務部人事課人事・人材育成チームリーダー	大塚 陽介	SD
	総務部人事課人事・人材育成チーム	古村 翔	SD
	教育学生支援部長	吉田 一恵	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課副課長	織田 隆司	SD・事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームリーダー	濱元 悠子	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チームサブリーダー	山内 ちあき	事務
	教育学生支援部教育企画課能力開発室	秋山 裕佑	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	戸田 裕香	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	三好 歌織	事務
	教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	松崎 由里子	事務
教育学生支援部教育企画課教育企画チーム	川井 順子	SD・事務	

5 平成26年度活動実績 (5) SPOD運営

③「各県内加盟校会議」議事概要

平成26年度第1回T-SPOD会議 議事概要

日 時： 平成26年10月22日（水）14：55～16：15
場 所： 授業研究インテリジェントラボ（徳島大学大学開放実践センター3階）
出席者： 鳴門教育大学 谷本総務係長
四国大学・短期大学部 久我学部運営支援課係長，大恵総務課員
徳島文理大学・短期大学部 新見准教授
阿南工業高等専門学校 松本教授，天羽総務課長補佐
徳島大学 赤池教授（議長），川野教授，宮田准教授，吉田講師，
上岡特任研究員，沖津人事課課長補佐，
金治教育企画係長

会議開催に先立ち，出席者の自己紹介が行われた。

徳島工業短期大学の近藤理事長は，都合のため欠席であるが議事は議長に一任する旨の連絡があった旨の説明があった。

議 題

1. 徳島県内の連携について

議長から，議題1資料に基づき，例年のT-SPOD会議では主にSPOD事業についての審議・報告をしているが，今回は徳島県内加盟校の独自の活動について情報共有及び情報交換を行いたい旨の説明があり，事前に提出した「平成26年度のFD・SD活動の取組」により各校が説明し，種々意見交換を行った。

【主な取組内容について】

- ①質保証のためのワークショップを全学部学科・コース・専攻毎に行っている。（徳島大学）
- ②FD活動の全体会において，今年度初めてSPOD講師派遣を利用した。（鳴門教育大学）
- ③職員のスキルアップのため窓口対応の者や電話対応の者を中心に外国語研修を実施した。
今後マニュアルの整備を行いたい。（四国大学）
- ④防災教育講座を行っている。学生・教職員（学内）と地域住民（学外）への対応や棲み分けについては検討が必要である。（徳島文理大学）
- ⑤職員研修について，今後体系的に取り組んで行きたい。（徳島文理大学）
- ⑥阿南高専では平成26年度からシラバスに到達目標のルーブリックを掲載しており，全員参加の教員研修会において，このルーブリック改訂を実施した。（阿南工業高等専門学校）

【ミドルレベルのFDについて】

- ①FD担当者向けプログラム（カリキュラムマップ，ナンバリング，体系作り等）をSPODに提案してみたいが，加盟校のニーズがあるかどうか。（徳島大学）
- ②講演内容については，内容がミスマッチになることがあるので，事前に講師との打合せを行う等工夫をしている。（阿南工業高等専門学校）

【マクロレベルのFDについて】

①取組校なし。

【AP, CP, DPの見直しについて】

①DPを実現するための編成方針であるCPの確認・見直しを行うためカリキュラムマップ作りを行っている。(徳島大学)

②改組の段階で見直しを行うことになる。(鳴門教育大学)

③今の段階では予定等はない。(四国大学)

④今年度策定したばかりなので、暫く予定等はない。(徳島文理大学)

⑤APはあるが、CP, DPは似たものがある。(阿南工業高等専門学校)

【評判の良かった研修等及び受講者増加に関することについて】

①対学生に対する研修。(四国大学)

②TBL, ルーブリック, アクティブ・ラーニング等の新しい手法のもの。事前の広報が重要である。(徳島文理大学)

③TPは3年間で8割受講している。受講者が5割を超えるまでは案内や声かけ等を行い苦労したが、5割を超えた段階で口コミ等により集まる。(阿南工業高等専門学校)

【FDを教員業績に加えることについて】

①上限はあるが、研修に参加することで教育ポイントに加算され、研究費配分に反映される。(阿南工業高等専門学校)

2. その他

なし

報 告

1. 大学教育カンファレンス in 徳島について

議長から、報告1資料に基づき、12月26日(金)に徳島大学において、大学教育の質的向上に向けた努力の成果を確認するための「大学教育カンファレンス in 徳島」をSPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)の研修プログラムの一環として開催することの説明があり、プログラムの中で「ラウンドテーブル」をT-SPOD各参加校の教員から、「学生、又は教員間で高い評価を受けた授業の実践」について話題提供(各15~20分)を行い、話題提供者間、及びフロアーを交えてディスカッションを行う予定としている旨の報告があった。

2. ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップについて

議長から、報告2資料に基づき、自身の授業を見直し、授業改善を行いたいと考えている教員に対し、平成27年3月5日(木)~6日(金)の2日間(定員8名)で開催する予定であるので是非参加してもらいたい旨の報告があった。

3. その他

なし

以上